

JP1 Version 10

JP1/Performance Management - Agent Option
for IBM Lotus Domino

解説・文法書

3021-3-065-01

JP1 *Version*
10

前書き

■ 対象製品

●JP1/Performance Management - Manager (適用 OS : Windows)

P-2W2C-AAA4 JP1/Performance Management - Manager 10-00

製品構成一覧および内訳形名

P-242C-AAA4 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

P-2A2C-AAA4 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012)

●JP1/Performance Management - Manager (適用 OS : UNIX)

P-1J2C-AAA1 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : HP-UX 11i V3 (IPF))

P-812C-AAA1 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : Linux 6 (x86), Linux 6 (x64))

P-9D2C-AAA1 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : Solaris 10 (SPARC))

P-1M2C-AAA1 JP1/Performance Management - Manager 10-00 (適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1)

●JP1/Performance Management - Base (適用 OS : Windows)

P-2W2C-AJA4 JP1/Performance Management - Base 10-00

製品構成一覧および内訳形名

P-242C-AJA4 JP1/Performance Management - Base 10-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

P-2A2C-AJA4 JP1/Performance Management - Base 10-00 (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012)

●JP1/Performance Management - Base (適用 OS : UNIX)

P-9D2C-AJA1 JP1/Performance Management - Base 10-00 (適用 OS : Solaris 10 (SPARC))

P-1M2C-AJA1 JP1/Performance Management - Base 10-00 (適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1)

●JP1/Performance Management - Web Console (適用 OS : Windows)

P-2W2C-ARA4 JP1/Performance Management - Web Console 10-00

製品構成一覧および内訳形名

P-242C-ARA4 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

P-2A2C-ARA4 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012)

●JP1/Performance Management - Web Console (適用 OS : UNIX)

P-1J2C-ARA1 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : HP-UX 11i V3 (IPF))

P-812C-ARA1 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : Linux 6 (x64), Linux 6 (x86))

P-9D2C-ARA1 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : Solaris 10 (SPARC))

P-1M2C-ARA1 JP1/Performance Management - Web Console 10-00 (適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1)

●JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino (適用 OS : Windows)

R-1W29A-A1 JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino 10-00

製品構成一覧および内訳形名

R-1529A-A1 JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino 10-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

R-1A29A-A1 JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino 10-00 (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012)

●JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino (適用 OS : UNIX)

R-1929A-A1 JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino 10-00 (適用 OS : Solaris 10 (SPARC))

R-1M29A-A1 JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino 10-00 (適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1)

これらの製品には、他社からライセンスを受けて開発した部分が含まれています。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

BEA は、BEA Systems, Inc.の登録商標です。

BEA WebLogic Server は、BEA Systems, Inc.の登録商標です。

Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P.のオペレーティングシステムの名称です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, AIX 5L は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, DB2 は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, DB2 Universal Database は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, Domino は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, Lotus は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, WebSphere は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Exchange Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

Netscape は、AOL Inc. の登録商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

PA-RISC は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. の商標です。

POSIX は、the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE) で制定された標準仕様です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

SAP, および本文書に記載されたその他の SAP 製品, サービス, ならびにそれぞれのロゴは, ドイツおよびその他の国々における SAP AG の商標または登録商標です。

SAP, R/3, および本文書に記載されたその他の SAP 製品, サービス, ならびにそれぞれのロゴは, ドイツおよびその他の国々における SAP AG の商標または登録商標です。

UNIX は, The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Win32 は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

すべての SPARC 商標は, 米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は, 米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

その他製品名などの固有名詞は各社の商品名, 商標および登録商標です。

その他記載の会社名, 製品名は, それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AAA1, P-9D2C-ARA1, R-1929A-A1」には, Oracle Corporation またはその子会社, 関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AAA1, P-9D2C-ARA1, R-1929A-A1」には, UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは, マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)
		Windows(R) Internet Explorer(R)
MSCS		Microsoft(R) Cluster Server
		Microsoft(R) Cluster Service
Windows Server 2003	Windows Server 2003 (x64)または 2003 R2(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition

表記		製品名
Windows Server 2003	Windows Server 2003 (x64)または 2003 R2(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 (x86)または 2003 R2(x86)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
Windows Server 2008	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
	Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Win32		Win32(R)

Windows Server 2003, Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を総称して、Windows と表記することがあります。

■ 発行

2015 年 3 月 3021-3-065-01

■ 著作権

Copyright (C) 2012, 2015, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2012, 2015, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容 (3021-3-065-01)

追加・変更内容	変更箇所
適用 OS に Windows Server 2012 を追加した。	—
デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報（サマリ情報）を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定できるようにした。	2.1.4, 2.4.2, 3.1.4, 3.4.2

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の機能や収集レコードなどについて説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは、次の方を対象としています。

- 稼働監視システムを設計または構築したい方
- パフォーマンスデータの収集条件を定義したい方
- レポートおよびアラームを定義したい方
- 収集したパフォーマンスデータを参照して、システムを監視したい方
- 監視結果を基に、システムへの対策を検討または指示したい方

また、Lotus Notes/Domino と監視対象システムの運用について熟知していること、および OS に対する知識があることを前提としています。

なお、JP1/Performance Management を使用したシステムの構築、運用方法については、次のマニュアルもあわせてご使用ください。

- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3021-3-041)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 運用ガイド (3021-3-042)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management リファレンス (3021-3-043)

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。なお、このマニュアルは、Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012, Solaris, および AIX の各 OS に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は、本文中でそのつど内容を書き分けています。

第 1 編 概要編

JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の概要について説明しています。

第 2 編 構築・運用編

JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino のインストールとセットアップおよび操作方法について説明しています。

第3編 リファレンス編

JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の監視テンプレート、レコード、コマンド、およびメッセージについて説明しています。

第4編 トラブルシューティング編

JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino でトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の特長を知りたい。	1章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の機能概要を知りたい。	1章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の導入時の作業を知りたい。	2章, 3章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino のクラスシステムでの運用を知りたい。	4章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の Notes Log 情報収集について知りたい。	5章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の任意の統計値情報収集について知りたい。	6章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino の監視テンプレートについて知りたい。	7章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino のレコードについて知りたい。	8章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino のコマンドについて知りたい。	9章
JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino のメッセージについて知りたい。	10章
障害発生時の対処方法を知りたい。	11章

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	<p>ウィンドウ、タブ、メニュー、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタン、ダイアログボックスのチェックボックスなどを示します。</p> <p>(例)</p> <p>[メイン] ウィンドウ [エージェント] タブ</p>
	<p>パラメーターの指定の個所では、省略可能なパラメーターであることを示します。</p> <p>(例)</p> <p>[users=UNIX ユーザー名] [groups=UNIX グループ名]</p>
太字	重要な用語、または利用状況によって異なる値であることを示します。

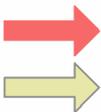
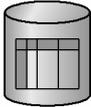
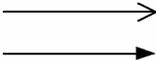
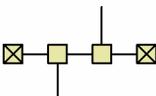
■ このマニュアルの数式中で使用する記号

このマニュアルの数式中で使用する記号を次に示します。

記号	意味
*	乗算記号を示します。
/	除算記号を示します。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

●コンピュータ	●データの流れ	●プログラム	●データベース
			
●その他の流れ	●サーバ	●画面の表示	●処理の流れ
			
●ネットワーク	●メール		
			

■ フォルダおよびディレクトリの統一表記

このマニュアルでは、Windows で使用されている「フォルダ」と UNIX で使用されている「ディレクトリ」とが同じ場合、原則として、「ディレクトリ」と統一表記しています。

■ このマニュアルでのコマンドの表記

Performance Management 09-00 以降では、08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されました。このため、このマニュアルではコマンドを次のように表記しています。

新形式のコマンド (08-51 以前のコマンド)

(例)

```
jpccconf agent setup (jpcagtsetup)
```

この例では、`jpccconf agent setup` が新形式のコマンドで、`jpcagtsetup` が 08-51 以前のコマンドになります。

新形式のコマンドを使用できるのは、PFM - Agent の同一装置内の前提プログラム (PFM - Manager または PFM - Base) のバージョンが 09-00 以降の場合です。なお、前提プログラムのバージョンが 09-00 以降の場合でも、08-51 以前のコマンドは使用できます。

目次

前書き	2
変更内容	7
はじめに	8

第1編 概要編

1	PFM - Agent for Domino の概要	20
1.1	PFM - Agent for Domino の特長	21
1.1.1	Lotus Notes/Domino のパフォーマンスデータを収集できます	21
1.1.2	パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます	22
1.1.3	パフォーマンスデータを保存できます	22
1.1.4	Lotus Notes/Domino の運用上の問題点を通知できます	23
1.1.5	アラームおよびレポートが容易に定義できます	23
1.1.6	クラスタシステムで運用できます	24
1.2	パフォーマンスデータの収集と管理の概要	25
1.3	パフォーマンス監視の運用例	26
1.3.1	パフォーマンス監視の概要	26
1.3.2	パフォーマンス監視のしかた	27
1.3.3	定義例	33

第2編 構築・運用編

2	インストールとセットアップ (Windows の場合)	48
2.1	インストールとセットアップ	49
2.1.1	インストールとセットアップの流れ	49
2.1.2	インストールとセットアップの前に	50
2.1.3	インストール手順	59
2.1.4	PFM - Agent for Domino のセットアップ手順	60
2.2	アンインストールとアンセットアップ	70
2.2.1	アンインストールとアンセットアップの前に	70
2.2.2	アンセットアップ手順	71
2.2.3	アンインストール手順	73
2.3	PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更	74
2.4	PFM - Agent for Domino の運用方式の変更	76
2.4.1	パフォーマンスデータの格納先の変更	76

- 2.4.2 インスタンス環境の更新の設定 80
- 2.4.3 Store バージョン 2.0 への移行 82
- 2.5 コマンドプロンプトの起動方法 85
- 2.6 バックアップとリストア 86
- 2.6.1 バックアップ 86
- 2.6.2 リストア 87
- 2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 89
- 2.7.1 マニュアルを参照するための設定 89
- 2.7.2 マニュアルの参照手順 90

3 インストールとセットアップ (UNIX の場合) 91

- 3.1 インストールとセットアップ 92
- 3.1.1 インストールとセットアップの流れ 92
- 3.1.2 インストールとセットアップの前に 93
- 3.1.3 インストール手順 101
- 3.1.4 PFM - Agent for Domino のセットアップ手順 104
- 3.2 アンインストールとアンセットアップ 114
- 3.2.1 アンインストールとアンセットアップの前に 114
- 3.2.2 アンセットアップ手順 115
- 3.2.3 アンインストール手順 116
- 3.3 PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更 118
- 3.4 PFM - Agent for Domino の運用方式の変更 120
- 3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更 120
- 3.4.2 インスタンス環境の更新の設定 124
- 3.4.3 Store バージョン 2.0 への移行 126
- 3.5 バックアップとリストア 129
- 3.5.1 バックアップ 129
- 3.5.2 リストア 130
- 3.6 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 132
- 3.6.1 マニュアルを参照するための設定 132
- 3.6.2 マニュアルの参照手順 133

4 クラスタシステムでの運用 134

- 4.1 クラスタシステムの概要 135
- 4.1.1 HA クラスタシステム 135
- 4.1.2 ドミノクラスタシステム 137
- 4.2 フェールオーバー時の処理 139
- 4.2.1 監視対象ホストに障害が発生した場合のフェールオーバー 139
- 4.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響 140

4.3	インストールとセットアップ (Windows の場合)	141
4.3.1	インストールとセットアップの流れ	141
4.3.2	インストールとセットアップの前に	143
4.3.3	インストール手順	146
4.3.4	セットアップ手順	147
4.4	インストールとセットアップ (UNIX の場合)	155
4.4.1	インストールとセットアップの流れ	155
4.4.2	インストールとセットアップの前に	157
4.4.3	インストール手順	160
4.4.4	セットアップ手順	160
4.5	アンインストールとアンセットアップ (Windows の場合)	169
4.5.1	PFM - Agent for Domino のアンインストールとアンセットアップの流れ	169
4.5.2	アンセットアップ手順	170
4.5.3	アンインストール手順	175
4.6	アンインストールとアンセットアップ (UNIX の場合)	176
4.6.1	PFM - Agent for Domino のアンインストールとアンセットアップの流れ	176
4.6.2	アンセットアップ手順	177
4.6.3	アンインストール手順	182
4.7	PFM - Agent for Domino の運用方式の変更	183
4.7.1	インスタンス環境の更新の設定	183
4.7.2	論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート	184

5 Notes Log 情報の収集 186

5.1	Notes Log 情報の収集の概要	187
5.2	ログ情報の収集の設定手順	189
5.2.1	Notes Log Check Options プロパティの設定	189
5.2.2	Log Records プロパティの設定	191
5.2.3	ログ情報の収集の注意事項	192

6 任意の統計値情報収集 193

6.1	任意の統計値情報収集の概要	194
6.2	任意の統計値情報収集の設定手順	195
6.2.1	User Defined Stat Options プロパティの設定	195
6.2.2	PI Records プロパティの設定	197
6.3	任意の統計値情報収集の注意事項	198

第3編 リファレンス編

7 監視テンプレート 199

監視テンプレートの概要	200
-------------	-----

アラームの記載形式	201
アラーム一覧	202
Availability (PFM Domino Template Alarms 09.00)	204
Availability (PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00)	206
DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms 09.00)	208
DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00)	210
DB Response	212
Dead Mail	214
HTTP Down	216
IMAP Down	218
LDAP Down	220
Log Detect	222
NNTP Down	225
POP3 Down	227
Router Down	229
Server Down	231
SMTP Down	233
Waiting Mail	235
レポートの記載形式	237
レポートのフォルダ構成	239
レポート一覧	241
Cluster Manager Detail	244
Cluster Replication Detail	245
Database Access Status - Top 10 Databases	247
Database Cache Detail	248
Database Note Count Status - Top 10 Databases	249
Database Size Status - Top 10 Databases	250
DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent)	251
DbCache Usage Status	252
DbCache Usage Status Summary	253
Dead Mail Status Summary	254
Dead Mail Status (Multi-Agent)	255
Domino Agent Failed Status Summary	256
Domino Memory Status	257
Domino Memory Status Summary	258
Domino Memory Status Trend (Multi-Agent)	259
Expired Mail Status - Top 10 Databases	260
Health Check Status (4.0)	261
HTTP Commands Status	262
HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent)	263
Login Users Status	264
Login Users Status Summary	265
Login Users Status Trend (Multi-Agent)	266
Login Users Status (Multi-Agent)	267
Mail Database Size Status - Top 10 Databases	268

Mail Deliveries Detail	269
Mail Delivery Status	270
Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent)	271
Mail Service Quality Status	272
Names Database Access Status	273
Names Database Size Status Trend (Multi-Agent)	274
Notes Log Status Summary (4.0)	275
Replication Status	276
Replication Status Summary	277
Replication Status Trend (Multi-Agent)	278
Router Status Summary (4.0)	279
Server Status Summary (4.0)	280
Server Transaction Status	281
Server Transaction Status Trend (Multi-Agent)	282
System Overview	283
System Overview Trend (Multi-Agent)	284
Task Status Summary (4.0)	285
TCP Service Quality Status	286
TCPIP Connection Status	287
TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent)	288
Waiting Mail Status Summary	289
Waiting Mail Status (Multi-Agent)	290

8

レコード 291

データモデルについて	292
レコードの記載形式	293
共通フィールド	296
ODBC キーフィールド一覧	297
要約ルール	298
データ型一覧	301
フィールドの値	302
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド	305
Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド	307
レコード一覧	308
Agent Detail (PD_PDAG)	312
Calendar Detail (PD_PDCL)	314
Database Detail (PD_PDDDB)	316
Database Knowledge Overview (PI_PIDK)	319
Database Overview (PI_PIDB)	321
Domino Detail (PD_PDDM)	323
Domino Overview (PI_PIDM)	328
Health Check Overview (PI_PIHC)	330
HTTP Information Overview (PI_PIHT)	332
IMAP Detail (PD_PDIM)	336
IMAP Overview (PI_PIIM)	338

Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM)	340
Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM)	343
LDAP Detail (PD_PDLP)	345
LDAP Overview (PI_PILP)	349
Logical Disk Overview (PI_PILG)	352
Mail Detail (PD_PDML)	353
Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)	356
Mail Overview (PI_PIML)	358
Memory Detail (PD_PDMM)	360
Memory Overview (PI_PIMM)	362
Message Transfer Agent Detail (PD_PDMT)	364
Message Transfer Agent Overview (PI_PIMT)	366
Network Detail (PD_PDNE)	368
Network Overview (PI_PINE)	370
NNTP Detail (PD_PDNN)	372
NNTP Overview (PI_PINN)	374
Notes Log Check Overview (PL_PLNL)	377
POP3 Detail (PD_PDPP)	378
Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM)	380
Quality of Service Overview (PI_PIQS)	381
Replica Detail (PD_PDRP)	383
Replica Overview (PI_PIRP)	386
Serial Port Detail (PD_PDXP)	388
Serial Port Overview (PI_PIXP)	390
Server Detail (PD_PDSV)	392
Server Overview (PI_PISV)	399
Shared Mail Object Detail (PD_PDSO)	403
SMTP Detail (PD_PDSM)	406
SMTP Overview (PI_PISM)	408
System Detail (PD_PD)	410
System Overview (PI_PI)	412
User Defined Stat Overview (PI_PIST)	418
Web Retriever Detail (PD_PDWR)	419
Web Retriever Overview (PI_PIWR)	422

9 アラームアクション用コマンド 424

9.1	アラームアクション用コマンドの概要	425
9.1.1	notesrestart コマンドによるドミノサーバ再起動機能	425
9.1.2	notesconsole コマンドによるドミノサーバコンソール入力コマンド機能	425
9.2	コマンドの形式	427
9.2.1	notesconsole (ドミノサーバコンソール入力コマンド)	427
9.2.2	notesrestart (ドミノサーバ再起動コマンド)	428
9.3	アラームアクション用コマンドの使用法および使用例	430
9.3.1	notesconsole (ドミノサーバコンソール入力コマンド) の使用法および使用例	430

- 9.3.2 notesrestart (ドミノサーバ再起動コマンド) の使用方法および使用例 433
- 9.4 アラームアクション用コマンドの運用上の注意 436

10 メッセージ 437

- 10.1 メッセージの形式 438
 - 10.1.1 メッセージの出力形式 438
 - 10.1.2 メッセージの記載形式 439
- 10.2 メッセージの出力先一覧 441
- 10.3 syslog と Windows イベントログの一覧 443
- 10.4 メッセージ一覧 445

第4編 トラブルシューティング編

11 トラブルへの対処方法 451

- 11.1 対処の手順 452
- 11.2 トラブルシューティング 453
 - 11.2.1 セットアップやサービスの起動に関するトラブルシューティング 453
 - 11.2.2 コマンドの実行に関するトラブルシューティング 458
 - 11.2.3 レポートの定義に関するトラブルシューティング 459
 - 11.2.4 アラームの定義に関するトラブルシューティング 459
 - 11.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルシューティング 461
 - 11.2.6 その他のトラブルに関するトラブルシューティング 462
- 11.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報 463
 - 11.3.1 トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類 463
 - 11.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダー一覧 464
- 11.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料 469
 - 11.4.1 Windows の場合 469
 - 11.4.2 UNIX の場合 473
- 11.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法 477
 - 11.5.1 Windows の場合 477
 - 11.5.2 UNIX の場合 480
- 11.6 Performance Management の障害検知 484
- 11.7 Performance Management システムの障害回復 485

付録 486

- 付録 A システム見積もり 487
 - 付録 A.1 メモリー所要量 487
 - 付録 A.2 ディスク占有量 487
 - 付録 A.3 クラスタ運用時のディスク占有量 487
- 付録 B カーネルパラメーター 488

付録 C	識別子一覧	489
付録 D	プロセス一覧	490
付録 E	ポート番号一覧	491
付録 E.1	PFM - Agent for Domino のポート番号	491
付録 E.2	ファイアウォールの通過方向	492
付録 F	PFM - Agent for Domino のプロパティ	495
付録 F.1	Agent Store サービスのプロパティ一覧	495
付録 F.2	Agent Collector サービスのプロパティ一覧	499
付録 G	ファイルおよびディレクトリ一覧	512
付録 G.1	PFM - Agent for Domino のファイルおよびディレクトリ一覧	512
付録 H	移行手順と移行時の注意事項	518
付録 I	バージョン互換	519
付録 J	動作ログの出力	520
付録 J.1	動作ログに出力される事象の種別	520
付録 J.2	動作ログの保存形式	520
付録 J.3	動作ログの出力形式	521
付録 J.4	動作ログを出力するための設定	526
付録 K	JP1/ITSLM との連携	529
付録 L	IPv4 環境と IPv6 環境での通信について	530
付録 M	各バージョンの変更内容	531
付録 M.1	10-00 の変更内容	531
付録 M.2	09-00 の変更内容	531
付録 M.3	08-50 の変更内容	534
付録 M.4	08-00 の変更内容	536
付録 M.5	07-50 の変更内容	536
付録 M.6	07-00 の変更内容	536
付録 N	このマニュアルの参考情報	541
付録 N.1	関連マニュアル	541
付録 N.2	このマニュアルでの表記	541
付録 N.3	英略語	545
付録 N.4	このマニュアルでのプロダクト名, サービス ID, およびサービスキーの表記	546
付録 N.5	Performance Management のインストール先ディレクトリの表記	546
付録 N.6	Performance Management で対応する NNM 製品について	547
付録 N.7	KB (キロバイト) などの単位表記について	548
付録 O	用語解説	549

索引 557

1

PFM - Agent for Domino の概要

ここでは、PFM - Agent for Domino の概要について説明します。

1.1 PFM - Agent for Domino の特長

PFM - Agent for Domino は、Lotus Notes/Domino システムのパフォーマンスを監視するために、パフォーマンスデータを収集および管理するプログラムです。

PFM - Agent for Domino の特長を次に示します。

- Lotus Notes/Domino の稼働状況を分析できる
監視対象の Lotus Notes/Domino から、インスタンスで起動しているプロセス数などのパフォーマンスデータを PFM - Agent for Domino で収集および集計し、その傾向や推移を PFM - Web Console で図示することで、Lotus Notes/Domino の稼働状況の分析が容易にできます。
- Lotus Notes/Domino の運用上の問題点を早期に発見し、トラブルの原因を調査する資料を提供できる
監視対象の Lotus Notes/Domino でセッションが不正な動作をするなどのトラブルが発生した場合、Eメールなどを使ってユーザーに通知することで、問題点を早期に発見できます。また、PFM - Web Console で、その問題点に関連する情報を図示することで、トラブルの原因を調査する資料を提供できます。

PFM - Agent for Domino を使用するには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

PFM - Agent for Domino の機能の概要について次に説明します。

1.1.1 Lotus Notes/Domino のパフォーマンスデータを収集できます

PFM - Agent for Domino を使用すると、インスタンスで起動しているプロセス数などのパフォーマンスデータを収集できます。

注意

PFM - Agent for Domino では、7ビットアスキー以外の文字が含まれるパフォーマンスデータは収集できません。

PFM - Agent for Domino では、パフォーマンスデータは、次のように利用できます。

- Lotus Notes/Domino の稼働状況をグラフィカルに表示する
パフォーマンスデータは、PFM - Web Console を使用して、「レポート」と呼ばれるグラフィカルな形式に加工し、表示できます。レポートによって、Lotus Notes/Domino の稼働状況がわかりやすく分析できるようになります。
レポートには、次の種類があります。
 - リアルタイムレポート
監視している Lotus Notes/Domino の現在の状況を示すレポートです。主に、システムの現在の状態や問題点を確認するために使用します。リアルタイムレポートの表示には、収集した時点のパフォーマンスデータが直接使用されます。

- 履歴レポート

監視している Lotus Notes/Domino の過去から現在までの状況を示すレポートです。主に、システムの傾向を分析するために使用します。履歴レポートを表示するために、PFM - Agent for Domino のデータベースに格納されたパフォーマンスデータが使用されます。

- 問題が起こったかどうかの判定条件として使用する

収集されたパフォーマンスデータの値が何らかの異常を示した場合、ユーザーに通知するなどの処置を取るよう設定できます。

1.1.2 パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます

パフォーマンスデータは、「レコード」の形式で収集されます。各レコードは、「フィールド」と呼ばれるさらに細かい単位に分けられます。レコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。

レコードは、性質によって2つのレコードタイプに分けられます。どのレコードタイプでどのパフォーマンスデータが収集されるかは、PFM - Agent for Domino で定義されています。ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを収集するか選択します。

PFM - Agent for Domino のレコードタイプを次に示します。

- Product Interval レコードタイプ (以降、PI レコードタイプと省略します)

PI レコードタイプのレコードには、ある一定の時間 (インターバル) ごとのパフォーマンスデータが要約ルールに従って収集されます。PI レコードタイプは、時間の経過に伴う監視対象の状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。

- Product Detail レコードタイプ (以降、PD レコードタイプと省略します)

PD レコードタイプのレコードには、現在起動しているプロセスの詳細情報など、その時点でのパフォーマンスデータが収集されます。PD レコードタイプは、ある時点での監視対象の状態を知りたい場合に使用します。

レコードについては、「8. レコード」を参照してください。

1.1.3 パフォーマンスデータを保存できます

収集したパフォーマンスデータを、PFM - Agent for Domino の「Store データベース」と呼ばれるデータベースに格納することで、現在までのパフォーマンスデータを保存し、Lotus Notes/Domino の稼働状況について、過去から現在までの傾向を分析できます。傾向を分析するためには、履歴レポートを使用します。

ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを Store データベースに格納するか選択します。PFM - Web Console でのレコードの選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

1.1.4 Lotus Notes/Domino の運用上の問題点を通知できます

PFM - Agent for Domino で収集したパフォーマンスデータは、Lotus Notes/Domino のパフォーマンスをレポートとして表示するのに利用できるだけでなく、Lotus Notes/Domino を運用していて問題が起こったり、障害が発生したりした場合のユーザーへの警告に利用することもできます。

例えば、何らかの障害が発生してドミノサーバのメモリー使用量が一定の値を超えた場合に、ユーザーに E メールで通知するとします。このような運用をするためには、PFM - Web Console でサーバのメモリーに関するレコードの値を収集するように設定します。そして、「ドミノサーバのメモリー使用量が一定の値を超えた状態」を異常条件のしきい値として、そのしきい値に達した場合に、E メールをユーザーに送信するように設定します。

しきい値に達した場合に取る動作を「アクション」と呼びます。アクションには、次の種類があります。

- Eメールの送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- JP1 イベントの発行

しきい値やアクションを定義したものを「アラーム」と呼びます。1つ以上のアラームを1つのテーブルにまとめたものを「アラームテーブル」と呼びます。アラームテーブルを定義したあと、PFM - Agent for Domino と関連づけます。アラームテーブルと PFM - Agent for Domino とを関連づけることを「バインド」と呼びます。バインドすると、PFM - Agent for Domino によって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

このように、アラームおよびアクションを定義すると、Lotus Notes/Domino の運用上の問題を早期に発見し、対処できます。

アラームおよびアクションの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

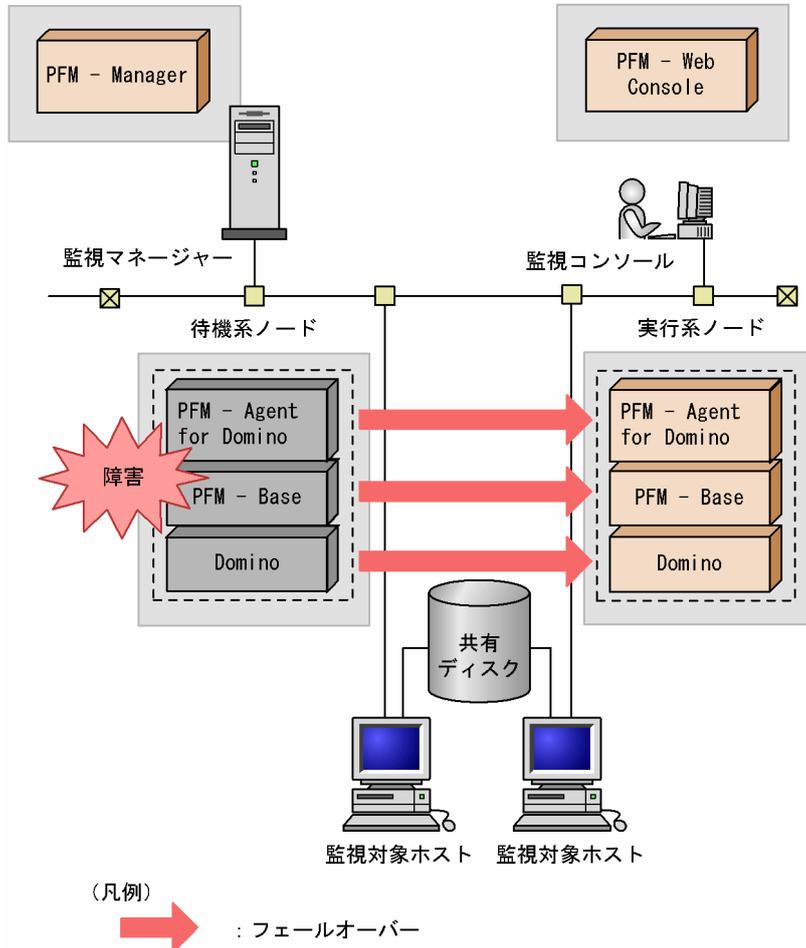
1.1.5 アラームおよびレポートが容易に定義できます

PFM - Agent for Domino では、「監視テンプレート」と呼ばれる、必要な情報があらかじめ定義されたレポートおよびアラームを提供しています。この監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても Lotus Notes/Domino の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。監視テンプレートは、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズできます。監視テンプレートの使用方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。また、監視テンプレートの詳細については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

1.1.6 クラスタシステムで運用できます

クラスタシステムを使うと、システムに障害が発生した場合にも継続して業務を運用できる、信頼性の高いシステムが構築できます。このため、システムに障害が発生した場合でも Performance Management の 24 時間稼働および 24 時間監視ができます。

図 1-1 クラスタシステムの運用例



同じ設定の環境を 2 つ構築し、通常運用する方を「実行系ノード」、障害発生時に使う方を「待機系ノード」として定義しておきます。

クラスタシステムでの Performance Management の運用の詳細については、「4. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

1.2 パフォーマンスデータの収集と管理の概要

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法は、パフォーマンスデータが格納されるレコードのレコードタイプによって異なります。PFM - Agent for Domino のレコードは、次の3つのレコードタイプに分けられます。

- PI レコードタイプ
- PD レコードタイプ
- PL レコードタイプ

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法については、次の個所を参照してください。

- パフォーマンスデータの収集方法

パフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

収集されるパフォーマンスデータの値については、「[8. レコード](#)」を参照してください。

- パフォーマンスデータの管理方法

パフォーマンスデータの管理方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

PFM - Agent で収集および管理されているレコードのうち、どのパフォーマンスデータを利用するかは、PFM - Web Console で選択します。選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

1.3 パフォーマンス監視の運用例

システムを安定稼働させるためには、パフォーマンスを監視してシステムの状態を把握することが重要です。この節では、PFM - Agent for Domino を用いてパフォーマンスを監視する方法について説明します。

1.3.1 パフォーマンス監視の概要

パフォーマンス監視の概要について説明します。

(1) パフォーマンス監視の目的

パフォーマンスの監視は、Lotus Domino の保守および管理で重要な作業です。

PFM - Agent for Domino を用いたパフォーマンス監視は、主に次の目的で使用できます。

- パフォーマンスデータを分析し、特定のリソースに対する過度の要求や、リソースの過不足状態などを特定する。
- パフォーマンスを監視することで、構成変更や調整をする。
- パフォーマンスデータを分析し、負荷の特性と、対応するシステムリソースへの影響を把握する。また、将来のアップグレードを計画できるようにする。
- 運用システムが正しく動作しているか監視する。

システムを安定稼働させるには、稼働状況を監視して障害の予兆をモニタリングすることが重要です。

(2) パフォーマンス監視で最も重要なシステムリソース

PFM - Agent for Domino でパフォーマンスを監視する上で最も重要なリソースは、次のとおりです。

- データベース
- ユーザー
- メール
- メモリー
- 複製
- ヘルスチェック

また、Lotus Domino のエラー・警告・情報などは Notes ログに出力されます。Notes ログを監視することで、Lotus Domino の障害や異常などを把握できるため、早急に復旧する手助けとなることがあります。

PFM - Agent for Domino では、これらの重要な項目については、監視テンプレートの形で提供しています。したがって、この節では、監視テンプレートを用いた監視のしかたを中心に説明しています。また、高度に監視するための関連情報も記載しています。

(3) ベースラインの選定

ベースラインの選定とは、システム運用で問題なしと想定されるラインをパフォーマンス測定結果から選定する作業です。

PFM 製品では、ベースラインの値をしきい値とすることでシステムの運用を監視します。ベースラインの選定はしきい値を決定し、パフォーマンスを監視する上での重要な作業となります。

なお、ベースラインの選定では、次の注意事項を考慮してください。

- 運用環境の高負荷テスト時など、ピーク時の状態を測定することをお勧めします。
- システム構成によってしきい値が大きく異なるため、システムリソースや運用環境を変更する場合は、再度ベースラインを測定することをお勧めします。

1.3.2 パフォーマンス監視のしかた

レコード名は、レコード ID で表記しています。フィールド名は、PFM - View 名で表記しています。正式なレコード名、フィールド名については、「[8. レコード](#)」を参照してください。

フィールドの説明は概要だけを記載しています。フィールドの詳細な説明については、「[8. レコード](#)」を参照してください。

(1) データベース

(a) 概要

Lotus Domino はファイル形式のデータベースを採用しています。このため、一度に多数のデータベースにアクセスが発生すると、データベースキャッシュなどが不足したり、データベースの肥大化によりディスク容量を圧迫したりします。これらの問題に対応するために、ディスクキャッシュの使用率やデータディレクトリの使用率を監視します。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-1 データベースに関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PI	DbCache Entries Usage	データベースキャッシュ使用率。この値が常に高い数値を示している、もしくはピーク時に不足している場合、データベースキャッシュの値を増やすなどの対策が必要となる。
	DbCache OvercrowdRejects	データベースキャッシュを超えるアクセスがあり、アクセス拒否となったリクエストの回数。この値が 0 でない場合は、データベースキャッシュの値を増やす、もしくはデータベースをほかのサーバに分割するなどの対策が必要となる。

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PI	Disk Datadir Drive Usage	データディレクトリのあるディスクの使用率。ディスク容量不足になるとさまざまな問題が発生するため、ディスクの増強やデータベースをほかのサーバに移動させるなどの対策が必要となる。

(b) 監視方法

- データベースキャッシュの使用率を監視したい

監視テンプレートで提供している DbCache Entries Usage アラームで監視できます。1 日、1 週間といった長い期間、使用率を記録し続けているため、ピークを特定したり、データベースキャッシュの値を増やすなどの対策が必要であるかどうかの目安になります。

定義例については、「1.3.3(1)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- データディレクトリの使用率を監視したい

Lotus Domino のデータベースは定期的なメンテナンスを怠ると、比較的簡単に肥大化し、データディレクトリを圧迫します。データディレクトリがあるディスクのディスク容量が不足すると、Lotus Domino のデータベースはワークエリアを確保できないため、致命的な影響を受けることになります。データディレクトリの使用率を監視することで、致命的な状態になる前に対策できます。

定義例については、「1.3.3(1)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

(2) ユーザー

(a) 概要

Lotus Domino にログインしているユーザー数が多くなるにつれて、全体的なパフォーマンスは低下していきます。このため、ログインユーザー数を監視することにより、サーバを分けるなどの対策をする目安となります。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-2 ユーザーに関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PI	Users	ログインユーザー数。ピークを特定したり、サーバを分けるなどの対策をする目安となる。

(b) 監視方法

- ログインユーザー数を監視したい

監視テンプレートの Login Users アラームで監視できます。1 日、1 週間といった長い期間記録し続けているため、ピークを特定したり、サーバを分けるなどの対策をする目安になります。

定義例については、「1.3.3(2)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

(3) メール

(a) 概要

Lotus Domino はメールサーバとして使用されることが多いため、メールに関連したさまざまな問題が起きるおそれがあります。デッドメールや滞留メールの発生、配信エラーの発生などを監視することで、問題への早急な対策ができるようになります。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-3 メールに関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PI	Mail Dead UserCustom	配信先にも配信元にも送信できなくなったメール数。値が 0 でない場合、メールシステム上に問題がある。ネットワーク設定や接続文書の設定、ユーザー定義などに問題がないか見直す必要がある。
	Mail Waiting UserCustom	なんらかの理由によりメールキューに留まってしまっているメール数。そのメール以降にメールキューに投入された正常なメールも配信されなくなってしまうおそれがあるため、早急に対策する必要がある。
PI_PIML	TotFailures	配信エラーとなったメール数。システム上の設定に問題があるおそれがあるため、見直しをする必要がある。
PI_PIMK	Expired Mails	各メールデータベースに存在する期間（ユーザー指定可）を超過したメールの数。不要にディスク容量を圧迫しているデータベースを特定する手助けとなる。

(b) 監視方法

• デッドメールの発生を監視したい

監視テンプレートで提供している Mail Dead Custom アラームで監視できます。デッドメールは、配信先にも配信元にも送信できなくなったメールなので、デッドメールが発生している場合、メールシステム上に問題があります。ネットワーク設定や接続文書の設定、ユーザー定義などに問題がないか見直す必要があります。

定義例については、「[1.3.3\(3\)\(a\) 監視テンプレート](#)」を参照してください。

• 滞留メールの発生を監視したい

監視テンプレートで提供している Mail Waiting Custom アラームで監視できます。滞留メールは、なんらかの理由によりメールキューに留まってしまっているメールです。滞留理由によっては、そのメール以降にメールキューに投入された正常なメールも配信されなくなってしまうため、アラームで監視することは早急に対策する上で非常に重要です。

定義例については、「[1.3.3\(3\)\(a\) 監視テンプレート](#)」を参照してください。

• ディスク容量を不要に消費しているメールデータベースを特定したい

監視テンプレートで提供している Expired Mail Status - Top 10 Databases レポートで特定できます。レポート定義のランキング数を増やすことで、上位 10 位以降を表示することもできます。

定義例については、「1.3.3(3)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- **配信エラーとなったメール数を監視したい**

なんらかの理由により配信できなかったメール数を監視できます。配信できなかったメールは配信元に戻されるため、致命的な影響がでることはありませんが、システム上の設定に問題があるおそれがあり、見直しをする必要があります。

定義例については、「1.3.3(3)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

(4) メモリー

(a) 概要

Lotus Domino では、メモリー使用量を監視することは重要です。メモリーが不足するとさまざまな問題が発生し、システムに多大な影響があります。また長期的に使用量を監視することで、メモリー増強などのプランニングの目安にもなります。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-4 メモリーに関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PI	Mem Alloc Kbytes	Lotus Domino が確保しているメモリー数。慢性的に増加傾向にある場合、システム再起動などの対策が必要となる。
	Mem Free Kbytes	Lotus Domino が動作しているマシンのメモリー空き容量。慢性的にメモリーが不足している場合、メモリー増強などの対策が必要となる。

(b) 監視方法

- **Lotus Domino のメモリー使用量を監視したい**

監視テンプレートで提供している Mem Alloc Kbytes アラームで監視できます。慢性的に増加傾向にある場合、メモリーリークしているおそれもあるため、システム再起動などの対策が必要になります。定義例については、「1.3.3(4)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- **Lotus Domino が動作しているマシンのメモリー空き容量を監視したい**

メモリーが不足するとさまざまな問題が発生し、システムに多大な影響があるため、空き容量の監視は重要です。また、慢性的にメモリーが不足している場合、メモリー増強などの対策が必要になります。定義例については、「1.3.3(4)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

(5) 複製

(a) 概要

Lotus Domino には複製機能があります。主にほかの Lotus Domino のサーバとの情報共有のために使用されますが、クラスタリングやバックアップにも使用されるため、正常に複製されているか監視することは重要です。複製のエラーを監視することで早期に対策できるようになります。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-5 複製に関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI.PI	Repl Cluster Failed	クラスタ間の複製が失敗した数 [*] 。ネットワーク設定、接続文書の設定、権限不足やディスク容量不足などさまざまな原因が考えられるため、見直しが必要となる。
	Repl Failed	ローカル複製、ほかの Lotus Domino サーバとの複製が失敗した数 [*] 。ネットワーク設定、接続文書の設定、権限不足やディスク容量不足などさまざまな原因が考えられるため、見直しが必要となる。

注※

Lotus Domino サーバ起動時からの累計値です。一度発生した場合、サーバを再起動するまで正常値には戻りません。

(b) 監視方法

• クラスタ間の複製エラーを監視したい

監視テンプレートの Repl Cluster Failed アラームで監視できます。複製が失敗する要因としては、ネットワーク設定、接続文書の設定、権限不足やディスク容量不足などさまざまな原因が考えられるため、見直しが必要となります。

定義例については、「[1.3.3\(5\)\(a\) 監視テンプレート](#)」を参照してください。

• 複製のエラーを監視したい

ローカル複製、ほかの Lotus Domino サーバとの複製が正常に行われているか監視できます。複製のエラーにはネットワーク設定、接続文書の設定、権限不足やディスク容量不足などさまざまな原因が考えられるため、見直しが必要となります。

定義例については、「[1.3.3\(5\)\(b\) 監視テンプレート以外の定義例](#)」を参照してください。

(6) ヘルスチェック

(a) 概要

Lotus Domino を運用中に、特定のサーバタスクなどがダウンする状況が発生する場合があります。このサーバタスクの稼働状態を監視して、ダウン時にアラーム通知することで早急な対応をする手助けになります。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-6 ヘルスチェックに関連するレコードとフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PIHC	Check Name	監視対象にしているサーバタスクの識別子 (HTTP,SMTP,POP3 など)。
	ResponseTime	アクセスにかかった時間 (ミリ秒単位)。(-1)が格納された場合、そのサーバタスクがダウンしていることを示す。

(b) 監視方法

• サーバタスク稼働状況を監視したい

サーバタスクがダウンすると一部、もしくは Lotus Domino 全体のサービス提供が停止してしまい、多大な影響を受けます。したがって、サーバタスクの稼働状況を監視することは非常に重要です。

定義例については、「[1.3.3\(6\)\(b\) 監視テンプレート以外の定義例](#)」を参照してください。

• サーバタスクダウンを自動復旧したい

サーバタスクがダウンした場合、ほとんどの場合、Lotus Domino 全体の再起動を実行しなければ正常に復旧できません。また、ある程度 Lotus Domino に対する知識がないと再起動できません。このため、PFM - Agent for Domino は、Lotus Domino の障害時に再起動を実行するアクションコマンド「notesrestart」を提供しています。このコマンドは Lotus Domino の強制終了機能も持っているため、フリーズ状態になっている Lotus Domino でも再起動できます。notesrestart コマンドについては、「[9. アラームアクション用コマンド](#)」を参照してください。

notesrestart コマンドを、サーバダウン稼働状況を監視するアラームと組み合わせることで、サーバタスクダウンを自動復旧させるアラーム定義を作成できます。

定義例については、「[1.3.3\(6\)\(b\) 監視テンプレート以外の定義例](#)」を参照してください。

(7) Notes ログ監視

(a) 概要

Lotus Domino の動作は、随時 Notes ログに記録されます。この Notes ログは通常運用でも膨大な量になり、手動で確認するのは大変な作業です。Notes ログ監視機能は、あらかじめ特定の検索文字列を指定することで Notes ログをフィルタリングし、メッセージの発生をアラーム通知することができます。これにより早急に対応できます。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-7 Notes ログに関連するレコード

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PL_PLNL	Message Text	検索条件で指定したメッセージが Notes ログに出力されている。メッセージ内容に対応する対策が必要となる。

(b) 監視方法

- Notes ログに特定のメッセージが出力されたことを監視したい

あらかじめ特定の検索文字列を指定することで Notes ログをフィルタリングし、メッセージの発生をアラーム通知できます。詳細については、「5. Notes Log 情報の収集」を参照してください。

また、定義例については、「1.3.3(7)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

1.3.3 定義例

監視するリソースごとに、監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。定義例の見方を次に示します。

- 定義例の■と□は、PFM - Web Console のチェックボックスを示しています。
- 定義例の■は、PFM - Web Console での設定で、チェックすることを示しています。また、□は、PFM - Web Console での設定で、チェックしないことを示しています。
- 定義例の「dummy」はユーザーがシステム環境に応じて変更する文字列です。その他の定義内容については、必要に応じて変更してください。
- 定義例の発生頻度 (例：[3]回しきい値超過/[5]インターバル中) は、システム環境によって異なります。発生頻度の定義内容は、必要に応じて変更してください。例えば、システム環境で処理が集中する時間帯が 2 分以上で継続的な高負荷状態であるとしします。このとき、収集間隔が 60 秒であれば、5 回中 2 回までは許容範囲であり、3 回以上で継続的な高負荷状態であるといえます。よって、発生頻度には「[3]回しきい値超過/[5]インターバル中」と設定します。

(1) データベース

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- データベースキャッシュの使用率を監視する監視テンプレートのアラーム

表 1-8 データベースに関連する監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
DbCacheEntries Usage	PI_PI	DbCache Entries Usage	> 80	> 65	データベースキャッシュの使用率 (%) が継続して高い場合、もしくはピーク時にキャッシュを使い切っている場合、ディスクアクセスが発生し、パフォーマンスが低下するおそれがある。 この場合、データベースキャッシュの値を大きくするなどの対策が必要となる。

アラームの設定内容については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

- データベースに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-9 データベースに関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのデータディレクトリの使用率 (日単位)。
DbCache Usage Status	現在のデータベースキャッシュ使用率 (分単位)。
Database Cache Detail	現在のデータベースキャッシュ詳細情報 (分単位)。
DbCache Usage Status Summary	最近 1 時間のデータベースキャッシュ使用率の要約 (分単位)。
Database Access Status - Top 10 Databases	アクセスが多かったデータベースの上位 10 個。*
Database Note Count Status - Top 10 Database	文書数の多いデータベースの上位 10 個。
Database Size Status - Top 10 Databases	サイズの大きいデータベースの上位 10 個。

注※

アクセスが多かったデータベースをレポート表示する場合、Lotus Domino 上で statlog サーバタスクを実行し、データベースの使用状況を各データベースに記録する設定にしておく必要があります。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- データディレクトリの使用率を監視するアラーム

表 1-10 データディレクトリの使用率を監視する定義例

項目	内容	
全般	プロダクト	Domino(3.0)
	アラームテーブル名	Alarm Example
	アラーム名	DataDirectory Usage
	メッセージテキスト	%CVS1

項目	内容			
全般	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input type="checkbox"/> チェックしない		
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	—		
	終了	—		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない [1]回しきい値超過/[1]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PI_PI		
	フィールド	異常条件： Disk Datadir Drive Usage > "90"		
	条件			
	異常値			
	警告値	警告条件： Disk Datadir Drive Usage > "80"		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	PI_PIの履歴レポートを指定する。		

(凡例)

—：指定しない

(2) ユーザー

監視テンプレートの定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- ログインユーザー数を監視する監視テンプレートのアラーム

表 1-11 ユーザーに関連する監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Login Users	PI_PI	Users	> 300	> 240	Lotus Domino が許容しているユーザー数以上のアクセスが同時に発生すると、急激なパフォーマンス低下の原因となるおそれがある。この場合、1 サーバ当たりのアクセスユーザー数を調整するため、サーバを分割するなどの対策が必要となる。

アラームの設定内容については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

- ユーザーに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-12 ユーザーに関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Login Users Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのログインユーザー数 (日単位)。
Login Users Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数システムのログインユーザー数 (時単位)。
Login Users Status	現在のログインユーザー数 (分単位)。
Login Users Status Summary	最近 1 時間のログインユーザー数 (分単位)。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(3) メール

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- デッドメール・滞留メールを監視する監視テンプレートのアラーム

表 1-13 メールに関連する監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Mail Dead Custom	PI_PI	Mail Dead UserCustom	>= 5	>= 1	配信不能状態となったメールがメールボックス内に発生しているおそれがある。ネットワーク設定、接続文書の見直し、無効なユーザー設定が残っていないか確認するなどの対策が必要となる。
Mail Waiting Custom	PI_PI	Mail Waiting UserCustom	>= 5	>= 1	配信されるべきメールがキューの中に滞留し、メール配信が行われなくなっているおそれがある。ネットワーク設定、接続文書の見直し、無効なユーザー設定が残っていないか確認するな

監視テンプレートアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Mail Waiting Custom	PI_PI	Mail Waiting UserCustom	>= 5	>= 1	どの対策が必要となる。ウイルスチェックソフトなどの不具合で発生することもあるため、ウイルスチェックソフト動作の確認も必要。

デッドメール、滞留メールになったと判定するまでの時間（分）は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Minutes for remaining mail」「Minutes for dead mail」の設定に従います。値を変更したい場合は、PFM - Web Console から PFM - Agent for Domino のプロパティ値を変更してください。

アラームの設定内容については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

- メールに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-14 メールに関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのメール配信数（日単位）。
Dead Mail Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数システムのデッドメール発生数（時単位）。
Waiting Mail Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数システムの滞留メール発生数（時単位）。
Mail Delivery Status	現在のメール配信数（分単位）。
Mail Deliveries Detail	現在のメール配信数詳細情報（分単位）。
Dead Mail Status Summary	最近 1 時間のデッドメール発生数（分単位）。
Waiting Mail Status Summary	最近 1 時間の滞留メール発生数（分単位）。
Expired Mail Status - Top 10 Databases	期間超過しているメール文書が多いデータベースの上位 10 個。*1 *2
Mail Database Size Status - Top 10 Databases	メールデータベースの中でサイズの大きいデータベースの上位 10 個。*3

注※1

期間超過メールになったと判定するまでの日数は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Days for period-excess mail」の設定に従います。値を変更したい場合は、PFM - Web Console から PFM - Agent for Domino のプロパティ値を変更してください。

注※2

このレポートを使用すると、すべてのデータベースの文書にアクセスすることから、システムの負荷が非常に高くなります。そのため、夜間などシステムの負荷が低いときに使用することをお勧めします。

注※3

メールデータベースは、使用されているテンプレート名で判定しています。標準テンプレートは自動的に認識しますが、独自のテンプレート名を使用している場合は、テンプレート名を PFM - Agent for Domino のプロパティ「User's mail template」に設定する必要があります。独自のテンプレート名を使用している場合は、PFM - Web Console から PFM - Agent for Domino のプロパティ値を変更してください。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- 配信エラーとなったメール数を監視したい

表 1-15 配信エラーとなったメール数を監視する定義例

項目	内容			
全般	プロダクト	Domino(3.0)		
	アラームテーブル名	Alarm Example		
	アラーム名	Mail Total Failures		
	メッセージテキスト	Mail Total Failures is %CVS1		
	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input type="checkbox"/> チェックしない		
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	—		
	終了	—		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない [1]回しきい値超過/[1]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PI_PIML		
	フィールド	異常条件： TotFailures < "10"*1		
	条件			
	異常値			
	警告値	警告条件： TotFailures < "5"*1		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	PI_PIML の履歴レポートを指定する。*2		

(凡例)

—：指定しない

注※1

この値は Lotus Domino サーバ起動時からの累計値です。一度発生した場合、サーバを再起動するまで正常値には戻りません。

注※2

履歴レポートを表示するため、PFM - Agent for Domino のプロパティ [Interval Records] [PIML] の [Log] を [Yes] に設定しておく必要があります。

(4) メモリー

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- メモリーに関連する監視テンプレートのアラーム

表 1-16 メモリーに関連する監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Mem Alloc Kbytes	PI_PI	Mem Alloc Kbytes	> 256000 (キロバイト)	> 128000 (キロバイト)	Lotus Domino の使用するメモリー数が高くなり、メモリー不足になっているおそれがある。 この場合、物理メモリーを増強する、Lotus Domino 上で起動するサーバタスク数を減らす、Lotus Domino のサーバを複数のマシンに分割するなどの対策が必要となる。

アラームの設定内容については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

- メモリーに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-17 メモリーに関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Domino Memory Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのメモリー使用量 (日単位)。
Domino Memory Status	現在のメモリー使用量 (分単位)。
Domino Memory Status Summary	最近 1 時間のメモリー使用量 (分単位)。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- メモリーの空き容量を監視するアラーム

表 1-18 メモリーの空き容量を監視する定義例

項目	内容
全般	プロダクト Domino(3.0)

項目		内容		
全般	アラームテーブル名	Alarm Example		
	アラーム名	Mem Free Kbytes		
	メッセージテキスト	Mem Free Kbytes is %CVS1		
	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input type="checkbox"/> チェックしない		
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	-		
	終了	-		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする [3]回しきい値超過/[5]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PI_PI		
	フィールド	異常条件：		
	条件	Mem Free Kbytes < "物理メモリーの 10%+仮想メモリー容量程度を設定する"*		
	異常値			
	警告値	警告条件： Mem Free Kbytes < "物理メモリーの 30%+仮想メモリー容量程度を設定する"*		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Domino Memory Status Summary		

(凡例)

- : 指定しない

注※

「Mem Free Kbytes」は仮想メモリーを含んだ容量となるため、すべて物理メモリー内で運用するようにアラームを設定する場合、上記のような設定にする必要があります。特に仮想メモリーを使用するオーバーヘッドを気にしない場合は、許容される最大のメモリー容量を設定してください。

(5) 複製

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- 複製に関連する監視テンプレートのアラーム

表 1-19 複製に関連する監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Repl Cluster Failed	PI_PI	Repl Cluster Failed	> 3	> 1	Lotus Domino のクラスタ間でデータベースの複製に失敗しているおそれがある。 この場合、ネットワーク設定、接続文書、複製の設定に関する見直しなどの対策が必要となる。

アラームの設定内容については、「7. 監視テンプレート」を参照してください。

- 複製に関連する監視テンプレートのレポート

表 1-20 複製に関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Replication Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムの複製数、およびエラー数（日単位）。
Replication Status	現在の複製数、およびエラー数（分単位）。
Cluster Replication Detail	現在の複製詳細情報（分単位）。
Replication Status Summary	最近 1 時間の複製数、およびエラー数（分単位）。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- 複製のエラーを監視したい

表 1-21 複製のエラーを監視する定義例

項目	内容	
全般	プロダクト	Domino(3.0)
	アラームテーブル名	Alarm Example
	アラーム名	Repl Failed
	メッセージテキスト	Repl Failed is %CVS1
	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input type="checkbox"/> チェックしない
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする

項目	内容			
高度な設定	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	—		
	終了	—		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない [1]回しきい値超過/[1]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PI_PI		
	フィールド	異常条件： Repl Failed > "3"※		
	条件			
	異常値			
	警告値	警告条件： Repl Failed > "1"※		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	PI_PI の履歴レポートを表示する。		

(凡例)

—：指定しない

注※

この値は Lotus Domino サーバ起動時からの累計値です。一度発生した場合、サーバを再起動するまで正常値には戻りません。

(6) ヘルスチェック

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- ヘルスチェックに関連する監視テンプレートのアラームなし
- ヘルスチェックに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-22 ヘルスチェックに関連する監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Health Check Status (4.0)	現在のサーバタスク稼働状況（分単位）。

レポートの設定内容については「7. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- サーバタスク稼働状況を監視するアラーム

表 1-23 サーバタスク稼働状況を監視する定義例

項目	内容			
全般	プロダクト	Domino(4.0)		
	アラームテーブル名	Alarm Example		
	アラーム名	Server Task Down		
	メッセージテキスト	%CVS1 is down		
	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input type="checkbox"/> チェックしない		
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	—		
	終了	—		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする ※1 [3]回しきい値超過/[3]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PI_PIHC		
	フィールド	異常条件：		
	条件	Check Name <> "dummy"※2 ※3 ※4 ※5 AND ResponseTime < "0"		
	異常値			
	警告値	警告条件： Check Name <> "dummy"※2 ※3 ※4 ※5 AND ResponseTime < "0"		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

項目	内容			
実行するアクション	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	PI_PIHC の履歴レポートを指定する。 ※6		

(凡例)

— : 指定しない

注※1

一時的な障害の可能性もあるため、発生頻度は3回程度に設定することをお勧めします。

注※2

ResponseTime は、サーバタスクのダウンを検出すると(-1)を返します。この値だけを評価するため、異常条件、警告条件には、同じ条件を設定します。

注※3

メッセージテキストに値を表示するためには、アラーム条件式にフィールドを設定する必要があります。このため、ResponseTime フィールド以外を、必ず満たす条件値で定義しています。

注※4

ヘルスチェックの対象となるサーバタスクは、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」の設定に従います。値を変更したい場合は、PFM - Web Console から PFM - Agent for Domino のプロパティ値を変更してください。例えば、SMTP を監視対象としたい場合は、「Health Check Options」 - 「SMTP Port Check」の「Check」を「Yes」にしてください。

注※5

「"dummy"でない」という、必ず満たす条件値にすることで、監視対象となっているサーバタスクのどれかがダウンしている場合、アラームが発生します（すべてのサーバタスクが稼働している場合だけ「正常状態」になります）。特定のサーバタスクダウンだけにアラームを発生させたい場合は、「Check Name = "HTTP"」のように指定してください。

注※6

履歴レポートを表示するため、PFM - Agent for Domino のプロパティの「Interval Records」 - 「PIHT」の「Log」を「Yes」に設定しておく必要があります。

• サーバタスクダウンを自動復旧するアラームアクション定義

表 1-24 サーバタスクダウンを自動復旧するアラームアクション定義例

項目	内容			
実行するアクション		異常	警告	正常
	Eメール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コマンド定義	コマンド名	"c:¥program files¥hitachi¥jp1pc¥agtl¥agent¥notesrestart.exe" ※1		
	アクションハンドラ	LOCAL		
	コマンド引数	"c:¥lotus¥domino 300 600"※2		

注※1

ロングファイル名の場合、必ず「" (ダブルクォーテーションマーク)」で囲んで指定してください。例は Windows の場合です。Solaris, AIX 上で実行する場合は「/opt/jp1pc/agtl/agent/notesrestart」としてください。またこのパス名は PFM - Agent for Domino が動作しているマシンのパス名です。

注※2

ロングファイル名の場合、必ず「" (ダブルクォーテーションマーク)」で囲んで指定してください。例は Windows の場合です。Solaris, AIX 上で実行する場合は、第一引数に「ドミノサーバ起動ユーザー名」を指定してください。第二引数も UNIX 上のパス名となるため、「/home/notes/notesdata」などの形式にしてください。

注意

「notesrestart」コマンドを使用する場合、OS と Lotus Domino の組み合わせによって、事前に次の環境設定が必要です。

< OS が Windows の場合 >

R5 シリーズ以前を使用している場合

1. ドミノプログラムディレクトリにある `qnc.exe` を実行する。
2. 「Options」の「Visual Notification」をオフに設定する。

R6 シリーズ以降をご使用の場合

環境設定は特に必要ありません。

< OS が UNIX (AIX, Solaris) の場合 >

1. root ユーザーで、ドミノディレクトリを環境変数 (NOTESDIR) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
NOTESDIR=/opt/lotus
export NOTESDIR
```

2. root ユーザーで、ドミノプログラムディレクトリを環境変数 (Notes_ExecDirectory) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

・ AIX の場合

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/ibmpow
export Notes_ExecDirectory
```

・ Solaris の場合

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/sunspa
export Notes_ExecDirectory
```

(7) Notes ログ監視

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

(a) 監視テンプレート

- ・ Notes ログ監視に関連する監視テンプレートのアラームなし

- Notes ログ監視に関連する監視テンプレートのレポート
なし

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- Notes ログに特定のメッセージが出力されたことを監視するアラーム

表 1-25 Notes ログに特定のメッセージが出力されたことを監視する定義例

項目	内容			
全般	プロダクト	Domino(4.0)		
	アラームテーブル名	Alarm Example		
	アラーム名	Error Message Output		
	メッセージテキスト	%CVS1		
	<input type="checkbox"/> 値の存在を監視するアラーム	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする※1 ※2		
高度な設定	<input type="checkbox"/> アラームを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	<input type="checkbox"/> 常にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	<input type="checkbox"/> すべてのデータを評価する	<input type="checkbox"/> チェックしない		
	監視時刻範囲 <input type="checkbox"/> 常に監視する	<input checked="" type="checkbox"/> チェックする		
	開始	—		
	終了	—		
	発生頻度 <input type="checkbox"/> 発生頻度を満たした時にアラーム通知する	<input type="checkbox"/> チェックしない [1]回しきい値超過/[1]インターバル中		
アラーム条件式	レコード	PL_PLNL※3		
	フィールド	Message Text		
	値	[ERROR]※4		
実行するアクション	任意で設定してください	異常	警告	正常
	E メール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	コマンド	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SNMP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
表示するレポート	[]	PL_PLNL の履歴レポートを指定する。※5		

(凡例)

—：指定しない

注※1

Notes ログ監視機能は、検索条件に当てはまるメッセージだけが収集されるため、「値の存在を監視するアラーム」に設定する必要があります。

注※2

「値の存在を監視するアラーム」に設定しているため、一度アラーム状態となると自動的に正常状態に戻りません。Notes ログを確認したあと、アラームテーブルのアンバインド、再バインドを実行してください。アラーム状態がリセットされ正常状態に戻ります。PFM - Agent for Domino は、最後に検出した文字列以降の Notes ログを監視し続けていますので、この操作を行ったあと、再度検索条件に合致したメッセージが出力されると、再びアラーム状態になります。

注※3

PFM - Agent for Domino のプロパティ「Notes Log Check Options」の設定に従います。値を変更する場合は、PFM - Web Console から PFM - Agent for Domino のプロパティ値を変更してください。特に「Include」ファイルパス名（検索文字列を指定するファイル）は必ず指定してください。

注※4

「Include」ファイルで使用したセクション名を指定してください。

注※5

履歴レポートを表示するため、PFM - Agent for Domino のプロパティの「Log Records」－「PLNL」の「Log」を「Yes」に設定しておく必要があります。また、「Collection Interval」は、Notes ログファイルへの負荷を考慮し、デフォルト 600 秒と長めの設定にしています（10 分に一度しか評価されない）。検出までの時間を短くしたい場合は、この値を短く設定してください。ただし、設定値を短く設定すると、Notes ログへの負荷が高くなります。

2

インストールとセットアップ (Windows の場合)

この章では、PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップ方法について説明します。Performance Management システム全体のインストールおよびセットアップ方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

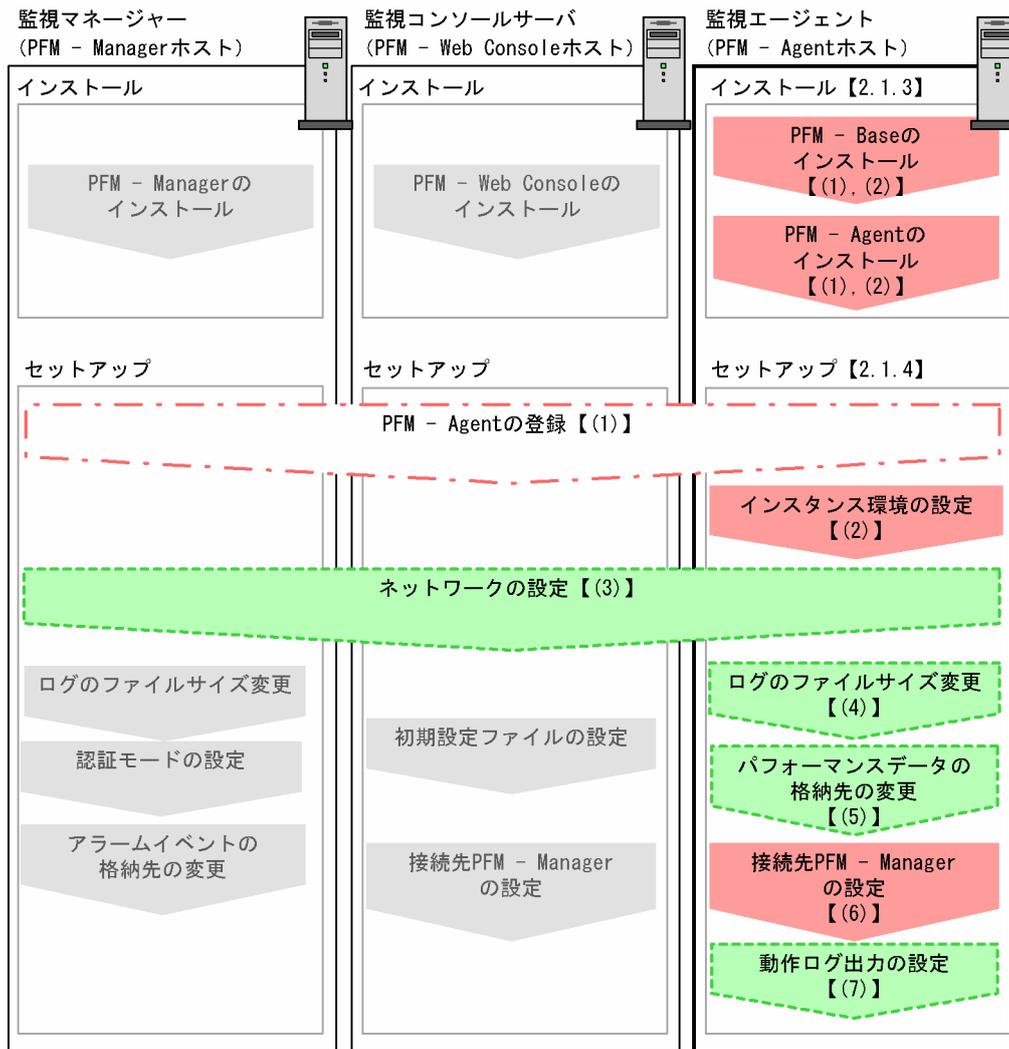
2.1 インストールとセットアップ

ここでは、PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップする手順について説明します。

2.1.1 インストールとセットアップの流れ

PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップする流れを次の図に示します。

図 2-1 インストールとセットアップの流れ (Windows の場合)



(凡例)

- : 必須セットアップ項目
- : 場合によって必須となるセットアップ項目
- : オプションのセットアップ項目
- : マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」またはマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」に手順が記載されている項目
- 【 】** : 参照先

PFM - Manager および PFM - Web Console のインストールおよびセットアップの手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業をオプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

2.1.2 インストールとセットアップの前に

PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップをする前に確認しておくことを説明します。

(1) 前提 OS

PFM - Agent for Domino が動作する OS を次に示します。

- Windows Server 2003*
- Windows Server 2008*
- Windows Server 2012*

注※

Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 および Windows Server 2012 は、WOW64 上で動作します。

(2) ネットワークの環境設定

Performance Management が動作するためのネットワーク環境について説明します。

(a) IP アドレスの設定

PFM - Agent のホストは、ホスト名で IP アドレスを解決できる環境を設定してください。IP アドレスを解決できない環境では、PFM - Agent は起動できません。

監視ホスト名（Performance Management システムのホスト名として使用する名前）には、実ホスト名またはエイリアス名を使用できます。

- 監視ホスト名に実ホスト名を使用している場合

Windows システムではhostname コマンド、UNIX システムではuname -n コマンドを実行して確認したホスト名で、IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。なお、UNIX システムでは、hostname コマンドで取得するホスト名を使用することもできます。

- 監視ホスト名にエイリアス名を使用している場合

設定しているエイリアス名で IP アドレスが解決できるように環境設定をしてください。

監視ホスト名の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

ホスト名と IP アドレスは、次のどれかの方法で設定してください。

- Performance Management のホスト情報設定ファイル (jpchosts ファイル)
- hosts ファイル
- DNS

注意

- Performance Management は、DNS 環境でも運用できますが、FQDN 形式のホスト名には対応していません。このため、監視ホスト名は、ドメイン名を除いて指定してください。
- 複数の LAN 環境で使用する場合は、jpchosts ファイルで IP アドレスを設定してください。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management は、DHCP による動的な IP アドレスが割り振られているホスト上では運用できません。Performance Management を導入するすべてのホストに、固定の IP アドレスを設定してください。

Performance Management では、ネットワーク構成が IPv4 環境だけでなく IPv6 環境にも対応しています。そのため、IPv4 環境と IPv6 環境が混在するネットワーク構成でも、Performance Management を運用できます。

PFM - Agent for Domino では、PFM - Manager と IPv6 で通信できます。ただし、PFM - Agent for Domino および PFM - Manager が導入されているホストの OS が、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Linux の場合に限りです。

IPv4 環境と IPv6 環境での通信の適用範囲については、「付録 L IPv4 環境と IPv6 環境での通信について」を参照してください。

IPv6 で通信する場合、PFM - Manager ホストと PFM - Agent ホストのそれぞれで IPv6 の利用設定を有効にする必要があります。この設定はjpcconf ipv6 enable コマンドで実行しますが、コマンドの実行要否は次のとおりです。

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行が必要なケース

- それぞれのホストで、IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager を IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行が不要なケース

- それぞれのホストが、すでに IPv6 環境である場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager が IPv6 環境である場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行例を次に示します。

```
jpccconf ipv6 enable
```

jpccconf ipv6 enable コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。また、jpccconf ipv6 enable コマンドを実行する条件やタイミングについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の IPv6 環境が含まれる場合のネットワーク構成例について説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino と監視対象ホストを IPv6 で通信する場合、名前解決できる監視対象ホスト名を指定してください。

PFM - Agent for Domino と監視対象との通信は、解決できる IP アドレスで通信します。また、PFM - Agent for Domino と監視対象との通信では、IPv4 と IPv6 が共存した環境の場合、解決できる IP アドレスで通信に失敗したとき、別の IP アドレスで通信することはありません。

例えば、IPv4 で接続に失敗した場合、IPv6 でリトライすることはありません。また、IPv6 で接続に失敗した場合に、IPv4 でリトライすることもあります。事前に接続できることを確認してください。

(b) ポート番号の設定

Performance Management プログラムのサービスは、デフォルトで次の表に示すポート番号が割り当てられています。これ以外のサービスまたはプログラムに対しては、サービスを起動するたびに、そのときシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。また、ファイアウォール環境で、Performance Management を使用するときは、ポート番号を固定してください。ポート番号の固定の手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

表 2-1 デフォルトのポート番号と Performance Management プログラムのサービス (Windows の場合)

機能	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jp1pcnsvr	22285	PFM - Manager の Name Server サービスで使用されるポート番号。Performance

機能	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jp1pcnsvr	22285	Management のすべてのホストで設定される。
NNM 連携機能	NNM Object Manager	jp1pcovsvr	22292	PFM - Manager および PFM - Base の NNM 連携機能で、マップマネージャとオブジェクトマネージャの間の通信で使用されるポート番号。PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
サービス状態管理機能	Status Server	jp1pcstatsvr	22350	PFM - Manager および PFM - Base の Status Server サービスで使用されるポート番号。 PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
JP1/ITSLM 連携機能	JP1/ITSLM	—	20905	JP1/ITSLM で設定されるポート番号。

(凡例)

— : なし

これらの PFM - Agent が使用するポート番号で通信できるように、ネットワークを設定してください。

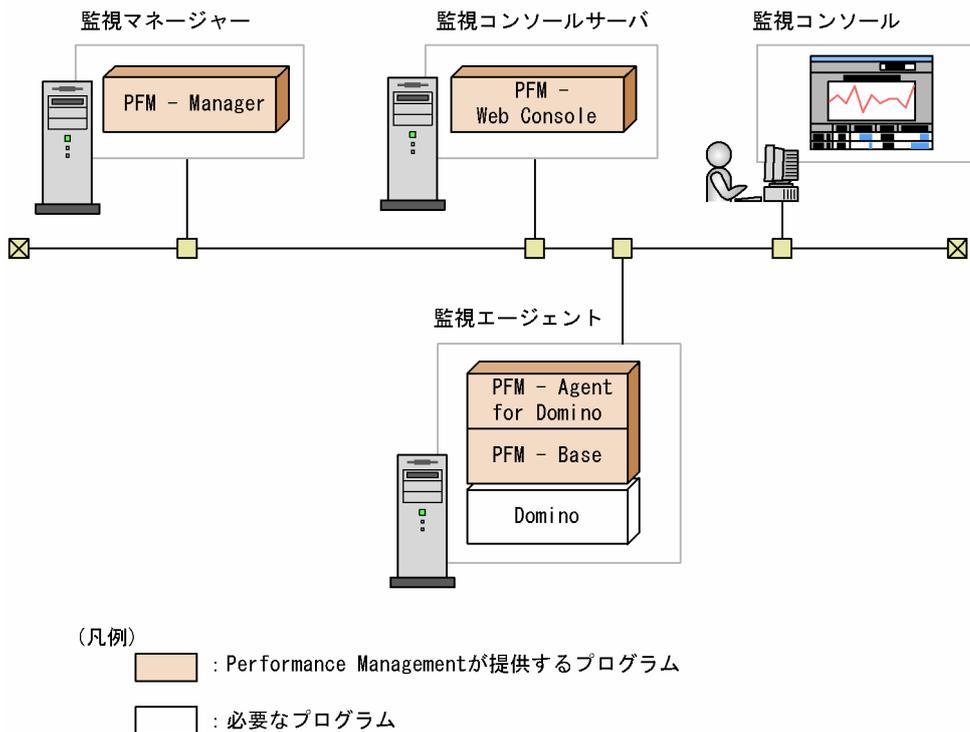
(3) インストールに必要な OS ユーザー権限について

PFM - Agent for Domino をインストールするときは、必ず、Administrator 権限を持つアカウントで実行してください。

(4) 前提プログラム

ここでは、PFM - Agent for Domino をインストールする場合に必要な前提プログラムを説明します。プログラムの構成を次に示します。

図 2-2 プログラムの構成



(a) 監視対象プログラム

PFM - Agent for Domino の監視対象プログラムを次に示します。

- Lotus Domino

PFM - Agent for Domino は、監視対象プログラムと同一ホストにインストールする必要があります。PFM - Agent for Domino と監視対象の Lotus Domino のインストール順序は問いません。

(b) Performance Management プログラム

監視エージェントには、PFM - Agent for Domino と PFM - Base をインストールします。PFM - Base は PFM - Agent for Domino の前提プログラムです。同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合でも、PFM - Base は 1 つだけでかまいません。

ただし、PFM - Manager と PFM - Agent for Domino を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。

また、PFM - Agent for Domino を使って Domino の稼働監視を行うためには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

(5) 障害発生時の資料採取の準備

トラブルが発生した場合にメモリーダンプおよびクラッシュダンプが必要となることがあります。トラブル発生時にこれらのダンプを採取する場合は、あらかじめメモリーダンプおよびクラッシュダンプが出力されるように、次の設定をしてください。

メモリーダンプの出力設定

ここでは、Windows Server 2003 の場合の設定方法を説明します。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では設定する必要はありません。

1. [コントロールパネル] から [システム] をダブルクリックする。
2. [詳細設定] ページの [起動と回復] の [設定] ボタンをクリックする。
3. [デバッグ情報の書き込み] で、[完全メモリーダンプ] を選択し、出力先のファイルを指定する。

注意事項

メモリーダンプのサイズは、実メモリーのサイズによって異なります。搭載している物理メモリーが大きいと、メモリーダンプのサイズも大きくなります。メモリーダンプを採取できるだけのディスク領域を確保してください。詳細は、OS 付属のドキュメントを参照してください。

クラッシュダンプの出力設定

ここでは、Windows Server 2003 の場合の設定方法を説明します。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 では設定する必要はありません。

1. スタートメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択する。
2. テキストボックスに「drwtsn32」と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
ワトソン博士のダイアログボックスが開きます。
3. [クラッシュ ダンプ ファイルの作成] チェックボックスをチェックし、[クラッシュダンプ] テキストボックスに出力先のファイルを指定する。
4. [OK] ボタンをクリックする。

注意事項

クラッシュダンプに出力される情報は JP1 だけでなく、ほかのアプリケーションプログラムのトラブル情報も出力されます。また、クラッシュダンプが出力されると、その分ディスク容量が圧迫されます。クラッシュダンプが出力されるように設定する場合は、十分なディスク領域を確保しておいてください。

(6) クラスタシステムでのインストールとセットアップについて

クラスタシステムでのインストールとセットアップは、前提となるネットワーク環境やプログラム構成が、通常の構成のセットアップとは異なります。また、実行系ノードと待機系ノードでの作業が必要になります。詳細については、「4. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

(7) 注意事項

ここでは、Performance Management をインストールおよびセットアップするときの注意事項を説明します。

(a) 環境変数に関する注意事項

Performance Management では JPC_HOSTNAME を環境変数として使用しているため、ユーザー独自に環境変数として設定しないでください。設定した場合は、Performance Management が正しく動作しません。

(b) 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項

Performance Management は、同一ホストに PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent をインストールすることもできます。その場合の注意事項を次に示します。

- PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。この場合、PFM - Agent の前提プログラムは PFM - Manager になるため、PFM - Manager をインストールしてから PFM - Agent をインストールしてください。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Manager, PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Base, PFM - Agent の順でインストールしてください。
- PFM - Manager がインストールされているホストに PFM - Agent をインストールすると、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先 PFM - Manager をリモートホストの PFM - Manager に変更できません。リモートホストの PFM - Manager に接続したい場合は、インストールするホストに PFM - Manager がインストールされていないことを確認してください。
- PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールすると、PFM - Agent の接続先 PFM - Manager は自ホスト名に設定し直されます。共通メッセージログに設定結果が出力されています。結果を確認してください。
- PFM - Web Console がインストールされているホストに、PFM - Agent をインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからインストールを実施してください。

- Performance Management プログラムを新規にインストールした場合は、ステータス管理機能がデフォルトで有効になります。ただし、07-50 から 08-00 以降にバージョンアップインストールした場合は、ステータス管理機能の設定状態はバージョンアップ前のままとなります。ステータス管理機能の設定を変更する場合は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

ポイント

システムの性能や信頼性を向上させるため、PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent はそれぞれ別のホストで運用することをお勧めします。

(c) バージョンアップの注意事項

古いバージョンの PFM - Agent for Domino からバージョンアップする場合の注意事項を次に示します。

なお、バージョンアップの詳細については、「付録 H 移行手順と移行時の注意事項」を参照してください。

- Performance Management のプログラムをインストールするときは、ローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止しておいてください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- すでに Performance Management プログラムがインストールされているホストに PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent のインストールパスは、すでにインストールされている PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムのインストールパスと同じになります。インストールパスを変更したい場合は、インストール済みの PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムをすべて削除し、インストールし直す必要があります。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Manager, PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Base, PFM - Agent for Domino の順でインストールしてください。
- バージョン 08-00 以降の Performance Management プログラムでは、Store 実行プログラム (jpcsto およびstpqlpr) の配置先が変更されています。PFM - Agent を 08-00 以降にバージョンアップする際に、旧配置先の Store 実行モジュールは削除されます。
- バージョンアップで Store データベースのデータモデルバージョンが変更される場合、既存の Store データベースが自動的にバージョンアップされるため、一時的に Store データベースのディスク占有量が 2 倍になります。バージョンアップインストールする前に、Store データベースの格納先のディスクに十分な空き容量があるかどうか確認してください。必要な空き容量は、現在の Store データベースの合計サイズを基準に考慮してください。例えば、現在の Store データベースの合計サイズが 100 ギガバイトの場合、バージョンアップインストールに必要なディスクの空き容量は 200 ギガバイト以上で

す。Store データベースの格納先ディスクを変更している場合は、変更後のディスク容量に対して考慮してください。

(d) その他の注意事項

- Performance Management のプログラムが 1 つもインストールされていない環境に新規インストールする場合は、インストール先フォルダにファイルやフォルダがないことを確認してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、メッセージに従ってシステムを再起動し、インストールを完了させてください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままの状態、ディスク容量が不足している状態、またはディレクトリ権限がない状態でインストールした場合、ファイルの展開に失敗することがあります。Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラムが起動している場合はすべて停止してからインストールし直してください。ディスク容量不足やディレクトリ権限不足が問題である場合は、問題を解決したあとでインストールし直してください。
- Performance Management のプログラムをインストールする場合、次に示すセキュリティ関連プログラムがインストールされていないかどうか確認してください。インストールされている場合、次の説明に従って対処してください。

- セキュリティ監視プログラム

セキュリティ監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のプログラムのインストールを妨げないようにしてください。

- ウィルス検出プログラム

ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールすることを推奨します。

Performance Management のプログラムのインストール中にウィルス検出プログラムが稼働している場合、インストールの速度が低下したり、インストールが実行できなかつたり、または正しくインストールできなかつたりすることがあります。

- プロセス監視プログラム

プロセス監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のサービスまたはプロセス、および共通コンポーネントのサービスまたはプロセスを監視しないようにしてください。

Performance Management のプログラムのインストール中に、プロセス監視プログラムによって、これらのサービスまたはプロセスが起動されたり停止されたりすると、インストールに失敗することがあります。

2.1.3 インストール手順

ここでは、PFM - Agent for Domino のプログラムをインストールする順序と CD-ROM の提供媒体からプログラムをインストールする手順を説明します。

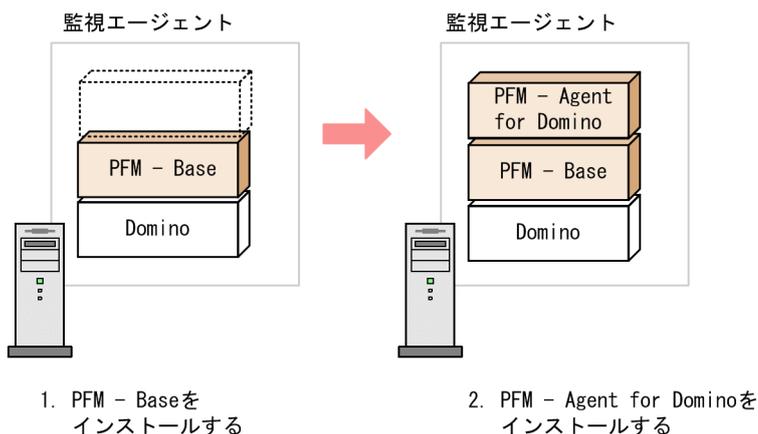
(1) プログラムのインストール順序

まず、PFM - Base をインストールし、次に PFM - Agent をインストールします。PFM - Base がインストールされていないホストに PFM - Agent をインストールすることはできません。

なお、PFM - Manager と同一ホストに PFM - Agent をインストールする場合は、PFM - Manager、PFM - Agent の順でインストールしてください。また、Store データベースをバージョン 1.0 からバージョン 2.0 にバージョンアップする場合、PFM - Agent と PFM - Manager または PFM - Base のインストール順序によって、セットアップ方法が異なります。Store バージョン 2.0 のセットアップ方法については、「[2.4.3 Store バージョン 2.0 への移行](#)」を参照してください。

同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent 相互のインストール順序は問いません。

図 2-3 プログラムのインストール順序



(2) プログラムのインストール方法

Windows ホストに Performance Management プログラムをインストールするには、CD-ROM の提供媒体を使用する方法と、JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。JP1/NETM/DM を使用する方法については、マニュアル「[JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 \(Windows\(R\)用\)](#)」を参照してください。

OS 共通の注意事項

インストールするホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。サービスの停止方法は、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド](#)」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境でインストールする場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログボックスが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、インストールが中止されます。

CD-ROM の提供媒体を使用する場合のインストール手順を次に示します。

1. Performance Management のプログラムをインストールするホストに、Administrator 権限を持つアカウントでログオンする。

2. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

Performance Management のプログラムおよびサービスが起動している場合は、すべて停止してください。

3. 提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。

起動したインストーラーの指示に従ってインストールを進めます。

参考

インストール先フォルダは、インストール時に自動的に生成されます。2 回目以降のインストールでも、初回のインストール時に指定したフォルダにインストールされます。

2.1.4 PFM - Agent for Domino のセットアップ手順

ここでは、PFM - Agent for Domino を運用するための、セットアップについて説明します。

〈オプション〉は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

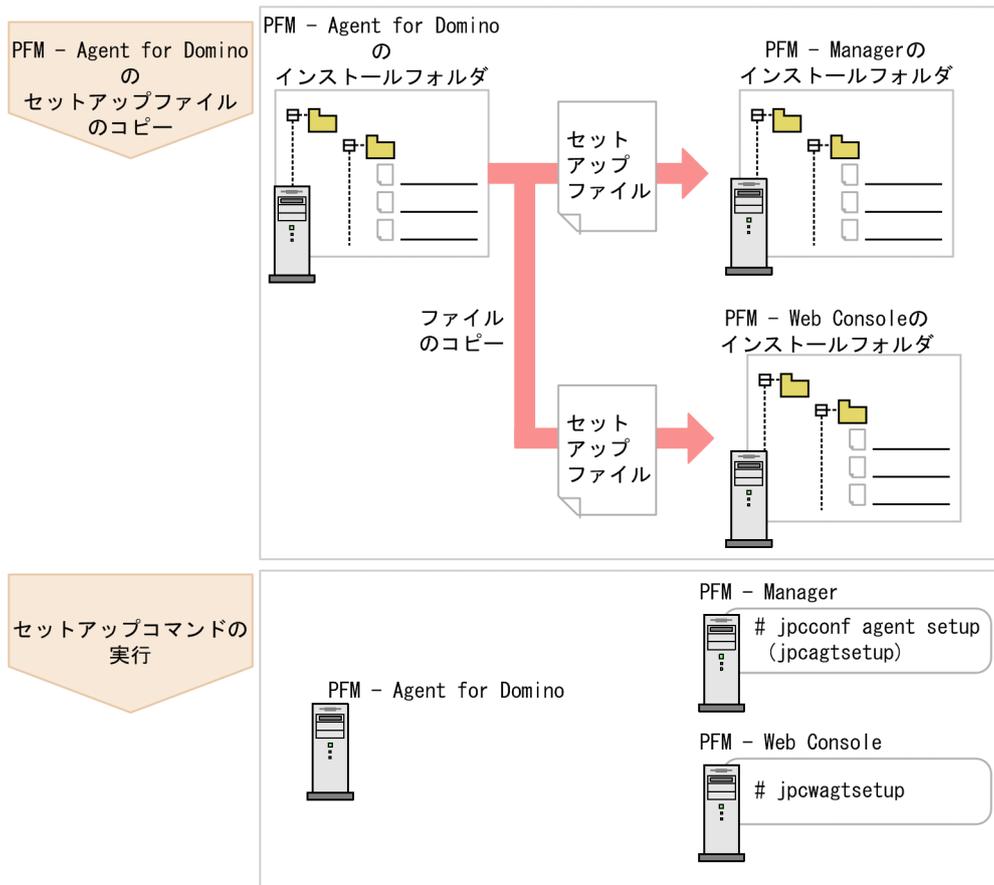
(1) PFM - Agent for Domino の登録

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Domino を登録する必要があります。

PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合、PFM - Agent の登録は自動で行われるため、ここで説明する手順は不要です。ただし、PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は手動で登録する必要があります。なお、PFM - Agent for Domino のデータモデルのバージョンについては、「付録 I バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent for Domino の登録の流れを次の図に示します。

図 2-4 PFM - Agent for Domino の登録の流れ



注意事項

- PFM - Agent の登録は、インスタンス環境を設定する前に実施してください。
- すでに PFM - Agent for Domino の情報が登録されている Performance Management システムに、新たに同じバージョンの PFM - Agent for Domino を追加した場合、PFM - Agent の登録は必要ありません。
- バージョンが異なる PFM - Agent for Domino を、異なるホストにインストールする場合、古いバージョン、新しいバージョンの順でセットアップしてください。
- PFM - Manager と同じホストに PFM - Agent をインストールした場合、`jpcconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドが自動的に実行されます。共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されるので、結果を確認してください。コマンドが正しく実行されていない場合は、コマンドを実行し直してください。コマンドの実行方法については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドの章を参照してください。
- PFM - Agent for Domino の情報を登録する作業では、PFM - Web Console の [レポート階層] 画面および [アラーム階層] 画面に「Domino」という名前のフォルダが作成されます。[レポート階層] 画面で、すでに独自に「Domino」という名前のフォルダまたはファイルを作成していた場合には、名前を変更してから作業を始めてください。

(a) PFM - Agent for Domino のセットアップファイルをコピーする

PFM - Agent for Domino をインストールしたホストにあるセットアップファイルを PFM - Manager および PFM - Web Console をインストールしたホストにコピーします。手順を次に示します。

1. PFM - Web Console が起動されている場合は、停止する。

2. PFM - Agent のセットアップファイルをバイナリーモードでコピーする。

ファイルが格納されている場所およびファイルをコピーする場所を次の表に示します。

表 2-2 コピーするセットアップファイル

PFM - Agent の セットアップファイル	コピー先		
	PFM プログラム名	OS	コピー先フォルダ
インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagt lw. EXE	PFM - Manager	Windows	PFM - Manager のインストール 先フォルダ¥setup¥
インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagt lu. Z		UNIX	/opt/jp1pc/setup/
インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagt lw. EXE	PFM - Web Console	Windows	PFM - Web Console のインス トール先フォルダ¥setup¥
インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagt lu. Z		UNIX	/opt/jp1pcwebcon/setup/

(b) PFM - Manager ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Manager で PFM - Agent for Domino をセットアップするためのコマンドを実行します。手順を次に示します。

1. PFM - Manager が起動されている場合は、停止する。

2. jpcconf agent setup (jpcagtsetup) コマンドを実行する。

次のように指定して実行します。

```
jpcconf agent setup -key Domino (jpcagtsetup agt1)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpcconf agent setup コマンドは非対話形式でも実行できます。jpcconf agent setup コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

注意事項

コマンドを実行するローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止していない状態で jpcconf agent setup (jpcagtsetup) コマンドを実行した場合、エラーが発生することがあります。その場合は、Performance Management のプログラ

ムおよびサービスが完全に停止したことを確認したあと、再度 `jpcconf agent setup` (`jpcagtsetup`) コマンドを実行してください。

PFM - Manager ホストにある PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと、削除してもかまいません。

(c) PFM - Web Console ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Web Console で PFM - Agent for Domino をセットアップする手順を次に示します。

1. PFM - Web Console が起動されている場合は、停止する。

2. `jpcwagtsetup` コマンドを実行する。

次のように指定して実行します。

```
jpcwagtsetup
```

PFM - Web Console ホストにコピーした PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと削除してもかまいません。

(2) インスタンス環境の設定

インスタンス環境の設定では、次の項目を実施します。複数のインスタンス環境を設定する場合は、この手順を繰り返し実施します。

- インスタンス情報の設定

次に手順について説明します。

(a) インスタンス情報を設定する

PFM - Agent for Domino で監視するドミノサーバのインスタンス情報を設定します。インスタンス情報の設定は、PFM - Agent ホストで実施します。

設定するインスタンス情報を次の表に示します。セットアップの操作を始める前に、次の表の情報をあらかじめ確認してください。ドミノサーバのインスタンス情報の詳細については、ドミノサーバのマニュアルを参照してください。

表 2-3 PFM - Agent for Domino のインスタンス情報

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
Domino Program Directory	監視対象のドミノサーバのプログラムディレクトリを絶対パスで指定する。 (UNIX 版だけ有効, Windows 版は設定不要)	255 バイト以内の半角文字列。	—

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
notes.ini	監視対象のドミノサーバが使用する notes.ini ファイルの絶対パス (notes.ini までを含めた名称) を指定する。	255 バイト以内の半角文字列。	—
User's mail template	追加用の個人ユーザーメールデータベーステンプレート名を指定する。ここで指定されたテンプレート名を持つデータベースが個人ユーザーメールデータベースとして扱われる。	128 バイト以内の半角文字列。 追加しない場合は「none」を指定する。	none
Days for period-excess mail	個人ユーザーメールデータベースで、期間超過メールであると判断する日数を整数で指定する。	0~65535 (単位：日)。	60
Minutes for remaining mail	あるメールが滞留メールであると判断する時間 (単位：分) を整数で指定する。	0~2147483647 (単位：分)。	15
Minutes for dead mail	あるメールがデッドメールであると判断する時間 (単位：分) を整数で指定する。	0~2147483647 (単位：分)。	15
Use summary to mail count	デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報 (サマリ情報) を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定する。PI_PI レコードの Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの収集時に使用する。 「Y」を指定した場合、IBM Domino Administrator で「Domino サーバ」の「メールボックス」に表示される一覧情報を使用して収集する。※1 「N」を指定した場合、メール文書の情報を使用して収集する。※2	Y または N	N
Store Version※3	使用する Store バージョンを指定する。Store バージョンについては「 2.4.3 Store バージョン 2.0 への移行 」を参照のこと。	1.0 または 2.0	2.0

(凡例)

— : なし

注※1

メールボックスの一覧情報 (サマリ情報) を使用すると、メール文書を読み込む必要がなくなり、収集処理時間が短縮されます。

注※2

メール文書の情報を読み込むため、サイズが大きいメールや件数が多い状態になると、レコードの収集に失敗する場合があります。また、収集対象のメールボックスのメール文書数が 1,000 件を超える場合、収集時の負荷が高くなるため、収集を中止し、Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの値には 0 を設定します。

注※3

PFM - Agent for Domino と同一ホスト上の PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降で、インスタンス環境を新規に設定する場合に必要です。インスタンス環境を更新するときは指定できません。

注意

インスタンス環境を設定していない場合、PFM - Agent for Domino のサービスを起動できません。

インスタンス環境を構築するには、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用します。インスタンス環境の構築手順を次に示します。

1. サービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行する。

例えば、PFM - Agent for Domino のインスタンス名 `Domino01` のインスタンス環境を構築する場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpccconf inst setup -key Domino -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -inst Domino01)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf inst setup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

2. ドミノのインスタンス情報を設定する。

表 2-3 に示した項目を、コマンドの指示に従って入力してください。各項目は省略できません。デフォルトで表示されている値を、項目の入力とする場合はリターンキーだけを押してください。

すべての入力終了すると、インスタンス環境が構築されます。構築時に入力した内容を変更したい場合は、再度 `jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行し、インスタンス環境を更新してください。インスタンス環境の更新については、「[2.4.2 インスタンス環境の更新の設定](#)」を参照してください。

構築されるインスタンス環境を次に示します。

• インスタンス環境のフォルダ構成

次のフォルダ下にインスタンス環境が構築されます。

物理ホストの場合：インストール先フォルダ`agtl`

論理ホストの場合：環境フォルダ`jp1pcagtl`

注※

環境フォルダとは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のフォルダです。

構築されるインスタンス環境のフォルダ構成を次に示します。

表 2-4 インスタンス環境のフォルダ構成

フォルダ名・ファイル名		説明	
agent	インスタンス名	jpcagt.ini	Agent Collector サービス起動情報ファイル
		jpcagt.ini.model*	Agent Collector サービス起動情報ファイルのモデルファイル
		log	ログファイル格納フォルダ
store	インスタンス名	jpcsto.ini	Agent Store サービス起動情報ファイル
		jpcsto.ini.model*	Agent Store サービス起動情報ファイルのモデルファイル
		*.DAT	データモデル定義ファイル
		dump	エクスポート先フォルダ
		backup	バックアップ先フォルダ
		import	標準のデータベースインポート先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
		log	ログファイル格納フォルダ
		partial	標準のデータベース部分バックアップ先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPD	PD レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPI	PI レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPL	PL レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)

注※

インスタンス環境を構築した時点の設定値に戻したいときに使用します。

- インスタンス環境のサービス ID

インスタンス環境の場合のサービス ID は次のようになります。

プロダクトID 機能ID インスタンス番号 インスタンス名 [ホスト名]

PFM - Agent for Domino の場合、インスタンス名には `jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドで指定したインスタンス名が表示されます。

サービス ID については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されている命名規則を参照してください。

- インスタンス環境の Windows のサービス名

インスタンス環境の Windows のサービス名は次のようになります。

- Agent Collector サービス：PFM - Agent for Domino インスタンス名 [論理ホスト名]
- Agent Store サービス：PFM - Agent Store for Domino インスタンス名 [論理ホスト名]

Windows のサービス名については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されている命名規則を参照してください。また、論理ホストで運用する場合の Windows のサービス名については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

(3) ネットワークの設定 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定には次の 2 つの項目があります。

• IP アドレスを設定する

Performance Management を複数の LAN に接続されたネットワークで使用するときには設定します。複数の IP アドレスを設定するには、jpchosts ファイルにホスト名と IP アドレスを定義します。設定した jpchosts ファイルは Performance Management システム全体で統一させてください。

詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

• ポート番号を設定する

Performance Management が使用するポート番号を設定できます。運用での混乱を避けるため、ポート番号とサービス名は、Performance Management システム全体で統一させてください。

ポート番号の設定の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(4) ログのファイルサイズ変更 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 ファイル使用されます。このファイルサイズを変更したい場合に、必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(5) パフォーマンスデータの格納先の変更 オプション

PFM - Agent for Domino で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先、エクスポート先、またはインポート先のフォルダを変更したい場合に、必要な設定です。

- 保存先：インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥
- バックアップ先：インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥backup¥

- 部分バックアップ先※：インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥partial¥
- エクスポート先：インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥dump¥
- インポート先※：インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥import¥

注

論理ホストで運用する場合のデフォルトの保存先については、「インストール先フォルダ」を「環境フォルダ¥jp1pc」に読み替えてください。

注※

Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

詳細については、「[2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更](#)」を参照してください。

(6) PFM - Agent for Domino の接続先 PFM - Manager の設定

PFM - Agent がインストールされているホストで、その PFM - Agent を管理する PFM - Manager を設定します。接続先の PFM - Manager を設定するには、`jpcconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを使用します。

注意事項

- 同一ホスト上に、複数の PFM - Agent がインストールされている場合でも、接続先に指定できる PFM - Manager は、1 つだけです。PFM - Agent ごとに異なる PFM - Manager を接続先に設定することはできません。
- PFM - Agent と PFM - Manager が同じホストにインストールされている場合、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先の PFM - Manager をほかの PFM - Manager に変更できません。

手順を次に示します。

1. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する

セットアップを実施する前に、ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpcconf mgrhost define` コマンド (`jpcnshostname`) 実行時に、Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、停止を問い合わせるメッセージが表示されます。

2. 接続先の PFM - Manager ホストのホスト名を指定して、`jpcconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行する

例えば、接続先の PFM - Manager がホスト `host01` 上にある場合、次のように指定します。

```
jpccconf mgrhost define -host host01 (jpcnshostname -s host01)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpccconf mgrhost define コマンドは非対話形式でも実行できます。jpccconf mgrhost define コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(7) 動作ログ出力の設定 オプション

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「付録J 動作ログの出力」を参照してください。

2.2 アンインストールとアンセットアップ

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンインストールおよびアンセットアップする手順について説明します。

2.2.1 アンインストールとアンセットアップの前に

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンインストールおよびアンセットアップするときの注意事項を次に示します。

(1) アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールするときは、必ず、Administrator 権限を持つアカウントで実行してください。

(2) ネットワークに関する注意事項

Performance Management プログラムをアンインストールしても、services ファイルに定義されたポート番号は削除されません。

(3) プログラムに関する注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、ファイルやフォルダが残ることがあります。この場合は、手動でインストール先フォルダ以下をすべて削除してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが出力されることがあります。この場合、システムを再起動して、アンインストールを完了させてください。
- PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストの場合、PFM - Base のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent、PFM - Base の順にアンインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストの場合も同様に、PFM - Manager のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent、PFM - Manager の順にアンインストールしてください。

(4) サービスに関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールしただけでは、`jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。この場合、`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンド

を使用してサービスの情報を削除してください。サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップの章のサービスの削除について説明している個所を参照してください。

なお、PFM - Web Console ホストにサービス情報の削除を反映するためには、`jpctool service sync` コマンドを実行して、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期する必要があります。

(5) その他の注意事項

- PFM - Web Console がインストールされているホストから、Performance Management プログラムをアンインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからアンインストールを実施してください。
- アンインストールを実行する前に `jpccnf inst setup (jpcinssetup)` コマンドまたは PFM - Web Console で、エージェントログの出力先フォルダを確認してください。エージェントログの出力先をデフォルト値（インストール先フォルダ`%agto%store%インスタンス名%log%`）以外に設定している場合、アンインストールしてもエージェントログファイルは削除されません。この場合、アンインストール実行後にエージェントログファイルを手動で削除する必要があります。

2.2.2 アンセットアップ手順

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンセットアップする手順を説明します。

(1) インスタンス環境のアンセットアップ

PFM - Agent for Domino のアンセットアップでは、次の項目を実施します。複数のインスタンス環境をアンセットアップする場合は、この手順を繰り返し実施します。

- インスタンス環境の削除

手順について次に説明します。

(a) インスタンス環境を削除する

インスタンス名を確認し、インスタンス環境を削除します。インスタンス環境の削除は、PFM - Agent ホストで実施します。

インスタンス名を確認するには、`jpccnf inst list (jpcinslist)` コマンドを使用します。また、構築したインスタンス環境を削除するには、`jpccnf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドを使用します。

インスタンス環境を削除する手順を次に示します。

1. インスタンス名を確認する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーを指定して、`jpcconf inst list (jpcinslist)` コマンドを実行します。

```
jpcconf inst list -key Domino (jpcinslist agtl)
```

設定されているインスタンス名が `Domino01` の場合、`Domino01` と表示されます。

2. インスタンス環境の PFM - Agent のサービスが起動されている場合は、停止する。

サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

3. インスタンス環境を削除する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpcconf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドを実行します。

設定されているインスタンス名が `Domino01` の場合、次のように指定します。

```
jpcconf inst unsetup -key Domino -inst Domino01 (jpcinsunsetup agtl -inst Domino01)
```

`jpcconf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドが正常終了すると、インスタンス環境として構築されたフォルダ、サービス ID および Windows のサービスが削除されます。

注意

インスタンス環境をアンセットアップしても、`jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。この場合、`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを使用してサービスの情報を削除してください。

PFM - Web Console ホストにインスタンス環境の削除を反映するためには、`jpctool service sync` コマンドを実行して、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期する必要があります。

また、コマンド実行後に PFM - Manager を再起動してください。

次に指定例を示します。

- インスタンス名：Domino01
- ホスト名：host03
- Agent Collector のサービス ID：LA1Domino01 [host03]
- Agent Store のサービス ID：LS1Domino01 [host03]

```
jpctool service delete -id L?1Domono01[host03] -host host03 (jpcctrl delete L?1Domono01[host03] host=host03)
```

コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

2.2.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Domino をアンインストールする手順を説明します。

1. PFM - Agent for Domino をアンインストールするホストに、Administrator 権限でログオンする。

2. ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。

ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。

サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド]」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

3. Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino を選択する。

Windows の [コントロールパネル] で [プログラムの追加と削除] ※を選択して、Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino を選択します。

注※ Windows のバージョンによって名称が異なる場合があります。

4. [削除] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。

PFM - Agent for Domino がアンインストールされます。

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境でアンインストールする場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、アンインストールが中止されます。

2.3 PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更

監視対象システムのネットワーク構成の変更や、ホスト名の変更などに応じて、PFM - Agent for Domino のシステム構成を変更する場合があります。

PFM - Agent for Domino のシステム構成を変更する場合、PFM - Manager や PFM - Web Console の設定変更もあわせて変更する必要があります。Performance Management のシステム構成を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino では、PFM - Agent for Domino のヘルスチェック機能を使用している場合、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき、および論理ホスト名を変更するときは、作成済みのすべてのインスタンス環境で定義ファイルを編集してください。PFM - Agent for Domino のヘルスチェック機能を使用していない場合は、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき、および論理ホスト名を変更するときにも固有の追加作業は必要ありません。

- **物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき**

編集する定義ファイルと編集内容を次に示します。

- **定義ファイル**

インストール先フォルダ¥agtl¥agent¥インスタンス名¥jpcagt.ini

- **編集内容**

次に示す(1)～(5)の順番で、[Health Check Options]セクションの各エントリの値に、新しいホスト名を設定します。

- (1) [[HTTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (2) [[SMTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (3) [[POP3 Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (4) [[LDAP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (5) [[NNTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

- **論理ホスト名を変更するとき**

編集する定義ファイルと編集内容を次に示します。

- **定義ファイル**

環境フォルダ¥jp1pc¥agtl¥agent¥インスタンス名¥jpcagt.ini

- **編集内容**

次に示す(1)～(5)の順番で、[Health Check Options]セクションの各エントリの値に、新しいホスト名を設定します。

- (1) [[HTTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (2) [[SMTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (3) [[POP3 Port Check]]サブセクションのHost エントリ

(4) [[LDAP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

(5) [[NNTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

2.4 PFM - Agent for Domino の運用方式の変更

収集した稼働監視データの運用手順の変更などで、パフォーマンスデータの格納先や、インスタンス環境といった、PFM - Agent for Domino の運用方式を変更する場合があります。

ここでは、PFM - Agent for Domino の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更

PFM - Agent for Domino で収集したパフォーマンスデータは、PFM - Agent for Domino の Agent Store サービスの Store データベースで管理しています。ここではパフォーマンスデータの格納先の変更方法について説明します。

(1) `jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドを使用して設定を変更する

Store データベースで管理されるパフォーマンスデータの、次のデータ格納先フォルダを変更したい場合は、`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドで設定します。Store データベースの格納先フォルダを変更する前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドの `-move` オプションを使用してください。`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

- 保存先フォルダ
- バックアップ先フォルダ
- 部分バックアップ先フォルダ※
- エクスポート先フォルダ
- インポート先フォルダ※

注※

Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドで設定するオプション名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 2-5 パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの設定項目

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※1	設定できる値 (Store バージョン 2.0) ※1	デフォルト値※2
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	sd	1~127 バイトのフォルダ名	1~214 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	bd	1~127 バイトのフォルダ名	1~211 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名¥backup
パフォーマンスデータの部分バックアップ先フォルダ	pbd	—	1~214 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名¥partial
パフォーマンスデータをバックアップする場合の最大世代番号	bs	1~9	1~9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	dd	1~127 バイトのフォルダ名	1~127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名¥dump
パフォーマンスデータのインポート先フォルダ	id	—	1~222 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名¥import

(凡例)

—：設定できません。

注※1

フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名）からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。

注※2

論理ホストで運用する場合のデフォルト値については、「インストール先フォルダ」を「環境フォルダ ¥jp1pc」に読み替えてください。

(2) jpcsto.ini ファイルを編集して設定を変更する (Store バージョン 1.0 の場合だけ)

Store バージョン 1.0 使用時は、jpcsto.ini を直接編集して変更できます。

(a) jpcsto.ini ファイルの設定項目

jpcsto.ini ファイルで編集するラベル名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 2-6 パフォーマンスデータの格納先の設定項目 (jpcsto.ini の[Data Section]セクション)

説明	ラベル名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※1	デフォルト値※2
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	Store Dir※3	1~127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	Backup Dir※3	1~127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥backup
パフォーマンスデータをバックアップする場合の最大世代番号	Backup Save	1~9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	Dump Dir※3	1~127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥dump

注※1

- フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ (インストール先フォルダ¥agtl ¥store¥インスタンス名) からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。
- 指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字、半角記号および半角空白です。
; , * ? ' " < > |
- 指定値に誤りがある場合、Agent Store サービスは起動できません。

注※2

論理ホストで運用する場合のデフォルト値については、「インストール先フォルダ」を「環境フォルダ ¥jp1pc」に読み替えてください。

注※3

Store Dir, Backup Dir, および Dump Dir には、それぞれ重複したフォルダを指定できません。

(b) jpcsto.ini ファイルの編集前の準備

- Store データベースの格納先フォルダを変更する場合は、変更後の格納先フォルダを事前に作成しておいてください。
- Store データベースの格納先フォルダを変更すると、変更前に収集したパフォーマンスデータを使用できなくなります。変更前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、次に示す手順でデータを引き継いでください。
 1. jpctool db backup (jpcctrl backup) コマンドで Store データベースに格納されているパフォーマンスデータのバックアップを採取する。
 2. 「(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順」に従って Store データベースの格納先フォルダを変更する。
 3. jpctool db restore (jpcresto) コマンドで変更後のフォルダにバックアップデータをリストアする。

(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順

手順を次に示します。

1. PFM - Agent のサービスを停止する。

ローカルホストで PFM -Agent のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。

2. テキストエディターなどで、jpcsto.ini ファイルを開く。

3. パフォーマンスデータの格納先フォルダなどを変更する。

次に示す網掛け部分を、必要に応じて修正してください。

```

:
[Data Section]
Store Dir=.
Backup Dir=.%backup
Backup Save=5
Dump Dir=.%dump
:
```

注意事項

- 行頭および「=」の前後には空白文字を入力しないでください。
- 各ラベルの値の「.」は、Agent Store サービスの Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名）を示します。格納先を変更する場合、その格納先フォルダからの相対パスか、または絶対パスで記述してください。
- jpcsto.ini ファイルには、データベースの格納先フォルダ以外にも、定義情報が記述されています。[Data Section]セクション以外の値は変更しないようにしてください。[Data Section]セクション以外の値を変更すると、Performance Management が正常に動作しなくなることがあります。

4. jpcsto.ini ファイルを保存して閉じる。

5. Performance Management のプログラムおよびサービスを起動する。

注意

この手順で Store データベースの保存先フォルダを変更した場合、パフォーマンスデータファイルは変更前のフォルダから削除されません。これらのファイルが不要な場合は、次に示すファイルだけを削除してください。

- 拡張子が .DB であるすべてのファイル
- 拡張子が .IDX であるすべてのファイル

2.4.2 インスタンス環境の更新の設定

インスタンス環境を更新したい場合は、インスタンス名を確認し、インスタンス情報を更新します。インスタンス情報の更新は、PFM - Agent ホストで実施します。

更新する情報は、次の表であらかじめ確認してください。ドミノサーバのインスタンス情報の詳細については、ドミノサーバのマニュアルを参照してください。

表 2-7 PFM - Agent for Domino のインスタンス情報

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
Domino Program Directory	この値は更新できる。監視対象のドミノサーバのプログラムフォルダを絶対パスで指定する。(UNIX 版だけ有効、Windows 版は設定不要)	255 バイト以内の半角文字列。	前回の設定値。
notes.ini	この値は更新できる。監視対象のドミノサーバインスタンスが使用する notes.ini ファイルの絶対パスを指定する。	255 バイト以内の半角文字列。	前回の設定値。
User's mail template	この値は更新できる。追加用の個人ユーザーメールアドレスのテンプレート名を指定する。	128 バイト以内の半角文字列。 追加しない場合は「none」を指定する。	前回の設定値。
Days for period - excess	この値は更新できる。個人ユーザーメールアドレスで、期間超過メールであると判断する日数を指定する。	0~65535 (単位：日)。	前回の設定値。
Minutes for remaining mail	この値は更新できる。あるメールが滞留メールであると判断する時間を指定する。	0~ 2147483647 (単位：分)。	前回の設定値。
Minutes for dead mail	この値は更新できる。あるメールがデッドメールであると判断する時間を指定する。	0~ 2147483647 (単位：分)。	前回の設定値。
Use summary to mail count	この値は更新できる。デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報(サマリ情報)を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定する。 PI_PI レコードの Mail Dead User Custom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの収集時に使用する。 「Y」を指定した場合、IBM Domino Administrator で「Domino サーバ」の「メールボックス」に表示される一覧情報を使用して収集する。※1 「N」を指定した場合、メール文書の情報を使用して収集する。※2	Y または N	前回の設定値。

(凡例)

— : なし

注※1

メールボックスの一覧情報（サマリ情報）を使用すると、メール文書を読み込む必要がなくなり、収集処理時間が短縮されます。

注※2

メール文書の情報を読み込むため、サイズが大きいメールや件数が多い状態になると、レコードの収集に失敗する場合があります。また、収集対象のメールボックスのメール文書数が1,000件を超える場合、収集時の負荷が高くなるため、収集を中止し、Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの値には0を設定します。

インスタンス名を確認するには、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを使用します。また、インスタンス環境を更新するには、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用します。コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

インスタンス環境を更新する手順を次に示します。複数のインスタンス環境を更新する場合は、この手順を繰り返し実施します。

1. インスタンス名を確認する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーを指定して、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを実行します。

```
jpccconf inst list -key Domino (jpcinslist agtl)
```

設定されているインスタンス名が Domino01 の場合、Domino01 と表示されます。

2. 更新したいインスタンス環境の PFM - Agent for Domino のサービスが起動されている場合は、停止する。

サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンド実行時に、更新したいインスタンス環境のサービスが起動されている場合は、確認メッセージが表示され、サービスを停止できます。サービスを停止した場合は、更新処理が続行されます。サービスを停止しなかった場合は、更新処理が中断されます。

3. PFM - Agent for Domino を示すサービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行する。

例えば、PFM - Agent for Domino のインスタンス名 Domino01 のインスタンス環境を更新する場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpccconf inst setup -key Domino -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -inst Domino01)
```

4. ドミノのインスタンス情報を設定する。

表 2-7 に示した項目を、コマンドの指示に従って入力します。現在設定されている値が表示されます。表示された値を変更しない場合は、リターンキーだけを押してください。すべての入力終了すると、インスタンス環境が更新されます。

5. 更新したインスタンス環境のサービスを再起動する。

サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

注意

更新できない項目の値を変更したい場合は、インスタンス環境を削除したあと、再作成してください。

コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

2.4.3 Store バージョン 2.0 への移行

Store データベースの保存形式には、バージョン 1.0 と 2.0 の 2 種類あります。Store バージョン 2.0 の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の稼働監視システムの運用設計について説明している章を参照してください。

Store バージョン 2.0 は、PFM - Base または PFM - Manager のバージョン 08-10 以降の環境に、08-10 以降の PFM - Agent for Domino を新規インストールした場合にデフォルトで利用できます。それ以外の場合は、Store バージョン 1.0 形式のままとなっているため、セットアップコマンドによって Store バージョン 2.0 に移行してください。

何らかの理由によって Store バージョン 1.0 に戻す必要がある場合は、Store バージョン 2.0 のアンセットアップを行ってください。

インストール条件に対応する Store バージョン 2.0 の利用可否と利用手順を次の表に示します。

表 2-8 Store バージョン 2.0 の利用可否および利用手順

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base, または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 より前	上書きインストール	利用できない	PFM - Base, または, PFM - Manager を 08-10 以降にバージョンアップ後, セットアップコマンドを実行
	新規インストール		
08-10 以降	上書きインストール	既存のインスタンスについてはセットアップ後利用できる	セットアップコマンドを実行
		新規インスタンスについては利用できる	インスタンス構築時に <code>jpcconf inst setup (jpcinssetup)</code> コマンドで設定
	新規インストール	利用できる	インスタンス構築時に <code>jpcconf inst setup (jpcinssetup)</code> コマンドで設定

(1) Store バージョン 2.0 のセットアップ

Store バージョン 2.0 へ移行する場合のセットアップ手順について説明します。

1. システムリソース見積もりと保存期間の設計

Store バージョン 2.0 導入に必要なシステムリソースが、実行環境に適しているかどうかを確認してください。必要なシステムリソースを次に示します。

- ディスク容量
- ファイル数
- 1 プロセスがオープンするファイル数

これらの値は保存期間の設定によって調節できます。実行環境の保有しているリソースを考慮して保存期間を設計してください。システムリソースの見積もりについては、リリースノートを参照してください。

2. フォルダの設定

Store バージョン 2.0 に移行する場合に、Store バージョン 1.0 でのフォルダ設定では、Agent Store サービスが起動しないことがあります。このため、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を見直す必要があります。Agent Store サービスが使用するフォルダの設定は `jpcconf db define (jpcdbctrl config)` コマンドを使用して表示・変更できます。

Store バージョン 2.0 は、Store データベースの保存先フォルダやバックアップ先フォルダの最大長が Store バージョン 1.0 と異なります。Store バージョン 1.0 でフォルダの設定を相対パスに変更している場合、絶対パスに変換した値が Store バージョン 2.0 でのフォルダ最大長の条件を満たしているか確認してください。Store バージョン 2.0 のフォルダ最大長は 214 バイトです。フォルダ最大長の条件を満たしていない場合は、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を変更したあと、手順 3 以降に進んでください。

3. セットアップコマンドの実行

Store バージョン 2.0 に移行するため、次のコマンドを実行します。

```
jpcconf db vrset -ver 2.0 -key Domino (jpcdbctrl setup -key agtl)
```

`jpcconf db vrset (jpcdbctrl setup)` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

4. 保存期間の設定

手順 1 の見積もり時に設計した保存期間を設定してください。Agent Store サービスを起動して、PFM - Web Console で設定してください。

(2) Store バージョン 2.0 のアンセットアップ

Store バージョン 2.0 は `jpcconf db vrset -ver 1.0 (jpcdbctrl unsetup)` コマンドを使用してアンセットアップします。Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、Store データベースのデータはすべて初期化され、Store バージョン 1.0 に戻ります。

jpccconf db vrset (jpcdbctrl unsetup)コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

(3) 注意事項

(a) Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行する場合

Store データベースを Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行した場合、PI レコードタイプのレコードの保存期間の設定は引き継がれますが、PD レコードタイプのレコードについては、以前の設定値（保存レコード数）に関係なくデフォルトの保存日数がレコードごとに設定され、保存日数以前に収集されたデータは削除されます。

例えば、Store バージョン 1.0 で、Collection Interval が 3,600 秒の PD レコードの保存レコード数を 1,000 に設定していた場合、PD レコードは 1 日に 24 レコード保存されることになるので、 $1,000/24 \approx$ 約 42 日分のデータが保存されています。この Store データベースを Store バージョン 2.0 へ移行した結果、デフォルト保存日数が 10 日に設定されたとすると、11 日以上前のデータは削除されて参照できなくなります。

Store バージョン 2.0 へ移行する前に、PD レコードタイプのレコードの保存レコード数の設定を確認し、Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数以上のデータが保存される設定となっている場合は、jpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドでデータベース内のデータを出力してください。Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数については、リリースノートを参照してください。

(b) Store バージョン 2.0 から Store バージョン 1.0 に戻す場合

Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、データは初期化されます。このため、Store バージョン 1.0 に変更する前に、jpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドで Store バージョン 2.0 の情報を出力してください。

2.5 コマンドプロンプトの起動方法

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境では、OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合、コマンドプロンプトは、次の 2 種類の特権モードで動作します。

- 管理者特権モードのコマンドプロンプト (管理者コンソール)
Windows のすべての操作ができるコマンドプロンプトです。
- 標準特権モードのコマンドプロンプト (標準コンソール)
ユーザー操作の権限が制限されたコマンドプロンプトです。

ユーザーアカウント制御機能 (UAC) を無効にしている場合は、常に管理者コンソールが起動されます。

Performance Management が提供しているコマンドは、必ず管理者コンソールで実行してください。

管理者ユーザーごとのコマンドプロンプトの起動方法を次の表に示します。

表 2-9 管理者ユーザーごとのコマンドプロンプトの起動方法

管理者グループ	管理者ユーザー	起動方法
Administrators	Administrator	コマンドプロンプトを起動すると、管理者コンソールが起動されます。
	上記以外のユーザー	UAC が有効な場合 • コマンドプロンプトを起動すると、標準コンソールが起動されます。 • 管理者コンソールを起動する場合、ユーザーアカウント制御のダイアログが表示されます。ダイアログの [続行] ボタンをクリックすると管理者コンソールが起動されます。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、コマンドプロンプトは起動されません。 UAC が無効な場合 • コマンドプロンプトを起動すると、管理者コンソールが起動されます。

管理者コンソールは、OS が用意している管理者コンソールと、PFM - Base が提供している管理者コンソールがあります。それぞれの起動方法を説明します。

OS が用意している管理者コンソールの起動方法

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

起動されたコマンドプロンプトが管理者コンソールであるかどうかは、タイトルバーに [管理者] が表示されているかどうかで判断できます。

PFM - Base が提供している管理者コンソールの起動方法

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [Performance Management] - [管理者コンソール] を選択します。

2.6 バックアップとリストア

PFM - Agent for Domino のバックアップおよびリストアについて説明します。

障害が発生してシステムが壊れた場合に備えて、PFM - Agent for Domino の設定情報のバックアップを取得してください。また、PFM - Agent for Domino をセットアップしたときなど、システムを変更したときにはバックアップを取得してください。

なお、Performance Management システム全体のバックアップおよびリストアについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、バックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

2.6.1 バックアップ

バックアップはファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップを取得する際は、PFM - Agent for Domino のサービスを停止した状態で行ってください。

注意事項

PFM - Agent for Domino のバックアップを取得する際は、取得した環境の製品バージョン番号を管理するようにしてください。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。

バックアップ時にはインスタンス、監視対象の構成（論理ホスト環境を含む）を記録しておく必要があります。

PFM - Agent for Domino の設定情報のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 2-10 PFM - Agent for Domino のバックアップ対象ファイル（物理ホストの場合）

ファイル名	説明
インストール先フォルダ\%agtl%agent%*. ini ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ\%agtl%agent%インスタンス名%*. ini *	
インストール先フォルダ\%agtl%store%*. ini ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ\%agtl%store%インスタンス名%*. ini	

注※

次の場合には、ファイルパスに設定しているファイルもバックアップを取得してください。

- jpcagt. ini ファイルで、[Notes Log Check Options]セクションのInclude エントリにファイルパスを設定している場合

- jpcagt.ini ファイルで, [User Defined Stat Options]セクションのStatDefine.ini エントリにファイルパスを設定している場合

表 2-11 PFM - Agent for Domino のバックアップ対象ファイル (論理ホストの場合)

ファイル名	説明
インストール先フォルダ $\%agt\%agent\%*.ini$ ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
環境フォルダ $\%*\%agt\%agent\%インスタンス名\%.ini$ ^{※2}	
インストール先フォルダ $\%agt\%store\%*.ini$ ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
環境フォルダ $\%*\%agt\%store\%インスタンス名\%.ini$	

注※1

環境フォルダは, 論理ホスト作成時に作成される共有ディスク上のフォルダです。

注※2

次の場合には, ファイルパスに設定しているファイルもバックアップを取得してください。

- jpcagt.ini ファイルで, [Notes Log Check Options]セクションのInclude エントリにファイルパスを設定している場合
- jpcagt.ini ファイルで, [User Defined Stat Options]セクションのStatDefine.ini エントリにファイルパスを設定している場合

2.6.2 リストア

PFM - Agent for Domino の設定情報をリストアする場合は, 次に示す前提条件を確認した上で, バックアップ対象ファイルを元の位置にコピーしてください。バックアップした設定情報ファイルで, ホスト上の設定情報ファイルを上書きします。

前提条件

- PFM - Agent for Domino がインストール済みであること。
- PFM - Agent for Domino のサービスが停止していること。

注意事項

PFM - Agent for Domino の設定情報をリストアする場合, バックアップを取得した環境とリストアする環境の製品バージョン番号が完全に一致している必要があります。製品バージョン番号の詳細については, リリースノートを参照してください。リストアの可否についての例を次に示します。

リストアできるケース

PFM - Agent for Domino 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Domino 08-50 にリストアする。

リストアできないケース

- ・ PFM - Agent for Domino 08-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Domino 08-50 にリストアする。
- ・ PFM - Agent for Domino 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Platform 08-50-04 にリストアする。

2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

Performance Management では、PFM - Web Console がインストールされているホストに、プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル CD-ROM からマニュアルをコピーすることで、Web ブラウザでマニュアルを参照できるようになります。なお、PFM - Web Console をクラスタ運用している場合は、実行系、待機系それぞれの物理ホストでマニュアルをコピーしてください。

2.7.1 マニュアルを参照するための設定

(1) PFM - Web Console のヘルプからマニュアルを参照する場合

1. PFM - Web Console のセットアップ手順に従い、PFM - Web Console に PFM - Agent を登録する (PFM - Agent の追加セットアップを行う)。
2. PFM - Web Console がインストールされているホストに、マニュアルのコピー先ディレクトリを作成する。
 - Windows の場合：PFM - Web Console のインストール先フォルダ¥doc¥ja¥××××
 - UNIX の場合：/opt/jp1pcwebcon/doc/ja/××××××××には、PFM - Agent のヘルプ ID を指定してください。ヘルプ ID については、「[付録 C 識別子一覧](#)」を参照してください。
3. 手順 2 で作成したディレクトリの直下に、マニュアル CD-ROM から次のファイルおよびフォルダをコピーする。

HTML マニュアルの場合

Windows の場合

CD-ROM ドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) 下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および GRAPHICS フォルダ

UNIX の場合

/CD-ROM のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) 下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および GRAPHICS ディレクトリ

PDF マニュアルの場合

Windows の場合

CD-ROM ドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

UNIX の場合

/CD-ROM のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

コピーの際、HTML マニュアルの場合は INDEX.HTM ファイルが、PDF マニュアルの場合は PDF ファイル自体が、作成したディレクトリ直下に配置されるようにしてください。

4. PFM - Web Console を再起動する。

(2) お使いのマシンのハードディスクから参照する場合

CD-ROM の setup.exe を使ってインストールするか、または直接 HTML ファイル、CSS ファイル、PDF ファイル、および GIF ファイルを任意のフォルダにコピーしてください。

HTML マニュアルの場合、次のディレクトリ構成になるようにしてください。

```
html (HTMLファイルおよびCSSファイルを格納)
└─ GRAPHICS (GIFファイルを格納)
```

2.7.2 マニュアルの参照手順

マニュアルの参照手順を次に示します。

1. PFM - Web Console の [メイン] 画面のメニューバーフレームにある [ヘルプ] メニューをクリックし、[ヘルプ選択] 画面を表示する。
2. マニュアル名またはマニュアル名の後ろの [PDF] をクリックする。
マニュアル名をクリックすると HTML 形式のマニュアルが表示されます。[PDF] をクリックすると PDF 形式のマニュアルが表示されます。

Web ブラウザでの文字の表示に関する注意事項

Windows の場合、[スタート] メニューからオンラインマニュアルを表示させると、すでに表示されている Web ブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

3

インストールとセットアップ (UNIX の場合)

この章では、PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップ方法について説明します。Performance Management システム全体のインストールおよびセットアップ方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

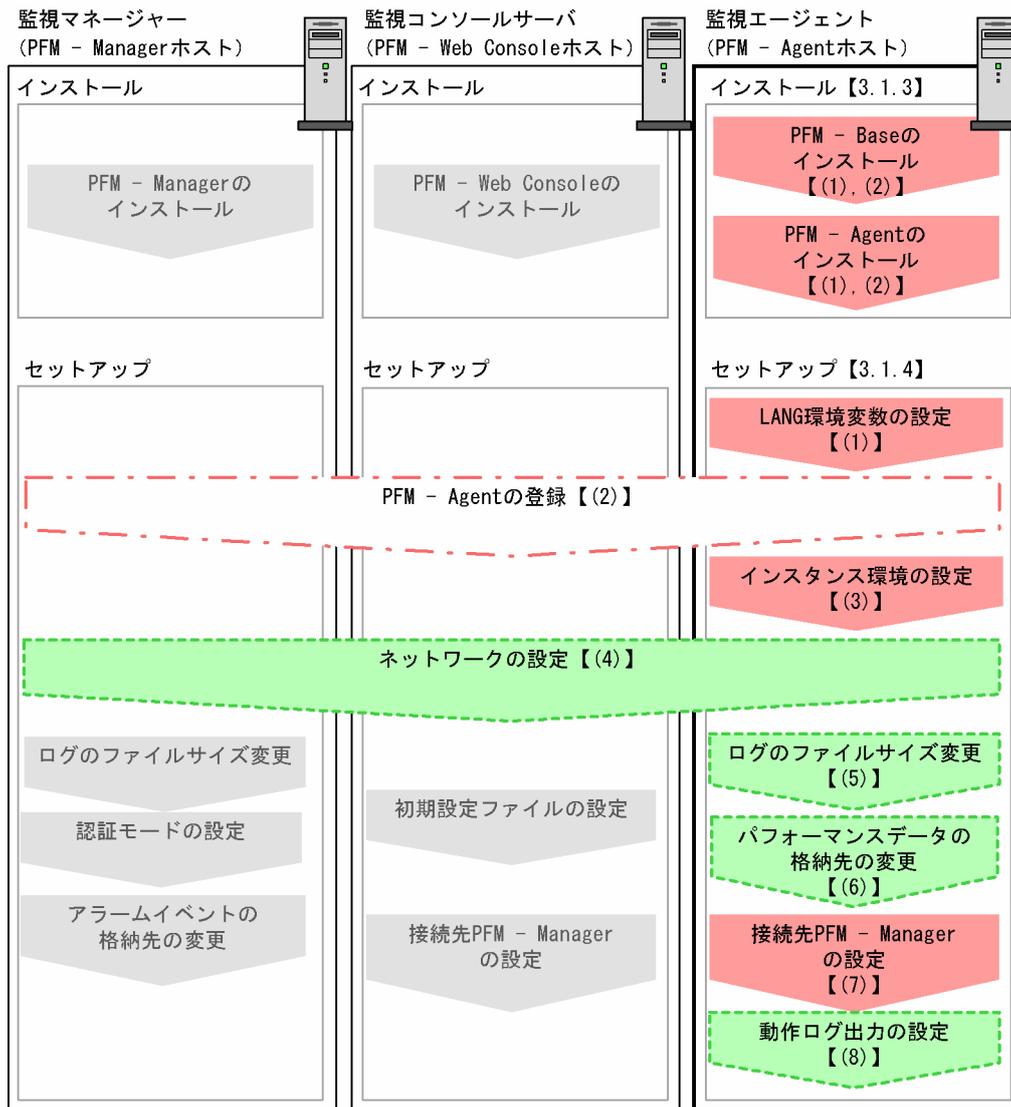
3.1 インストールとセットアップ

ここでは、PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップする手順について説明します。

3.1.1 インストールとセットアップの流れ

PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップする流れを次の図に示します。

図 3-1 インストールとセットアップの流れ (UNIX の場合)



PFM - Manager および PFM - Web Console のインストールおよびセットアップの手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業をオプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

3.1.2 インストールとセットアップの前に

PFM - Agent for Domino をインストールおよびセットアップをする前に確認しておくことを説明します。

(1) 前提 OS

PFM - Agent for Domino が動作する OS を次に示します。

- Solaris 10 (SPARC)
- AIX V6.1
- AIX V7.1

(2) ネットワークの環境設定

Performance Management が動作するためのネットワーク環境について説明します。

(a) IP アドレスの設定

PFM - Agent for Domino のホストは、ホスト名で IP アドレスを解決できる環境を設定してください。IP アドレスを解決できない環境では、PFM - Agent は起動できません。

監視ホスト名（Performance Management システムのホスト名として使用する名前）には、実ホスト名またはエイリアス名を使用できます。

- 監視ホスト名に実ホスト名を使用している場合

Windows システムでは `hostname` コマンド、UNIX システムでは `uname -n` コマンドを実行して確認したホスト名で、IP アドレスが解決できるように環境設定をしてください。なお、UNIX システムでは、`hostname` コマンドで取得するホスト名を使用することもできます。

- 監視ホスト名にエイリアス名を使用している場合
設定しているエイリアス名で IP アドレスが解決できるように環境設定をしてください。

監視ホスト名の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

ホスト名と IP アドレスは、次のどれかの方法で設定してください。

- Performance Management のホスト情報設定ファイル (jpchosts ファイル)
- hosts ファイル
- DNS

注意

- Performance Management は、DNS 環境でも運用できますが、FQDN 形式のホスト名には対応していません。このため、監視ホスト名は、ドメイン名を除いて指定してください。
- 複数の LAN 環境で使用する場合は、jpchosts ファイルで IP アドレスを設定してください。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management は、DHCP による動的な IP アドレスが割り振られているホスト上では運用できません。Performance Management を導入するすべてのホストに、固定の IP アドレスを設定してください。

Performance Management では、ネットワーク構成が IPv4 環境だけでなく IPv6 環境にも対応しています。そのため、IPv4 環境と IPv6 環境が混在するネットワーク構成でも、Performance Management を運用できます。

PFM - Agent for Domino では、PFM - Manager と IPv6 で通信できます。ただし、PFM - Agent for Domino および PFM - Manager が導入されているホストの OS が、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Linux の場合に限りです。

IPv4 環境と IPv6 環境での通信の適用範囲については、「[付録 L IPv4 環境と IPv6 環境での通信について](#)」を参照してください。

IPv6 で通信する場合、PFM - Manager ホストと PFM - Agent ホストのそれぞれで IPv6 の利用設定を有効にする必要があります。この設定は `jpccconf ipv6 enable` コマンドで実行しますが、コマンドの実行要否は次のとおりです。

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの実行が必要なケース

- それぞれのホストで、IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager を IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行が不要なケース

- それぞれのホストが、すでに IPv6 環境である場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager が IPv6 環境である場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行例を次に示します。

```
jpccconf ipv6 enable
```

jpccconf ipv6 enable コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。また、jpccconf ipv6 enable コマンドを実行する条件やタイミングについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の IPv6 環境が含まれる場合のネットワーク構成例について説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino と監視対象ホストを IPv6 で通信する場合、名前解決できる監視対象ホスト名を指定してください。

PFM - Agent for Domino と監視対象との通信は、解決できる IP アドレスで通信します。また、PFM - Agent for Domino と監視対象との通信では、IPv4 と IPv6 が共存した環境の場合、解決できる IP アドレスで通信に失敗したとき、別の IP アドレスで通信することはありません。

例えば、IPv4 で接続に失敗した場合、IPv6 でリトライすることはありません。また、IPv6 で接続に失敗した場合に、IPv4 でリトライすることもあります。事前に接続できることを確認してください。

(b) ポート番号の設定

Performance Management プログラムのサービスは、デフォルトで次の表に示すポート番号が割り当てられています。これ以外のサービスまたはプログラムに対しては、サービスを起動するたびに、そのときシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。また、ファイアウォール環境で、Performance Management を使用するときは、ポート番号を固定してください。ポート番号の固定の手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

表 3-1 デフォルトのポート番号と Performance Management プログラムのサービス (UNIX の場合)

サービス説明	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jp1pcnsvr	22285	PFM - Manager の Name Server サービスで使用されるポート番号。Performance Management のすべてのホストで設定される。
NNM 連携機能	NNM Object Manager	jp1pcovsvr	22292	PFM - Manager および PFM - Base の NNM 連携機能で、マップマネージャとオブジェクトマネージャの間の通信で使用されるポート番号。PFM - Manager および

サービス説明	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
NNM 連携機能	NNM Object Manager	jp1pcovsvr	22292	PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
サービス状態管理機能	Status Server	jp1pcstatsvr	22350	PFM - Manager および PFM - Base の Status Server サービスで使用されるポート番号。 PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
JP1/ITSLM 連携機能	JP1/ITSLM	—	20905	JP1/ITSLM で設定されるポート番号。

(凡例)

—：なし

これらの PFM - Agent for Domino が使用するポート番号で通信できるように、ネットワークを設定してください。

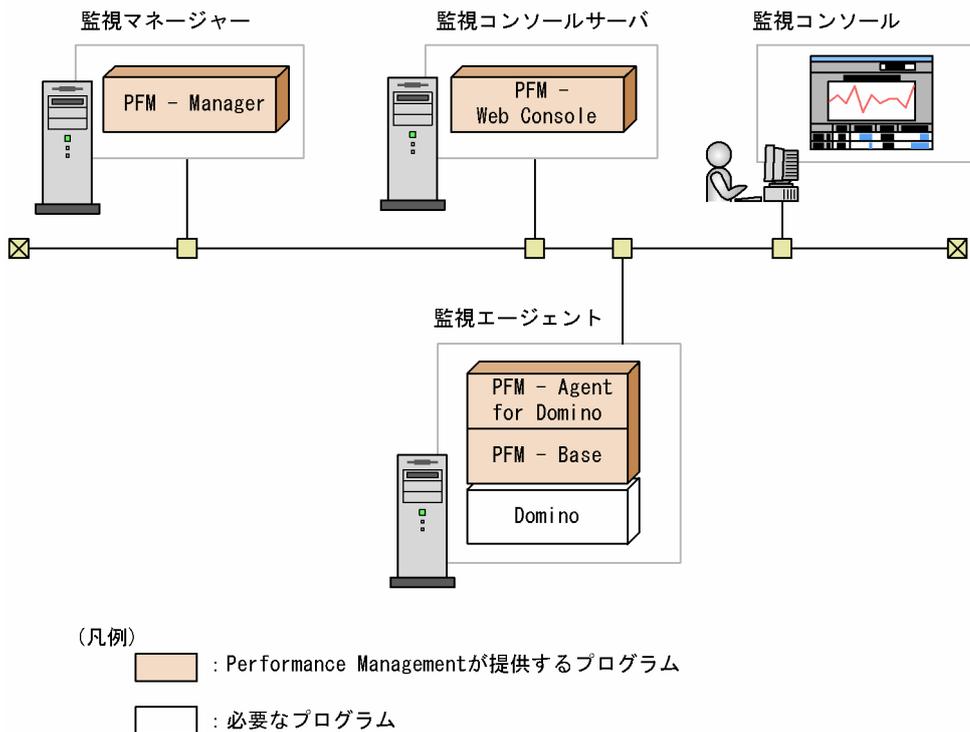
(3) インストールに必要な OS ユーザー権限について

PFM - Agent for Domino をインストールするときは、必ず、スーパーユーザー権限を持つアカウントで実行してください。

(4) 前提プログラム

ここでは、PFM - Agent for Domino をインストールする場合に必要な前提プログラムを説明します。プログラムの構成を次に示します。

図 3-2 プログラムの構成



(a) 監視対象プログラム

PFM - Agent for Domino の監視対象プログラムを次に示します。

- Lotus Domino

PFM - Agent for Domino は、監視対象プログラムと同一ホストにインストールする必要があります。PFM - Agent for Domino と監視対象の Lotus Domino のインストール順序は問いません。

(b) Performance Management プログラム

監視エージェントには、PFM - Agent for Domino と PFM - Base をインストールします。PFM - Base は PFM - Agent for Domino の前提プログラムです。同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合でも、PFM - Base は 1 つだけでかまいません。

ただし、PFM - Manager と PFM - Agent for Domino を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。

また、PFM - Agent for Domino を使って Domino の稼働監視を行うためには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

(5) 障害発生時の資料採取の準備

トラブルが発生した場合に調査資料として、コアダンプファイルが必要になることがあります。コアダンプファイルの出力はユーザーの環境設定に依存するため、次に示す設定を確認しておいてください。

コアダンプファイルのサイズ設定

コアダンプファイルの最大サイズは、root ユーザーのコアダンプファイルのサイズ設定 (ulimit -c) によって制限されます。次のようにスクリプトを設定してください。

```
ulimit -c unlimited
```

この設定が、ご使用のマシンのセキュリティポリシーに反する場合は、これらのスクリプトの設定を次のようにコメント行にしてください。

```
# ulimit -c unlimited
```

注意事項

コメント行にした場合、プロセスで発生したセグメンテーション障害やバス障害などのコアダンプファイルの出力契機に、コアダンプが出力されないため、調査できないおそれがあります。

(6) クラスタシステムでのインストールとセットアップについて

クラスタシステムでのインストールとセットアップは、前提となるネットワーク環境やプログラム構成が、通常の構成のセットアップとは異なります。また、実行系ノードと待機系ノードでの作業が必要になります。詳細については、「4. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

(7) 注意事項

ここでは、Performance Management をインストールおよびセットアップするときの注意事項を説明します。

(a) 環境変数に関する注意事項

Performance Management では JPC_HOSTNAME を環境変数として使用しているため、ユーザー独自に環境変数として設定しないでください。設定した場合は、Performance Management が正しく動作しません。

(b) 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項

Performance Management は、同一ホストに PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent をインストールすることもできます。その場合の注意事項を次に示します。

- PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。この場合、PFM - Agent の前提プログラムは PFM - Manager になるため、PFM - Manager をインストールしてから PFM - Agent をインストールしてください。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM -

Manager, PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Base, PFM - Agent の順でインストールしてください。

- PFM - Manager がインストールされているホストに PFM - Agent をインストールすると、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先 PFM - Manager をリモートホストの PFM - Manager に変更できません。リモートホストの PFM - Manager に接続したい場合は、インストールするホストに PFM - Manager がインストールされていないことを確認してください。
- PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールすると、PFM - Agent の接続先 PFM - Manager は自ホスト名に設定し直されます。共通メッセージログに設定結果が出力されています。結果を確認してください。
- PFM - Web Console がインストールされているホストに、PFM - Agent をインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからインストールを実施してください。
- Performance Management プログラムを新規にインストールした場合は、ステータス管理機能がデフォルトで有効になります。ただし、07-50 から 08-00 以降にバージョンアップインストールした場合は、ステータス管理機能の設定状態はバージョンアップ前のままとなります。ステータス管理機能の設定を変更する場合は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

ポイント

システムの性能や信頼性を向上させるため、PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent はそれぞれ別のホストで運用することをお勧めします。

(c) バージョンアップの注意事項

古いバージョンの PFM - Agent for Domino からバージョンアップする場合の注意事項を次に示します。

なお、バージョンアップの詳細については、「付録 H 移行手順と移行時の注意事項」を参照してください。

- Performance Management のプログラムをインストールするときは、ローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止しておいてください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Manager, PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Base, PFM - Agent for Domino の順でインストールしてください。

- バージョン 08-00 以降の Performance Management プログラムでは、Store 実行プログラム (jpcsto および stpq1pr) の配置先が変更されています。PFM - Agent を 08-00 以降にバージョンアップする際に、旧配置先の Store 実行モジュールは削除されます。
- バージョンアップで Store データベースのデータモデルバージョンが変更される場合、既存の Store データベースが自動的にバージョンアップされるため、一時的に Store データベースのディスク占有量が 2 倍になります。バージョンアップインストールする前に、Store データベースの格納先のディスクに十分な空き容量があるかどうか確認してください。必要な空き容量は、現在の Store データベースの合計サイズを基準に考慮してください。例えば、現在の Store データベースの合計サイズが 100 ギガバイトの場合、バージョンアップインストールに必要なディスクの空き容量は 200 ギガバイト以上です。Store データベースの格納先ディスクを変更している場合は、変更後のディスク容量に対して考慮してください。

(d) その他の注意事項

- Performance Management のプログラムをインストールする場合、次に示すセキュリティ関連プログラムがインストールされていないかどうか確認してください。インストールされている場合、次の説明に従って対処してください。
 - セキュリティ監視プログラム
セキュリティ監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のプログラムのインストールを妨げないようにしてください。
 - ウィルス検出プログラム
ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールすることを推奨します。
Performance Management のプログラムのインストール中にウィルス検出プログラムが稼働している場合、インストールの速度が低下したり、インストールが実行できなかつたり、または正しくインストールできなかつたりすることがあります。
 - プロセス監視プログラム
プロセス監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のサービスまたはプロセス、および共通コンポーネントのサービスまたはプロセスを監視しないようにしてください。
Performance Management のプログラムのインストール中に、プロセス監視プログラムによって、これらのサービスまたはプロセスが起動されたり停止されたりすると、インストールに失敗することがあります。
- Performance Management のプログラムが 1 つもインストールされていない環境に新規インストールする場合は、インストール先ディレクトリにファイルやディレクトリがないことを確認してください。
- インストール時のステータスバーに「Installation failed.」と表示されてインストールが失敗した場合、インストールログを採取してください。なお、このログファイルは、次にインストールすると上書きされるため、必要に応じてバックアップを採取してください。インストールログのデフォルトのファイル名については、「[11.4.2\(2\) トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報](#)」を参照してください。

- インストール先ディレクトリにリンクを張り Performance Management のプログラムをインストールした場合、全 Performance Management のプログラムをアンインストールしても、リンク先のディレクトリに一部のファイルやディレクトリが残る場合があります。削除する場合は、手動で行ってください。また、リンク先にインストールする場合、リンク先に同名のファイルやディレクトリがあるときは、Performance Management のプログラムのインストール時に上書きされるので、注意してください。
- /opt/jp1pc/setup ディレクトリに PFM - Agent for Domino のセットアップファイルがある場合、新規 PFM - Agent for Domino の追加セットアップが実行されます。PFM - Agent for Domino の追加セットアップが成功した場合の実行結果は共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されます。確認してください。

3.1.3 インストール手順

ここでは、PFM - Agent for Domino のプログラムをインストールする順序と CD-ROM の提供媒体からプログラムをインストールする手順を説明します。

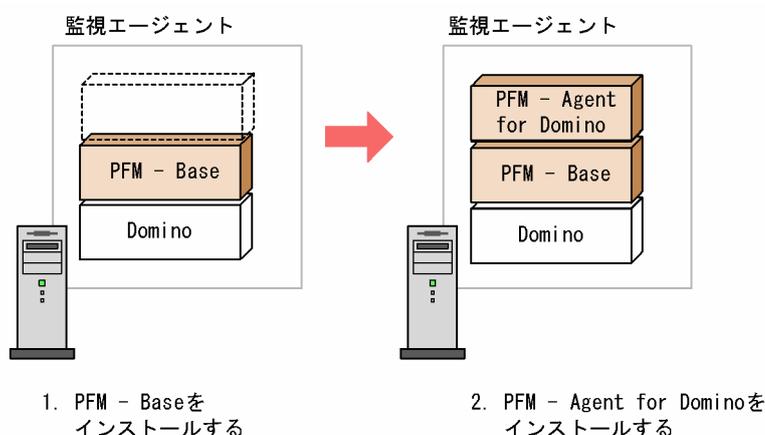
(1) プログラムのインストール順序

まず、PFM - Base をインストールし、次に PFM - Agent をインストールします。PFM - Base がインストールされていないホストに PFM - Agent をインストールすることはできません。

なお、PFM - Manager と同一ホストに PFM - Agent をインストールする場合は、PFM - Manager、PFM - Agent の順でインストールしてください。また、Store データベースをバージョン 1.0 からバージョン 2.0 にバージョンアップする場合、PFM - Agent と PFM - Manager または PFM - Base のインストール順序によって、セットアップ方法が異なります。Store バージョン 2.0 のセットアップ方法については、「[3.4.3 Store バージョン 2.0 への移行](#)」を参照してください。

同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent 相互のインストール順序は問いません。

図 3-3 プログラムのインストール順序



(2) プログラムのインストール方法

UNIX ホストに PFM - Agent for Domino をインストールするには、CD-ROM の提供媒体を使用する方法と、JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。

JP1/NETM/DM を使用する方法については、次のマニュアルを参照してください。

- 「JP1/NETM/DM Manager」
- 「JP1/NETM/DM SubManager (UNIX(R)用)」
- 「JP1/NETM/DM Client (UNIX(R)用)」

注意事項

インストールするホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。サービスの停止方法は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

参考

インストール先ディレクトリは、インストール時に自動的に生成されます。2 回目以降のインストールでも、初回のインストール時に指定したディレクトリにインストールされます。

CD-ROM の提供媒体を使用する場合のインストール手順を OS ごとに次に示します。

(a) Solaris の場合

1. PFM - Agent for Domino をインストールするホストに、スーパーユーザーでログインするかまたは su コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。
2. ローカルホストで Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動されていないか確認する。起動されている場合は、すべて停止する。
サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動されていた場合、インストール時に自動的に停止されます。
3. ほかに起動中のアプリケーションプログラムがあれば、すべて終了する。
4. Performance Management シリーズプログラムの媒体をセットする。

5. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。*

```
/cdrom/cdrom/solaris/setup /cdrom/cdrom
```

HITACHI PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

なお、指定するコマンドは、ご使用の環境によって異なります。

6. 初期画面で「I」を入力する。

インストールできるプログラムの一覧が表示されます。

7. PFM - Agent for Domino を選択して、「I」を入力する。

選択したプログラムがインストールされます。なお、プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースキーで選択します。

8. インストールが正常終了したら、「Q」を入力する。

Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。

注※

インストール作業をするホスト上に、すでに HITACHI PP Installer がインストールされている場合、`/etc/hitachi_setup` コマンドを次のように指定して HITACHI PP Installer を起動することもできます。

```
/etc/hitachi_setup -i /cdrom/cdrom
```

(b) AIX の場合

1. PFM - Agent for Domino をインストールするホストに、スーパーユーザーでログインするかまたは `su` コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。

2. ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

Performance Management のプログラムおよびサービスが起動している場合は、すべて停止してください。

3. Performance Management のプログラムの媒体をセットする。

4. `mount` コマンドを実行して、CD-ROM 装置をマウントする。

例えば、CD-ROM 装置を `/cdrom` にマウントする場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
/usr/sbin/mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /cdrom
```

5. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。

```
/cdrom/AIX/SETUP /cdrom
```

Hitachi PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

6. 初期画面で「I」を入力する。

インストールできるプログラムの一覧が表示されます。

7. PFM - Agent for Domino を選択して、「I」を入力する。

選択したプログラムがインストールされます。なお、プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースキーで選択します。

8. インストールが正常終了したら、「Q」を入力する。

Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。

3.1.4 PFM - Agent for Domino のセットアップ手順

ここでは、PFM - Agent for Domino を運用するための、セットアップについて説明します。

◁オプション▷ は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

(1) LANG 環境変数の設定

PFM - Agent for Domino で使用できる LANG 環境変数を次の表に示します。

なお、これらの LANG 環境変数を設定する前に、設定する言語環境が正しくインストール・構築されていることを確認しておいてください。正しくインストール・構築されていない場合、文字化けが発生したり、定義データが不当に書き換わってしまったりすることがあります。

注意

共通メッセージログの言語は、サービス起動時やコマンド実行時に設定されている LANG 環境変数によって決まります。そのため、日本語や英語など、複数の言語コードの文字列が混在することがあります。

表 3-2 PFM - Agent for Domino で使用できる LANG 環境変数

OS	言語種別		LANG 環境変数の値
Solaris	日本語	Shift-JIS コード	• ja_JP.PCK
		EUC コード	• ja • japanese
	英語（日本語なし）		• C
AIX	日本語	Shift-JIS コード	• Ja_JP • Ja_JP.IBM-932
		EUC コード	• ja_JP • ja_JP.IBM-eucJP
	英語（日本語なし）		• C

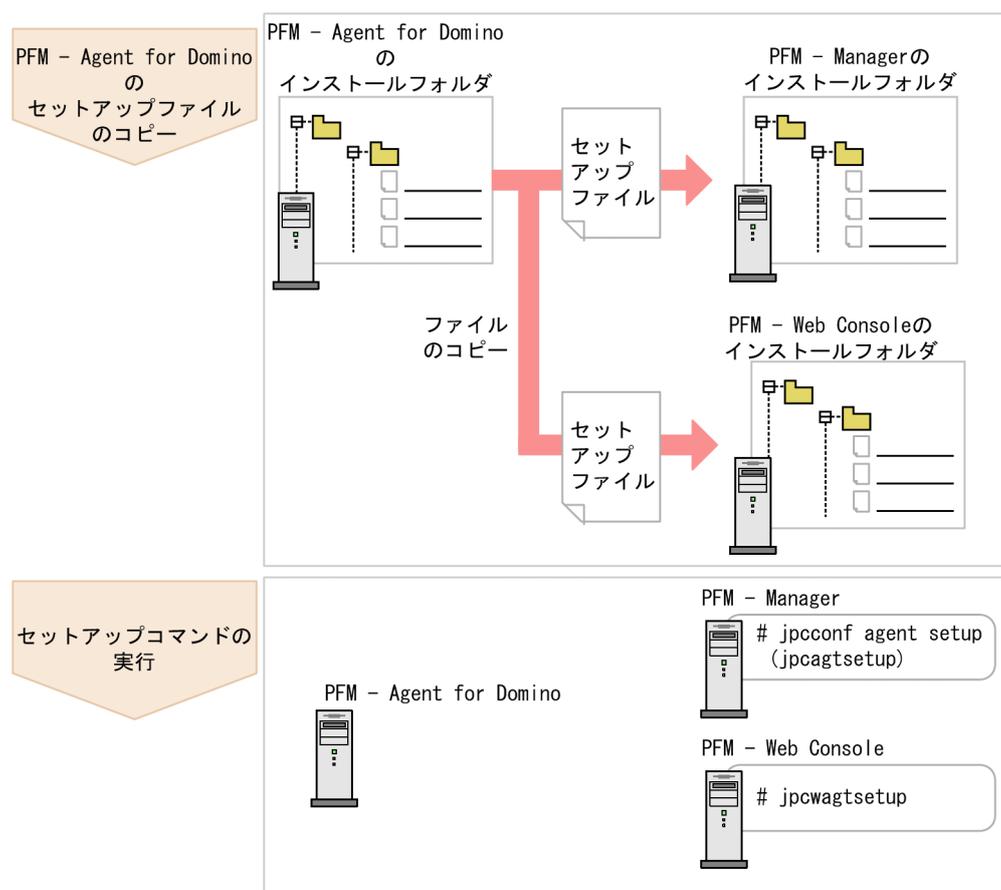
(2) PFM - Agent for Domino の登録

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Domino を登録する必要があります。

PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合、PFM - Agent の登録は自動で行われるため、ここで説明する手順は不要です。ただし、PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は手動で登録する必要があります。なお、PFM - Agent for Domino のデータモデルのバージョンについては、「付録 I バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent の登録の流れを次の図に示します。

図 3-4 PFM - Agent の登録の流れ



注意事項

- PFM - Agent の登録は、インスタンス環境を設定する前に実施してください。
- すでに PFM - Agent for Domino の情報が登録されている Performance Management システムに、新たに同じバージョンの PFM - Agent for Domino を追加した場合、PFM - Agent の登録は必要ありません。
- バージョンが異なる PFM - Agent for Domino を、異なるホストにインストールする場合、古いバージョン、新しいバージョンの順でセットアップしてください。

- PFM - Manager と同じホストに PFM - Agent をインストールした場合、`jpccconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドが自動的に実行されます。共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されるので、結果を確認してください。コマンドが正しく実行されていない場合は、コマンドを実行し直してください。コマンドの実行方法については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドの章を参照してください。
- PFM - Agent for Domino の情報を登録する作業では、PFM - Web Console の [レポート階層] 画面および [アラーム階層] 画面に「Domino」という名前のディレクトリが作成されます。[レポート階層] 画面で、すでに独自に「Domino」という名前のディレクトリまたはファイルを作成していた場合には、名前を変更してから作業を始めてください。

(a) PFM - Agent for Domino のセットアップファイルをコピーする

PFM - Agent for Domino をインストールしたホストにあるセットアップファイルを PFM - Manager および PFM - Web Console をインストールしたホストにコピーします。手順を次に示します。

1. PFM - Agent のセットアップファイルをバイナリーモードでコピーする。

ファイルが格納されている場所およびファイルをコピーする場所を次の表に示します。

表 3-3 コピーするセットアップファイル

PFM - Agent の セットアップファイル	コピー先		
	PFM プログラム名	OS	コピー先ディレクトリ
/opt/jp1pc/setup/jpcagtlw.EXE	PFM - Manager	Windows	PFM - Manager のインストール先フォルダ¥setup¥
/opt/jp1pc/setup/jpcagtlu.Z		UNIX	/opt/jp1pc/setup/
/opt/jp1pc/setup/jpcagtlw.EXE	PFM - Web Console	Windows	PFM - Web Console のインストール先フォルダ¥setup¥
/opt/jp1pc/setup/jpcagtlu.Z		UNIX	/opt/jp1pcwebcon/setup/

(b) PFM - Manager ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Manager で PFM - Agent for Domino をセットアップするためのコマンドを実行します。手順を次に示します。

1. PFM - Manager が起動されている場合は、停止する。
2. `jpccconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドを実行する。
次のように指定して実行します。

```
jpccconf agent setup -key Domino (jpcagtsetup agtl)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpcconf agent setup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpcconf agent setup` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

■ 注意事項

コマンドを実行するローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止していない状態で `jpcconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドを実行した場合、エラーが発生することがあります。その場合は、Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止したことを確認したあと、再度 `jpcconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドを実行してください。

PFM - Manager ホストにコピーした PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと、削除してもかまいません。

(c) PFM - Web Console ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Web Console で PFM - Agent for Domino をセットアップする手順を次に示します。

1. PFM - Web Console が起動されている場合は、停止する。

2. `jpcwagtsetup` コマンドを実行する。

次のように指定して実行します。

```
jpcwagtsetup
```

PFM - Web Console ホストにコピーした PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと削除してもかまいません。

(3) インスタンス環境の設定

インスタンス環境の設定では、次の項目を実施します。複数のインスタンス環境を設定する場合は、この手順を繰り返し実施します。

- インスタンス情報の設定

それぞれの手順について説明します。

(a) インスタンス情報を設定する

PFM - Agent for Domino で監視するドミノサーバのインスタンス情報を設定します。インスタンス情報の設定は、PFM - Agent ホストで実施します。

設定するインスタンス情報を次の表に示します。セットアップの操作を始める前に、次の表の情報をあらかじめ確認してください。Domino のインスタンス情報の詳細については、Domino のマニュアルを参照してください。

表 3-4 PFM - Agent for Domino のインスタンス情報

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
Domino Program Directory	監視対象のドミノサーバのプログラムディレクトリを絶対パスで指定する。 (UNIX 版だけ有効, Windows 版は設定不要) 例: /opt/lotus	255 バイト以内の半角文字列。	—
notes.ini	監視対象のドミノサーバが使用する notes.ini ファイルの絶対パス (notes.ini までを含めた名称) を指定する。	255 バイト以内の半角文字列。	—
User's mail template	追加用の個人ユーザーメールデータベーステンプレート名を指定する。ここで指定されたテンプレート名を持つデータベースが個人ユーザーメールデータベースとして扱われる。	128 バイト以内の半角文字列。 追加しない場合は「none」を指定する。	none
Days for period-excess mail	個人ユーザーメールデータベースで、期間超過メールであると判断する日数を整数で指定する。	0~65535 (単位: 日)。	60
Minutes for remaining mail	あるメールが滞留メールであると判断する時間 (単位: 分) を整数で指定する。	0~2147483647 (単位: 分)。	15
Minutes for dead mail	あるメールがデッドメールであると判断する時間 (単位: 分) を整数で指定する。	0~2147483647 (単位: 分)。	15
Use summary to mail count	デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報 (サマリ情報) を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定する。PI_PI レコードの Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの収集時に使用する。 「Y」を指定した場合、IBM Domino Administrator で「Domino サーバ」の「メールボックス」に表示される一覧情報を使用して収集する。*1 「N」を指定した場合、メール文書の情報を使用して収集する。*2	Y または N	N
Store Version**3	使用する Store バージョンを指定する。Store バージョンについては「3.4.3 Store バージョン 2.0 への移行」を参照のこと。	1.0 または 2.0	2.0

(凡例)

－：なし

注※1

メールボックスの一覧情報（サマリ情報）を使用すると、メール文書を読み込む必要がなくなり、収集処理時間が短縮されます。

注※2

メール文書の情報を読み込むため、サイズが大きいメールや件数が多い状態になると、レコードの収集に失敗する場合があります。また、収集対象のメールボックスのメール文書数が1,000件を超える場合、収集時の負荷が高くなるため、収集を中止し、Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの値には0を設定します。

注※3

PFM - Agent for Domino と同一ホスト上の PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降で、インスタンス環境を新規に設定する場合に必要です。インスタンス環境を更新するときは指定できません。

注意

インスタンス環境を設定していない場合、PFM - Agent for Domino のサービスを起動できません。

インスタンス環境を構築するには、`jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用します。インスタンス環境の構築手順を次に示します。

1. サービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行する。

例えば、PFM - Agent for Domino のインスタンス名 Domino01 のインスタンス環境を構築する場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpcconf inst setup -key Domino -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -inst Domino01)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpcconf inst setup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

2. ドミノのインスタンス情報を設定する。

表 3-4 に示した項目を、コマンドの指示に従って入力してください。省略はできません。デフォルトで表示されている値を入力する場合は、リターンキーだけを押してください。

すべての入力が終了すると、インスタンス環境が構築されます。構築時に入力した内容を変更したい場合は、再度 `jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行し、インスタンス環境を更新してください。インスタンス環境の更新については、「[3.4.2 インスタンス環境の更新の設定](#)」を参照してください。

構築されるインスタンス環境を次に示します。

- インスタンス環境のディレクトリ構成

3. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

次のディレクトリ下にインスタンス環境が構築されます。

物理ホストの場合：/opt/jp1pc/agt1

論理ホストの場合：環境ディレクトリ[※]/jp1pc/agt1

注※

環境ディレクトリとは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

構築されるインスタンス環境のディレクトリ構成を次に示します。

表 3-5 インスタンス環境のディレクトリ構成

ディレクトリ名・ファイル名		説明	
agent	インスタンス名	jpgcagt.ini	Agent Collector サービス起動情報ファイル
		jpgcagt.ini.model [※]	Agent Collector サービス起動情報ファイルのモデルファイル
		log	ログファイル格納ディレクトリ
store	インスタンス名	jpgcsto.ini	Agent Store サービス起動情報ファイル
		jpgcsto.ini.model [※]	Agent Store サービス起動情報ファイルのモデルファイル
		*.DAT	データモデル定義ファイル
		dump	エクスポート先ディレクトリ
		backup	バックアップ先ディレクトリ
		import	標準のデータベースインポート先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
		log	ログファイル格納ディレクトリ
		partial	標準のデータベース部分バックアップ先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPD	PD レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPI	PI レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
		STPL	PL レコードタイプのパフォーマンスデータ格納先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)

注※

インスタンス環境を構築した時点の設定値に戻したいときに使用します。

- インスタンス環境のサービス ID

インスタンス環境のサービス ID は次のようになります。

プロダクトID **機能ID** **インスタンス番号** **インスタンス名** [ホスト名]

PFM - Agent for Domino の場合、インスタンス名には `jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドで指定したインスタンス名が表示されます。

サービス ID については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されている命名規則を参照してください。

(4) ネットワークの設定 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定には次の 2 つの項目があります。

• IP アドレスを設定する

Performance Management を複数の LAN に接続されたネットワークで使用するときに設定します。複数の IP アドレスを設定するには、`jpchosts` ファイルにホスト名と IP アドレスを定義します。設定した `jpchosts` ファイルは Performance Management システム全体で統一させてください。

詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

• ポート番号を設定する

Performance Management が使用するポート番号を設定できます。運用での混乱を避けるため、ポート番号とサービス名は、Performance Management システム全体で統一させてください。

ポート番号の設定の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(5) ログのファイルサイズ変更 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 ファイル使用されます。このファイルサイズを変更したい場合に、必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(6) パフォーマンスデータの格納先の変更 オプション

PFM - Agent for Domino で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ、エクスポート先、またはインポート先のディレクトリを変更したい場合に、必要な設定です。

パフォーマンスデータは、デフォルトで、次の場所に保存されます。

- 保存先： `/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/`
- バックアップ先： `/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/backup/`
- 部分バックアップ先※： `/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/partial/`

- エクスポート先：/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/dump/
- インポート先※：/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/import/

注

論理ホストで運用する場合のデフォルトの保存先については、「/opt/jp1pc」を「環境ディレクトリ/jp1pc」に読み替えてください。

注※

Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

詳細については、「[3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更](#)」を参照してください。

(7) PFM - Agent for Domino の接続先 PFM - Manager の設定

PFM - Agent がインストールされているホストで、その PFM - Agent を管理する PFM - Manager を設定します。接続先の PFM - Manager を設定するには、`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを使用します。

注意事項

- 同一ホスト上に、複数の PFM - Agent がインストールされている場合でも、接続先に指定できる PFM - Manager は、1 つだけです。PFM - Agent ごとに異なる PFM - Manager を接続先に設定することはできません。
- PFM - Agent と PFM - Manager が同じホストにインストールされている場合、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先の PFM - Manager をほかの PFM - Manager に変更できません。

手順を次に示します。

1. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

セットアップを実施する前に、ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンド実行時に、Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、停止を問い合わせるメッセージが表示されます。

2. 接続先の PFM - Manager ホストのホスト名を指定して、`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行する。

例えば、接続先の PFM - Manager がホスト `host01` 上にある場合、次のように指定します。

```
jpccconf mgrhost define -host host01 (jpcnshostname -s host01)
```

3. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf mgrhost define` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf mgrhost define` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(8) 動作ログ出力の設定 オプション

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「付録」 [動作ログの出力](#) を参照してください。

3.2 アンインストールとアンセットアップ

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンインストールおよびアンセットアップする手順について説明します。

3.2.1 アンインストールとアンセットアップの前に

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンインストールおよびアンセットアップするときの注意事項を次に示します。

(1) アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールするときは、必ず、スーパーユーザー権限を持つアカウントで実行してください。

(2) ネットワークに関する注意事項

Performance Management プログラムをアンインストールしても、`services` ファイルに定義されたポート番号は削除されません。

(3) プログラムに関する注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラムを起動したままアンインストールした場合、ファイルやディレクトリが残ることがあります。この場合は、手動でインストール先ディレクトリ以下をすべて削除してください。
- PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストの場合、PFM - Base のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent, PFM - Base の順にアンインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストの場合も同様に、PFM - Manager のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent, PFM - Manager の順にアンインストールしてください。

(4) サービスに関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールしただけでは、`jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。この場合、`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを使用してサービスの情報を削除してください。PFM - Web Console ホストにサービス情報の削除を反映するためには、`jpctool service sync` コマンドを実行して、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期する必要があります。

サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップの章のサービスの削除について説明している個所を参照してください。

(5) その他の注意事項

- PFM - Web Console がインストールされているホストから、Performance Management プログラムをアンインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからアンインストールを実施してください。
- アンインストールを実行する前に `jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドまたは PFM - Web Console で、エージェントログの出力先ディレクトリを確認してください。エージェントログの出力先をデフォルト値 (`/opt/jp1pc/agto/agent/agto/インスタンス名/log`) 以外に設定している場合、アンインストールしてもエージェントログファイルは削除されません。この場合、アンインストール実行後にエージェントログファイルを手動で削除する必要があります。

3.2.2 アンセットアップ手順

ここでは、PFM - Agent for Domino をアンセットアップする手順を説明します。

(1) インスタンス環境のアンセットアップ

PFM - Agent for Domino のアンセットアップでは、次の項目を実施します。複数のインスタンス環境をアンセットアップする場合は、この手順を繰り返し実施します。

- インスタンス環境の削除

手順について次に説明します。

(a) インスタンス環境を削除する

インスタンス名を確認し、インスタンス環境を削除します。インスタンス環境の削除は、PFM - Agent ホストで実施します。

インスタンス名を確認するには、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを使用します。また、構築したインスタンス環境を削除するには、`jpccconf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドを使用します。

インスタンス環境を削除する手順を次に示します。

1. インスタンス名を確認する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーを指定して、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを実行します。

```
jpccconf inst list -key Domino (jpcinslist agtl)
```

設定されているインスタンス名が Domino01 の場合、Domino01 と表示されます。

2. インスタンス環境の PFM - Agent のサービスが起動されている場合は、停止する。

サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

3. インスタンス環境を削除する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpccconf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドを実行します。

設定されているインスタンス名が Domino01 の場合、次のように指定します。

```
jpccconf inst unsetup -key Domino -inst Domino01 (jpcinsunsetup agtl -inst Domino01)
```

`jpccconf inst unsetup (jpcinsunsetup)` コマンドが正常終了すると、インスタンス環境として構築されたディレクトリおよびサービス ID が削除されます。

注意

インスタンス環境をアンセットアップしても、`jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。この場合、`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを使用してサービスの情報を削除してください。

PFM - Web Console ホストにインスタンス環境の削除を反映するためには、`jpctool service sync` コマンドを実行して、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期する必要があります。

次に指定例を示します。

- インスタンス名：Domino01
- ホスト名：host03
- Agent Collector サービスのサービス ID：LA1Domino01[host03]
- Agent Store サービスのサービス ID：LS1Domino01[host03]

```
jpctool service delete -id L?1Domono01[host03] -host host03 (jpcctrl delete L?1Domono01[host03] host=host03)
```

コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

3.2.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Domino をアンインストールする手順を説明します。

1. PFM - Agent for Domino をアンインストールするホストに、スーパーユーザーでログインするかまたは `su` コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。
2. ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。
サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。

ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。なお、停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。

サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

3. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。

```
/etc/hitachi_setup
```

HITACHI PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

4. 初期画面で「D」を入力する。

アンインストールできるプログラムの一覧が表示されます。

5. PFM - Agent for Domino を選択して、「D」を入力する。

選択したプログラムがアンインストールされます。なお、プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースキーで選択します。

6. アンインストールが正常終了したら、「Q」を入力する。

Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。

3.3 PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更

監視対象システムのネットワーク構成の変更や、ホスト名の変更などに応じて、PFM - Agent for Domino のシステム構成を変更する場合があります。

PFM - Agent for Domino のシステム構成を変更する場合、PFM - Manager や PFM - Web Console の設定変更もあわせて変更する必要があります。Performance Management のシステム構成を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino では、PFM - Agent for Domino のヘルスチェック機能を使用している場合、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき、および論理ホスト名を変更するときは、作成済みのすべてのインスタンス環境で定義ファイルを編集してください。PFM - Agent for Domino のヘルスチェック機能を使用していない場合は、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき、および論理ホスト名を変更するときにも固有の追加作業は必要ありません。

- **物理ホスト名またはエイリアス名を変更するとき**

編集する定義ファイルと編集内容を次に示します。

- **定義ファイル**

`/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/jpcagt.ini`

- **編集内容**

次に示す(1)～(5)の順番で、[Health Check Options]セクションの各エントリの値に、新しいホスト名を設定します。

- (1) [[HTTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (2) [[SMTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (3) [[POP3 Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (4) [[LDAP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (5) [[NNTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

- **論理ホスト名を変更するとき**

編集する定義ファイルと編集内容を次に示します。

- **定義ファイル**

`環境ディレクトリ/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/jpcagt.ini`

- **編集内容**

次に示す(1)～(5)の順番で、[Health Check Options]セクションの各エントリの値に、新しいホスト名を設定します。

- (1) [[HTTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (2) [[SMTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ
- (3) [[POP3 Port Check]]サブセクションのHost エントリ

(4) [[LDAP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

(5) [[NNTP Port Check]]サブセクションのHost エントリ

3.4 PFM - Agent for Domino の運用方式の変更

収集した稼働監視データの運用手順の変更などで、パフォーマンスデータの格納先や、インスタンス環境といった、PFM - Agent for Domino の運用方式を変更する場合があります。

ここでは、PFM - Agent for Domino の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更

PFM - Agent for Domino で収集したパフォーマンスデータは、PFM - Agent for Domino の Agent Store サービスの Store データベースで管理しています。ここではパフォーマンスデータの格納先の変更方法について説明します。

(1) `jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドを使用して設定を変更する

Store データベースで管理されるパフォーマンスデータの、次のデータ格納先ディレクトリを変更したい場合は、`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドで設定します。Store データベースの格納先ディレクトリを変更する前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドの `-move` オプションを使用してください。`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

- 保存先ディレクトリ
- バックアップ先ディレクトリ
- 部分バックアップ先ディレクトリ※
- エクスポート先ディレクトリ
- インポート先ディレクトリ※

注※

Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

`jpccconf db define (jpcdbctrl config)`コマンドで設定するオプション名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 3-6 パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの設定項目

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※1	設定できる値 (Store バージョン 2.0) ※1	デフォルト値※2
パフォーマンスデータの保存先ディレクトリ	sd	1~127 バイトのディレクトリ名	1~214 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名
パフォーマンスデータのバックアップ先ディレクトリ	bd	1~127 バイトのディレクトリ名	1~211 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/backup
パフォーマンスデータの部分バックアップ先ディレクトリ	pbd	—	1~214 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/partial
パフォーマンスデータをバックアップする場合の最大世代番号	bs	1~9	1~9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先ディレクトリ	dd	1~127 バイトのディレクトリ名	1~127 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/dump
パフォーマンスデータのインポート先ディレクトリ	id	—	1~222 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/import

(凡例)

— : 設定できません。

注※1

ディレクトリ名は、Store データベースのデフォルト格納先ディレクトリ (/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名) からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。

注※2

論理ホストで運用する場合のデフォルト値については、「/opt/jp1pc」を「環境ディレクトリ/jp1pc」に読み替えてください。

(2) jpcsto.ini ファイルを編集して設定を変更する (Store バージョン 1.0 の場合だけ)

Store バージョン 1.0 使用時は、jpcsto.ini を直接編集して変更できます。

(a) jpcsto.ini ファイルの設定項目

jpcsto.ini ファイルで編集するラベル名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 3-7 パフォーマンスデータの格納先の設定項目 (jpcsto.ini の[Data Section]セクション)

説明	ラベル名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※1	デフォルト値※2
パフォーマンスデータの保存先ディレクトリ	Store Dir※3	1~127 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名
パフォーマンスデータのバックアップ先ディレクトリ	Backup Dir※3	1~127 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/backup
パフォーマンスデータをバックアップする場合の最大世代番号	Backup Save	1~9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先ディレクトリ	Dump Dir※3	1~127 バイトのディレクトリ名	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/dump

注※1

- ディレクトリ名は、Store データベースのデフォルト格納先ディレクトリ (/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名) からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。
- 指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字、半角記号および半角空白です。
; , * ? ' " < > |
- 指定値に誤りがある場合、Agent Store サービスは起動できません。

注※2

論理ホストで運用する場合のデフォルト値については、「/opt/jp1pc」を「環境ディレクトリ/jp1pc」に読み替えてください。

注※3

Store Dir, Backup Dir, および Dump Dir には、それぞれ重複したディレクトリを指定できません。

(b) jpcsto.ini ファイルの編集前の準備

- Store データベースの格納先ディレクトリを変更する場合は、変更後の格納先ディレクトリを事前に作成しておいてください。
- Store データベースの格納先ディレクトリを変更すると、変更前に収集したパフォーマンスデータを使用できなくなります。変更前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、次に示す手順でデータを引き継いでください。
 1. jpctool db backup (jpcctrl backup) コマンドで Store データベースに格納されているパフォーマンスデータのバックアップを採取する。
 2. 「(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順」に従って Store データベースの格納先ディレクトリを変更する。
 3. jpctool db restore (jpcresto) コマンドで変更後のディレクトリにバックアップデータをリストアする。

(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順

手順を次に示します。

1. PFM - Agent のサービスを停止する。

ローカルホストで PFM -Agent のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。

2. テキストエディターなどで、jpcsto.ini ファイルを開く。

3. パフォーマンスデータの格納先ディレクトリなどを変更する。

次に示す網掛け部分を、必要に応じて修正してください。

```

:
[Data Section]
Store Dir=.
Backup Dir=./backup
Backup Save=5
Dump Dir=./dump
:
```

- 行頭および「=」の前後には空白文字を入力しないでください。
- 各ラベルの値の「.」は、Agent Store サービスの Store データベースのデフォルト格納先ディレクトリ (/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名) を示します。格納先を変更する場合、その格納先ディレクトリからの相対パスか、または絶対パスで記述してください。
- jpcsto.ini ファイルには、データベースの格納先ディレクトリ以外にも、定義情報が記述されています。[Data Section]セクション以外の値は変更しないようにしてください。[Data Section]セクション以外の値を変更すると、Performance Management が正常に動作しなくなることがあります。

4. jpcsto.ini ファイルを保存して閉じる。

5. Performance Management のプログラムおよびサービスを起動する。

注意

この手順で Store データベースの保存先ディレクトリを変更した場合、パフォーマンスデータファイルは変更前のディレクトリから削除されません。これらのファイルが不要な場合は、次に示すファイルだけを削除してください。

- 拡張子が .DB であるすべてのファイル
- 拡張子が .IDX であるすべてのファイル

3.4.2 インスタンス環境の更新の設定

インスタンス環境を更新したい場合は、インスタンス名を確認し、インスタンス情報を更新します。インスタンス情報の設定は、PFM - Agent ホストで実施します。

更新する情報は、次の表であらかじめ確認してください。ドミノサーバのインスタンス情報の詳細については、ドミノサーバのマニュアルを参照してください。

表 3-8 PFM - Agent for Domino のインスタンス情報

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
Domino Program Directory	この値は更新できる。監視対象のドミノサーバのプログラムフォルダを絶対パスで指定する。(UNIX 版だけ有効, Windows 版は設定不要)	255 バイト以内の半角文字列。	前回の設定値。
notes.ini	この値は更新できる。監視対象のドミノサーバインスタンスが使用する notes.ini ファイルの絶対パスを指定する。	255 バイト以内の半角文字列。	前回の設定値。
User's mail template	この値は更新できる。追加用の個人ユーザーメールデータベースのテンプレート名を指定する。	128 バイト以内の半角文字列。 追加しない場合は「none」を指定する。	前回の設定値。
Days for period - excess	この値は更新できる。個人ユーザーメールデータベースで、期間超過メールであると判断する日数を指定する。	0~65535 (単位: 日)。	前回の設定値。
Minutes for remaining mail	この値は更新できる。あるメールが滞留メールであると判断する時間を指定する。	0~2147483647 (単位: 分)。	前回の設定値。
Minutes for dead mail	この値は更新できる。あるメールがデッドメールであると判断する時間を指定する。	0~2147483647 (単位: 分)。	前回の設定値。
Use summary to mail count	この値は更新できる。デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報(サマリ情報)を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定する。 PI_PI レコードの Mail Dead User Custom フィールドおよび Mail Waiting User Custom フィールドの収集時に使用する。 「Y」を指定した場合、IBM Domino Administrator で「Domino サーバ」の「メールボックス」に表示される一覧情報を使用して収集する。*1	Y または N	前回の設定値。

項目	説明	設定できる値	デフォルト値
Use summary to mail count	「N」を指定した場合、メール文書の情報を使用して収集する。※2	YまたはN	前回の設定値。

(凡例)

－：なし

注※1

メールボックスの一覧情報（サマリ情報）を使用すると、メール文書を読み込む必要がなくなり、収集処理時間が短縮されます。

注※2

メール文書の情報を読み込むため、サイズが大きいメールや件数が多い状態になると、レコードの収集に失敗する場合があります。また、収集対象のメールボックスのメール文書数が1,000件を超える場合、収集時の負荷が高くなるため、収集を中止し、Mail Dead UserCustom フィールドおよび Mail Waiting UserCustom フィールドの値には0を設定します。

インスタンス名を確認するには、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを使用します。また、インスタンス環境を更新するには、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用します。コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

インスタンス環境を更新する手順を次に示します。複数のインスタンス環境を更新する場合は、この手順を繰り返し実施します。

1. インスタンス名を確認する。

PFM - Agent for Domino を示すサービスキーを指定して、`jpccconf inst list (jpcinslist)` コマンドを実行します。

```
jpccconf inst list -key Domino (jpcinslist agtl)
```

設定されているインスタンス名が Domino01 の場合、Domino01 と表示されます。

2. 更新したいインスタンス環境の PFM - Agent for Domino のサービスが起動されている場合は、停止する。

サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンド実行時に、更新したいインスタンス環境のサービスが起動されている場合は、確認メッセージが表示され、サービスを停止できます。サービスを停止した場合は、更新処理が続行されます。サービスを停止しなかった場合は、更新処理が中断されます。

3. PFM - Agent for Domino を示すサービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行する。

インスタンス名が Domino01 の場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpccconf inst setup -key Domino -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -inst Domino01)
```

4. ドミノのインスタンス情報を更新する。

表 3-8 に示した項目を、コマンドの指示に従って入力します。現在設定されている値が表示されます。表示された値を変更しない場合は、リターンキーだけを押してください。すべての入力終了すると、インスタンス環境が更新されます。

5. 更新したインスタンス環境のサービスを再起動する。

サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

注意

更新できない項目の値を変更したい場合は、インスタンス環境を削除したあと、再作成してください。

コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

3.4.3 Store バージョン 2.0 への移行

Store データベースの保存形式には、バージョン 1.0 と 2.0 の 2 種類あります。Store バージョン 2.0 の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の稼働監視システムの運用設計について説明している章を参照してください。

Store バージョン 2.0 は、PFM - Base または PFM - Manager のバージョン 08-10 以降の環境に、08-10 以降の PFM - Agent for Domino を新規インストールした場合にデフォルトで利用できます。それ以外の場合は、Store バージョン 1.0 形式のままとなっているため、セットアップコマンドによって Store バージョン 2.0 に移行してください。

何らかの理由によって Store バージョン 1.0 に戻す必要がある場合は、Store バージョン 2.0 のアンセットアップを行ってください。

インストール条件に対応する Store バージョン 2.0 の利用可否と利用手順を次の表に示します。

表 3-9 Store バージョン 2.0 の利用可否および利用手順

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base, または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 より前	上書きインストール	利用できない	PFM - Base, または, PFM - Manager を 08-10 以降にバージョンアップ後, セットアップコマンドを実行
	新規インストール		

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base, または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 以降	上書きインストール	既存のインスタンスについてはセットアップ後利用できる	セットアップコマンドを実行
		新規インスタンスについては利用できる	インスタンス構築時に <code>jpccconf inst setup (jpcinssetup)</code> コマンドで設定
	新規インストール	利用できる	インスタンス構築時に <code>jpccconf inst setup (jpcinssetup)</code> コマンドで設定

(1) Store バージョン 2.0 のセットアップ

Store バージョン 2.0 へ移行する場合のセットアップ手順について説明します。

1. システムリソース見積もりと保存期間の設計

Store バージョン 2.0 導入に必要なシステムリソースが、実行環境に適しているかどうかを確認してください。必要なシステムリソースを次に示します。

- ディスク容量
- ファイル数
- 1 プロセスがオープンするファイル数

これらの値は保存期間の設定によって調節できます。実行環境の保有しているリソースを考慮して保存期間を設計してください。システムリソースの見積もりについては、リリースノートを参照してください。

2. ディレクトリの設定

Store バージョン 2.0 に移行する場合に、Store バージョン 1.0 でのディレクトリ設定では、Agent Store サービスが起動しないことがあります。このため、Agent Store サービスが使用するディレクトリを設定を見直す必要があります。Agent Store サービスが使用するディレクトリの設定は `jpccconf db define (jpcdbctrl config)` コマンドを使用して表示・変更できます。

Store バージョン 2.0 は、Store データベースの保存先ディレクトリやバックアップ先ディレクトリの最大長が Store バージョン 1.0 と異なります。Store バージョン 1.0 でディレクトリを設定を相対パスに変更している場合、絶対パスに変換した値が Store バージョン 2.0 でのディレクトリ最大長の条件を満たしているか確認してください。Store バージョン 2.0 のディレクトリ最大長は 214 バイトです。ディレクトリ最大長の条件を満たしていない場合は、Agent Store サービスが使用するディレクトリを設定を変更したあと、手順 3 以降に進んでください。

3. セットアップコマンドの実行

Store バージョン 2.0 に移行するため、次のコマンドを実行します。

```
jpccconf db vrset -ver 2.0 -key Domino (jpcdbctrl setup -key agtl)
```

jpccconf db vrset (jpcdbctrl setup)コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

4. 保存期間の設定

手順 1 の見積もり時に設計した保存期間を設定してください。Agent Store サービスを起動して、PFM - Web Console で設定してください。

(2) Store バージョン 2.0 のアンセットアップ

Store バージョン 2.0 はjpccconf db vrset -ver 1.0 (jpcdbctrl unsetup)コマンドを使用してアンセットアップします。Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、Store データベースのデータはすべて初期化され、Store バージョン 1.0 に戻ります。

jpccconf db vrset (jpcdbctrl unsetup)コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

(3) 注意事項

移行についての注意事項を次に示します。

(a) Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行する場合

Store データベースを Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行した場合、PI レコードタイプのレコードの保存期間の設定は引き継がれますが、PD レコードタイプのレコードについては、以前の設定値（保存レコード数）に関係なくデフォルトの保存日数がレコードごとに設定され、保存日数以前に収集されたデータは削除されます。

例えば、Store バージョン 1.0 で、Collection Interval が 3,600 秒の PD レコードの保存レコード数を 1,000 に設定していた場合、PD レコードは 1 日に 24 レコード保存されることになるので、 $1,000 \div 24 \approx$ 約 42 日分のデータが保存されています。この Store データベースを Store バージョン 2.0 へ移行した結果、デフォルト保存日数が 10 日に設定されたとすると、11 日以上前のデータは削除されて参照できなくなります。

Store バージョン 2.0 へ移行する前に、PD レコードタイプのレコードの保存レコード数の設定を確認し、Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数以上のデータが保存される設定となっている場合は、jpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドでデータベース内のデータを出力してください。Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数については、リリースノートを参照してください。

(b) Store バージョン 2.0 から Store バージョン 1.0 に戻す場合

Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、データは初期化されます。このため、Store バージョン 1.0 に変更する前に、jpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドで Store バージョン 2.0 の情報を出力してください。

3.5 バックアップとリストア

PFM - Agent for Domino のバックアップおよびリストアについて説明します。

障害が発生してシステムが壊れた場合に備えて、PFM - Agent for Domino の設定情報のバックアップを取得してください。また、PFM - Agent for Domino をセットアップしたときなど、システムを変更したときにはバックアップを取得してください。

なお、Performance Management システム全体のバックアップおよびリストアについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、バックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

3.5.1 バックアップ

バックアップはファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップを取得する際は、PFM - Agent for Domino のサービスを停止した状態で行ってください。

注意事項

PFM - Agent for Domino のバックアップを取得する際は、取得した環境の製品バージョン番号を管理するようにしてください。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。

バックアップ時にはインスタンス、監視対象の構成（論理ホスト環境を含む）を記録しておく必要があります。

PFM - Agent for Domino の設定情報のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 3-10 PFM - Agent for Domino のバックアップ対象ファイル（物理ホストの場合）

ファイル名	説明
/opt/jp1pc/agt/agent/*.iniファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
/opt/jp1pc/agt/agent/インスタンス名/*.ini※	
/opt/jp1pc/agt/store/*.iniファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
/opt/jp1pc/agt/store/インスタンス名/*.ini	

注※

次の場合には、ファイルパスに設定しているファイルもバックアップを取得してください。

- jpcagt.ini ファイルで、[Notes Log Check Options]セクションのInclude エントリにファイルパスを設定している場合

- jpcagt.ini ファイルで、[User Defined Stat Options]セクションのStatDefine.ini エントリにファイルパスを設定している場合

表 3-11 PFM - Agent for Domino のバックアップ対象ファイル (論理ホストの場合)

ファイル名	説明
/opt/jp1pc/agtl/agent/*.ini ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
環境フォルダ ^{※1} /agtl/agent/インスタンス名/*.ini ^{※2}	
/opt/jp1pc/agtl/store/*.ini ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
環境フォルダ ^{※1} /agtl/store/インスタンス名/*.ini	

注※1

環境フォルダは、論理ホスト作成時に作成される共有ディスク上のフォルダです。

注※2

次の場合には、ファイルパスに設定しているファイルもバックアップを取得してください。

- jpcagt.ini ファイルで、[Notes Log Check Options]セクションのInclude エントリにファイルパスを設定している場合
- jpcagt.ini ファイルで、[User Defined Stat Options]セクションのStatDefine.ini エントリにファイルパスを設定している場合

3.5.2 リストア

PFM - Agent for Domino の設定情報をリストアする場合は、次に示す前提条件を確認した上で、バックアップ対象ファイルを元の位置にコピーしてください。バックアップした設定情報ファイルで、ホスト上の設定情報ファイルを上書きします。

前提条件

- PFM - Agent for Domino がインストール済みであること。
- PFM - Agent for Domino のサービスが停止していること。

注意事項

PFM - Agent for Domino の設定情報をリストアする場合、バックアップを取得した環境とリストアする環境の製品バージョン番号が完全に一致している必要があります。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。リストアの可否についての例を次に示します。

リストアできるケース

PFM - Agent for Domino 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Domino 08-50 にリストアする。

リストアできないケース

- ・ PFM - Agent for Domino 08-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Domino 08-50 にリストアする。
- ・ PFM - Agent for Domino 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Platform 08-50-04 にリストアする。

3.6 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

Performance Management では、PFM - Web Console がインストールされているホストに、プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル CD-ROM からマニュアルをコピーすることで、Web ブラウザでマニュアルを参照できるようになります。なお、PFM - Web Console をクラスタ運用している場合は、実行系、待機系それぞれの物理ホストでマニュアルをコピーしてください。

3.6.1 マニュアルを参照するための設定

(1) PFM - Web Console のヘルプからマニュアルを参照する場合

1. PFM - Web Console のセットアップ手順に従い、PFM - Web Console に PFM - Agent を登録する (PFM - Agent の追加セットアップを行う)。
2. PFM - Web Console がインストールされているホストに、マニュアルのコピー先ディレクトリを作成する。
 - Windows の場合：PFM - Web Console のインストール先フォルダ¥doc¥ja¥××××
 - UNIX の場合：/opt/jp1pcwebcon/doc/ja/××××××××には、PFM - Agent のヘルプ ID を指定してください。ヘルプ ID については、「[付録 C 識別子一覧](#)」を参照してください。
3. 手順 2 で作成したディレクトリの直下に、マニュアル CD-ROM から次のファイルおよびディレクトリをコピーする。

HTML マニュアルの場合

Windows の場合

CD-ROM ドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) など下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および GRAPHICS フォルダ

UNIX の場合

/CD-ROM のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) など下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および GRAPHICS ディレクトリ

PDF マニュアルの場合

Windows の場合

CD-ROM ドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

UNIX の場合

/CD-ROM のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

コピーの際、HTML マニュアルの場合は INDEX.HTM ファイルが、PDF マニュアルの場合は PDF ファイル自体が、作成したディレクトリ直下に配置されるようにしてください。

4. PFM - Web Console を再起動する。

(2) お使いのマシンのハードディスクから参照する場合

CD-ROM の setup.exe を使ってインストールするか、または直接 HTML ファイル、CSS ファイル、PDF ファイル、および GIF ファイルを任意のフォルダにコピーしてください。

HTML マニュアルを参照する場合は、次のディレクトリ構成になるようにしてください。

```
html (HTMLファイルおよびCSSファイルを格納)
└─ GRAPHICS (GIFファイルを格納)
```

3.6.2 マニュアルの参照手順

マニュアルの参照手順を次に示します。

1. PFM - Web Console の [メイン] 画面のメニューバーフレームにある [ヘルプ] メニューをクリックし、[ヘルプ選択] 画面を表示する。
2. マニュアル名またはマニュアル名の後ろの [PDF] をクリックする。
マニュアル名をクリックすると HTML 形式のマニュアルが表示されます。[PDF] をクリックすると PDF 形式のマニュアルが表示されます。

Web ブラウザでの文字の表示に関する注意事項

Windows の場合、[スタート] メニューからオンラインマニュアルを表示させると、すでに表示されている Web ブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

4

クラスタシステムでの運用

この章では、クラスタシステムで PFM - Agent for Domino を運用する場合のインストール、セットアップ、クラスタシステムで PFM - Agent for Domino を運用しているときの処理の流れなどについて説明します。

4.1 クラスタシステムの概要

クラスタシステムとは、複数のサーバシステムを連携して1つのシステムとして運用するシステムです。PFM - Agent for Domino の監視対象プログラムである、Lotus Notes/Domino は、次のクラスタシステムで運用できます。

- HA (High Availability) クラスタシステム構成のドミノサーバ
- ドミノクラスタ

ここでは、クラスタシステムで PFM - Agent for Domino を運用する場合の構成について説明します。クラスタシステムの概要および Performance Management システムをクラスタシステムで運用する場合のシステム構成については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

なお、この章で、単に「クラスタシステム」と記述している場合は、HA クラスタシステムのことを指します。

4.1.1 HA クラスタシステム

(1) HA クラスタシステムでのドミノの構成

ドミノサーバを HA クラスタシステムで運用すると、障害発生時にフェールオーバーすることができ、可用性が向上します。

ドミノを HA クラスタシステムで運用する場合、一般的には、実行系ノードと待機系ノードの両方で同じドミノサーバが実行できる環境を構築し、ドミノデータディレクトリを共有ディスクに格納した構成にします。なお、HA クラスタシステム上でドミノを運用する場合、一般的にはクラスタソフトからドミノを制御するためのソリューション製品を使用します。例えば、Windows/UNIX で使用できる JP1/クラスタモニタ for Notes を使います。

また、クラスタシステムでのドミノの構成や運用方法については、システムによって異なる場合があります。

(2) HA クラスタシステムでの PFM - Agent for Domino の構成

PFM - Agent for Domino は、HA クラスタシステムで運用でき、クラスタ構成のドミノサーバを監視できます。HA クラスタシステムで PFM - Agent for Domino を運用する場合は、次の図のような構成で運用します。

図 4-1 HA クラスタシステムでの PFM - Agent for Domino の構成例

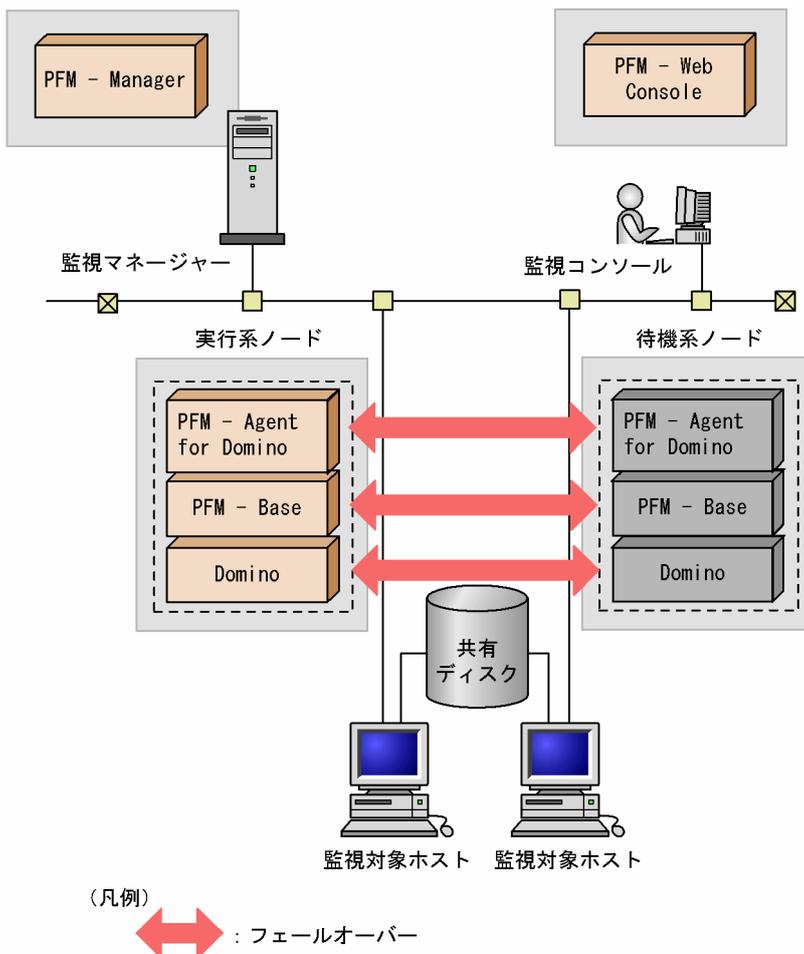


図 4-1 に示すように、PFM - Agent for Domino はクラスタ構成のドミノと同じ論理ホスト環境で動作し、ドミノを監視します。障害発生時はドミノのフェールオーバーに連動して PFM - Agent for Domino もフェールオーバーし、監視を継続できます。

また、共有ディスクに定義情報やパフォーマンス情報を格納し、フェールオーバー時に引き継ぎます。1つの論理ホストに複数の Performance Management のプログラムがある場合は、それぞれが同じ共有ディレクトリを使います。

1つのノードで PFM - Agent for Domino を複数実行できます。クラスタ構成のドミノが複数ある構成（アクティブ・アクティブ構成）の場合、それぞれの論理ホスト環境で、PFM - Agent for Domino を実行してください。それぞれの PFM - Agent for Domino は独立して動作し、別々にフェールオーバーできます。

4.1.2 ドミノクラスタシステム

(1) ドミノクラスタシステムでのドミノサーバの構成

Lotus Notes/Domino のドミノクラスタは、ドミノデータベースのクラスタ複製機能を用いたアプリケーションレベルのクラスタシステムです。ドミノクラスタを使用すると、ユーザーに安定したデータアクセスを提供しながら、サーバ間の負荷を均等に分散して、サーバのパフォーマンスを向上できます。データベースはクラスタメンバー内のサーバ間で絶えず同期をとって複製されます。

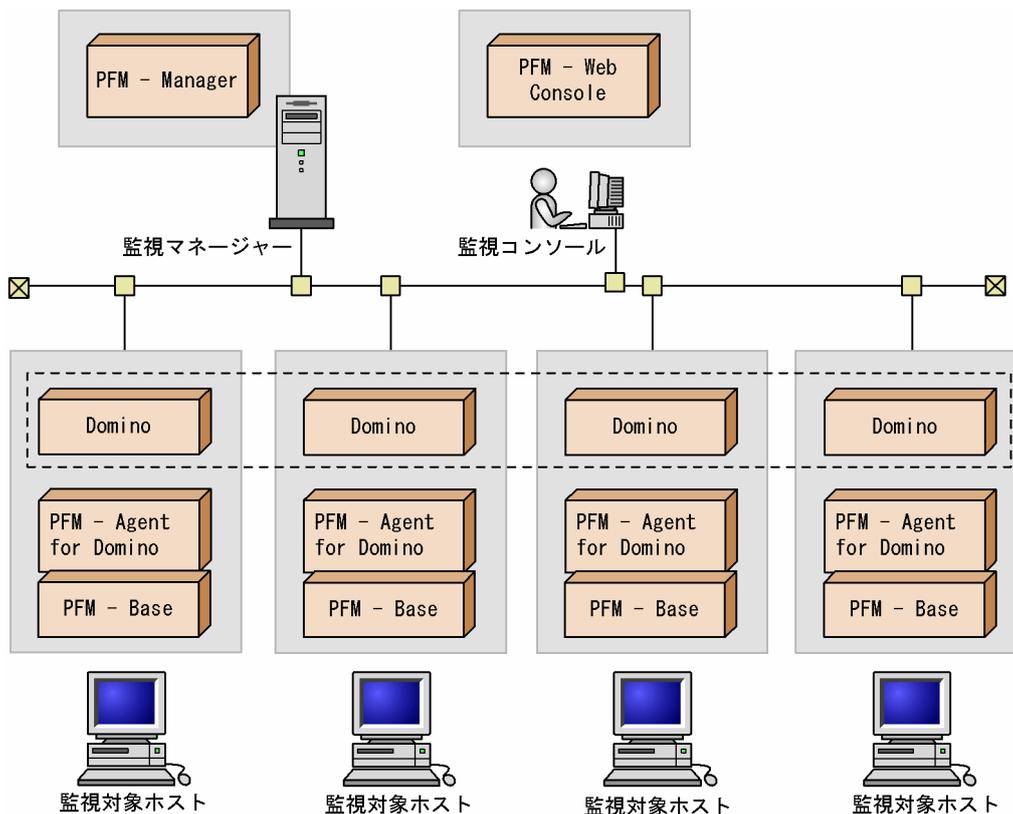
複数のノードで負荷を分散して処理することで、スケーラビリティと耐障害性が向上します。

ドミノクラスタの詳細については、Lotus Notes/Domino のヘルプを参照してください。

(2) ドミノクラスタシステムでの PFM - Agent for Domino の構成

ドミノクラスタシステムで PFM - Agent for Domino を運用する場合は、次のような構成で運用します。

図 4-2 ドミノクラスタシステムでの PFM - Agent for Domino の構成例



各ノードでは固有のサーバ名を持つドミノが動作しています。PFM - Agent for Domino は各ノードのドミノサーバを監視します。

単体のノードと同様に、各ノードで PFM - Agent for Domino をセットアップし、各ノードのドミノサーバを監視する構成にします。この場合、クラスタソフトには登録しません。

注意

ドミノクラスタで PFM - Agent for Domino を運用し、ドミノサーバを監視する場合は、単体のノードが多数あるシステムと同様に運用します。通常の非クラスタシステムと同じように運用してください。

4.2 フェールオーバー時の処理

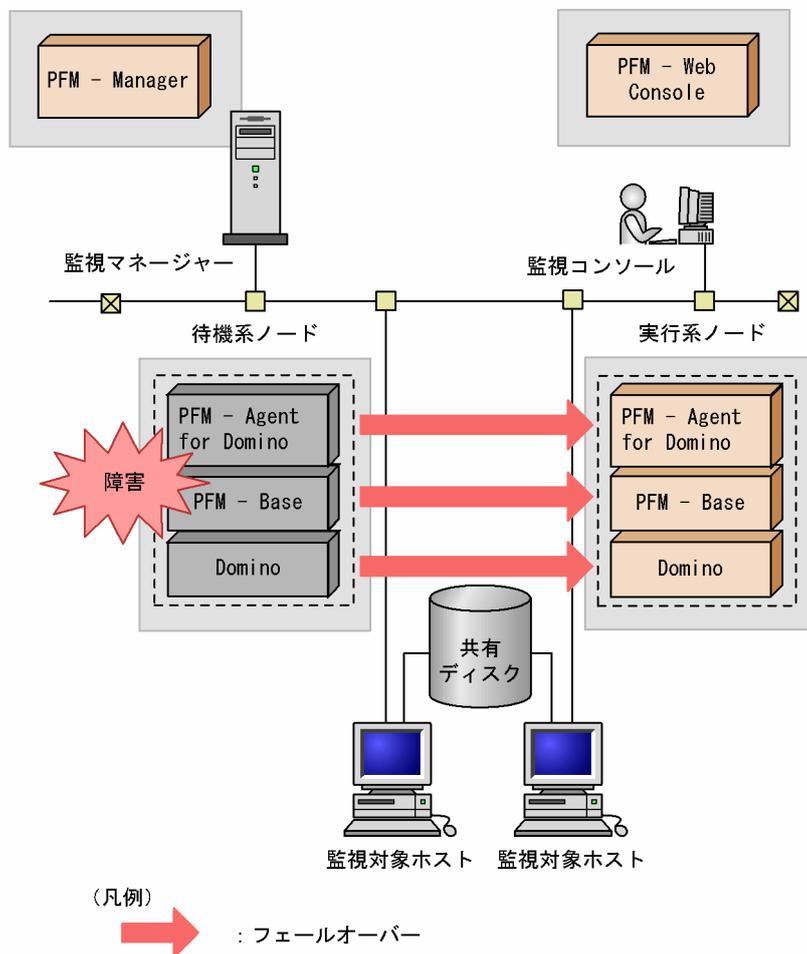
実行系ホストに障害が発生すると、処理が待機系ホストに移ります。

ここでは、監視対象ホストに障害が発生した場合のフェールオーバー時の処理について説明します。また、PFM - Manager に障害が発生した場合の、PFM - Agent for Domino への影響について説明します。

4.2.1 監視対象ホストに障害が発生した場合のフェールオーバー

PFM - Agent for Domino を実行している監視対象ホストでフェールオーバーが発生した場合の処理を次の図に示します。

図 4-3 監視対象ホストでフェールオーバーが発生した場合の処理



PFM - Agent for Domino のフェールオーバー中に、PFM - Web Console で操作すると、「There was no answer(-6)」というメッセージが表示されます。この場合は、フェールオーバーが完了するまで待つてから操作してください。

PFM - Agent for Domino のフェールオーバー後に、PFM - Web Console で操作すると、フェールオーバー先のノードで起動した PFM - Agent for Domino に接続されます。

4.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響

PFM - Manager が停止すると、Performance Management システム全体に影響があります。

PFM - Manager は、各ノードで動作している PFM - Agent for Domino のエージェント情報を一括管理しています。また、PFM - Agent for Domino がパフォーマンス監視中にしきい値を超えた場合のアラームイベントの通知や、アラームイベントを契機としたアクションの実行を制御しています。このため、PFM - Manager が停止すると、Performance Management システムに次の表に示す影響があります。

表 4-1 PFM - Manager が停止した場合の PFM - Agent for Domino への影響

プログラム名	影響	対処
PFM - Agent for Domino	<p>PFM - Agent for Domino の動作中に、PFM - Manager が停止した場合、次のように動作する。</p> <ul style="list-style-type: none">パフォーマンスデータは継続して収集される。発生したアラームイベントを PFM - Manager に通知できないため、アラーム定義ごとにアラームイベントが保持され、PFM - Manager が起動するまで通知をリトライする。保持しているアラームイベントが3つを超えると、古いアラームイベントは上書きされる。また、PFM - Agent for Domino を停止すると、保持しているアラームイベントは削除される。PFM - Manager に通知済みのアラームステータスは、PFM - Manager が再起動したときに一度リセットされる。その後、PFM - Manager が PFM - Agent for Domino の状態を確認したあと、アラームステータスは最新の状態になる。PFM - Agent for Domino を停止しようとした場合、PFM - Manager に停止することを通知できないため、停止に時間が掛かる。	<p>PFM - Manager を起動する。動作中の PFM - Agent for Domino はそのまま運用できる。ただし、アラームが期待したとおり通知されない場合があるため、PFM - Manager 復旧後に、共通メッセージログに出力されているメッセージ KAVE00024-I を確認すること。</p>

PFM - Manager が停止した場合の影響を考慮の上、運用方法を検討してください。なお、トラブル以外にも、構成変更やメンテナンスの作業などで PFM - Manager の停止が必要になる場合もあります。運用への影響が少ないときに、メンテナンスをすることをお勧めします。

4.3 インストールとセットアップ (Windows の場合)

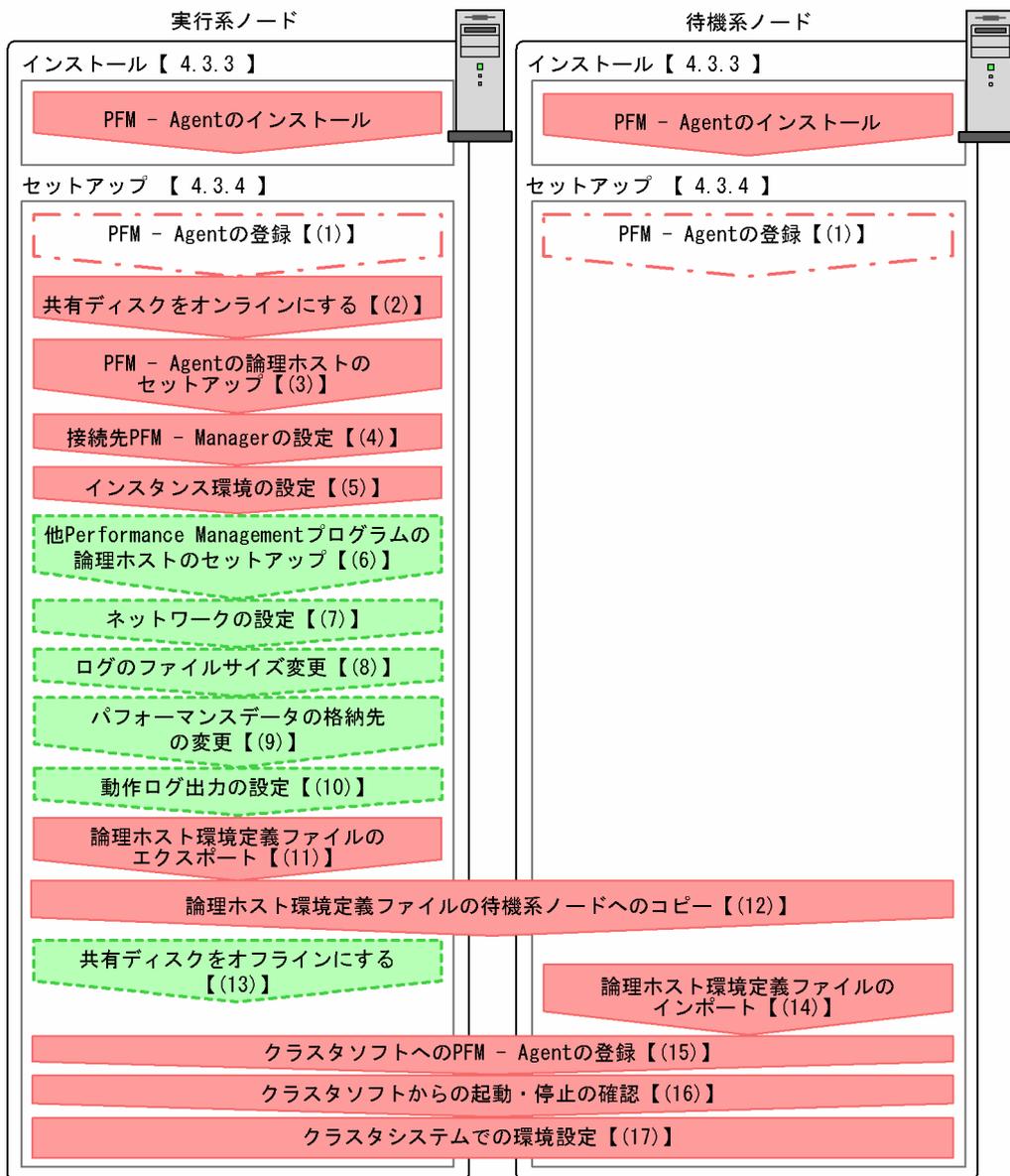
ここでは、クラスタシステムでの PFM - Agent for Domino のインストールとセットアップの手順について説明します。

なお、PFM - Manager のインストールとセットアップの手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.3.1 インストールとセットアップの流れ

クラスタシステムで、論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-4 クラスタシステムで論理ホストとして運用する PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップの流れ (Windows の場合)



(凡例)

- : 必須セットアップ項目
- : 場合によって必須となるセットアップ項目
- : オプションのセットアップ項目
- 【 】** : 参照先

注意

論理ホスト環境の PFM - Agent をセットアップしても、物理ホスト環境の PFM - Agent の定義内容は引き継がれません。論理ホスト環境および物理ホスト環境では、インスタンス環境を設定した時点で、新規に環境が作成されます。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業を、オプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。非対話形式のコマンドは、次のような場合に便利です。

- 監視対象との接続に使用するパスワードを定期的に変更したい
- 複数の監視対象を追加する際の作業を効率化したい

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

4.3.2 インストールとセットアップの前に

インストールおよびセットアップを開始する前に前提条件、必要な情報、および注意事項について説明します。

(1) 前提条件

PFM - Agent for Domino をクラスタシステムで使用する場合、次に示す前提条件があります。

(a) クラスタシステム

次の条件が整っていることを確認してください。

- クラスタシステムがクラスタソフトによって制御されていること。
- クラスタソフトが論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino の起動や停止などを制御するように設定されていること。このとき、PFM - Agent for Domino が、監視対象のドミノと連動してフェールオーバーするように設定されていること。

注意

- Windows Server 2003 では、ワトソン博士でアプリケーションエラーのメッセージボックスが表示されると、フェールオーバーできないおそれがあるため、メッセージボックスによるエラーの通知を抑止する必要があります。抑止手順については、OS 付属のドキュメントを参照してください。なお、エラーの通知を抑止すると、アプリケーションエラーが発生した際の情報取得に影響が出る場合があるため注意してください。
- Windows では、アプリケーションエラーが発生すると、Microsoft へエラーを報告するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示されるとフェールオーバーできないおそれがあるため、エラー報告を抑止する必要があります。抑止手順については、OS 付属のドキュメントを参照してください。

(b) 共有ディスク

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに共有ディスクがあり、実行系ノードから待機系ノードへ引き継げること。
- 共有ディスクが、各ノードに物理的に Fibre Channel や SCSI で接続されていること。
Performance Management では、ネットワークドライブや、ネットワーク経由でレプリケーションしたディスクを共有ディスクとして使う構成はサポートされていません。
- フェールオーバーの際に、何らかの問題によって共有ディスクを使用中のプロセスが残った場合でも、クラスタソフトなどの制御によって強制的に共有ディスクをオフラインにしてフェールオーバーできること。
- 1つの論理ホストで複数の PFM 製品を運用する場合、共有ディスクのディレクトリ名が同じであること。
なお、Store データベースについては格納先を変更して、共有ディスク上のほかのディレクトリに格納できます。

(c) 論理ホスト名, 論理 IP アドレス

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに論理ホスト名、および論理ホスト名と対応する論理 IP アドレスがあり、実行系ノードから待機系ノードに引き継げること。
- 論理ホスト名と論理 IP アドレスが、hosts ファイルやネームサーバに設定されていること。
- DNS 運用している場合は、FQDN 名ではなく、ドメイン名を除いたホスト名を論理ホスト名として使用していること。
- 物理ホスト名と論理ホスト名は、システムの中でユニークであること。

注意

- 論理ホスト名に、物理ホスト名 (hostname コマンドで表示されるホスト名) を指定しないでください。正常に通信処理がされなくなるおそれがあります。
- 論理ホスト名に使用できる文字は、1~32 バイトの半角英数字です。次の記号および空白文字は指定できません。
/ ¥ : ; * ? ' " < > | & = , .
- 論理ホスト名には、"localhost", IP アドレス, "-" から始まるホスト名を指定できません。

(d) IPv6 を使用する場合の設定

Performance Management では、ネットワーク構成が IPv4 環境だけでなく IPv6 環境にも対応しています。そのため、IPv4 環境と IPv6 環境が混在するネットワーク構成でも、Performance Management を運用できます。

PFM - Agent for Domino では、PFM - Manager と IPv6 で通信できます。ただし、PFM - Agent for Domino および PFM - Manager が導入されているホストの OS が、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Linux の場合に限りです。

IPv4 環境と IPv6 環境での通信の適用範囲については、「付録 L IPv4 環境と IPv6 環境での通信について」を参照してください。

IPv6 で通信する場合、PFM - Manager ホストと PFM - RM ホストのそれぞれで IPv6 の利用設定を有効にする必要があります。この設定は `jpccconf ipv6 enable` コマンドで実行しますが、コマンドの実行要否は次のとおりです。

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの実行が必要なケース

- それぞれのホストで、IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager を IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの実行が不要なケース

- それぞれのホストが、すでに IPv6 環境である場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager が IPv6 環境である場合

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの実行例を次に示します。

```
jpccconf ipv6 enable
```

`jpccconf ipv6 enable` コマンドは、実行系ノードおよび待機系ノードで、それぞれ実行してください。

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。また、`jpccconf ipv6 enable` コマンドを実行する条件やタイミングについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の IPv6 環境が含まれる場合のネットワーク構成例について説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino と監視対象ホストを IPv6 で通信する場合、名前解決できる監視対象ホスト名を指定してください。

PFM - Agent for Domino と監視対象との通信は、解決できる IP アドレスで通信します。また、PFM - Agent for Domino と監視対象との通信では、IPv4 と IPv6 が共存した環境の場合、解決できる IP アドレスで通信に失敗したとき、別の IP アドレスで通信することはありません。

例えば、IPv4 で接続に失敗した場合、IPv6 でリトライすることはありません。また、IPv6 で接続に失敗した場合に、IPv4 でリトライすることはありません。事前に接続できることを確認してください。

(2) 論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のセットアップに必要な情報

論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino をセットアップするには、通常の PFM - Agent for Domino のセットアップで必要になる環境情報に加えて、次の表の情報が必要です。

表 4-2 論理ホスト運用の PFM - Agent for Domino のセットアップに必要な情報

項目	例
論理ホスト名	jpl-hal
論理 IP アドレス	172.16.92.100
共有ディスク	S:*jpl

なお、1つの論理ホストで論理ホスト運用する Performance Management のプログラムが複数ある場合も、同じ共有ディスクのディレクトリを使用します。

共有ディスクに必要な容量については、「付録 A システム見積もり」を参照してください。

(3) PFM - Agent for Domino で論理ホストをフェールオーバーさせる場合の注意事項

PFM - Agent for Domino を論理ホスト運用するシステム構成の場合、PFM - Agent for Domino の障害によって論理ホスト全体をフェールオーバーさせるかどうかを検討してください。

PFM - Agent for Domino の障害で論理ホスト全体をフェールオーバーさせると、PFM - Agent for Domino が監視対象としている同じ論理ホストで運用する業務アプリケーションもフェールオーバーすることになり、業務に影響を与えるおそれがあります。

通常は、PFM - Agent for Domino に異常が発生しても、ドミノの動作に影響がないように、次のどちらかのようにクラスタソフトで設定することをお勧めします。

- PFM - Agent for Domino の動作監視をしない
- PFM - Agent for Domino の異常を検知してもフェールオーバーしない

(4) 論理ホスト運用時のバージョンアップに関する注意事項

論理ホスト運用の PFM - Agent for Domino をバージョンアップする場合は、実行系ノードまたは待機系ノードのどちらか一方で、共有ディスクをオンラインにする必要があります。

4.3.3 インストール手順

実行系ノードおよび待機系ノードのそれぞれに PFM - Agent for Domino をインストールします。

注意事項

インストール先はローカルディスクです。共有ディスクにはインストールしないでください。

インストール手順は非クラスタシステムの場合と同じです。インストール手順については、「[2.1.3 インストール手順](#)」を参照してください。

4.3.4 セットアップ手順

ここでは、クラスタシステムで Performance Management を運用するための、セットアップについて説明します。

セットアップ手順には、実行系ノードの手順と、待機系ノードの手順があります。実行系ノード、待機系ノードの順にセットアップしてください。

実行系 は実行系ノードで行う項目を、**待機系** は待機系ノードで行う項目を示します。また、**オプション** は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

(1) PFM - Agent の登録 **実行系** **待機系** **オプション**

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Domino を登録する必要があります。

PFM - Agent for Domino を登録する必要があるのは次の場合です。

- Performance Management システムに新しく PFM - Agent for Domino を追加する場合
- すでに登録している PFM - Agent for Domino のデータモデルのバージョンを更新する場合

登録は PFM - Manager 上および PFM - Web Console 上で実施します。手順は非クラスタシステムの場合と同じです。手順については、「[2.1.4\(1\) PFM - Agent for Domino の登録](#)」を参照してください。

(2) 共有ディスクをオンラインにする **実行系**

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオンラインにしてください。

(3) PFM - Agent の論理ホストのセットアップ **実行系**

jpccnf ha setup (jpchasetup create) コマンドを実行して論理ホスト環境を作成します。コマンドを実行すると、共有ディスクに必要なデータがコピーされ、論理ホスト用の定義が設定されて、論理ホスト環境が作成されます。

注意

コマンドを実行する前に、Performance Management システム全体で、Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha setup (jpchasetup create)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境を作成する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha setup -key Domino -lhost jp1-haldmn -d S:¥jp1 (jpchasetup create agtl -lhost jp1-haldmn -d S:¥jp1)
```

論理ホスト名は、`-lhost` オプションで指定します。ここでは、論理ホスト名を `jp1-haldmn` としています。DNS 運用をしている場合はドメイン名を省略した論理ホスト名を指定してください。

共有ディスクのディレクトリ名は、`-d` オプションの環境ディレクトリ名に指定します。例えば `-d S:¥jp1` と指定すると `S:¥jp1¥jp1pc` が作成されて、論理ホスト環境のファイルが作成されます。

注意

- ・ PFM - Agent for Domino はファイルシステムで運用されています。RAW デバイスや ASM でデータベースを構築した場合は、ファイルシステムを共有ディスクに指定してください。
- ・ 環境ディレクトリ名には、次の文字を含むパスは指定しないでください。

「(」, 「)」

これらの文字が含まれていた場合、論理ホストの環境作成には成功しますが、PFM - Agent for Oracle の起動に失敗することがあります。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list all (jpchasetup list all)
```

作成した論理ホスト環境が正しいことを確認してください。

(4) 接続先 PFM - Manager の設定 実行系

`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino を管理する PFM - Manager を設定します。

1. `jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行して、接続先 PFM - Manager を設定する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf mgrhost define -s jp1-hal -lhost jp1-haldmn (jpcnshostname -s jp1-hal -lhost jp1-haldmn)
```

接続先 PFM - Manager のホスト名は、`-s` オプションで指定します。接続先 PFM - Manager が論理ホスト運用されている場合は、`-s` オプションに接続先 PFM - Manager の論理ホスト名を指定します。ここでは、PFM - Manager の論理ホスト名を `jp1-hal` としています。

また、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名は、`-lhost` オプションで指定します。ここでは、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名を `jp1-haldmn` としています。

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf mgrhost define` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf mgrhost define` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(5) インスタンス環境の設定 実行系

`jpccconf inst setup(jpcinssetup)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino のインスタンス環境を設定します。

設定手順は、非クラスタシステムの場合と同じです。ただし、クラスタシステムの場合、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの実行時に、「`-lhost`」で論理ホスト名を指定する必要があります。

クラスタシステムの場合の `jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの指定方法を次に示します。

```
jpccconf inst setup -key Domino -lhost 論理ホスト名 -inst インスタンス名 (jpcinssetup agtl -lhost 論理ホスト名 -inst インスタンス名)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf inst setup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf inst setup` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

このほかの設定内容、および手順については、「[2.1.4 \(2\) インスタンス環境の設定](#)」を参照してください。

(6) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ 実行系 オプション

PFM - Agent for Domino のほかに、同じ論理ホストにセットアップする PFM - Manager や PFM - Agent がある場合は、この段階でセットアップしてください。

セットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(7) ネットワークの設定 実行系 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定では次の 2 つの項目を設定できます。

• IP アドレスを設定する

複数の LAN に接続されたネットワーク環境で Performance Management を運用するとき使用する IP アドレスを指定したい場合には、jpchosts ファイルの内容を直接編集します。

このとき、編集したjpchosts ファイルは、実行系ノードから待機系ノードにコピーしてください。

IP アドレスの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

• ポート番号を設定する

ファイアウォール経由で Performance Management のプログラム間の通信をする場合には、jpcconf port (jpcnsconfig port) コマンドを使用してポート番号を設定します。

ポート番号の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章、およびマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

(8) ログのファイルサイズ変更 実行系 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 個使用されます。このファイルサイズを変更したい場合に必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(9) パフォーマンスデータの格納先の変更 実行系 オプション

PFM - Agent で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先、エクスポート先、またはインポート先のフォルダを変更したい場合に必要な設定です。

設定方法については、「[2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更](#)」を参照してください。

(10) 動作ログ出力の設定 実行系 オプション

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「[付録 J 動作ログの出力](#)」を参照してください。

(11) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート 実行系

PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境が作成できたら、環境定義をファイルにエクスポートします。エクスポートでは、その論理ホストにセットアップされている Performance Management のプログラムの定義情報を一括してファイル出力します。同じ論理ホストにほかの Performance Management のプログラムをセットアップする場合は、セットアップが一とおり済んだあとにエクスポートしてください。

論理HOST環境定義をエクスポートする手順を次に示します。

1. `jpccconf ha export (jpchasetup export)` コマンドを実行して、論理HOST環境定義をエクスポートする。
これまでの手順で作成した論理HOST環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。

例えば、`lhostexp.txt` ファイルに論理HOST環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha export -f lhostexp.txt (jpchasetup export -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha export` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha export` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(12) 論理HOST環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー 実行系 待機系

「(11) 論理HOST環境定義ファイルのエクスポート」でエクスポートした論理HOST環境定義ファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(13) 共有ディスクをオフラインにする 実行系 オプション

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオフラインにして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、オフラインにする必要はありません。

(14) 論理HOST環境定義ファイルのインポート 待機系

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードにインポートします。

実行系ノードで作成した論理HOSTの Performance Management のプログラムを、待機系ノードで実行するための設定には、`jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを使用します。1つの論理HOSTに複数の Performance Management のプログラムがセットアップされている場合は、一括してインポートされます。

なお、このコマンドを実行するときには、共有ディスクをオンラインにしておく必要はありません。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを実行して、論理HOST環境定義をインポートする。
次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt (jpchasetup import -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が実施されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、同様に設定されます。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list all (jpchasetup list all)
```

実行系ノードで `jpccconf ha list (jpchasetup list)` を実行した時と同じ内容が表示されることを確認してください。

(15) クラスタソフトへの PFM - Agent の登録 実行系 待機系

Performance Management のプログラムを論理ホスト環境で運用する場合は、クラスタソフトに登録して、クラスタソフトからの制御で Performance Management のプログラムを起動したり停止したりするように環境設定します。

クラスタソフトへ PFM - Agent for Domino を登録する方法は、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

PFM - Agent for Domino をクラスタソフトに登録するときの設定内容を、Windows 2003 MSCS に登録する項目を例として説明します。

PFM - Agent for Domino の場合、次の表のサービスをクラスタソフトに登録します。

PFM - Manager の論理ホストと同居する場合の依存関係の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

表 4-3 クラスタソフトに登録する PFM - Agent for Domino のサービス

項番	名前	サービス名	依存関係
1	PFM - Agent Store for Domino インスタンス名 [LHOST]	JP1PCAGT_LS_インスタンス名 [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース ドミノサーバリソース
2	PFM - Agent for Domino インスタンス名 [LHOST]	JP1PCAGT_LA_インスタンス名 [LHOST]	項番 1 のクラスタリソース
3	PFM - Action Handler [LHOST]	JP1PCMGR_PH [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース

[LHOST]の部分は、論理ホスト名に置き換えてください。インスタンス名が Domino01、論理ホスト名が jpl-hal の場合、サービスの名前は「PFM - Agent Store for Domino Domino01 [jpl-hal]」、サービス名は「JP1PCAGT_LS_Domino01 [jpl-hal]」のようになります。

MSCS の場合は、これらのサービスを MSCS のリソースとして登録します。各リソースの設定は次のようにします。下記の [] は、MSCS の設定項目です。

- [リソースの種類] は「汎用サービス」として登録する。
- [名前]、[サービス名]、および [依存関係] を「表 4-3」のとおりを設定する。
なお、名前はサービスを表示するときの名称で、サービス名は MSCS から制御するサービスを指定するときの名称です。
- [起動パラメータ] および [レジストリ複製] は設定しない。
- プロパティの [詳細設定] タブは、Performance Management のプログラムの障害時にフェールオーバーするかしないかの運用に合わせて設定する。

例えば、PFM - Agent for Domino の障害時に、フェールオーバーするように設定するには、次のように設定します。

[再開する]：チェックする

[グループに適用する]：チェックする

再起動試行回数の [しきい値]：3*

注※

再起動試行回数の [しきい値] は 3 回を目安に設定してください。

注意

クラスタに登録するサービスは、クラスタから起動および停止を制御しますので、OS 起動時に自動起動しないよう [スタートアップの種類] を [手動] に設定してください。なお、jpcconf ha setup (jpchasetup create) コマンドでセットアップした直後のサービスは [手動] に設定されています。また、次のコマンドで強制停止しないでください。

```
jpcspm stop -key all lhost=論理ホスト名 kill=immediate (jpcstop all lhost=論理ホスト名 kill=immediate)
```

(16) クラスタソフトからの起動・停止の確認 実行系 待機系

クラスタソフトからの操作で、Performance Management のプログラムの起動および停止を各ノードで実行し、正常に動作することを確認してください。

(17) クラスタシステムでの環境設定 実行系 待機系

Performance Management のプログラムのセットアップ終了後、PFM - Web Console から、運用に合わせて監視対象の稼働状況についてのレポートを表示できるようにしたり、監視対象で問題が発生したときにユーザーに通知できるようにしたりするために、Performance Management のプログラムの環境を設定します。

Performance Management のプログラムの環境設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.4 インストールとセットアップ (UNIX の場合)

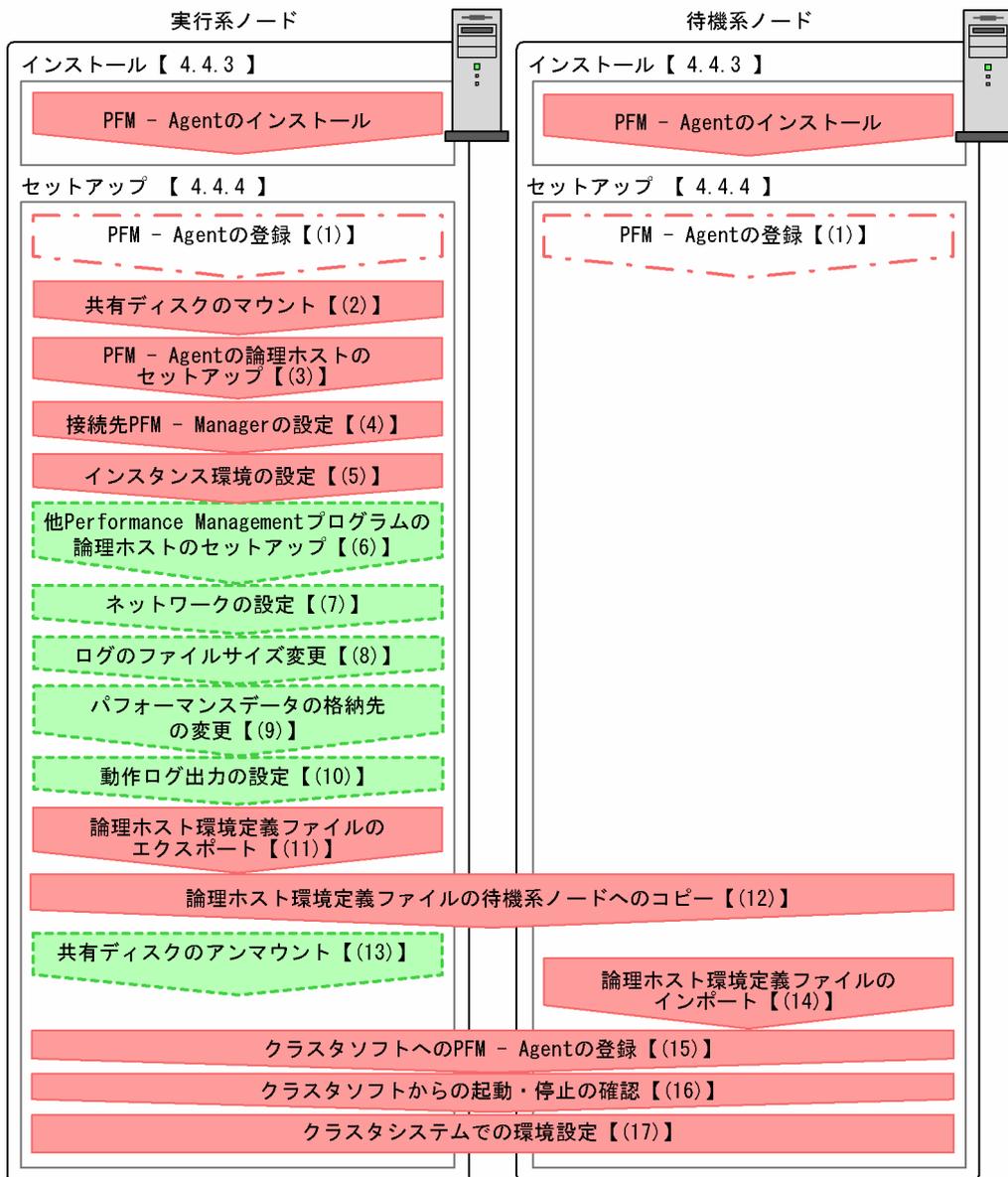
ここでは、クラスタシステムでの PFM - Agent for Domino のインストールとセットアップの手順について説明します。

なお、PFM - Manager のインストールとセットアップの手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.4.1 インストールとセットアップの流れ

クラスタシステムで、論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-5 クラスタシステムで論理ホストとして運用する PFM - Agent for Domino のインストールおよびセットアップの流れ (UNIX の場合)



(凡例)

- : 必須セットアップ項目
- : 場合によって必須となるセットアップ項目
- : オプションのセットアップ項目
- 【 】** : 参照先

注意

論理ホスト環境の PFM - Agent をセットアップしても、物理ホスト環境の PFM - Agent の定義内容は引き継がれません。論理ホスト環境および物理ホスト環境では、インスタンス環境を設定した時点で、新規に環境が作成されます。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業を、オプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。非対話形式のコマンドは、次のような場合に便利です。

- 監視対象との接続に使用するパスワードを定期的に変更したい
- 複数の監視対象を追加する際の作業を効率化したい

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

4.4.2 インストールとセットアップの前に

インストールおよびセットアップを開始する前に前提条件、必要な情報、および注意事項について説明します。

(1) 前提条件

PFM - Agent for Domino をクラスタシステムで使用する場合、次に示す前提条件があります。

(a) クラスタシステム

次の条件が整っていることを確認してください。

- クラスタシステムがクラスタソフトによって制御されていること。
- クラスタソフトが論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino の起動や停止などを制御するように設定されていること。このとき、PFM - Agent for Domino が、監視対象のドミノと連動してフェールオーバーするように設定されていること。

(b) 共有ディスク

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに共有ディスクがあり、実行系ノードから待機系ノードへ引き継げること。
- 共有ディスクが、各ノードに物理的に Fibre Channel や SCSI で接続されていること。
Performance Management では、ネットワークドライブや、ネットワーク経由でレプリケーションしたディスクを共有ディスクとして使う構成はサポートされていません。
- フェールオーバーの際に、何らかの問題によって共有ディスクを使用中のプロセスが残った場合でも、クラスタソフトなどの制御によって強制的に共有ディスクをアンマウントしてフェールオーバーできること。
- 1つの論理ホストで複数の PFM 製品を運用する場合、共有ディスクのディレクトリ名が同じであること。

なお、Store データベースについては格納先を変更して、共有ディスク上のほかのディレクトリに格納できます。

(c) 論理ホスト名、論理 IP アドレス

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに論理ホスト名、および論理ホスト名と対応する論理 IP アドレスがあり、実行系ノードから待機系ノードに引き継げること。
- 論理ホスト名と論理 IP アドレスが、hosts ファイルやネームサーバに設定されていること。
- DNS 運用している場合は、FQDN 名ではなく、ドメイン名を除いたホスト名を論理ホスト名として使用していること。
- 物理ホスト名と論理ホスト名は、システムの中でユニークであること。

注意

- 論理ホスト名に、物理ホスト名 (uname -n コマンドで表示されるホスト名) を指定しないでください。正常に通信処理がされなくなるおそれがあります。
- 論理ホスト名に使用できる文字は、1~32 バイトの半角英数字です。次の記号および空白文字は指定できません。
/ ¥ ; : * ? ' " < > | & = , .
- 論理ホスト名には、"localhost"、IP アドレス、"- "から始まるホスト名を指定できません。

(d) IPv6 を使用する場合の設定

Performance Management では、ネットワーク構成が IPv4 環境だけでなく IPv6 環境にも対応しています。そのため、IPv4 環境と IPv6 環境が混在するネットワーク構成でも、Performance Management を運用できます。

PFM - Agent for Domino では、PFM - Manager と IPv6 で通信できます。ただし、PFM - Agent for Domino および PFM - Manager が導入されているホストの OS が、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Linux の場合に限りです。

IPv4 環境と IPv6 環境での通信の適用範囲については、「付録 L IPv4 環境と IPv6 環境での通信について」を参照してください。

IPv6 で通信する場合、PFM - Manager ホストと PFM - RM ホストのそれぞれで IPv6 の利用設定を有効にする必要があります。この設定は `jpccconf ipv6 enable` コマンドで実行しますが、コマンドの実行要否は次のとおりです。

`jpccconf ipv6 enable` コマンドの実行が必要なケース

- それぞれのホストで、IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager を IPv4 環境から IPv6 環境に変更する場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行が不要なケース

- それぞれのホストが、すでに IPv6 環境である場合
- IPv4 環境と IPv6 環境が共存していて、PFM - Manager が IPv6 環境である場合

jpccconf ipv6 enable コマンドの実行例を次に示します。

```
jpccconf ipv6 enable
```

jpccconf ipv6 enable コマンドは、実行系ノードおよび待機系ノードで、それぞれ実行してください。

jpccconf ipv6 enable コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。また、jpccconf ipv6 enable コマンドを実行する条件やタイミングについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の IPv6 環境が含まれる場合のネットワーク構成例について説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Domino と監視対象ホストを IPv6 で通信する場合、名前解決できる監視対象ホスト名を指定してください。

PFM - Agent for Domino と監視対象との通信は、解決できる IP アドレスで通信します。また、PFM - Agent for Domino と監視対象との通信では、IPv4 と IPv6 が共存した環境の場合、解決できる IP アドレスで通信に失敗したとき、別の IP アドレスで通信することはありません。

例えば、IPv4 で接続に失敗した場合、IPv6 でリトライすることはありません。また、IPv6 で接続に失敗した場合に、IPv4 でリトライすることはありません。事前に接続できることを確認してください。

(2) 論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のセットアップに必要な情報

論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino をセットアップするには、通常の PFM - Agent for Domino のセットアップで必要になる環境情報に加えて、次の表の情報がが必要です。

表 4-4 論理ホスト運用の PFM - Agent for Domino のセットアップに必要な情報

項目	例
論理ホスト名	jpl-hal
論理 IP アドレス	172.16.92.100
共有ディスク	/jpl

なお、1 つの論理ホストで論理ホスト運用する Performance Management のプログラムが複数ある場合も、同じ共有ディスクのディレクトリを使用します。

共有ディスクに必要な容量については、「[付録 A システム見積もり](#)」を参照してください。

(3) PFM - Agent for Domino で論理ホストをフェールオーバーさせる場合の注意事項

PFM - Agent for Domino を論理ホスト運用するシステム構成の場合、PFM - Agent for Domino の障害によって論理ホスト全体をフェールオーバーさせるかどうかを検討してください。

PFM - Agent for Domino の障害で論理ホスト全体をフェールオーバーさせると、PFM - Agent for Domino が監視対象としている同じ論理ホストで運用する業務アプリケーションもフェールオーバーすることになり、業務に影響を与えるおそれがあります。

通常は、PFM - Agent for Domino に異常が発生しても、ドミノの動作に影響がないように、次のどちらかのようにクラスタソフトで設定することをお勧めします。

- PFM - Agent for Domino の動作監視をしない
- PFM - Agent for Domino の異常を検知してもフェールオーバーしない

4.4.3 インストール手順

実行系ノードおよび待機系ノードに PFM - Agent for Domino をインストールします。

■ 注意事項

インストール先はローカルディスクです。共有ディスクにはインストールしないでください。

インストール手順は非クラスタシステムの場合と同じです。インストール手順については、「[3.1.3 インストール手順](#)」を参照してください。

4.4.4 セットアップ手順

ここでは、クラスタシステムで Performance Management を運用するための、セットアップについて説明します。

セットアップ手順には、実行系ノードの手順と、待機系ノードの手順があります。実行系ノード、待機系ノードの順にセットアップしてください。

実行系 は実行系ノードで行う項目を、**待機系** は待機系ノードで行う項目を示します。また、**オプション** は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

(1) PFM - Agent for Domino の登録 実行系 待機系 オプション

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Domino を登録する必要があります。

PFM - Agent for Domino の登録する必要があるのは次の場合です。

- Performance Management システムに新しく PFM - Agent for Domino を追加する場合
- すでに登録している PFM - Agent for Domino のデータモデルのバージョンを更新する場合

登録は PFM - Manager 上および PFM - Web Console 上で実施します。手順は非クラスタシステムの場合と同じです。

手順については、「[3.1.4\(2\) PFM - Agent for Domino の登録](#)」を参照してください。

(2) 共有ディスクのマウント 実行系

共有ディスクがマウントされていることを確認します。共有ディスクがマウントされていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをマウントしてください。

(3) PFM - Agent の論理ホストのセットアップ 実行系

`jpccconf ha setup (jpchasetup create)` コマンドを実行して論理ホスト環境を作成します。コマンドを実行すると、共有ディスクに必要なデータがコピーされ、論理ホスト用の定義が設定されて、論理ホスト環境が作成されます。

注意

コマンドを実行する前に、Performance Management システム全体で、Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド](#)」の Performance Management を運用するための操作について説明している章を参照してください。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha setup (jpchasetup create)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境を作成する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha setup -key Domino -lhost jp1-haldmn -d /jp1 (jpchasetup create agtl -lhost
jp1-haldmn -d /jp1)
```

論理ホスト名は、`-lhost` オプションで指定します。ここでは、論理ホスト名を `jp1-haldmn` としています。DNS 運用をしている場合はドメイン名を省略した論理ホスト名を指定してください。

共有ディスクのディレクトリ名は、`-d` オプションの環境ディレクトリ名に指定します。例えば `-d /jp1` と指定すると `/jp1/jp1pc` が作成されて、論理ホスト環境のファイルが作成されます。

注意

PFM - Agent for Domino はファイルシステムで運用されています。RAW デバイスや ASM でデータベースを構築した場合は、ファイルシステムを共有ディスクに指定してください。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list all (jpchasetup list all)
```

作成した論理ホスト環境が正しいことを確認してください。

(4) 接続先 PFM - Manager の設定 実行系

`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino を管理する PFM - Manager を設定します。

1. `jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行して、接続先 PFM - Manager を設定する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf mgrhost define -s jp1-hal -lhost jp1-haldmn (jpcnshostname -s jp1-hal -lhost jp1-haldmn)
```

接続先 PFM - Manager のホスト名は、`-s` オプションで指定します。接続先 PFM - Manager が論理ホスト運用されている場合は、`-s` オプションに接続先 PFM - Manager の論理ホスト名を指定します。ここでは、PFM - Manager の論理ホスト名を `jp1-hal` としています。

また、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名は、`-lhost` オプションで指定します。ここでは、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名を `jp1-haldmn` としています。

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf mgrhost define` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf mgrhost define` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(5) インスタンス環境を設定する 実行系

`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino のインスタンス環境を設定します。

設定手順は、非クラスタシステムの場合と同じです。ただし、クラスタシステムの場合、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの実行時に、「`-lhost`」で論理ホスト名を指定する必要があります。

クラスタシステムの場合の `jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの指定方法を次に示します。

```
jpccconf inst setup -key Domino -lhost 論理ホスト名 -inst インスタンス名 (jpcinssetup agtl -lhost 論理ホスト名 -inst インスタンス名)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf inst setup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf inst setup` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

このほかの設定内容、および手順については、「3.1.4(3) インスタンス環境の設定」を参照してください。

(6) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ 実行系 オプション

PFM - Agent for Domino のほかに、同じ論理ホストにセットアップする PFM - Manager や PFM - Agent がある場合は、この段階でセットアップしてください。

セットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(7) ネットワークの設定 実行系 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定では次の 2 つの項目を設定できます。

• IP アドレスを設定する

複数の LAN に接続されたネットワーク環境で Performance Management を運用するときには使用する IP アドレスを指定したい場合には、`jpchosts` ファイルの内容を直接編集します。

このとき、編集した `jpchosts` ファイルは、実行系ノードから待機系ノードにコピーしてください。

IP アドレスの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

• ポート番号を設定する

ファイアウォール経由で Performance Management のプログラム間の通信をする場合には、`jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドを使用してポート番号を設定します。

ポート番号の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章、およびクラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(8) ログのファイルサイズ変更 実行系 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 個使用されます。このファイルサイズを変更したい場合に必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(9) パフォーマンスデータの格納先の変更 実行系 オプション

PFM - Agent で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先、エクスポート先、またはインポート先のディレクトリを変更したい場合に必要な設定です。

設定方法については、「[3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更](#)」を参照してください。

(10) 動作ログ出力の設定 実行系 オプション

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「[付録 動作ログの出力](#)」を参照してください。

(11) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート 実行系

PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境が作成できたら、環境定義をファイルにエクスポートします。エクスポートでは、その論理ホストにセットアップされている Performance Management のプログラムの定義情報を一括してファイル出力します。同じ論理ホストにはほかの Performance Management のプログラムをセットアップする場合は、セットアップが一とおり済んだあとにエクスポートしてください。

論理ホスト環境定義をエクスポートする手順を次に示します。

1. `jpccconf ha export (jpchasetup export)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をエクスポートする。

これまでの手順で作成した論理ホスト環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。

例えば、`lhostexp.txt` ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha export -f lhostexp.txt (jpchasetup export -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha export` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha export` コマンドの詳細については、マニュアル「[JP1/Performance Management リファレンス](#)」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(12) 論理ホスト環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー 実行系 待機系

「(11) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート」でエクスポートした論理ホスト環境定義ファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(13) 共有ディスクのアンマウント 実行系 オプション

ファイルシステムをアンマウントして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、ファイルシステムをアンマウントする必要はありません。

注意

共有ディスクをマウントしないでセットアップすると、ローカルディスク上の指定した環境ディレクトリにjp1pc ディレクトリおよびjp1pc ディレクトリ以下のファイルが作成されます。この場合は次の手順で対処してください。

1. ローカルディスク上の指定した環境ディレクトリにあるjp1pc ディレクトリをtar コマンドでアーカイブする。
2. 共有ディスクをマウントする。
3. 共有ディスク上に指定した環境ディレクトリがない場合は、環境ディレクトリを作成する。
4. 共有ディスク上の環境ディレクトリにtar ファイルを展開する。
5. 共有ディスクをアンマウントする。
6. ローカルディスク上の指定した環境ディレクトリにあるjp1pc ディレクトリ以下を削除する。

(14) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート 待機系

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードにインポートします。

実行系ノードで作成した論理ホストの Performance Management のプログラムを、待機系ノードで実行するための設定には、`jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを使用します。1 つの論理ホストに複数の Performance Management のプログラムがセットアップされている場合は、一括してインポートされます。

なお、このコマンドを実行するときには、共有ディスクをマウントしておく必要はありません。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をインポートする。
次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt (jpchasetup import -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が実施されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、同様に設定されます。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。
次のようにコマンドを実行します。

```
jpccnf ha list all (jpchasetup list all)
```

実行系ノードでjpccnf ha list (jpchasetup list)を実行した時と同じ内容が表示されることを確認してください。

(15) クラスタソフトへのPFM - Agentの登録 実行系 待機系

Performance Management のプログラムを論理ホスト環境で運用する場合は、クラスタソフトに登録して、クラスタソフトからの制御で Performance Management のプログラムを起動したり停止したりするように環境設定します。

ここでは、PFM - Agent for Domino をクラスタソフトに登録するときに設定する内容を説明します。

一般に UNIX のクラスタソフトに、アプリケーションを登録する場合に必要な項目は「起動」「停止」「動作監視」「強制停止」の4つがあります。

PFM - Agent for Domino での設定方法を次の表に示します。

表 4-5 クラスタソフトに登録する PFM - Agent for Domino の制御方法

項目	説明
起動	次のコマンドを順に実行して、PFM - Agent for Domino を起動する。 1. jpcspm start -key Action lhost=論理ホスト名 (jpcstart act lhost=論理ホスト名) 2. jpcspm start -key Domino lhost= 論理ホスト名 inst= インスタンス名 (jpcstart agtl lhost= 論理ホスト名 inst= インスタンス名) 起動するタイミングは、共有ディスクおよび論理 IP アドレスが使用できる状態になったあととする。
停止	次のコマンドを順に実行して、PFM - Agent for Domino を停止する。 1. jpcspm stop -key Domino lhost= 論理ホスト名 inst= インスタンス名 (jpcstop agtl lhost= 論理ホスト名 inst= インスタンス名) 2. jpcspm stop -key Action lhost=論理ホスト名 (jpcstop act lhost=論理ホスト名) 停止するタイミングは、共有ディスクおよび論理 IP アドレスを使用できない状態にする前とする。 なお、障害などでサービスが停止しているときは、jpcspm stop(jpcstop)コマンドの戻り値が3になる。この場合はサービスが停止されているので、正常終了と扱う。戻り値で実行結果を判定するクラスタソフトの場合は、戻り値を0にするなどで対応すること。
動作監視	次のプロセスが動作していることを、ps コマンドで確認する。 <pre>ps -ef grep "プロセス名 論理ホスト名" grep -v grep 監視対象のプロセス</pre> 監視対象のプロセスは、次のとおり。 jpcagtl, agtl/jpcsto, jpcah プロセス名については、「付録D プロセス一覧」およびマニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照のこと。なお、運用中にメンテナンスなどで Performance Management を一時的に停止する場合を想定して、動作監視を抑止する方法（例えば、メンテナンス中のファイルがあると監視をしないなど）を用意しておくことを推奨する。

項目	説明
強制停止	<p>強制停止が必要な場合は、次のコマンドを実行する。</p> <pre>jpcspm stop -key all lhost=論理ホスト名 kill=immediate (jpcstop all lhost=論理ホスト名 kill=immediate)</pre> <p>第一引数のサービスキーに指定できるのは、all だけである。</p> <p>注意</p> <p>コマンドを実行すると、指定した論理ホスト環境のすべての Performance Management のプロセスが、SIGKILL 送信によって強制停止される。このとき、サービス単位ではなく、論理ホスト単位で Performance Management が強制停止される。</p> <p>なお、強制停止は、通常の停止を実行しても停止できない場合に限りて実行するよう設定すること。</p>

注意

- クラスタに登録する Performance Management のプログラムは、クラスタから起動および停止を制御しますので、OS 起動時の自動起動設定をしないでください。
- Performance Management のプログラムを日本語環境で実行する場合、クラスタソフトに登録するスクリプトで LANG 環境変数を設定してから、Performance Management のコマンドを実行するようにしてください。
- クラスタソフトがコマンドの戻り値で実行結果を判定する場合は、Performance Management のコマンドの戻り値をクラスタソフトの期待する値に変換するように設定してください。Performance Management のコマンドの戻り値については、各コマンドのリファレンスを確認してください。
- ps コマンドで表示される文字の長さは OS によって異なります。論理ホスト名とインスタンス名を合わせて、47 文字以内になるように設定してください。また、ps コマンドで動作監視する場合、事前に ps コマンドで論理ホストがすべて表示されているか確認してください。表示が途中で切れてしまっている場合は表示されている文字までを監視するように設定してください。なお、ps コマンドでプロセス名および論理ホスト名を特定する場合、ps コマンドがプロセス名および論理ホスト名の取得に失敗することがあります。ps コマンドがプロセス名および論理ホスト名の取得に失敗すると、[] (角括弧) が付いて表示されるケースがあります。OS の ps コマンドのリファレンスを確認して、コマンドを再実行してください。

(16) クラスタソフトからの起動・停止の確認 実行系 待機系

クラスタソフトからの操作で、Performance Management のプログラムの起動および停止を各ノードで実行し、正常に動作することを確認してください。

(17) クラスタシステムでの環境設定 実行系 待機系

Performance Management のプログラムのセットアップ終了後、PFM - Web Console から、運用に合わせて監視対象の稼働状況についてのレポートを表示できるようにしたり、監視対象で問題が発生したときにユーザーに通知できるようにしたりするために、Performance Management のプログラムの環境を設定します。

Performance Management のプログラムの環境設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.5 アンインストールとアンセットアップ (Windows の場合)

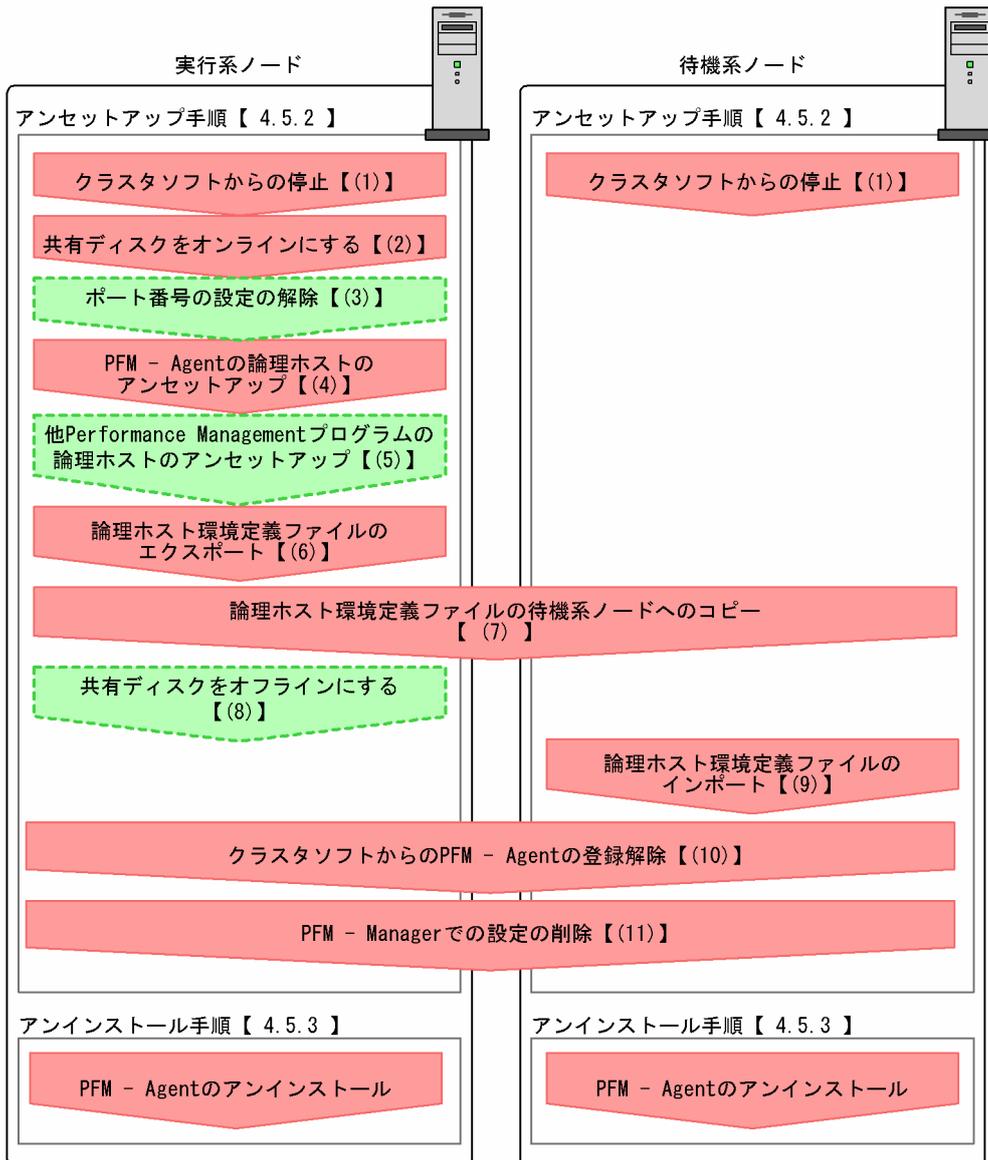
ここでは、クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Domino を、アンインストールする方法とアンセットアップする方法について説明します。

なお、PFM - Manager のアンインストールとアンセットアップについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.5.1 PFM - Agent for Domino のアンインストールとアンセットアップの流れ

クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Domino のアンインストールおよびアンセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-6 クラスタシステムで論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のアンインストールおよびアンセットアップの流れ (Windows の場合)



(凡例)

- : 必須項目
- : オプション項目
- 【 】** : 参照先

PFM - Agent : PFM - Agent for Domino

4.5.2 アンセットアップ手順

論理ホスト環境をアンセットアップします。アンセットアップ手順には、実行系ノードの手順と、待機系ノードの手順があります。実行系ノード、待機系ノードの順にアンセットアップしてください。

実行系 は実行系ノードで行う項目を、**待機系** は待機系ノードで行う項目を示します。また、**オプション** は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

PFM - Agent for Domino のアンセットアップ手順について説明します。

(1) クラスタソフトからの停止 **実行系** **待機系**

クラスタソフトからの操作で、実行系ノードと待機系ノードで起動している Performance Management のプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(2) 共有ディスクをオンラインにする **実行系**

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオンラインにしてください。

(3) ポート番号の設定の解除 **実行系** **オプション**

この手順は、ファイアウォールを使用する環境で、セットアップ時に `jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドでポート番号を設定した場合だけに必要な手順です。

ポート番号の解除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章、およびクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

(4) PFM - Agent の論理ホストのアンセットアップ **実行系**

手順を次に示します。

注意

共有ディスクがオフラインになっている状態で論理ホスト環境を削除した場合は、物理ホスト上に存在する論理ホストの設定だけが削除され、共有ディスク上のディレクトリやファイルは削除されません。この場合、共有ディスクをオンラインにし、環境ディレクトリ以下の `jp1pc` ディレクトリを手動で削除する必要があります。

1. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all -lhost jp1-haldmn (jpchasetup list all -lhost jp1-haldmn)
```

論理ホスト環境をアンセットアップする前に、現在の設定を確認します。論理ホスト名や共有ディスクのパスなどを確認してください。

2. PFM - Agent for Domino のインスタンス環境を削除する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf inst unsetup -key Domino -lhost jp1-haldmn -inst インスタンス名 (jpcinsunsetup agtl -lhost jp1-haldmn -inst インスタンス名)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpccconf inst unsetup コマンドは非対話形式でも実行できます。jpccconf inst unsetup コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

jpccconf inst unsetup (jpcinsunsetup)コマンドを実行すると、論理ホストのインスタンスを起動するための設定が削除されます。また、共有ディスク上のインスタンス用のファイルが削除されます。

3. jpccconf ha unsetup (jpchasetup delete)コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境を削除する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha unsetup -key Domino -lhost jp1-haldmn (jpchasetup delete agtl -lhost jp1-haldmn)
```

jpccconf ha unsetup (jpchasetup delete)コマンドを実行すると、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が削除されます。また、共有ディスク上の論理ホスト用のファイルが削除されます。

4. jpccconf ha list (jpchasetup list)コマンドで、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all (jpchasetup list all)
```

論理ホスト環境から PFM - Agent for Domino が削除されていることを確認してください。

(5) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのアンセットアップ 実行系 オプション

PFM - Agent for Domino のほかに、同じ論理ホストからアンセットアップする Performance Management プログラムがある場合は、この段階でアンセットアップしてください。

アンセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(6) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート 実行系

論理ホストの PFM - Agent for Domino を削除したら、環境定義をファイルにエクスポートします。

Performance Management では、環境定義のエクスポートおよびインポートによって実行系と待機系の環境を合わせる方式を採っています。

実行系ノードでエクスポートした環境定義（Performance Management の定義が削除されている）を、待機系ノードにインポートすると、待機系ノードの既存の環境定義（Performance Management の定義が削除前のままの状態）と比較して差分（実行系ノードで削除された部分）を確認して Performance Management の環境定義を削除します。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha export (jpchasetup export)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をエクスポートする。Performance Management の論理ホスト環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。
例えば、`lhostexp.txt` ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha export -f lhostexp.txt (jpchasetup export -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha export` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha export` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(7) 論理ホスト環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー 実行系 待機系

「(6) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート」でエクスポートしたファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(8) 共有ディスクをオフラインにする 実行系 オプション

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオフラインにして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、オフラインにする必要はありません。

(9) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート 待機系

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードに反映させるためにインポートします。なお、待機系ノードでは、インポート時に共有ディスクをオフラインにする必要はありません。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をインポートする。
次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt (jpchasetup import -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が削

除されます。ほかの論理ホストの Performance Management のプログラムをアンセットアップしている場合は、それらの設定も削除されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、解除されます。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list all (jpchasetup list all)
```

実行系ノードで `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行したときと同じ内容が表示されることを確認してください。

(10) クラスタソフトからの PFM - Agent の登録解除 実行系 待機系

クラスタソフトから、論理ホストの PFM - Agent for Domino に関する設定を削除してください。

設定を削除する方法は、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(11) PFM - Manager での設定の削除 実行系 待機系

PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし、アンセットアップする PFM - Agent for Domino に関連する定義を削除してください。

手順を次に示します。

1. PFM - Web Console から、エージェントを削除する。

2. PFM - Manager のエージェント情報を削除する。

例えば、PFM - Manager が論理ホスト `jp1-hal` 上で動作し、PFM - Agent for Domino が論理ホスト `jp1-haldmn` 上で動作している場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpctool service delete -id サービスID host=jp1-haldmn lhost=jp1-hal (jpcctrl delete サービスID host=jp1-haldmn lhost=jp1-hal)
```

3. サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。

4. PFM - Manager サービスを再起動する。

サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

5. PFM - Manager ホストのサービス情報を反映する。

PFM - Web Console ホストにサービス情報の削除を反映するため、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期します。エージェント情報を同期するには `jpctool service sync` コマンドを使用してください。

4.5.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Domino を実行系ノード、待機系ノードそれぞれからアンインストールします。

アンインストール手順は、非クラスタシステムの場合と同じです。詳細は、「[2.2.3 アンインストール手順](#)」を参照してください。

注意

- PFM - Agent for Domino をアンインストールする場合は、PFM - Agent for Domino をアンインストールするノードの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止してください。
- 論理ホスト環境を削除しないで PFM - Agent for Domino をアンインストールした場合、環境ディレクトリが残ることがあります。その場合は、環境ディレクトリを削除してください。

4.6 アンインストールとアンセットアップ (UNIX の場合)

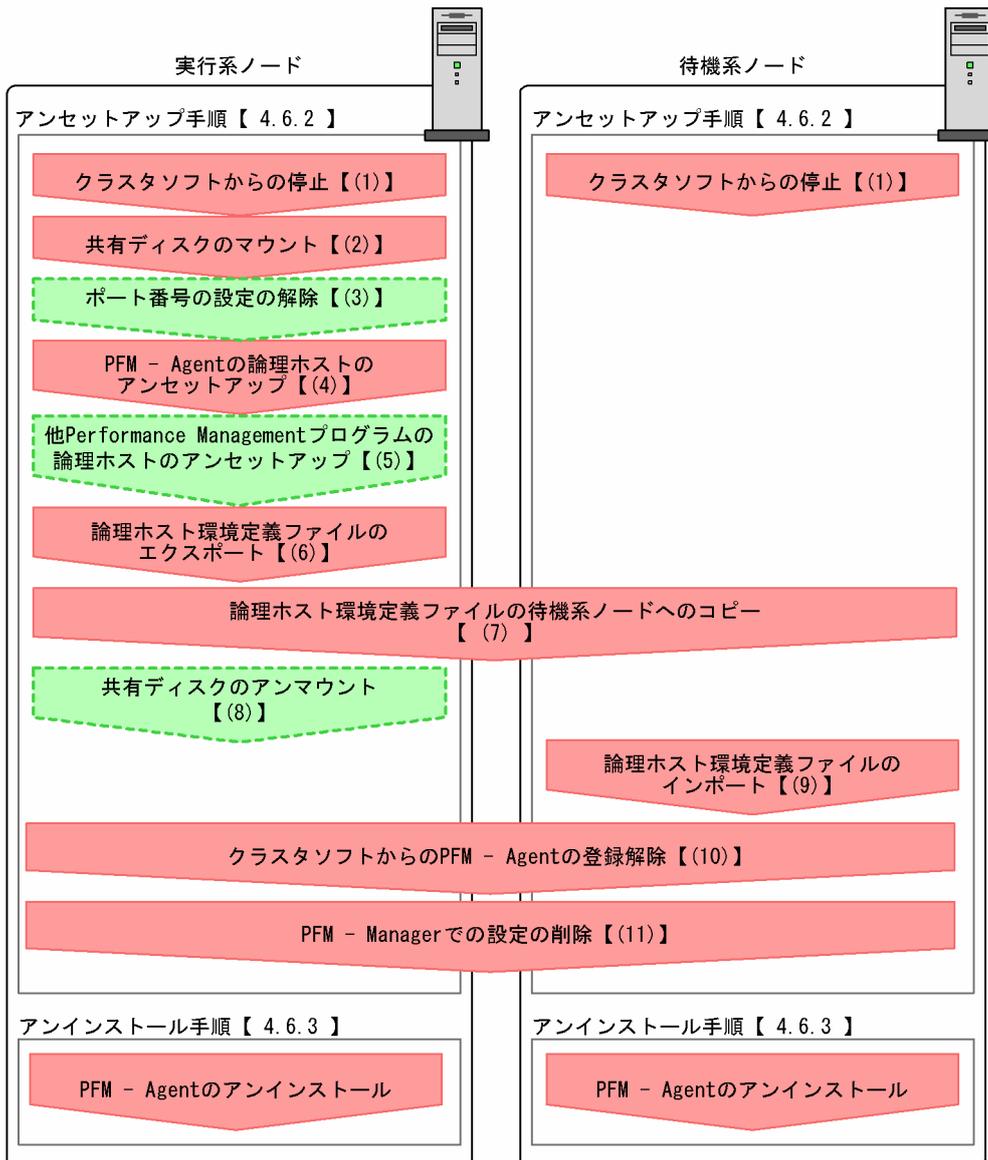
ここでは、クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Domino を、アンインストールする方法とアンセットアップする方法について説明します。

なお、PFM - Manager のアンインストールとアンセットアップについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.6.1 PFM - Agent for Domino のアンインストールとアンセットアップの流れ

クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Domino のアンインストールおよびアンセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-7 クラスタシステムで論理ホスト運用する PFM - Agent for Domino のアンインストールおよびアンセットアップの流れ (UNIX の場合)



(凡例)

赤い矢印 : 必須項目

緑い点線矢印 : オプション項目

【 】 : 参照先

PFM - Agent : PFM - Agent for Domino

4.6.2 アンセットアップ手順

論理ホスト環境をアンセットアップします。アンセットアップ手順には、実行系ノードの手順と、待機系ノードの手順があります。実行系ノード、待機系ノードの順にアンセットアップしてください。

実行系 は実行系ノードで行う項目を、**待機系** は待機系ノードで行う項目を示します。また、**オプション** は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

PFM - Agent for Domino のアンセットアップ手順について説明します。

(1) クラスタソフトからの停止 **実行系** **待機系**

クラスタソフトからの操作で、実行系ノードと待機系ノードで起動している Performance Management のプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(2) 共有ディスクのマウント **実行系**

共有ディスクがマウントされていることを確認します。共有ディスクがマウントされていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをマウントしてください。

注意

共有ディスクがマウントされていなくても、ローカルディスク上のアンセットアップする論理ホストの環境ディレクトリにjp1pc ディレクトリおよびjp1pc ディレクトリ以下のファイルがある場合は、共有ディスクをマウントしないでセットアップしています。この場合は次の手順で対処してください。

1. ローカルディスク上のアンセットアップする論理ホストの環境ディレクトリにあるjp1pc ディレクトリをtar コマンドでアーカイブする。
2. 共有ディスクをマウントする。
3. 共有ディスク上にアンセットアップする論理ホストの環境ディレクトリがない場合は、環境ディレクトリを作成する。
4. 共有ディスク上のアンセットアップする論理ホストの環境ディレクトリにtar ファイルを展開する。
5. 共有ディスクをアンマウントする。
6. ローカルディスク上のアンセットアップする論理ホストの環境ディレクトリにあるjp1pc ディレクトリ以下を削除する。

(3) ポート番号の設定の解除 **実行系** **オプション**

この手順は、ファイアウォールを使用する環境で、セットアップ時にjpcconf port (jpcnsconfig port)コマンドでポート番号を設定した場合だけに必要な手順です。

ポート番号の解除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章、およびクラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(4) PFM - Agent の論理ホストのアンセットアップ 実行系

手順を次に示します。

注意

共有ディスクがマウントされていない状態で論理ホスト環境を削除した場合は、物理ホスト上に存在する論理ホストの設定が削除され、共有ディスク上のディレクトリやファイルは削除されません。この場合、共有ディスクをマウントして、環境ディレクトリ以下の jp1pc ディレクトリを手動で削除する必要があります。

1. jpcconf ha list (jpchasetup list)コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha list -key all -lhost jp1-haldmn (jpchasetup list all -lhost jp1-haldmn)
```

論理ホスト環境をアンセットアップする前に、現在の設定を確認します。論理ホスト名や共有ディスクのパスなどを確認してください。

2. PFM - Agent for Domino のインスタンス環境を削除する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf inst unsetup -key Domino -lhost jp1-haldmn -inst インスタンス名 (jpcinsunsetup agtl -lhost jp1-haldmn -inst インスタンス名)
```

jpcconf inst unsetup (jpcinsunsetup)コマンドを実行すると、論理ホストのインスタンスを起動するための設定が削除されます。また、共有ディスク上のインスタンス用のファイルが削除されます。

3. jpcconf ha unsetup (jpchasetup delete)コマンドを実行して、PFM - Agent for Domino の論理ホスト環境を削除する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha unsetup -key Domino -lhost jp1-haldmn (jpchasetup delete agtl -lhost jp1-haldmn)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpcconf inst unsetup コマンドは非対話形式でも実行できます。jpcconf inst unsetup コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

jpcconf ha unsetup (jpchasetup delete)コマンドを実行すると、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が削除されます。また、共有ディスク上の論理ホスト用のファイルが削除されます。

4. jpcconf ha list (jpchasetup list)コマンドで、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha list -key all (jpchasetup list all)
```

論理ホスト環境から PFM - Agent for Domino が削除されていることを確認してください。

(5) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのアンセットアップ 実行系 オプション

PFM - Agent for Domino のほかに、同じ論理ホストからアンセットアップする PFM - Agent がある場合は、この段階でアンセットアップしてください。

アンセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(6) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート 実行系

論理ホストの PFM - Agent for Domino を削除したら、環境定義をファイルにエクスポートします。

Performance Management では、環境定義のエクスポートおよびインポートによって実行系と待機系の環境を合わせる方式をとっています。

実行系ノードでエクスポートした環境定義（Performance Management の定義が削除されている）を、待機系ノードにインポートすると、待機系ノードの既存の環境定義（Performance Management の定義が削除前のままの状態と定義が残っている）と比較して差分（実行系ノードで削除された部分）を確認して Performance Management の環境定義を削除します。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha export (jpchasetup export)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をエクスポートする。

Performance Management の論理ホスト環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。

例えば、`lhostexp.txt` ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha export -f lhostexp.txt (jpchasetup export -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha export` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha export` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(7) 論理ホスト環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー 実行系 待機系

「(6) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート」でエクスポートしたファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(8) 共有ディスクのアンマウント 実行系 オプション

ファイルシステムをアンマウントして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、ファイルシステムをアンマウントする必要はありません。

(9) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート 待機系

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードに反映させるためにインポートします。なお、待機系ノードでは、インポート時に共有ディスクをアンマウントする必要はありません。

手順を次に示します。

1. `jpccconf ha import (jpchasetup import)` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をインポートする。
次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt (jpchasetup import -f lhostexp.txt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理ホストの PFM - Agent for Domino を起動するための設定が削除されます。ほかの論理ホストの Performance Management のプログラムをアンセットアップしている場合は、それらの設定も削除されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port (jpcnsconfig port)` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、解除されます。

2. `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all (jpchasetup list all)
```

実行系ノードで `jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行したときと同じ内容が表示されることを確認してください。

(10) クラスタソフトからの PFM - Agent の登録解除 実行系 待機系

クラスタソフトから、論理ホストの PFM - Agent for Domino に関する設定を削除してください。

設定を削除する方法は、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(11) PFM - Manager での設定の削除 実行系 待機系

PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし、アンセットアップする PFM - Agent for Domino に関連する定義を削除してください。

手順を次に示します。

1. PFM - Web Console から、エージェントを削除する。
2. PFM - Manager のエージェント情報を削除する。

例えば、PFM - Manager が論理ホスト jp1-hal 上で動作し、PFM - Agent for Domino が論理ホスト jp1-haldmn 上で動作している場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpctool service delete -id サービスID host=jp1-haldmn lhost=jp1-hal (jpcctrl delete サービスID host=jp1-haldmn lhost=jp1-hal)
```

サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。

3. PFM - Manager サービスを再起動する。

サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

4. PFM - Manager ホストのサービス情報を反映する。

PFM - Web Console ホストにサービス情報の削除を反映するため、PFM - Manager ホストと PFM - Web Console ホストのエージェント情報を同期します。エージェント情報を同期するには `jpctool service sync` コマンドを使用してください。

4.6.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Domino を実行系ノード、待機系ノードそれぞれからアンインストールします。

アンインストール手順は、非クラスタシステムの場合と同じです。詳細は、「[3.2.3 アンインストール手順](#)」を参照してください。

注意

- PFM - Agent for Domino をアンインストールする場合は、PFM - Agent for Domino をアンインストールするノードの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止してください。
- 論理ホスト環境を削除しないで PFM - Agent for Domino をアンインストールした場合、環境ディレクトリが残ることがあります。その場合は、環境ディレクトリを削除してください。

4.7 PFM - Agent for Domino の運用方式の変更

ここでは、クラスタシステムで PFM - Agent for Domino の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

4.7.1 インスタンス環境の更新の設定

クラスタシステムでインスタンス環境を更新したい場合は、論理ホスト名とインスタンス名を確認し、インスタンス情報を更新します。インスタンス情報の設定は、実行系ノードの PFM - Agent ホストで実施します。

更新する情報については、「2.4.2 インスタンス環境の更新の設定」(Windows の場合)、または「3.4.2 インスタンス環境の更新の設定」(UNIX の場合)を参照して、あらかじめ確認してください。ドミノサーバのインスタンス情報の詳細については、ドミノサーバのマニュアルを参照してください。

論理ホスト名とインスタンス名を確認するには、`jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを使用します。また、インスタンス環境を更新するには、`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用します。

インスタンス環境を更新する手順を次に示します。複数のインスタンス環境を更新する場合は、この手順を繰り返し実施します。

1. 論理ホスト名とインスタンス名を確認する。

更新したいインスタンス環境で動作している PFM - Agent for Domino を示すサービスキーを指定して、`jpccconf ha list (jpchasetup list)` コマンドを実行します。

例えば、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名とインスタンス名を確認したい場合、次のように指定してコマンドを実行します。

Windows の場合

```
jpccconf ha list -key Domino (jpchasetup list agtl)
```

UNIX の場合

```
jpccconf ha list -key Domino (jpchasetup list agtl)
```

設定されている論理ホスト名が `jp1-haldmn`、インスタンス名が `Domino01` の場合、次のように表示されます。

Logical Host Name	Key	Environment Directory	Instance Name
jp1-haldmn	agtl	論理ホストのパス	Domino01

2. 更新したいインスタンス環境の PFM - Agent for Domino のサービスが起動されている場合は、クラスタソフトからサービスを停止する。

3. 手順 2 で共有ディスクがアンマウントされる場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをマウントする。

4. 更新したいインスタンス環境の PFM - Agent for Domino を示すサービスキーおよびインスタンス名を指定して、`jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行する。

例えば、PFM - Agent for Domino の論理ホスト名が `jp1-haldmn`、インスタンス名が `Domino01` のインスタンス環境を更新する場合、次のように指定してコマンドを実行します。

Windows の場合

```
jpcconf inst setup -key Domino -lhost jp1-haldmn -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -lhost jp1-haldmn -inst Domino01)
```

UNIX の場合

```
jpcconf inst setup -key Domino -lhost jp1-haldmn -inst Domino01 (jpcinssetup agtl -lhost jp1-haldmn -inst Domino01)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpcconf inst unsetup` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpcconf inst unsetup` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

5. ドミノサーバのインスタンス情報を更新する。

PFM - Agent for Domino のインスタンス情報を、コマンドの指示に従って入力します。PFM - Agent for Domino のインスタンス情報については、「[2.4.2 インスタンス環境の更新の設定](#)」(Windows の場合)、または「[3.4.2 インスタンス環境の更新の設定](#)」(UNIX の場合)を参照してください。現在設定されている値が表示されます。表示された値を変更しない場合は、リターンキーだけを押してください。すべての入力が終了すると、インスタンス環境が更新されます。

6. 更新したインスタンス環境のサービスを、クラスタソフトから再起動する。

サービスの起動方法および停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

注意

更新できない項目の値を変更したい場合は、インスタンス環境を削除したあと、再作成してください。

コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

4.7.2 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートは、次の操作を実行した場合だけ実施します。

- 論理ホストのセットアップ、またはインスタンス環境の設定時に、論理ホスト上のノード構成を変更した。

PFM - Agent の論理ホストのセットアップ方法については、次の個所を参照してください。

- Windows の場合：「[4.3.4\(3\) PFM - Agent の論理ホストのセットアップ](#)」
- UNIX の場合：「[4.4.4\(3\) PFM - Agent の論理ホストのセットアップ](#)」

また、インスタンス環境の設定方法については、次の個所を参照してください。

- Windows の場合：「[4.3.4\(5\) インスタンス環境の設定](#)」
- UNIX の場合：「[4.4.4\(5\) インスタンス環境を設定する](#)」
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ時に、論理ホスト環境定義ファイルのエクスポートが必要な操作を実行した。

他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ方法については、次の個所を参照してください。

- Windows の場合：「[4.3.4\(6\) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ](#)」
- UNIX の場合：「[4.4.4\(6\) 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ](#)」
- ネットワークの設定時に、ポート番号を設定した。

ネットワークの設定方法については、次の個所を参照してください。

- Windows の場合：「[4.3.4\(7\) ネットワークの設定](#)」
- UNIX の場合：「[4.4.4\(7\) ネットワークの設定](#)」

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートの手順については次の個所を参照してください。

- Windows の場合：「[4.3.4\(11\) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート](#)」～「[4.3.4\(14\) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート](#)」
- UNIX の場合：「[4.4.4\(11\) 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート](#)」～「[4.4.4\(14\) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート](#)」

なお、インスタンス環境の更新だけを実施した場合は、論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートは不要です。

インスタンス環境の更新方法については、「[4.7.1 インスタンス環境の更新の設定](#)」を参照してください。

5

Notes Log 情報の収集

この章では、PFM - Agent for Domino で Notes Log 情報を収集し、PFM - Web Console で監視するための設定方法について説明します。

5.1 Notes Log 情報の収集の概要

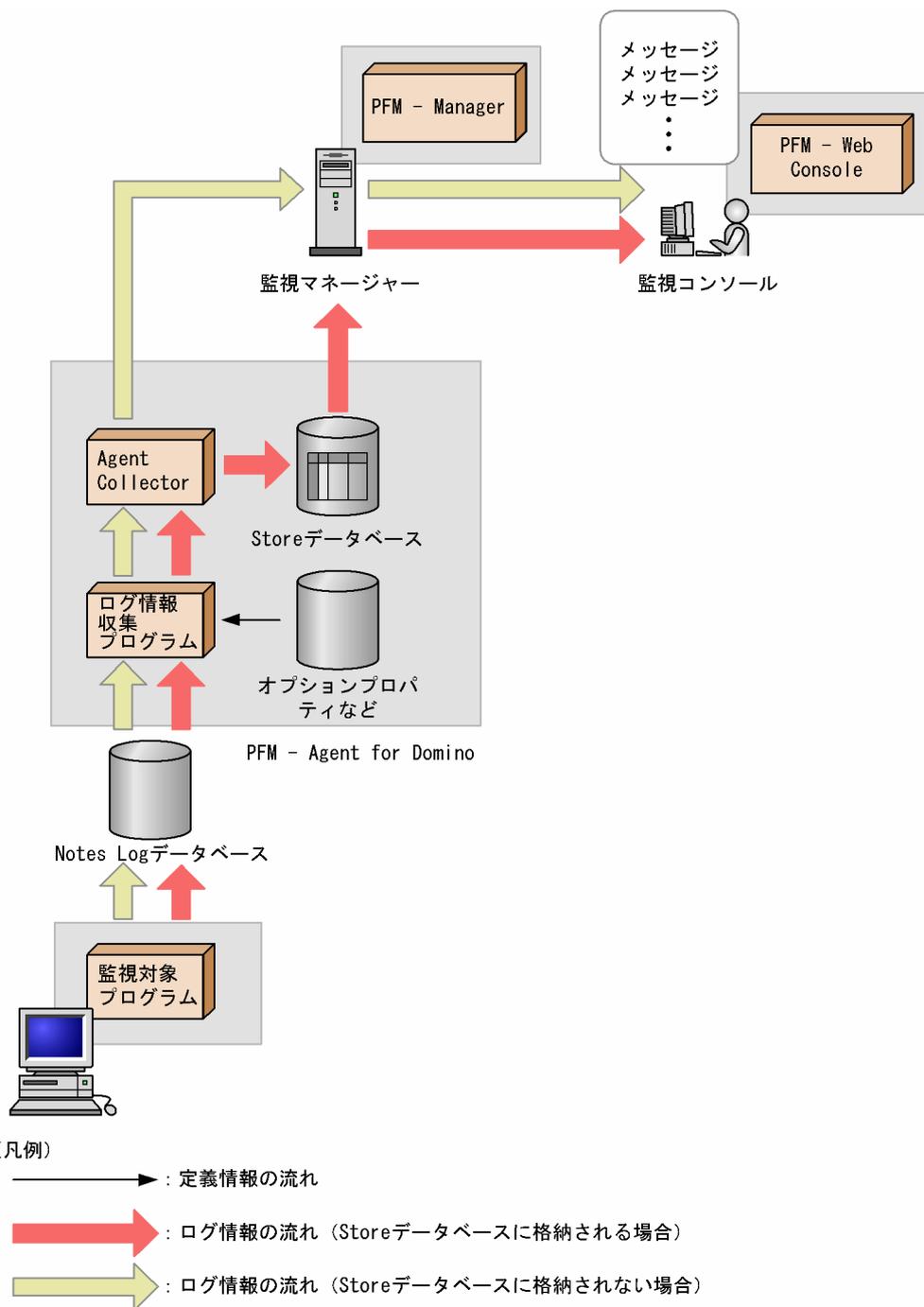
PFM - Agent for Domino では、ドミノサーバの Notes Log (log.nsf) 情報を収集できます。

PFM - Web Console で、エラーメッセージなどの特定のログ情報をしきい値としてアラームに設定しておく、設定したメッセージが出力された場合にユーザーに通知する運用ができます。

PFM - Agent for Domino によって、Agent のプロパティに設定された Notes Log の View 名やフィルター条件を基に、Notes Log データベースから特定のログ情報が収集されます。収集されたログ情報は、Agent Collector によって収集され、PL レコードタイプのレコードである Notes Log Check (PL_PLNL) レコードで管理されます。Notes Log Check (PL_PLNL) レコードは、ほかのレコードと同様に、レポートの表示やアラームでの監視に利用できます。

ログ情報の監視の流れを次の図に示します。

図 5-1 ログ情報の監視の流れ



5.2 ログ情報の収集の設定手順

PFM - Agent for Domino でログ情報を収集し、PFM - Web Console で監視するには、次の手順で設定する必要があります。

1. PFM - Web Console で、Notes Log Check Options プロパティを設定する。
2. PFM - Web Console で、Notes Log Check (PL_PLNL) レコードのパフォーマンスデータを Store データベースに格納するように設定する。
PFM - Web Console で履歴レポートを表示したり、ODBC ドライバを使用した SQL クエリーを実行したりする場合に必要です。
3. PFM - Agent for Domino を再起動する。

各手順の詳細について次に説明します。

5.2.1 Notes Log Check Options プロパティの設定

ログ情報を収集するには、PFM - Agent for Domino の Notes Log Check Options プロパティに、収集する Notes Log データベースの View 名やフィルター条件などの情報を設定する必要があります。

(1) Notes Log Check Options プロパティの設定手順

Notes Log Check Options プロパティの設定手順を次に示します。

1. PFM - Web Console で、PFM - Agent for Domino のプロパティを表示する。
2. プロパティから、Notes Log Check Options を選択する。
3. Notes Log Check Options の次のプロパティを設定する。

ViewName Include SearchDays

各プロパティについて次に説明します。

ViewName

検索対象にする Notes Log データベースの View 名を指定します。複数指定する場合は、半角コンマ区切りで指定してください。

- ・最大指定数：3
 - ・指定可能 View 名：Miscellaneous Events, Mail Routing Events, Replication Events
- デフォルト値：Miscellaneous Events

Include

Notes Log から収集したいメッセージに含まれる文字列を記述したファイルの絶対パスを 128 バイト以内で指定します。ファイルの書式については、「(2) Include ファイルの書式」を参照してください。

デフォルト値：

- ・ Windows の場合
インストール先フォルダ%agtl%agent%インスタンス名%include.txt
- ・ UNIX の場合
/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/include.txt

SearchDays

Notes Log 情報をさかのぼって収集する日数を、0~366 の整数で指定します。

デフォルト値：1

レポート収集時やアラームによる稼働監視時の動作は以下になります。

- ・ 履歴レポート、アラームによる稼働監視の場合
PFM - Agent for Domino のサービス停止期間中に記録された Notes Log 情報をサービス起動後、最初の収集時に「SearchDays の指定日数^{※1}」分だけさかのぼり、収集します。
ただし、前回の PFM - Agent for Domino のサービス起動期間中にすでに収集された Notes Log 情報は収集しません。
- ・ リアルタイムレポートの場合
リアルタイムレポートの表示時間から「SearchDays の指定日数^{※2}」分だけさかのぼった時間を収集対象とします。

注※1

指定日数を 0 とした場合、PFM - Agent for Domino のサービス停止期間中の Notes Log 情報を収集しません。

注※2

指定日数を 0 とした場合、レポート表示時に新たな Notes Log 情報が存在しないため、Notes Log 情報は収集されません。

リアルタイムレポートを一定時間ごとに自動更新した場合には、前回収集時からの差分情報を収集します。

(2) Include ファイルの書式

Include ファイルは監視を実行している PFM - Agent ホスト上に作成します。ファイルは通常のテキストファイル形式で次の書式で作成してください。

[識別子] 検索文字列 検索文字列 :

識別子

識別子には収集されたログ情報を識別するための任意の文字列（7ビットアスキー）を指定します。16バイト以内の文字列で、最大10個まで指定できます。このパラメーターで指定した値は、Notes Log Check (PL_PLNL) レコードの Message Text (MESSAGE_TEXT) フィールドの先頭文字列として付加されます。

検索文字列

識別子に対して、ログ情報を検索するための任意の文字列（7ビットアスキー）を指定します。128バイト以内の文字列で、最大32個まで指定できます。複数の検索文字列を指定した場合、AND条件として検索します。検索文字列は大文字、小文字を区別しません。識別子で「[]」を使用するため、検索文字列の先頭に「[]」は指定できません。

検索を複数条件の OR 条件として指定したい場合は、識別子を別にして同一形式で続けて指定します。複数条件の OR 条件で検索する場合の指定例を次に示します。

```
[#REPL_ERR]
Replica
Failed
[#TRNS_ERR]
Transmit
Unsuccessful
```

指定例のように指定した場合、識別子「[#REPL_ERR]」の条件は、「Replica」という文字列（Replicaを含む文字列）と「Failed」という文字列を共に含む（AND）ログだけ収集されます。また、識別子「[#TRNS_ERR]」の条件は、「Transmit」という文字列（Transmitを含む文字列）と「Unsuccessful」という文字列を共に含む（AND）ログだけ収集されます。

指定例には2つの識別子が定義されているため、最終的に収集されるログは、「[#REPL_ERR]」条件を満たしているログ、または（OR）「[#TRNS_ERR]」条件を満たしているログになります。

次のようなログが発生している場合のログ収集結果について次に示します。

```
Replication successful.      => 収集されない
Replication failed.         => 収集される
収集結果=> <#REPL_ERR>:<View名>:Replication failed.
STMP mail receive failed.   => 収集されない
Message Transmit Unsuccessful. => 収集される
収集結果=> <#TRNS_ERR>:<View名>:Message Transmit Unsuccessful.
```

5.2.2 Log Records プロパティの設定

履歴レポートを表示したり、ODBC ドライバを使用した SQL クエリーを実行したりする場合、PFM - Web Console で、Notes Log Check (PL_PLNL) レコードのパフォーマンスデータを Store データベースに格納するように設定します。

PFM - Web Console の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Store データベースの管理について説明している章を参照してください。

5.2.3 ログ情報の収集の注意事項

Notes Log Check (PL_PLNL) レコードを使用して、メッセージを監視する場合の注意事項を次に示します。

- アラーム定義の条件式で監視できる文字列は、Notes Log Check (PL_PLNL) レコードに格納される 132 バイトまでです。Notes Log Check (PL_PLNL) レコードに格納される文字列には、識別子などのヘッダー情報が含まれるため、監視できるメッセージの長さは、132 バイトからヘッダー情報の分だけ短くなります。
- 133 バイト以上の文字列を監視するためには、PFM - Agent for Domino の Include ファイルの設定で監視したい文字列をフィルター条件として設定します。このときにメッセージに任意の識別子も設定します。この識別子をアラーム定義の条件式に設定することで、フィルター条件として設定した文字列を含むメッセージを監視できるようになります。

例えば、文字列 ABC を含むメッセージを監視したい場合、PFM - Agent for Domino の Include ファイルの設定で識別子に@ERROR を設定し、フィルター条件にABC を設定します。

```
[@ERROR]
ABC
```

その後、PFM - Web Console の [アラームウィザード - アラーム条件式] ダイアログボックスで、異常値または警告値にしきい値として*@ERROR*を設定します。

この設定によって、文字列 ABC を含むメッセージには@ERROR という識別子がヘッダー情報として設定されます。PFM - Web Console では@ERROR の文字列を含むメッセージが発生するとアラームが通知されます。文字列の監視については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

- Notes Log Check (PL_PLNL) レコードの 1 回の収集で検索条件に合致するログ情報が複数個ある場合、収集できるレコード数は 256 までです。監視対象の View 名を複数指定した場合、それぞれの View で収集できるレコード数は指定数で割った数字となりますので、View を 2 つ指定した場合は、それぞれ 128 レコード、View を 3 つ指定した場合は、それぞれ 85 レコードが上限となります。検索条件に合致するログ情報が 257 レコード以上ある場合は、検索条件を絞り込んでください。

6

任意の統計値情報収集

この章では、PFM - Agent for Domino で任意の統計値情報を収集し、PFM-Web Console で監視するための設定方法について説明します。

6.1 任意の統計値情報収集の概要

PFM - Agent for Domino では、ドミノサーバの任意の統計値を設定すると、その統計値情報を収集できます。

PFM - Agent for Domino がデフォルトで収集対象にしていない統計値情報の収集や、PFM-Web Console で特定の統計値についてアラームを設定しておく、しきい値を使用してユーザーに通知する運用ができます。

PFM - Agent for Domino によって、PFM - Agent for Domino のプロパティに設定された統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) を基に、ドミノサーバの統計値情報が収集されます。収集された統計値情報は、Agent Collector によって収集され、PI レコードタイプのレコードである User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードで管理されます。

User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードは、ほかのレコードと同様に、レポートの表示やアラームでの監視に利用できます。

6.2 任意の統計値情報収集の設定手順

PFM - Agent for Domino で任意の統計値情報を収集し、PFM-Web Console で監視するには、次の手順で設定する必要があります。

1. PFM-Web Console で、User Defined Stat Options プロパティを設定する。
2. PFM-Web Console で、User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードのパフォーマンスデータを Store データベースに格納するように設定する。
PFM-Web Console で履歴レポートを表示したり、ODBC ドライバを使用した SQL クエリーを実行したりする場合に必要な設定です。
3. PFM - Agent for Domino を再起動する。

各手順の詳細について次に説明します。

6.2.1 User Defined Stat Options プロパティの設定

任意の統計値情報を収集するには、PFM - Agent for Domino の User Defined Stat Options プロパティに、統計情報定義ファイルのパス名を設定する必要があります。

(1) User Defined Stat Options プロパティの設定手順

User Defined Stat Options プロパティの設定手順を次に示します。

1. PFM-Web Console で、PFM - Agent for Domino のプロパティを表示する。
2. プロパティから、「User Defined Stat Options」を選択する。
3. User Defined Stat Options の StatDefine.ini プロパティを設定する。

StatDefine.ini プロパティには、PFM - Agent for Domino で収集対象にする統計値を定義した統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) の絶対パスを 255 バイト以下で指定します。統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) の書式については、「(2) 統計情報定義ファイル (StatDefine.ini)」を参照してください。

(2) 統計情報定義ファイル (StatDefine.ini)

統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) は、監視を実行している PFM - Agent ホスト上に作成します。

(a) 統計情報定義ファイルの書式と設定内容

統計情報定義ファイルは通常のテキストファイル形式で、次の書式で作成してください。

統計情報定義ファイルの書式

```
[SUB1]
sign="識別子1"
value="統計値名1"
[SUB2]
sign="識別子2"
value="統計値名2"
:
[SUB32]
sign="識別子32"
value="統計値名32"
```

統計情報定義ファイルの設定項目と設定できる値を次の表に示します。

表 6-1 統計情報定義ファイルの設定項目と設定できる値

設定項目	説明	設定できる値
[SUB1], [SUB2], ..., [SUB32]	統計値の区切りとして使用するサブセクション名を指定する。サブセクション名は、32 個まで指定できる。	[SUBn] n は数値。通番で指定する。
sign	統計値を識別するための識別子を指定する。	半角英数字 31 バイト以内の文字列。
value	収集対象にする統計値名※を指定する。	127 バイト以内の文字列。 文字列の大文字、小文字は区別される。

注※

統計値情報は、すべて浮動小数点を含む数値として収集されます。このため、収集された値が文字列となる統計値情報の統計値名は指定できません。

統計値名については、event4.nsf 内に格納されている統計値名を参照するか、またはドミノサーバコンソールから show stat コマンドを実行して、その実行結果から統計値名を参照してください。

(b) 統計情報定義ファイルの作成例と収集イメージ

統計情報定義ファイルの作成例と、ドミノサーバの統計値情報の収集イメージを次に示します。

統計情報定義ファイルの作成例

```
[SUB1]
sign=Paging_AVG
value=Platform.Memory.PagesPerSec.Avg
[SUB2]
sign=Paging_PEAK
value=Platform.Memory.PagesPerSec.Peak
```

ドミノサーバの統計値情報の収集イメージ

Record Time	sign	value
2009/03/30 18:20	Paging_AVG	0.2
2009/03/30 18:20	Paging_PEAK	1.2

6.2.2 PI Records プロパティの設定

履歴レポートを表示したり、ODBC ドライバを使用した SQL クエリーを実行したりする場合、PFM-Web Console で、User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードのパフォーマンスデータを Store データベースに格納するように設定します。

PFM-Web Console の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」およびマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Store データベースの管理について説明している章を参照してください。

6.3 任意の統計値情報収集の注意事項

User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードを使用して、監視を行う場合の注意事項を次に示します。

- サブセクション名 ([SUB3]など) を 33 個以上指定した場合、33 個目以降は無視されます。
- `sign` に指定する識別子は、必ずユニークになるように指定してください。ただし、識別子が重複している場合でもエラーになりません。同一識別子の場合は、`StatDefine.ini` ファイルの最初のほうに記述されているサブセクション ([SUB1]など) の統計値情報は収集されますが、あとに記述されているサブセクションの統計値情報は収集されません。
- `value` に指定できる統計値名は、数値形式の値が格納されるものだけです。文字列形式の値が格納される統計値名を指定した場合は、常に値が 0 で収集されます。また、指定した統計値がドミノサーバ上で発生していない (統計値として存在していない) 場合、値は収集されません。
- `StatDefine.ini` ファイルへの絶対パスが誤っている場合、またはファイルに読み込み権限がない場合、統計値情報は収集されません。また、`StatDefine.ini` ファイルの書式に誤りがあり、ファイルの内容が読み込めない場合も、統計値情報は収集されません。

7

監視テンプレート

この章では、PFM - Agent for Domino の監視テンプレートについて説明しています。

監視テンプレートの概要

Performance Management では、次の方法でアラームとレポートを定義できます。

- PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをそのまま使用する
- PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをコピーしてカスタマイズする
- ウィザードを使用して新規に定義する

PFM - Agent で定義されているアラームやレポートを「監視テンプレート」と呼びます。監視テンプレートのレポートとアラームは、必要な情報があらかじめ定義されているので、コピーしてそのまま使用したり、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズしたりできます。そのため、ウィザードを使用して新規に定義をしなくても、監視対象の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

この章では、PFM - Agent for Domino で定義されている監視テンプレートのアラームとレポートの設定内容について説明します。

監視テンプレートの使用方法の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

注意

監視テンプレートのアラームに設定されているしきい値は参考例です。監視テンプレートのアラームを使用する場合は、コピーして、環境や OS に合わせて適切なしきい値を設定してください。

アラームの記載形式

ここでは、アラームの記載形式を示します。アラームは、アルファベット順に記載しています。

アラーム名

監視テンプレートのアラーム名を示します。

概要

このアラームで監視できる監視対象の概要について説明します。

主な設定

このアラームの主な設定値を、表で説明します。この表では、アラームの設定値と、PFM - Web Console の [アラーム階層] 画面でアラームアイコンをクリックし、[プロパティの表示] メソッドをクリックしたときに表示される、[プロパティ] 画面の設定項目との対応を示しています。各アラームの設定の詳細については、PFM - Web Console のアラームの [プロパティ] 画面で確認してください。

設定値の「-」は、設定が常に無効であることを示します。

なお、条件式で異常条件と警告条件が同じ場合は、アラームイベントは異常のものだけが発行されます。

アラームテーブル

このアラームが格納されているアラームテーブルを示します。

関連レポート

このアラームに関連する、監視テンプレートのレポートを示します。PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントアイコンをクリックし、[アラームの状態の表示] メソッドで表示される



アイコンをクリックすると、このレポートを表示できます。

アラーム一覧

PFM - Agent for Domino の監視テンプレートで定義されているアラームは、「PFM Domino Template Alarms 09.00」というアラームテーブルにまとめられています。「09.00」は、アラームテーブルのバージョンを示します。このアラームテーブルは、PFM - Web Console の [Performance Management - Web Console] ウィンドウの [アラーム階層] 画面に表示される「Domino」フォルダに格納されています。監視テンプレートで定義されているアラームを次の表に示します。

表 7-1 アラーム一覧

アラームテーブル名※	アラーム名	監視対象
PFM Domino Template Alarms 09.00	Availability	現在のドミノサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標（可用性インデックス）。
	DataDirectory Usage	データディレクトリの使用率。
PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00	DataDirectory Usage	データディレクトリの使用率。
	DB Response	ドミノサーバのデータベースアクセスチェックに掛かった時間。
PFM Domino Template Alarms [LOG] 09.00	Log Detect	Notes Log Check Options プロパティに指定した条件（文字列）と一致する Notes Log 情報。
PFM Domino Template Alarms [MAIL] 09.00	Dead Mail	MAIL.BOX 内の送信無効（配信不可能）メール数。
	Router Down	ドミノサーバのノーツメール送信チェックに掛かった時間。
	Waiting Mail	MAIL.BOX にある送信待ちメールの数。
PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00	Availability	現在のドミノサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標（可用性インデックス）。
	Server Down	ドミノサーバのドミノポート（NRPC）アクセスチェックに掛かった時間。
PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00	HTTP Down	ドミノサーバの HTTP ポートアクセスチェックに掛かった時間。
	IMAP Down	ドミノサーバの IMAP ポートアクセスチェックに掛かった時間。
	LDAP Down	ドミノサーバの LDAP ポートアクセスチェックに掛かった時間。
	NNTP Down	ドミノサーバの NNTP ポートアクセスチェックに掛かった時間。
	POP3 Down	ドミノサーバの POP3 ポートアクセスチェックに掛かった時間。
	SMTP Down	ドミノサーバの SMTP ポートアクセスチェックに掛かった時間。

注※

アラームテーブル名の[]内の表示は、アラームテーブルが対応している監視項目を示しています。

Availability (PFM Domino Template Alarms 09.00)

概要

Availability アラームは、ドミノサーバの利用可能状況（可用性）をインデックス（0～100）で評価します。100 が最も負荷が軽く、100%利用可能な状態であることを示します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(3.0)
	メッセージテキスト	Availability is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	AvailabilityIndex
	異常条件	AvailabilityIndex<=60
	警告条件	AvailabilityIndex<=80

(凡例)

—：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/System Overview Summary

Availability (PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00)

概要

Availability アラームは、ドミノサーバの利用可能状況（可用性）をインデックス（0～100）で評価します。100 が最も負荷が軽く、100%利用可能な状態であることを示します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(3.0)
	メッセージテキスト	Availability is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	AvailabilityIndex
	異常条件	AvailabilityIndex<=60
	警告条件	AvailabilityIndex<=80

(凡例)

—：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/System Overview Summary

DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms 09.00)

概要

DataDirectory Usage アラームは、ドミノサーバのデータディレクトリの使用率を監視します。この割合の高い状態が慢性的に続く場合は、ディスクの空き容量を増やすか、またはディスクの増強を検討する必要があります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(3.0)
	メッセージテキスト	DataDirectory Usage is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	Disk Datadir Drive Usage
	異常条件	Disk Datadir Drive Usage >=90
	警告条件	Disk Datadir Drive Usage >=80

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/System Overview Summary

DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00)

概要

DataDirectory Usage アラームは、ドミノサーバのデータディレクトリの使用率を監視します。この割合の高い状態が慢性的に続く場合は、ディスクの空き容量を増やすか、またはディスクの増強を検討する必要があります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(3.0)
	メッセージテキスト	DataDirectory Usage is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	Disk Datadir Drive Usage
	異常条件	Disk Datadir Drive Usage >=90
	警告条件	Disk Datadir Drive Usage >=80

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/System Overview Summary

DB Response

概要

DB Response アラームは、特定の DB にアクセスできるかを監視します。DB にアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、DB Response アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

DB Response アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「Database Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。チェック対象となるデータベース名「DBFileName」には、デフォルトで「help/readme.nsf」が設定されています。

Lotus Domino R8.5 以降を監視対象とする場合、「help/readme.nsf」は存在しないため、アクセスエラーとなります。「DBFileName」の値をシステムに存在するデータベース名（「help/help85_client.nsf」など）に変更してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「[付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧](#)」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	DB Response is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
アクション	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)
	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=DBACS ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=DBACS ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Server Status Summary (4.0)

Dead Mail

概要

Dead Mail アラームは、デッドメール（送信無効（配信不可能）メール）の発生を監視します。MAIL.BOX内のデッドメールが一定数を越えた場合に、アラームを発行します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	Dead Mail is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	Mail Dead
	異常条件	Mail Dead >=30
	警告条件	Mail Dead >=10

(凡例)

—：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [MAIL] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Dead Mail Status Summary

HTTP Down

概要

HTTP Down アラームは、HTTP サーバタスクがダウンしていないかを監視します。HTTP ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、HTTP Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

HTTP Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「HTTP Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	HTTP Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=HTTP ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=HTTP ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

IMAP Down

概要

IMAP Down アラームは、IMAP サーバタスクがダウンしていないかを監視します。IMAP ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、IMAP Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

IMAP Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「IMAP Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	IMAP Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=IMAP ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=IMAP ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

LDAP Down

概要

LDAP Down アラームは、LDAP サーバタスクがダウンしていないかを監視します。LDAP ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、LDAP Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

LDAP Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「LDAP Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	LDAP Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=LDAP ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=LDAP ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

Log Detect

概要

Log Detect アラームは、Notes Log 情報（ログ情報）内に特定の文字列が出力されていないかを監視します。デフォルトの Include ファイル（include.txt）は、次のディレクトリに格納されます。

- Windows の場合
インストール先フォルダ¥agl¥agent¥インスタンス名¥
- UNIX の場合
/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/

デフォルトの Include ファイルを使用すると、「fatal」、「panic」の文字列を監視できます。Include ファイルをカスタマイズすると、任意の文字列を監視できます。検索文字列と一致した Notes Log 情報が検出された場合に、アラームを発行します。

Log Detect アラームの推奨設定

Log Detect アラームのプロパティで、次の項目を有効（オン）にしておくことを推奨します。

- 「常にアラーム通知する」
- 「すべてのデータを評価する」

Log Detect アラームのプロパティは、編集画面で設定します。編集画面は、PFM Domino Template Alarms [LOG] 09.00 のアラームテーブルを任意の名称でコピーし、コピー先の Log Detect アラームのプロパティを選択したあと、「編集」を選択すると表示できます。

Log Detect アラームのプロパティをデフォルトの設定で使用する場合と、推奨設定で使用する場合の違いについて、次の表に示します。

Log Detect アラームのプロパティ	デフォルトの設定（オフ）で使用する場合	推奨設定（オン）で使用する場合
常にアラーム通知する	<ul style="list-style-type: none">• すでにアラーム状態である場合、新たに Notes Log が検出されてもアラームは通知されません。• 一度アラーム状態となった場合、そのままではアラーム状態は解除されません。Notes Log を確認したあと、PFM Domino Template Alarms [LOG] 09.00 のアラームテーブルを再バインドして、正常な状態に戻す必要があります。	<ul style="list-style-type: none">• アラーム状態であるかどうかに関係なく、Notes Log が検出された場合、常にアラームが通知されます。• Notes Log が検出された場合でもアラーム状態は変更されません。そのため、アラームテーブルの再バインドなどの操作は必要ありません。Notes Log を連続して監視できます。
すべてのデータを評価する	一回の収集で複数のログが検出された場合、最初に検出されたログに対してだけアラームが通知されます。	一回の収集で複数のログが検出された場合、それぞれのログに対してアラームが通知されます。

注意事項

Log Detect アラームは、log.nsf 内の文書を検索して検出を行います。Notes Log が出力されてから実際に log.nsf に書き込まれるまでにはタイムラグがあります。このため、Log Detect アラームによる文字列の検出は、リアルタイムで実施されません。

また、デフォルトで使用された場合、文字列が検出されて、一度アラーム状態となると、そのままではアラーム状態が解除されません。Notes Log を確認したあと、PFM Domino Template Alarms [LOG] 09.00 のアラームテーブルを再バインドして正常な状態に戻してください。

なお、任意の文字列を検索対象としたい場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Notes Log Check Options」 - 「Include」の項目に設定されているテキストファイルを編集してください。「Include」ファイルの記述方法については、「5. Notes Log 情報の収集」を参照してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Log Records」 - 「PL_PLNL」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	Log is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	する
	すべてのデータを評価する	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Notes Log Check Overview (PL_PLNL)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	MessageText
	異常条件	MessageText =*
	警告条件	MessageText =*

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [LOG] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Notes Log Status Summary (4.0)

NNTP Down

概要

NNTP Down アラームは、NNTP サーバタスクがダウンしていないかを監視します。NNTP ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、NNTP Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

NNTP Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「NNTP Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	NNTP Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=NNTP ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=NNTP ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

POP3 Down

概要

POP3 Down アラームは、POP3 サーバタスクがダウンしていないかを監視します。POP3 ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、POP3 Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

POP3 Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「POP3 Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	POP3 Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=POP3 ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=POP3 ResponseTime=-1

(凡例)

— : 設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

Router Down

概要

Router Down アラームは、Router サーバタスクがダウンしていないかを監視します。指定したユーザーにノーツメールを送信して反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、Router Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

Router Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「Notes Mail Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については「[付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧](#)」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	Router Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName,ResponseTime
	異常条件	CheckName=NMAIL ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=NMAIL ResponseTime=-1

(凡例)

－：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [MAIL] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Router Status Summary (4.0)

Server Down

概要

Server Down アラームは、ドミノサーバがダウンしていないかを監視します。ドミノポート（NRPC）にアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、Server Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

Server Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「Domino Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	Server Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName,ResponseTime
	異常条件	CheckName=NRPC ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=NRPC ResponseTime=-1

(凡例)

－：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Server Status Summary (4.0)

SMTP Down

概要

SMTP Down アラームは、SMTP サーバタスクがダウンしていないかを監視します。SMTP ポートにアクセスして反応がない場合にダウンしたと判断して、アラームを発行します。

注意事項

デフォルトの場合、SMTP Down アラームのステータスは、「正常」のままとなります。

SMTP Down アラームを使用する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Health Check Options」 - 「SMTP Port Check」の項目を設定したあと、「Check」に「Yes」を設定してください。また、関連レポートを表示する場合は、PFM - Agent for Domino のプロパティ「Interval Records」 - 「PI_PIHC」の「Log」に「Yes」を設定してください。PFM - Agent for Domino のプロパティの詳細については、「付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	SMTP Down is %CVS2
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	5
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式	フィールド	CheckName, ResponseTime
	異常条件	CheckName=SMTP ResponseTime=-1
	警告条件	CheckName=SMTP ResponseTime=-1

(凡例)

－：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [TASK] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Task Status Summary (4.0)

Waiting Mail

概要

Waiting Mail アラームは、滞留メール（送信待ちメール）の発生を監視します。MAIL.BOX 内の滞留メールが一定数を越えた場合に、アラームを発行します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Domino(4.0)
	メッセージテキスト	Waiting Mail is %CVS
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	常にアラーム通知する	しない
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI_PI)
	フィールド	Mail Waiting
	異常条件	Mail Waiting>=30
	警告条件	Mail Waiting>=10

(凡例)

—：設定は常に無効です。

アラームテーブル

PFM Domino Template Alarms [MAIL] 09.00

関連レポート

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/Waiting Mail Status Summary

レポートの記載形式

ここでは、レポートの記載形式を示します。レポートは、アルファベット順に記載しています。各レポートの説明は、次の項目から構成されています。

レポート名

監視テンプレートのレポート名を示します。同名のレポートが複数存在する場合は、レポートが表示する情報をレポート名に続けて括弧付きで記載します。

概要

このレポートで表示できる情報の概要について説明します。

格納先

このレポートの格納先を示します。

レコード

このレポートで使用するパフォーマンスデータが格納されているレコードを示します。履歴レポートを表示するためには、この欄に示すレコードを収集するように、あらかじめ設定しておく必要があります。レポートを表示する前に、PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントのプロパティを表示して、このレコードが「Log = Yes」に設定されているか確認してください。

なお、リアルタイムレポートの場合、設定する必要はありません。

フィールド

このレポートで使用するレコードのフィールドについて、表で説明します。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

このレポートに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM - Web Console のレポートウィンドウのドリルダウンレポートプルダウンメニューから、該当するドリルダウンレポート名を選択し、[レポートの表示] をクリックしてください。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

このレポートのフィールドに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM - Web Console のレポートウィンドウのグラフ、一覧、または表をクリックしてください。履歴レポートの場合、時間項目からドリルダウンレポートを表示することで、より詳細な時間間隔でレポートを表示できます。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

ドリルダウンレポートについての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。

レポートのフォルダ構成

PFM - Agent for Domino のレポートのフォルダ構成を次に示します。< >内は、フォルダ名を示します。

```
<Domino>
+-- <Monthly Trend>
|   +-- DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent)
|   +-- Domino Memory Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- Login Users Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- Names Database Size Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- Replication Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- Server Transaction Status Trend (Multi-Agent)
|   +-- System Overview Trend (Multi-Agent)
|   +-- TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent)
+-- <Status Reporting>
|   +-- <Daily Trend>
|   |   +-- Dead Mail Status (Multi-Agent)
|   |   +-- Domino Agent Failed Status Summary
|   |   +-- Login Users Status (Multi-Agent)
|   |   +-- Waiting Mail Status (Multi-Agent)
|   |   +-- <Advanced>
|   |   |   +-- Mail Service Quality Status
|   |   |   +-- TCP Service Quality Status
|   +-- <Real-Time>
|   |   +-- DbCache Usage Status
|   |   +-- Domino Memory Status
|   |   +-- Health Check Status (4.0)
|   |   +-- HTTP Commands Status
|   |   +-- Login Users Status
|   |   +-- Mail Delivery Status
|   |   +-- Names Database Access Status
|   |   +-- Replication Status
|   |   +-- Server Transaction Status
|   |   +-- System Overview
|   |   +-- TCPIP Connection Status
+-- <Troubleshooting>
|   +-- <Real-Time>
|   |   +-- Database Access Status - Top 10 Databases
|   |   +-- Database Note Count Status - Top 10 Databases
|   |   +-- Database Size Status - Top 10 Databases
|   |   +-- Expired Mail Status - Top 10 Databases
|   |   +-- Mail Database Size Status - Top 10 Databases
|   |   +-- <Drilldown Only>
|   |   |   +-- Cluster Manager Detail
|   |   |   +-- Cluster Replication Detail
|   |   |   +-- Database Cache Detail
|   |   |   +-- Mail Deliveries Detail
|   +-- <Recent Past>
|   |   +-- DbCache Usage Status Summary
|   |   +-- Dead Mail Status Summary
|   |   +-- Domino Memory Status Summary
|   |   +-- Login Users Status Summary
|   |   +-- Replication Status Summary
|   |   +-- Waiting Mail Status Summary
```

```
+--- Notes Log Status Summary (4.0)
+--- Router Status Summary (4.0)
+--- Server Status Summary (4.0)
+--- Task Status Summary (4.0)
```

各フォルダの説明を次に示します。

- 「Monthly Trend」フォルダ
最近 1 か月間の 1 日ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。1 か月のシステムの傾向を分析するために使用します。
- 「Status Reporting」フォルダ
日ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。システムの総合的な状態を見るために使用します。また、履歴レポートのほかにリアルタイムレポートの表示もできます。
 - 「Daily Trend」フォルダ
最近 24 時間の 1 時間ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。1 日ごとにシステムの状態を確認するために使用します。
 - 「Real - Time」フォルダ
システムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。
- 「Troubleshooting」フォルダ
トラブルを解決するのに役立つ情報を表示するレポートが格納されています。システムに問題が発生した場合、問題の原因を調査するために使用します。
 - 「Real - Time」フォルダ
現在のシステムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。
 - 「Recent Past」フォルダ
最近 1 時間の 1 分ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。

さらに、これらのフォルダの下位には、次のフォルダがあります。

- 「Advanced」フォルダ
デフォルトで「Log=No」に設定されているレコードを使用しているレポートが格納されています。このフォルダのレポートを表示するには、使用しているレコードの設定を PFM - Web Console で「Log = Yes」にする必要があります。
- 「Drilldown Only」フォルダ
ドリルダウンレポート（フィールドレベル）として表示されるレポートが格納されています。そのレポートのフィールドに関連する詳細な情報を表示するために使用します。

レポート一覧

PFM - Agent for Domino の監視テンプレートで定義されているレポートは次のとおりです。

表 7-2 監視テンプレートのレポート一覧

レポートの種類		レポート名	表示する情報
リアルタイムレポート	クラスタ情報	Cluster Manager Detail	クラスタマネージャについての詳細情報。
		Cluster Replication Detail	クラスタレプリケータについての詳細情報。
	サーバ情報	Health Check Status (4.0)	ドミノサーバの稼働状況についての情報
		Domino Memory Status	ドミノサーバが使用するメモリーについての統計情報。
		System Overview	ドミノサーバ利用状況の概要。
		Login Users Status	ドミノサーバのログイン状況についての情報。
		Replication Status	複製についての統計情報。
		Server Transaction Status	サーバトランザクションの統計情報。
	データベース情報	Database Access Status - Top 10 Databases	アクセスの多い上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報。
		Database Note Count Status - Top 10 Databases	格納されている文書数の多い上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報。
		Database Size Status - Top 10 Databases	使用サイズの大きい上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報。
		Names Database Access Status	Names データベースのアクセス統計情報。
		DbCache Usage Status	データベースキャッシュについての概要統計情報。
		Database Cache Detail	データベースキャッシュについての詳細情報。
		Expired Mail Status - Top 10 Databases	滞留メールが多い上位 10 個のメールデータベースのリアルタイム情報。
		Mail Database Size Status - Top 10 Databases	使用サイズの大きい上位 10 個のメールデータベースのリアルタイム情報。
	ネットワーク情報	TCPIP Connection Status	TCPIP ポートについての統計情報。
	サービス情報	Mail Delivery Status	メール転送についての統計情報。
		Mail Deliveries Detail	メール配信についての詳細情報。
		HTTP Commands Status	HTTP サーバについての統計情報。
DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent)		ドミノデータディレクトリについての統計情報。	

レポートの種類		レポート名	表示する情報
リアルタイムレポート	サービス情報	Domino Memory Status Summary	最近 1 時間のドミノサーバが使用するメモリについての統計情報。
履歴レポート	サーバ情報	Domino Memory Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバが使用するメモリについての統計情報。
		Login Users Status Summary	最近 1 時間のドミノサーバのログイン状況についての情報。
		Login Users Status	最近 24 時間の 1 時間ごとのドミノサーバのログイン状況についての情報。
		Login Users Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバのログイン状況についての情報。
		Replication Status Summary	最近 1 時間の複製についての統計情報。
		Replication Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとの複製についての統計情報。
		Server Transaction Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとのサーバトランザクションの統計情報。
		System Overview Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバ利用状況の概要。
データベース情報	データベース情報	DbCache Usage Status Summary	最近 1 時間のデータベースキャッシュについての概要統計情報。
		Names Database Size Status Trend (Multi-Agent)	Names データベースの使用率についての統計情報。
エージェント情報	エージェント情報	Domino Agent Failed Status Summary	ドミノエージェント実行状況についての情報。
ネットワーク情報	ネットワーク情報	TCP Service Quality Status	各 TCP サービス (HTTP や POP3 など) のポートアクセスに対するレスポンス時間の情報。
		TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとの TCPIP ポートについての統計情報。
サービス情報	サービス情報	Dead Mail Status Summary	最近 1 時間のデッドメールの状況についての情報。
		Dead Mail Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の 1 時間ごとのデッドメールの状況についての情報。
		Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとのメール転送についての統計情報。
		Mail Service Quality Status	テストメールに対するドミノのレスポンス時間の情報。

レポートの種類		レポート名	表示する情報
履歴レポート	サービス情報	Waiting Mail Status Summary	最近 1 時間の滞留メールの状況についての情報。
		Waiting Mail Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の 1 時間ごとの滞留メールの状況についての情報。
		HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の 1 日ごとの HTTP サーバについての統計情報。
		Notes Log Status Summary (4.0)	最近 1 時間に、指定したフィルター条件で検出された Notes Log 情報。
		Router Status Summary (4.0)	最近 1 時間の Router タスクの稼働状況についての情報。
		Server Status Summary (4.0)	最近 1 時間のドミノポート (NRPC) アクセス、およびデータベースアクセスの稼働状況についての情報。
		Task Status Summary (4.0)	最近 1 時間のサーバタスク (各通信ポート) の稼働状況についての情報。

Cluster Manager Detail

概要

Cluster Manager Detail レポートは、ドミノクラスタマネージャについての詳細情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/Drilldown Only/

レコード

Server Detail (PD_PDSV)

フィールド

フィールド名	説明
Cluster Name	サーバが属するクラスタの名前。
Failover Failed	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。
Failover Success	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。
FailoverBP Failed	クライアントがパス名によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。
FailoverBP Success	クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。
LoadBalance Failed	サーバがビジー状態の場合、クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。
LoadBalance Success	サーバがビジー状態の場合、クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。
LoadBalanceBP Failed	サーバがビジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。
LoadBalanceBP Success	サーバがビジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。
OpenReq ClusterBusy	サーバがビジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。
OpenReq DatabaseOutOfService	クライアントが、サーバのサービスする範囲外のデータベースを開こうとした回数。
OpenReq LoadBalanced	サーバがビジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。
ProbeCount	サーバがほかのクラスタメンバーへ調査要求を完了した回数。
ProbeError	サーバがほかのサーバを調査する場合に、エラーを受信した回数。

Cluster Replication Detail

概要

Cluster Replication Detail レポートは、ドミノクラスタレプリケータについての詳細情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/Drilldown Only/

レコード

Replica Detail (PD_PDRP)

フィールド

フィールド名	説明
Cluster Docs Added	クラスタレプリケータによって追加された文書数。
Cluster Docs Deleted	クラスタレプリケータによって削除された文書数。
Cluster Docs Updated	クラスタレプリケータによって更新された文書数。
Cluster Failed	サーバ起動後に失敗した複製の数。
Cluster Files Local	サーバ上のクラスタレプリカの数。
Cluster Files Remote	クラスタ内のほかのサーバ上のクラスタレプリカの数。
Cluster Retry Skipped	クラスタレプリケータが、サーバに到達できなかった、またはデータベースにアクセスできなかったために複製されなかった回数。
Cluster Retry Waiting	再試行待ちの複製の数。
Cluster SecondsOnQueue	クラスタレプリケータがキュー上にあった秒数。
Cluster SecondsOnQueue Avg	クラスタレプリケータがキュー上にあった平均秒数。
Cluster SecondsOnQueue Max	クラスタレプリケータがキュー上にあった最長秒数。
Cluster Servers	サーバから複製を受け取ったクラスタ上のほかのサーバの数。
Cluster SessionBytes In	クラスタレプリケータが受信したバイト数。
Cluster SessionBytes Out	クラスタレプリケータが送信したバイト数。
Cluster Success	サーバ起動後に成功した複製の数。
Cluster WorkQueueDepth	クラスタレプリケータによってほかのサーバに複製されるキューを待っている、変更されたデータベースの数。
Cluster WorkQueueDepth Avg	クラスタレプリケータによってほかのサーバに複製されるキューを待っている、変更されたデータベースの平均数。
Cluster WorkQueueDepth Max	クラスタレプリケータによってほかのサーバに複製されるキューを待っている、変更されたデータベースの最大数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Cluster Manager Detail	クラスタマネージャに関する詳細レポート

Database Access Status - Top 10 Databases

概要

Database Access Status - Top 10 Databases レポートは、アクセスの多い上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/

レコード

Database Knowledge Overview (PI_PIDK)

フィールド

フィールド名	説明
Database Access	データベースがインターバル時間内にアクセスされた回数。
Database Filename	データベースのファイル名。
Database Title	データベースのタイトル。

Database Cache Detail

概要

Database Cache Detail レポートは、データベースキャッシュについての詳細情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/Drilldown Only/

レコード

Database Detail (PD_PDDB)

フィールド

フィールド名	説明
DbCache CurrentEntries	データベースキャッシュの現行エントリー数。
DbCache HighWaterMark	データベースキャッシュの最大サイズ。
DbCache Hits	データベースキャッシュのヒット数。
DbCache InitialDbOpens	データベースキャッシュによって開かれたデータベースの数。
DbCache Lookups	データベースキャッシュの参照回数。
DbCache MaxEntries	データベースキャッシュの最大エントリー数。
DbCache OvercrowdRejects	データベースキャッシュがいっぱいになったときの拒否回数。
NSFPool Peak	データベース NSF プールの最大数。
NSFPool Used	データベース NSF プールの数。

Database Note Count Status - Top 10 Databases

概要

Database Note Count Status - Top 10 Databases レポートは、格納されている文書数の多い上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/

レコード

Database Knowledge Overview (PI_PIDK)

フィールド

フィールド名	説明
Database Note Counts	データベース内に格納されている文書数。
Database Filename	データベースのファイル名。
Database Title	データベースのタイトル。

Database Size Status - Top 10 Databases

概要

Database Size Status - Top 10 Databases レポートは、使用サイズの大きい上位 10 個のデータベースのリアルタイム情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/

レコード

Database Knowledge Overview (PI_PIDK)

フィールド

フィールド名	説明
Database Filename	データベースのファイル名。
Database Free Kbytes	データベース内の未使用サイズ。
Database Size Kbytes	データベースのサイズ。
Database Title	データベースのタイトル。

DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent)

概要

DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノデータディレクトリについての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Disk Datadir Drive Free Kbytes	ドミノデータディレクトリのあるドライブの未使用サイズ。キロバイト単位。
Disk Datadir Drive Size Kbytes	ドミノデータディレクトリのあるドライブのサイズ。キロバイト単位。
Disk Datadir Drive Usage	ドミノデータディレクトリのあるドライブの使用率。

DbCache Usage Status

概要

DbCache Usage Status レポートは、データベースキャッシュについての概要統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
DbCache Entries Usage	データベースキャッシュの使用率。
DbCache OvercrowdRejects	データベースキャッシュがいっぱいのときの拒否回数。

DbCache Usage Status Summary

概要

DbCache Usage Status Summary レポートは、最近 1 時間のデータベースキャッシュについての概要統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
DbCache Entries Usage	データベースキャッシュの使用率。
DbCache OvercrowdRejects	データベースキャッシュがいっぱいのときの拒否回数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Database Cache Detail	データベースキャッシュに関する詳細レポート

Dead Mail Status Summary

概要

Dead Mail Status Summary レポートは、最近 1 時間のデッドメールの状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail Dead	MAIL.BOX 内の送信無効（配信不可能）メール数。
Mail Dead UserCustom	デッドメールの状態になってから、ユーザーが指定した一定時間を経過したデッドメール数。

ドリルダウンレポート（レポートレベル）

レポート名	説明
Mail Deliveries Detail	メール配信に関する詳細レポート

Dead Mail Status (Multi-Agent)

概要

Dead Mail Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとのデッドメールの状況についての情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail Dead UserCustom	デッドメールの状態になってから、ユーザーが指定した一定時間を経過したデッドメール数。

Domino Agent Failed Status Summary

概要

Domino Agent Failed Status Summary レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとのドミノエージェント実行状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Agent Daily UnsuccessRuns	1 日ごとのドミノエージェント実行に失敗した数。
Agent Hourly UnsuccessRuns	1 時間ごとのドミノエージェント実行に失敗した数。

Domino Memory Status

概要

Domino Memory Status レポートは、ドミノサーバが使用するメモリについての統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Alloc Kbytes	サーバによって割り当てられたメモリの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Process Kbytes	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Shared Kbytes	共有メモリとして割り当てられたサーバのメモリの合計。キロバイト単位。
Mem Free Kbytes	サーバの使用可能メモリの合計。キロバイト単位。

Domino Memory Status Summary

概要

Domino Memory Status Summary レポートは、最近 1 時間のドミノサーバが使用するメモリーについての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Alloc Kbytes	サーバによって割り当てられたメモリーの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Process Kbytes	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリーの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Shared Kbytes	共有メモリーとして割り当てられたサーバのメモリーの合計。キロバイト単位。
Mem Free Kbytes	サーバの使用可能メモリーの合計。キロバイト単位。

Domino Memory Status Trend (Multi-Agent)

概要

Domino Memory Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバが使用するメモリーについての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Alloc Kbytes	サーバによって割り当てられたメモリーの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Process Kbytes	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリーの合計。キロバイト単位。
Mem Alloc Shared Kbytes	共有メモリーとして割り当てられたサーバのメモリーの合計。キロバイト単位。

Expired Mail Status - Top 10 Databases

概要

Expired Mail Status - Top 10 Databases レポートは、滞留メールが多い上位 10 個のメールデータベースのリアルタイム情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/

レコード

Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)

フィールド

フィールド名	説明
Database Filename	メールデータベースのファイル名。
Database Title	メールデータベースのタイトル。
Expired Mails	有効期間を超過したメール数。

Health Check Status (4.0)

概要

Health Check Status (4.0) レポートは、ドミノサーバの稼働状況を表示します。このレポートは PFM - Agent for Domino の Health Check Options プロパティで指定された項目だけ情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

Health Check Overview (PI_PIHC)

フィールド

フィールド名	説明
CheckName	ドミノサーバの稼働監視のタイプ。
ResponseTime	ドミノサーバの稼働監視に掛かった時間。ミリ秒単位。

HTTP Commands Status

概要

HTTP Commands Status レポートは、HTTP サーバについての統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Cmd Login	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ログイン」した URL の数。
Cmd OpenDatabase	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「データベースをオープンした」 URL の数。
Reqs Tot	リクエストの総数。

HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent)

概要

HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとの HTTP サーバについての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Cmd Login	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ログイン」した URL の数。
Cmd OpenDatabase	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「データベースを開いた」 URL の数。
Reqs Tot	リクエストの総数。

Login Users Status

概要

Login Users Status レポートは、ドミノサーバのログイン状況をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Users	サーバでセッションを開いているユーザーの数。

Login Users Status Summary

概要

Login Users Status Summary レポートは、最近 1 時間のドミノサーバのログイン状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Users	サーバでセッションを開いているユーザーの数。

Login Users Status Trend (Multi-Agent)

概要

Login Users Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバログイン状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Users	サーバでセッションを開いているユーザーの数。

Login Users Status (Multi-Agent)

概要

Login Users Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとのドミノサーバのログイン状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Users	サーバでセッションを開いているユーザーの数。

Mail Database Size Status - Top 10 Databases

概要

Mail Database Size Status - Top 10 Databases レポートは、使用サイズの大きい上位 10 個のメールデータベースのリアルタイム情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/

レコード

Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)

フィールド

フィールド名	説明
Database Filename	メールデータベースのファイル名。
Database Title	メールデータベースのタイトル。
Database Size Kbytes	メールデータベースの確保サイズ。

Mail Deliveries Detail

概要

Mail Deliveries Detail レポートは、メール配信についての詳細情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Real - Time/Drilldown Only/

レコード

Mail Detail (PD_PDML)

フィールド

フィールド名	説明
AvgDeliverTime	メール送信の平均時間。
AvgServerHops	送信メールの平均サーバ中継数。
AvgSizeDelivered	送信メールの平均サイズ。
Delivered	ルーターによって MAIL.BOX に格納されたメールの数。
MaxDeliverTime	メール送信の最長時間。
MaxServerHops	送信メールの最大サーバ中継数。
MaxSizeDelivered	送信メールの最大サイズ。
MinDeliverTime	メール送信の最短時間。
MinServerHops	送信メールの最小サーバ中継数。
MinSizeDelivered	送信メールの最小サイズ。
TotFailures	失敗メールの合計数。
TotKBXferd	転送メールの合計キロバイト数。
TotPending	送信待ちメール数。
TotRouted	メールボックスからほかのサーバに転送されたメールの数。
TotRouted SMTP	メールボックスから SMTP 経由で転送されたメールの数。
TotRouter NRPC	メールボックスから NRPC 経由で転送されたメールの数。
Xferd	ルーターが転送したメールの数。
XferFailures	ルーターが転送できなかったメールの数。

Mail Delivery Status

概要

Mail Delivery Status レポートは、メール転送についての統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail TotRouted	メールボックスからほかのサーバに転送されたメールの数。
Mail XferFailures	ルーターが転送できなかったメールの数。
Mail Xferd	ルーターが転送したメールの数。

Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent)

概要

Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのメール転送についての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail TotRouted	メールボックスからほかのサーバに転送されたメールの数。
Mail XferFailures	ルーターが転送できなかったメールの数。
Mail Xferd	ルーターが転送したメールの数。

Mail Service Quality Status

概要

Mail Service Quality Status レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとのテストメールに対するドミノのレスポンス時間を表示します。Mail Service Quality Status レポートを使用するには、次の 2 つの前提条件があります。

- Lotus Notes/Domino のバージョンが R5.0.x 以降であり、ISpy サーバタスクが起動している。
- メール調査用サーバ文書が正しく設定されている。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM)

フィールド

フィールド名	説明
ServerName	調査対象ドミノのサーバ名。
ResponseTime	テストメールに対するレスポンス時間。秒単位。

Names Database Access Status

概要

Names Database Access Status レポートは、Names データベースのアクセス統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Database Names Access	Names.nsf データベースへのアクセス数。

Names Database Size Status Trend (Multi-Agent)

概要

Names Database Size Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとの Names データベースの使用率についての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Database Names Free Kbytes	Names.nsf データベースの未使用サイズ。
Database Names Size Kbytes	Names.nsf データベースのサイズ。
Database Names Usage	Names.nsf データベースの使用率。

Notes Log Status Summary (4.0)

概要

Notes Log Status Summary (4.0) レポートは、最近 1 時間に、指定したフィルター条件で検出された Notes Log 情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

Notes Log Check Overview (PL_PLNL)

フィールド

フィールド名	説明
Record Time	レコードが作成された時刻。
Message Text	指定したフィルター条件と一致した Notes Log のメッセージ。 次の形式で格納される。 識別子:Notes Log の View 名:ログテキスト

Replication Status

概要

Replication Status レポートは、複製についての統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Repl Cluster Failed	サーバ起動後、失敗した複製の数。
Repl Docs Added	複製によってサーバ上のデータベースに追加された文書数。
Repl Docs Deleted	複製によってサーバ上のデータベースから削除された文書数。
Repl Docs Updated	複製によって更新されたサーバ上のデータベースの文書数。
Repl Failed	エラーが返された複製の数。
Repl Success	成功した複製の数。

Replication Status Summary

概要

Replication Status Summary レポートは、最近 1 時間の複製についての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Repl Cluster Failed	サーバ起動後、失敗した複製の数。
Repl Docs Added	複製によってサーバ上のデータベースに追加された文書数。
Repl Docs Deleted	複製によってサーバ上のデータベースから削除された文書数。
Repl Docs Updated	複製によって更新されたサーバ上のデータベースの文書数。
Repl Failed	エラーが返された複製の数。
Repl Success	成功した複製の数。

ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Cluster Replication Detail	クラスタレプリケータに関する詳細レポート

Replication Status Trend (Multi-Agent)

概要

Replication Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとの複製についての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Repl Cluster Failed	サーバ起動後、失敗した複製の数。
Repl Docs Added	複製によってサーバ上のデータベースに追加された文書数。
Repl Docs Deleted	複製によってサーバ上のデータベースから削除された文書数。
Repl Docs Updated	複製によって更新されたサーバ上のデータベースの文書数。
Repl Failed	エラーが返された複製の数。
Repl Success	成功した複製の数。

Router Status Summary (4.0)

概要

Router Status Summary (4.0) レポートは、最近 1 時間の Router タスクの稼働状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

Health Check Overview (PI_PIHC)

フィールド

フィールド名	説明
Check Name	ドミノサーバの稼働監視のタイプ。 ノーツメール送信チェックを示す識別子「NMAIL」で固定。
ResponseTime	ドミノサーバの稼働監視に掛かった時間（Router タスクがノーツメール送信に掛かった時間）。ミリ秒単位。 Router タスクが正常に稼働していない場合は「-1」。

Server Status Summary (4.0)

概要

Server Status Summary (4.0) レポートは、最近 1 時間のドミノポート (NRPC) アクセス、およびデータベースアクセスの稼働状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

Health Check Overview (PI_P1HC)

フィールド

フィールド名	説明
Check Name	ドミノサーバの稼働監視のタイプ。 ドミノポート (NRPC) アクセスチェックを示す識別子「NRPC」、またはデータベースアクセスチェックを示す識別子「DBACS」。
ResponseTime	ドミノサーバの稼働監視に掛かった時間 (ドミノポート (NRPC) アクセス、またはデータベースアクセスに掛かった時間)。ミリ秒単位。 ドミノポート (NRPC) アクセス、またはデータベースアクセスが正常に稼働していない場合は「-1」。

Server Transaction Status

概要

Server Transaction Status レポートは、サーバトランザクションの統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Trans Tot	サーバが開始してからのトランザクションプロセス数。
Session Dropped	処理中に異常終了したセッションの数。

Server Transaction Status Trend (Multi-Agent)

概要

Server Transaction Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのサーバトランザクションの統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Trans Tot	サーバが開始してからのトランザクションプロセス数。
Session Dropped	処理中に異常終了したセッションの数。

System Overview

概要

System Overview レポートは、ドミノサーバ利用状況の概要をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
AvailabilityIndex	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は 0 から 100。0 は使用できるリソースがないことを示す。値が 100 のときは利用可能。
DbCache Entries Usage	データベースキャッシュの使用率。
Disk Datadir Drive Usage	ドミノデータディレクトリのあるドライブの使用率。

System Overview Trend (Multi-Agent)

概要

System Overview Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとのドミノサーバ利用状況概要を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
AvailabilityIndex	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は 0 から 100。0 は使用できるリソースがないことを示す。値が 100 のときは利用可能。
DbCache Entries Usage	データベースキャッシュの使用率。
Disk Datadir Drive Usage	ドミノデータディレクトリのあるドライブの使用率。

Task Status Summary (4.0)

概要

Task Status Summary (4.0) レポートは、最近 1 時間のサーバタスク（各通信ポート）の稼働状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

Health Check Overview (PI_PIHC)

フィールド

フィールド名	説明
Check Name	ドミノサーバの稼働監視のタイプ。 各通信ポートアクセスチェックを示す識別子「HTTP」、「SMTP」、「POP3」、 「IMAP」、「LDAP」または「NNTP」。
ResponseTime	ドミノサーバの稼働監視に掛かった時間（各通信ポートアクセスチェックに掛かった時間）。ミリ秒単位。 各通信ポートが正常に稼働していない場合は「-1」。

TCP Service Quality Status

概要

TCP Service Quality Status レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとの各 TCP サービスのポートアクセスに対するレスポンス時間を表示します。TCP Service Quality Status レポートを使用するには、次の 2 つの前提条件があります。

- Lotus Notes/Domino のバージョンが R5.0.x 以降であり、ISpy サーバタスクが起動している。
- TCP サーバリソース調査用サーバ文書が正しく設定されている。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Quality of Service Overview (PI_PIQS)

フィールド

フィールド名	説明
TCP Service Type	調査対象の TCP サービス名。
ServerName	調査対象ドミノのサーバ名。
Monitor ID	調査 ID。
ResponseTime	ポートアクセスに対するレスポンス時間。ミリ秒単位。

TCPIP Connection Status

概要

TCPIP Connection Status レポートは、TCPIP ポートについての統計情報をリアルタイムで表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Real - Time/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
TCPIP Kbytes Rcvd	TCPIP ポートでのインターバル時間内の受信キロバイト数。
TCPIP Kbytes Sent	TCPIP ポートでのインターバル時間内の送信キロバイト数。
TCPIP Session Estab In	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッション確立数 (受信側)。
TCPIP Session Estab Out	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッション確立数 (送信側)。

TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent)

概要

TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent) レポートは、最近 1 か月間の 1 日ごとの TCPIP ポートについての統計情報を表示します。

格納先

Reports/Domino/Monthly Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
TCPIP Kbytes Rcvd	TCPIP ポートでのインターバル時間内の受信キロバイト数。
TCPIP Kbytes Sent	TCPIP ポートでのインターバル時間内の送信キロバイト数。
TCPIP Session Estab In	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッション確立数 (受信側)。
TCPIP Session Estab Out	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッション確立数 (送信側)。

Waiting Mail Status Summary

概要

Waiting Mail Status Summary レポートは、最近 1 時間の滞留メールの状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail Waiting	MAIL.BOX にある送信待ちメールの数。
Mail Waiting UserCustom	ユーザーが指定した時間以上、メールボックス内に滞留しているメール数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Mail Deliveries Detail	メール配信に関する詳細レポート

Waiting Mail Status (Multi-Agent)

概要

Waiting Mail Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の 1 時間ごとの滞留メールの状況を表示します。

格納先

Reports/Domino/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

System Overview (PI_PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mail Waiting UserCustom	ユーザーが指定した時間以上、メールボックス内に滞留しているメール数。

8

レコード

この章では、PFM - Agent for Domino のレコードについて説明します。各レコードのパフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の Performance Management の機能について説明している章、または「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

データモデルについて

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。各 PFM - Agent と、その PFM - Agent が持つデータモデルには、それぞれ固有のバージョン番号が付与されています。PFM - Agent for Domino のデータモデルのバージョンについては、「[付録 I バージョン互換](#)」を参照してください。

各 PFM - Agent のデータモデルのバージョンは、PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントのプロパティを表示して確認してください。

データモデルについては、マニュアル「[JP1/Performance Management 設計・構築ガイド](#)」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

レコードの記載形式

この章では、PFM - Agent for Domino のレコードをアルファベット順に記載しています。各レコードの説明は、次の項目から構成されています。

機能

各レコードに格納されるパフォーマンスデータの概要および注意事項について説明します。

デフォルト値および変更できる値

各レコードに設定されているパフォーマンスデータの収集条件のデフォルト値およびユーザーが変更できる値を表で示します。「デフォルト値および変更できる値」に記載している項目とその意味を次の表に示します。この表で示す各項目については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

表 8-1 デフォルト値および変更できる値

項目	意味	変更可否
Collection Interval ^{※1}	パフォーマンスデータの収集間隔（秒単位）。	○：変更できる。 ×：変更できない。
Collection Offset ^{※2}	パフォーマンスデータの収集を開始するオフセット値（秒単位）。オフセット値については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。 また、パフォーマンスデータの収集開始時刻については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。	
Log	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうか。 Yes：記録する。ただし、「Collection Interval=0」の場合、記録しない。 No：記録しない。	
LOGIF	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうかの条件。	

注※1

指定できる値は 0～2,147,483,647 秒です。

注※2

指定できる値は、0～32,767 秒（Collection Interval で指定した値の範囲内）です。これは、複数のデータを収集する場合に、一度にデータの収集処理が実行されると負荷が集中するので、収集処理の負荷を分散するために使用します。

Collection Offset の値を変更する場合は、収集処理の負荷を考慮した上で値を指定してください。

ODBC キーフィールド

PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには、全レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、各レコード固有の ODBC キーフィールドです。複数インスタンスレコードだけが、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

全レコード共通の ODBC キーフィールドについては、この章の「[ODBC キーフィールド一覧](#)」を参照してください。ODBC キーフィールドの使用方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド](#)」の、ODBC に準拠したアプリケーションプログラムとの連携について説明している章を参照してください。

ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間を示します。ライフタイムについては、マニュアル「[JP1/Performance Management 設計・構築ガイド](#)」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

レコードサイズ

1 回の収集で各レコードに格納されるパフォーマンスデータの容量を示します。

フィールド

各レコードのフィールドについて表で説明します。表の各項目について次に説明します。

- PFM - View 名 (PFM - Manager 名)
 - PFM - View 名
PFM - Web Console で表示されるフィールド名を示します。
 - PFM - Manager 名
PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているフィールドのデータを利用する場合、SQL 文で記述するフィールド名を示します。
SQL 文では、先頭に各レコードのレコード ID を付加した形式で記述します。例えば、Agent Detail (PD_PDAG) レコードの Daily AccessDenials (DAILY_ACCESSDENIALS) フィールドの場合、「PD_PDAG_DAILY_ACCESSDENIALS」と記述します。
- 説明
各フィールドに格納されるパフォーマンスデータについて説明します。
- 要約
Agent Store がデータを要約するときの方法 (要約ルール) を示します。要約ルールについては、この章の「[要約ルール](#)」を参照してください。
- 形式
char 型や float 型など、各フィールドの値のデータ型を示します。データ型については、この章の「[データ型一覧](#)」を参照してください。

- デルタ

累積値として収集するデータに対し、変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。デルタについては、この章の「[フィールドの値](#)」を参照してください。

- サポート VR

そのフィールドを使用できる Lotus Notes/Domino のバージョン番号を示します。

バージョン番号が記述してある場合、そのバージョン以降でそのフィールドが使用できます。「すべて」と記述してある場合、PFM - Agent for Domino がサポートするすべての Lotus Notes/Domino のバージョンで取得できます。「対象外」と記述してある場合、すべての Lotus Notes/Domino のバージョンで取得対象外です。

- データソース

該当するフィールドの値の計算方法または取得先を示します。フィールドの値については、この章の「[フィールドの値](#)」を参照してください。

共通フィールド

PFM - Agent for Domino のレコードは、各レコードが持っているフィールド以外に、レコード共通フィールドとして、次の表に示すフィールドを持ちます。

表 8-2 共通フィールド一覧

PFM - View 名	PFM - Manager 名	説明	形式	デルタ
Interval	INTERVAL	レコード収集間隔。	ulong	Yes
Record Time	RECORD_TIME	レコードが作成された時刻。	time_t	No
Record Type	INPUT_RECORD_TYPE	表 8-11 に示すレコード ID (PD(I)_XXXX) の XXXX 部分が設定される。	string(8)	No

ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールドには、全レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、全レコード共通の ODBC キーフィールドです。PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合、ODBC キーフィールドが必要です。

全レコード共通の ODBC キーフィールド一覧を次の表に示します。各レコード固有の ODBC キーフィールドについては、各レコードの説明を参照してください。

表 8-3 全レコード共通の ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールド	ODBC フォーマット	データ	説明
レコード ID_DATE	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された日付を表すレコードのキー。
レコード ID_DATETIME	SQL_INTEGER	内部	レコード ID_DATE フィールドとレコード ID_TIME フィールドの組み合わせ。
レコード ID_DEVICEID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent が動作しているホスト名。
レコード ID_DRAWER_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	区分。有効な値を次に示す。 m：分 H：時間 D：日 W：週 M：月 Y：年
レコード ID_PROD_INST	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のインスタンス名。
レコード ID_PRODID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のプロダクト ID。
レコード ID_RECORD_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	レコードタイプを表す識別子（4バイト）。
レコード ID_TIME	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された時刻（グリニッジ標準時）。

要約ルール

PI レコードタイプのレコードでは、Collection Interval に設定された間隔で収集されるデータと、あらかじめ定義されたルールに基づき一定の期間（分、時、日、週、月、または年単位）ごとに要約されたデータが、Store データベースに格納されます。要約の種類はフィールドごとに定義されています。この定義を「要約ルール」と呼びます。

要約ルールによっては、要約期間中の中間データを保持する必要があるものがあります。この場合、中間データを保持するためのフィールドが Store データベース内のレコードに追加されます。このフィールドを「追加フィールド」と呼びます。追加フィールドの一部は、PFM - Web Console でレコードのフィールドとして表示されます。PFM - Web Console に表示される追加フィールドは、履歴レポートに表示するフィールドとして使用できます。

なお、要約によって追加される「追加フィールド」と区別するために、ここでは、この章の各レコードの説明に記載されているフィールドを「固有フィールド」と呼びます。

追加フィールドのフィールド名は次のようになります。

- Store データベースに格納される追加フィールド名
固有フィールドの PFM - Manager 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。
- PFM - Web Console で表示される追加フィールド名
固有フィールドの PFM - View 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。

PFM - Manager 名に付加されるサフィックスと、それに対応する PFM - View 名に付加されるサフィックス、およびフィールドに格納されるデータを次の表に示します。

表 8-4 追加フィールドのサフィックス一覧

PFM - Manager 名に付加されるサフィックス	PFM - View 名に付加されるサフィックス	格納データ
_TOTAL	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和
_TOTAL_SEC	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和 (ut ime 型の場合)
_COUNT	—	要約期間内の収集レコード数
_HI	(Max)	要約期間内のレコードのフィールド値の最大値
_LO	(Min)	要約期間内のレコードのフィールド値の最小値

(凡例)

—：追加フィールドがないことを示します。

要約ルールの一覧を次の表に示します。

表 8-5 要約ルール一覧

要約 ルール名	要約ルール
COPY	要約期間内の最新のレコードのフィールド値がそのまま格納される。
AVG	<p>要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 次に計算式を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> $\text{(フィールド値の総和)} / \text{(収集レコード数)}$ </div> <p>Store データベースに追加される追加フィールド</p> <ul style="list-style-type: none"> • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT <p>PFM - Web Console で表示される追加フィールド※</p> <ul style="list-style-type: none"> • (Total)
ADD	要約期間内のフィールド値の総和が格納される。
HI	要約期間内のフィールド値の最大値が格納される。
LO	要約期間内のフィールド値の最小値が格納される。
HILO	<p>要約期間内のデータの最大値, 最小値, および平均値が格納される。 固有フィールドには平均値が格納される。 次に計算式を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> $\text{(フィールド値の総和)} / \text{(収集レコード数)}$ </div> <p>追加フィールド (Store データベース)</p> <ul style="list-style-type: none"> • _HI • _LO • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT <p>追加フィールド (PFM - Web Console) ※</p> <ul style="list-style-type: none"> • (Max) • (Min) • (Total)
%	<p>要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 主に百分率のフィールドに適用される。 次に計算式を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> $\text{(フィールド値の総和)} / \text{(収集レコード数)}$ </div> <p>追加フィールド (Store データベース)</p> <ul style="list-style-type: none"> • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT

要約 ルール名	要約ルール
-	要約されないことを示す。

注※

- ・PFM - Manager 名に「_AVG」が含まれる utime 型のフィールドは、PFM - Web Console に追加される「(Total)」フィールドを履歴レポートで利用できません。
- ・PFM - Manager 名に次の文字列が含まれるフィールドは、PFM - Web Console に追加される (Total) フィールドを履歴レポートで利用できません。
「_PER_」, 「PCT」, 「PERCENT」, 「_AVG」, 「_RATE_TOTAL」

データ型一覧

各フィールドの値のデータ型と、対応する C および C++ のデータ型の一覧を次の表に示します。この表で示す「データ型」の「フィールド」の値は、各レコードのフィールドの表にある「形式」の列に示されています。

表 8-6 データ型一覧

データ型		サイズ (バイト)	説明
フィールド	C および C++		
char(n)	char()	()内の数	n バイトの長さを持つ文字データ。
double	double	8	数値 (1.7E±308 (15 桁))。
float	float	4	数値 (3.4E±38 (7 桁))。
long	long	4	数値 (-2,147,483,648~2,147,483,647)。
short	short	2	数値 (-32,768~32,767)。
string(n)	char[]	()内の数	n バイトの長さを持つ文字列。最後の文字は、「null」。
time_t	unsigned long	4	数値 (0~4,294,967,295)。
timeval	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
ulong	unsigned long	4	数値 (0~4,294,967,295)。
utime	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
word	unsigned short	2	数値 (0~65,535)。
(該当なし)	unsigned char	1	数値 (0~255)。

フィールドの値

ここでは、各フィールドに格納される値について説明します。

データソース

各フィールドには、Performance Management や監視対象プログラムから取得した値や、これらの値をある計算式に基づいて計算した値が格納されます。各フィールドの値の取得先または計算方法は、フィールドの表の「データソース」列で示します。

Lotus Notes/Domino から取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定している場合、そのフィールドに設定される値の計算方法を示します。例えば、Database Overview (PI_PIDB) レコードの DbCache Entries Usage (DBCACHE_ENTRIES_USAGE) フィールドの値には、DbCache CurrentEntries (DBCACHE_CURRENTENTRIES) フィールドの値を DbCache MaxEntries (DBCACHE_MAXENTRIES) フィールドの値で割った値を 100 倍して算出した、パーセンテージの値が格納されます。

「Agent Collector」と書かれている場合、そのフィールドに格納される値の取得先が、Agent Collector サービスであることを示します。

デルタ

変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。例えば、1 回目に収集されたパフォーマンスデータが「3」、2 回目に収集されたパフォーマンスデータが「4」とすると、変化量として「1」が格納されます。各フィールドの値がデルタ値かどうかは、フィールドの表の「デルタ」列で示します。

PFM - Agent for Domino で収集されるパフォーマンスデータは、次の表のとおりです。

表 8-7 PFM - Agent for Domino で収集されるパフォーマンスデータ

レコードタイプ	デルタ	データ種別	[デルタ値で表示] の チェック*	レコードの値
PI レコードタイプ	Yes	リアルタイムデータ	あり	変化量が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	—	変化量が表示される。
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	—	収集時点の値が表示される。
PD レコードタイプ	Yes	リアルタイムデータ	あり	変化量が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。

レコードタイプ	デルタ	データ種別	[デルタ値で表示] の チェック※	レコードの値
PD レコードタイプ	Yes	・履歴データ ・アラームの監視データ	－	収集時点の値が表示される。
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	－	収集時点の値が表示される。
PL レコードタイプ	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	－	収集時点の値が表示される。

(凡例)

－：該当しない

注※

次に示す PFM - Web Console の項目がチェックされているかどうかを示します。

- ・ レポートウィザードの [編集 > 表示設定 (リアルタイムレポート)] 画面の [デルタ値で表示]
- ・ レポートウィンドウの [Properties] タブの [表示設定 (リアルタイムレポート)] の [デルタ値で表示]

パフォーマンスデータが収集される際の注意事項を次に示します。

- ・ PI レコードタイプのレコードが保存されるためには、2 回以上パフォーマンスデータが収集されている必要があります。

PI レコードタイプのレコードには、PFM - Web Console で設定した収集間隔ごとにパフォーマンスデータが収集されます。しかし、パフォーマンスデータの Store データベースへの格納は、PFM - Web Console でパフォーマンスデータの収集の設定をした時点では実行されません。

PI レコードタイプの履歴データには、前回の収集データとの差分を必要とするデータ (デルタ値) が含まれているため、2 回分のデータが必要になります。このため、履歴データが Store データベースに格納されるまでには、設定した時間の最大 2 倍の時間が掛かります。

例えば、PFM - Web Console でパフォーマンスデータの収集間隔を、18:32 に 300 秒 (5 分) で設定した場合、最初のデータ収集は 18:35 に開始されます。次のデータ収集は 18:40 に開始されます。履歴のデータは、18:35 と 18:40 に収集されたデータを基に作成され、18:40 に (設定時 18:32 から 8 分後) 履歴データとして Store データベースに格納されます。

- ・ リアルタイムレポートには、最初にデータが収集されたときから値が表示されます。ただし、前回のデータを必要とするレポートの場合、初回の値は 0 で表示されます。2 回目以降のデータ収集は、レポートによって動作が異なります。

- 次の場合、最初にデータが収集されたときから値が表示されます。
 - PI レコードの リアルタイムレポートの設定で、[デルタ値で表示] がチェックされていない場合
 - PD レコードの リアルタイムレポートの設定で、[デルタ値で表示] がチェックされている場合
 - ただし、前回のデータを必要とするレポートの場合、値は 0 で表示されます。2 回目のデータ収集以降は、収集データの値が表示されます。

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドを次の表に示します。

これらのフィールドの内容をレポートで参照するには、履歴レポートを使用する必要があります。履歴レポートの詳細については、「1.1.1 Lotus Notes/Domino のパフォーマンスデータを収集できます」を参照してください。

表 8-8 Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	形式	デルタ	サポートバージョン	データソース
Agent Host (DEVICEID)	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	—
Agent Instance (PROD_INST)	PFM - Agent のインスタンス名。	string(256)	No	すべて	—
Agent Type (PROD_ID)	PFM - Agent のプロダクト ID。1 バイトの識別子で表される。	char	No	すべて	—
Date (DATE)	レコードが作成された日。グリニッジ標準時。*1 *2 *3	char(3)	No	すべて	—
Date and Time (DATETIME)	Date (DATE) フィールドと Time (TIME) フィールドの組み合わせ。*3	char(6)	No	すべて	—
Drawer Type (DRAWER_TYPE)	PI レコードタイプのレコードの場合、データが要約される区分。PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合とで、区分の表示が異なる。*2	char	No	すべて	—
GMT Offset (GMT_ADJUST)	グリニッジ標準時とローカル時間の差。秒単位。	long	No	すべて	—
Time (TIME)	レコードが作成された時刻。グリニッジ標準時。*1 *2 *3	char(3)	No	すべて	—

(凡例)

—：取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを意味します。

注※1

PI レコードタイプのレコードでは、データが要約されるため、要約される際の基準となる時刻が設定されます。レコード区分ごとの設定値を次の表に示します。

表 8-9 レコード区分ごとの設定値

区分	レコード区分ごとの設定値
分	レコードが作成された時刻の 0 秒
時	レコードが作成された時刻の 0 分 0 秒
日	レコードが作成された日の 0 時 0 分 0 秒
週	レコードが作成された週の月曜日の 0 時 0 分 0 秒
月	レコードが作成された月の 1 日の 0 時 0 分 0 秒
年	レコードが作成された年の 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒

注※2

PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合の違いを次の表に示します。

表 8-10 表示方法によるデータ要約区分の違い

区分	PFM - Web Console	ODBC ドライバ
分	Minute	m
時	Hour	H
日	Day	D
週	Week	W
月	Month	M
年	Year	Y

注※3

レポートや ODBC ドライバによるデータ表示を行った場合、"Date"フィールドは YYYYMMDD 形式で、"Date and Time"フィールドは YYYYMMDD hh:mm:ss 形式で、"Time"フィールドは hh:mm:ss 形式で表示されます。

Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド

jpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドで、Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると、次に示すフィールドが出力されます。これらのフィールドも Store データベースに記録される時追加されるフィールドですが、PFM - Web Console では表示されないため、レポートに表示するフィールドとして使用できません。これらのフィールドは、PFM - Agent for Domino が内部で使用するフィールドであるため、運用で使用しないでください。

- レコード ID_DATE_F
- レコード ID_DEVICEID_F
- レコード ID_DRAWER_TYPE_F
- レコード ID_DRAWER_COUNT
- レコード ID_DRAWER_COUNT_F
- レコード ID_INST_SEQ
- レコード ID_PRODID_F
- レコード ID_PROD_INST_F
- レコード ID_RECORD_TYPE
- レコード ID_RECORD_TYPE_F
- レコード ID_SEVERITY
- レコード ID_SEVERITY_F
- レコード ID_TIME_F
- レコード ID_UOWID
- レコード ID_UOWID_F
- レコード ID_UOW_INST
- レコード ID_UOW_INST_F
- レコード ID_PFM - Manager 名_SEC
- レコード ID_PFM - Manager 名_MSEC

レコード一覧

ここでは、PFM - Agent for Domino で収集できるレコードの一覧を記載します。

PFM - Agent for Domino で収集できるレコードおよびレコードに格納される情報を、レコード名順およびレコード ID 順で次の表に示します。

注意

- PFM - Agent for Domino は、Lotus Notes/Domino が持つ統計情報機能を使用して、Lotus Domino の統計データベースの情報を収集、表示しています。したがって、監視対象のドミノサーバ上で対象となる機能が稼働していないなどの理由で、統計が発生していない項目に関しては、収集、表示できません。注意してください。
- 統計情報によっては Lotus Notes/Domino の特定のバージョンでだけサポートされている項目があります。サポートされている Lotus Notes/Domino のバージョンについては、各レコードのフィールド表の「サポートバージョン」欄を参照してください。

表 8-11 PFM - Agent for Domino のレコード一覧

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
クラスタ	Internet Cluster Manager Overview	PI_PICM	クラスタシステムでの単位時間ごとのリダイレクト数、セッション使用率などの情報。
	Internet Cluster Manager Detail	PD_PDCCM	クラスタシステムでのリダイレクト状況、セッション使用状況などの情報。
システム	System Overview	PI_PI	ドミノに対するリクエスト状況、デッドメールの発生状況、データベースの複製状況、サーバのトランザクション情報、ユーザーのログイン状況など、総合的なシステム監視情報。
	System Detail	PD_PD	ドミノサーバのシステム情報およびハードウェア情報。
	Memory Overview	PI_PIMM	時間単位ごとのサーバメモリ確保量、解放量、確保したメモリの内訳などの情報。
	Memory Detail	PD_PDMM	サーバによるメモリ使用情報。
	Logical Disk Overview	PI_PILG	各論理ディスクの使用率情報。
サーバ	Server Overview	PI_PISV	ドミノサーバでの単位時間ごとの稼働状況、トランザクション情報、ユーザーのログイン状況などの情報。
	Server Detail	PD_PDSV	ドミノサーバの稼働状況、トランザクション情報、ユーザーのログイン状況などの情報。

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
サーバ	Domino Overview	PI_PIDM	ドミノ主要コマンドの使用回数、時間単位ごとのリクエスト数などの情報。
	Domino Detail	PD_PDDM	ドミノのビルド情報、コマンド実行数、リクエスト数などの情報。
	Mail Overview	PI_PIML	ノーツメールでの時間単位ごとのメール送信数、送信バイト数、デッドメールの発生数などの情報。
	Mail Detail	PD_PDML	ノーツメールの発生状況、デッドメールの発生状況、転送レート、および負荷情報。
	Mail Knowledge Overview	PI_PIMK	デッドメールの発生状況、期間超過メールの発生状況、各メールデータベースの使用率などの情報。
	Quality of Mail Service Overview	PI_PIQM	各調査対象サーバでのノーツメール配信に掛かる時間、配信エラー数などの情報。
	Message Transfer Agent Overview	PI_PIMT	各プロトコルのメール転送エージェントでのメール転送数、転送量、デッドメールの発生数などの情報。
	Message Transfer Agent Detail	PD_PDMT	各プロトコルのメール転送エージェントでのメールの送受信情報、デッドメールの発生状況、ワークキューで送信待ち状態になっているメール数などの情報。
	Replica Overview	PI_PIRP	レプリケータによる単位時間ごとの複製実行回数、エラー回数、複製処理のキューイング平均値などの情報。
	Replica Detail	PD_PDRP	レプリケータによる複製実行状況、エラー状況、および複製処理のキューイング情報。
	Shared Mail Object Detail	PD_PDSO	複数ユーザーによって共有されているオブジェクト数情報。
	Agent Detail	PD_PDAG	1日および1時間単位のエージェント実行回数、エラー回数、アクセス拒否回数などの情報。
	Notes Log Check Overview	PL_PLNL	指定したフィルター条件に一致したNotes Logのメッセージ。
User Defined Stat Overview	PI_PIST	統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) に指定した識別子に該当する統計値情報。	

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
ネットワーク	Network Overview	PI_PINE	各ポートでの時間単位ごとのデータ送受信量, セッション確立数などの情報。
	Network Detail	PD_PDNE	各ポートでのデータ送受信情報, セッション確立数などの情報。
	Serial Port Overview	PI_PIXP	各シリアルポートでの単位時間ごとのデータの送受信量, エラーの発生状況などの情報。
	Serial Port Detail	PD_PDXP	各シリアルポートでのデータの送受信量, エラーの発生状況などの情報。
	Quality of Service Overview	PI_PIQS	各調査対象サーバでの各 TCP サービスポート (LDAP, IMAP, POP3, NNTP など) の応答時間情報。
	Health Check Overview	PI_PIHC	プロトコルポートアクセスチェック, ノーツメール送信チェック, データベースアクセスチェックなどの実行結果 (応答時間) などの情報。
データベース	Database Knowledge Overview	PI_PIDK	ドミノデータベースの名称, アクセス情報, 使用率などの概要情報。
	Database Overview	PI_PIDB	ドミノデータベースで使用するバッファプールやキャッシュの使用状況などの情報。
	Database Detail	PD_PDDB	ドミノデータベースで使用するバッファプールやキャッシュの使用率, NSFプールの使用率などの情報。
	Calendar Detail	PD_PDCL	スケジューリングされたユーザー, リソース, アポイント, 予約などの合計値情報。
サービス	SMTP Overview	PI_PISM	UNIX メール送信セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量, セッション使用率などの情報。
	SMTP Detail	PD_PDSDM	UNIX メール送信セッションでの送受信状況, セッション使用状況などの情報。
	POP3 Detail	PD_PDPP	POP3 コマンドの実行状況を示す情報。
	IMAP Overview	PI_PIIM	IMAP セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量, セッション使用率などの情報。
	IMAP Detail	PD_PDIM	IMAP セッションの送受信状況, セッション使用状況などの情報。

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
サービス	LDAP Overview	PI_PILP	LDAP セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量, 検索要求実行回数, セッション使用率などの情報。
	LDAP Detail	PD_PDLP	LDAP セッションの送受信状況, セッション使用状況, 検索要求の実行情報などの情報。
	HTTP Information Overview	PI_PIHT	Domino サーバの HTTP タスクが保持する, 現在の接続数や送受信バイト数, リクエスト状況などの HTTP プロトコルの統計情報。
	NNTP Overview	PI_PINN	ニュースサーバ間の単位時間ごとのニュース記事送受信量, 送受信エラー数などの情報。
	NNTP Detail	PD_PDNN	ニュースサーバ間のニュース記事送受信状況, 送受信エラーの発生状況などの情報。
	Web Retriever Overview	PI_PIWR	Web ナビゲータに対する単位時間ごとのアクセス状況, 使用状況, データの送受信量などの情報。
	Web Retriever Detail	PD_PDWR	Web ナビゲータに対するアクセス状況, 使用状況, データの送受信量などの情報。

Agent Detail (PD_PDAG)

機能

Agent Detail (PD_PDAG) レコードには、1 日および 1 時間単位のエージェント実行回数、エラー回数、アクセス拒否回数などの情報が格納されます。ただし、このレコードで扱う「エージェント」とは、Lotus Notes/Domino システムで、自動的に実行されるプログラムや処理の総称のことであり、PFM - Agent for Domino を指すものではありません。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：841 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Daily AccessDenials (DAILY_ACCESSDENIALS)	1 日ごとのエージェントアクセス拒否の回数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Daily.AccessDenials
Daily SchldRuns (DAILY_SCHDLRUNS)	1 日ごとの定期エージェントの実行数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Daily.ScheduledRuns
Daily TriggeredRuns (DAILY_TRIGGEREDRUNS)	1 日ごとのイベント起動エージェントの実行数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Daily.TriggeredRuns

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Daily UnsuccessRuns (DAILY_FAILEDRUNS)	1 日ごとのエージェント実行エラー数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Daily.UnsuccessfulRuns
Daily UsedRunTime (DAILY_USEDRUNTIME)	エージェントを実行する時間。秒単位。	COPY	string(64)	No	すべて	Agent.Daily.UsedRunTime
Hourly AccessDenials (HOURLY_ACCESSDENIALS)	1 時間ごとのエージェントアクセス拒否の回数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Hourly.AccessDenials
Hourly SchldRuns (HOURLY_SCHDLRUNS)	1 時間ごとの定期エージェントの実行数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Hourly.ScheduledRuns
Hourly TriggeredRuns (HOURLY_TRIGGEREDRUNS)	1 時間ごとのイベント起動エージェントの実行数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Hourly.TriggeredRuns
Hourly UnsuccessRuns (HOURLY_FAILEDRUNS)	1 時間ごとのエージェント実行エラー数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent.Hourly.UnsuccessfulRuns
Hourly UsedRunTime (HOURLY_USEDRUNTIME)	エージェントを実行するための時間。秒単位。	COPY	string(64)	No	すべて	Agent.Hourly.UsedRunTime

Calendar Detail (PD_PDCL)

機能

Calendar Detail (PD_PDCL) レコードには、スケジューリングされたユーザー、リソース、アポイント、予約などの合計値情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：705 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Tot All Appts Reserves (TOT_ALL_APPTS_RE SERVES)	スケジューリングされ たアポイントと予約の 合計数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total. All.Appts. Reservations
Tot All Users Resources (TOT_ALL_USERS_RE SOURCES)	スケジューリングされ たユーザーとリソース の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total. All. Users. Resources
Tot Appts (TOT_APPTS)	スケジューリングされ たアポイントの数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total.Appts

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Tot Reserves (TOT_RESERVES)	スケジュールリングされ た予約の数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total.Reservation s
Tot Resources (TOT_RESOURCES)	スケジュールリングされ たリソースの数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total.Resources
Tot Users (TOT_USERS)	スケジュールリングされ たユーザーの数。	COPY	ulong	No	すべて	Calendar. Total.Users

Database Detail (PD_PDDB)

機能

Database Detail (PD_PDDB) レコードには、ドミノデータベースで使用するバッファプールやキャッシュの使用率、NSF プールの使用率などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：773 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
BufferControlPool Peak (BUFFERCONTROLPOOL_PEAK)	データベースバッファ 制御プールの最大数。	COPY	float	No	対象外	Database. BufferControlPool .Peak
BufferControlPool Used (BUFFERCONTROLPOOL_USED)	制御プールを使用している データベースの数。	COPY	float	No	対象外	Database. BufferControlPool .Used
BufferPool Max (BUFFERPOOL_MAX)	データベース制御プールの 最大サイズ。	COPY	ulong	No	すべて	Database. Database. BufferPool.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
BufferPool Max (BUFFERPOOL_MAX)	データベース制御プールの最大サイズ。	COPY	ulong	No	すべて	Maximum. Megabytes
BufferPool PctReadsInBuffer (BUFFERPOOL_PCTREADSINBUFFER)	読み込みバッファプールの割合。	COPY	float	No	すべて	Database. Database. BufferPool. PerCentReadsInBuffer
BufferPool Peak (BUFFERPOOL_PEAK)	データベースバッファプールの最大数。	COPY	ulong	No	すべて	Database.Database. BufferPool. Peak. Megabytes
BufferPool Reads (BUFFERPOOL_READS)	読み込みデータベースバッファプールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Database. Database BufferPool. MM.Reads
BufferPool Used (BUFFERPOOL_USED)	使用されたデータベースバッファプールの数。	COPY	ulong	No	対象外	Database. BufferPool. Used
BufferPool Writes (BUFFERPOOL_WRITES)	書き込みデータベースバッファプールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Database. Database. BufferPool. MM.Writes
DbCache CurrentEntries (DBCACHE_CURRENTENTRIES)	データベースキャッシュの現行エントリ数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. CurrentEntries
DbCache HighWaterMark (DBCACHE_HIGHWATERMARK)	データベースキャッシュの最大サイズ。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. HighWaterMark
DbCache Hits (DBCACHE_HITS)	データベースキャッシュのヒット数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. Hits
DbCache InitialDbOpens (DBCACHE_INITIALDBOPENS)	データベースキャッシュによって開かれたデータベースの数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. InitialDbOpens
DbCache Lookups (DBCACHE_LOOKUPS)	データベースキャッシュの参照回数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. Lookups

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
DbCache MaxEntries (DBCACHE_MAXENTRIES)	データベースキャッシュの最大エントリ数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. MaxEntries
DbCache OvercrowdRejects (DBCACHE_OVERCROWDREJECTS)	データベースキャッシュがいっぱいのときの拒否回数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. OvercrowdingRejections
ExtMgrPool Peak (EXTMGRPOOL_PEAK)	外部マネージャープールの最大数。	COPY	float	No	すべて	Database. ExtMgrPool. Peak
ExtMgrPool Used (EXTMGRPOOL_USED)	外部マネージャープールの数。	COPY	float	No	すべて	Database. ExtMgrPool. Used
NIFPool Used (NIFPOOL_USED)	データベース NIF プールの数。	COPY	float	No	すべて	Database. NIFPool. Used
NSF FrHndlStk FrHndlStkHits (NSF_FRHNDLSTK_FRHNDLSTKHITS)	フリーハンドルのスタックのヒット数。	COPY	ulong	No	すべて	Database. FreeHandleStack. FreeHandleStack Hits
NSF FrHndlStk HandleAllocs (NSF_FRHNDLSTK_HANDLEALLOCS)	フリーハンドルのスタックを割り当てるデータベースの数。	COPY	ulong	No	すべて	Database. FreeHandleStack. HandleAllocations
NSF FrHndlStk MissRate (NSF_FRHNDLSTK_MISSRATE)	フリーハンドルのスタックの失効率。	COPY	ulong	No	すべて	Database. FreeHandleStack. MissRate
NSFPool Peak (NSFPOOL_PEAK)	データベース NSF プールの最大数。	COPY	float	No	すべて	Database. NSFPool. Peak
NSFPool Used (NSFPOOL_USED)	データベース NSF プールの数。	COPY	float	No	すべて	Database. NSFPool. Used

Database Knowledge Overview (PI_PIDK)

機能

Database Knowledge Overview (PI_PIDK) レコードには、ドミノデータベースの名称、アクセス情報、使用率などの概要情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	3600	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIDK_DB_FILENAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：168 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Database Access (DB_ACCESS)	データベースがインターバル時間内にアクセスされた回数。	AVG	float	Yes	すべて	NSFDbGetUserActivity()
Database ACL Changed (DB_ACL_CHANGED)	データベースのアクセス制御リストのインターバル内での更新の有無。 0：更新なし 1：更新あり	COPY	ulong	No	すべて	NSFDbGetModifiedNoteTable()
Database Filename (DB_FILENAME)	データベースのファイル名。	COPY	string(64)	No	すべて	NSFSearch()

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Database Free Kbytes (DB_FREE_KBYTES)	データベース内の未使用サイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Note Counts (DB_NOTE_COUNTS)	データベース内に格納されている文書数。	COPY	ulong	No	すべて	NSFDbGetModifiedNoteTable()
Database Size Kbytes (DB_SIZE_KBYTES)	データベースの確保サイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Title (DB_TITLE)	データベースのタイトル。	COPY	string(64)	No	すべて	NSFDbInfoGet()
Database Usage (DB_USAGE)	データベース使用率。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Used Kbytes (DB_USED_KBYTES)	データベース内で実際に使用されている領域のサイズ。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()

Database Overview (PI_PIDB)

機能

Database Detail (PI_PIDB) レコードには、ドミノデータベースで使用するバッファプールやキャッシュの使用状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：749 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
BufferPool PctReadsInBuffer (BUFFERPOOL_PCTREADSINBUFFER)	読み込みバッファプールの割合。	COPY	ulong	No	すべて	Database. BufferPool. PerCentReadsInBuffer
BufferPool Reads (BUFFERPOOL_READS)	読み込みデータベースバッファプールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Database. Database. BufferPool. MM.Reads
BufferPool Writes (BUFFERPOOL_WRITES)	書き込みデータベースバッファプールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Database. Database. BufferPool. MM.Writes

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
DbCache Entries Usage (DBCACHE_ENTRIES_USAGE)	データベースキャッシュの使用率。	COPY	float	No	すべて	(DataBase.DbCache.CurrentEntries / DataBase.DbCache.MaxEntries) * 100
DbCache Hits Percent (DBCACHE_HITS_PERCENT)	データベースキャッシュのヒット率。	COPY	float	No	すべて	(DataBase.DbCache.Hits / DataBase.DbCache.Lookups) * 100
DbCache InitialDbOpens (DBCACHE_INITIALDBOPENS)	データベースキャッシュによって開かれたデータベースの数。	AVG	float	Yes	すべて	DataBase.DbCache.InitialDbOpens
DbCache OvercrowdRejects (DBCACHE_OVERCROWDREJECTS)	データベースキャッシュがいっぱいの際の拒否回数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase.DbCache.OvercrowdingRejections
ExtMgrPool Used (EXTMGRPOOL_USED)	外部マネージャープールの数。	COPY	float	No	すべて	Database.ExtMgrPool.Used

Domino Detail (PD_PDDM)

機能

Domino Detail (PD_PDDM) レコードには、ドミノのビルド情報、コマンド実行数、リクエスト数などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：1,013 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
BuildName (BUILDNAME)	ドミノサーバのビルド名。	COPY	string(64)	No	対象外	Domino. BuildName
BuildNumber (BUILDNUMBER)	ドミノサーバのビルド数。	COPY	ulong	No	対象外	Domino. BuildNumber
BuildPlatform (BUILDPLATFORM)	ドミノサーバの OS プラットフォーム。	COPY	string(32)	No	対象外	Domino. BuildPlatform
BuildVersion (BUILDVERSION)	ドミノサーバのビルドバージョン。	COPY	string(32)	No	対象外	Domino. BuildVersion

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd CreateDocument (CMD_CREATEDOCUMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「開いた文書」の URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. CreateDocument
Cmd DeleteDocument (CMD_DELETEDOCUMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「削除した文書」の URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. DeleteDocument
Cmd DeleteDocuments (CMD_DELETEDOCUMENTS)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「削除した文書」の URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. DeleteDocuments
Cmd EditDocument (CMD_EDITDOCUMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「編集した文書」の URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. EditDocument
Cmd Login (CMD_LOGIN)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ログイン」した URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. Login
Cmd Navigate (CMD_NAVIGATE)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ナビゲート」した URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. Navigate
Cmd OpenAbout (CMD_OPENABOUT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「説明を開いた」 URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenAbout
Cmd OpenAgent (CMD_OPENAGENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「エージェントを開いた」 URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenAgent
Cmd OpenDatabase (CMD_OPENDB)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「データベースを開いた」 URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenDatabase
Cmd OpenDocument (CMD_OPENDOCUMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「文書を開いた」 URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenDocument

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd OpenElement (CMD_OPENELEMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「要素を開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenElement
Cmd OpenForm (CMD_OPENFORM)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「フォームを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenForm
Cmd OpenHelp (CMD_OPENHELP)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ヘルプを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenHelp
Cmd OpenIcon (CMD_OPENICON)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「アイコンを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenIcon
Cmd OpenNavigator (CMD_OPENNAVIGATOR)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ナビゲータを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenNavigator
Cmd OpenServer (CMD_OPENSERVER)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「サーバを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenServer
Cmd OpenView (CMD_OPENVIEW)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ビューを開いた」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. OpenView
Cmd ReadForm (CMD_READFORM)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「フォームを読み込んだ」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. ReadForm
Cmd SearchSite (CMD_SEARCHSITE)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「サイトを検索した」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. SearchSite
Cmd SearchView (CMD_SEARCHVIEW)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ビューを検索した」URLの数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. SearchView

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Tot (CMD_TOT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いたすべての URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. Total
Cmd Unknown (CMD_UNKNOWN)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた不明な URL の数。	COPY	ulong	No	すべて	Domino. Command. Unknown
Reqs Per1Day Peak (REQS_PER1DAY_PEA K)	最近 1 日間の要求最大数。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Day. Peak
Reqs Per1Day PeakTime (REQS_PER1DAY_PEA KTIME)	最近 1 日間の要求最大時間。	COPY	time_t	No	すべて	Domino. Requests. Per1Day. PeakTime
Reqs Per1Day Tot (REQS_PER1DAY_TO T)	最近 1 日間の要求の合計。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Day. Total
Reqs Per1Hour Peak (REQS_PER1HOUR_P EAK)	最近 1 時間の要求最大数。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Hour. Peak
Reqs Per1Hour PeakTime (REQS_PER1HOUR_P EAKTIME)	最近 1 時間の要求最大時間。	COPY	time_t	No	すべて	Domino. Requests. Per1Hour. PeakTime
Reqs Per1Hour Tot (REQS_PER1HOUR_T OT)	最近 1 時間の要求の合計。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Hour. Total
Reqs Per1Minute Peak (REQS_PER1MINUTE _PEAK)	最近 1 分間の要求最大数。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Minute. Peak
Reqs Per1Minute PeakTime (REQS_PER1MINUTE _PEAKTIME)	最近 1 分間の要求最大時間。	COPY	time_t	No	すべて	Domino. Requests. Per1Minute. PeakTime
Reqs Per1Minute Tot (REQS_PER1MINUTE _TOT)	最近 1 分間の要求の合計。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per1Minute. Total
Reqs Per5Minute Peak (REQS_PER5MINUTE _PEAK)	最近 5 分間の要求最大数。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per5Minute. Peak

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Reqs Per5Minute PeakTime (REQS_PER5MINUTE _PEAKTIME)	最近 5 分間の要求最大 時間。	COPY	time_t	No	すべて	Domino. Requests. Per5Minute. PeakTime
Reqs Per5Minute Tot (REQS_PER5MINUTE _TOT)	最近 5 分間の要求の 合計。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Per5Minute. Total
Reqs Tot (REQS_TOT)	要求の合計。	COPY	float	No	すべて	Domino. Requests. Total

Domino Overview (PI_PIDM)

機能

Domino Overview (PI_PIDM) レコードには、ドミノ主要コマンドの使用回数、時間単位ごとのリクエスト数などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：793 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Login (CMD_LOGIN)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ログイン」した URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.Login
Cmd OpenDatabase (CMD_OPENDB)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「データベースを開いた」URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.OpenDatabase
Cmd OpenDocument (CMD_OPENDOCUMENT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「文書を開いた」URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.OpenDocument

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd OpenNavigator (CMD_OPENNAVIGATOR)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ナビゲータを開いた」URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.OpenNavigator
Cmd OpenView (CMD_OPENVIEW)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ビューを開いた」URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.OpenView
Cmd Tot (CMD_TOT)	サーバが最後に起動してからサーバに届いたすべての URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino.Command.Total
Reqs Tot (REQS_TOT)	要求の合計。	AVG	ulong	Yes	すべて	Domino.Requests.Total

Health Check Overview (PI_PIHC)

機能

Health Check Overview (PI_PIHC) レコードには、ドミノサーバの稼働情報が格納されます。稼働情報は、ドミノサーバの稼働監視によってプロトコルポートアクセスチェック、ノーツメール送信チェック、データベースアクセスチェックなどの実行結果（応答時間）が求められます。どの稼働監視を行うかは、PFM - Agent for Domino の Health Check Options プロパティで指定します。詳細については、「[付録 F PFM - Agent for Domino のプロパティ](#)」を参照してください。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIHC_CHECK_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：68 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Check Name (CHECK_name)	ドミノサーバの稼働監視のタイプがキーワードで格納される。*	COPY	string(64)	No	すべて	なし
ResponseTime (responsetime)	ドミノサーバの稼働監視に掛かった時間（ミリ秒）。	COPY	ulong	No	すべて	Agent Collector

注※ 格納されるキーワードの稼働監視のタイプを次に示します。

キーワード	稼働監視のタイプ
HTTP	HTTP ポートアクセスチェック
SMTP	SMTP ポートアクセスチェック
POP3	POP3 ポートアクセスチェック
IMAP	IMAP ポートアクセスチェック
LDAP	LDAP ポートアクセスチェック
NNTP	NNTP ポートアクセスチェック
NRPC	ドミノポート (NRPC) アクセスチェック
NMAIL	ノーツメール送信チェック
DBACS	データベースアクセスチェック

HTTP Information Overview (PI_PIHT)

機能

HTTP Information Overview (PI_PIHT) レコードには、Domino サーバの HTTP タスクが保持する、現在の接続数や送受信バイト数、リクエスト状況などの HTTP プロトコルの統計情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：1129 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
AcceptConnectAccepted (AcceptConnectAccepted)	HTTP タスクによって受信された接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.ConnectionsAccepted
AcceptConnectDenied (AcceptConnectDenied)	HTTP タスクによって受信が拒否された接続数が格納される。主にセキュリティ権限による拒否が該当する。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.ConnectionsDenied
AcceptConnectRefused	HTTP タスクによって受信が拒否された接続数が格納される。主に	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.ConnectionsRefused

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(AcceptConnectRefused)	通信ビジーなどによる拒否が該当する。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.ConnectionsRefused
AcceptErrors (AcceptErrors)	HTTP タスクによって受信エラーが発生した接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.Errors
AcceptPolls (AcceptPolls)	接続待ちキューにキューイングされた接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.Polls
AcceptPollTimeouts (AcceptPollTimeouts)	接続待ちキューにキューイングされ、かつタイムアウトした接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.PollTimeouts
AcceptServerBusy (AcceptServerBusy)	Domino サーバがビジー状態のため、受信できなかった接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Accept.ServerBusy
CurConnect (CurConnect)	HTTP タスクに現在接続している接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.CurrentConnections
CurConnectUsage (CurConnectUsage)	HTTP タスクの最大接続数に対する、現在接続している接続数の割合が格納される。	AVG	long	No	すべて	Http.CurrentConnections / Http.MaxConnections
WkTotBytesRead (WkTotBytesRead)	HTTP タスク経由で読み取られたデータのバイト数が格納される。	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.BytesRead
WkTotBytesWritten (WkTotBytesWritten)	HTTP タスク経由で書き込まれたデータのバイト数が格納される。	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.BytesWritten
WkTotCgiReqs (WkTotCgiReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされた CGI 実行要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Cgi.Requests
WkTotCgiReqTime (WkTotCgiReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされた CGI 実行時間が格納される。 (単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Cgi.RequestTime
WkTotDsapiReqs (WkTotDsapiReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされた DSAPI 接続要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Dsapi.Requests

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
WkTotDsapiReqTime (WkTotDsapiReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされた DSAPI 接続要求にかかった時間が格納される。(単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Dsapi.RequestTime
WkTotFileReqs (WkTotFileReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされたファイルオープン要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.File.Requests
WkTotFileReqTime (WkTotFileReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされたファイルオープン要求にかかった時間が格納される。(単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.File.RequestTime
WkTotHttpReqs (WkTotHttpReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされた HTTP プロトコルでの接続要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Http.Requests
WkTotHttpReqTime (WkTotHttpReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされた HTTP プロトコルでの接続要求にかかった時間が格納される。(単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Http.RequestTime
WkTotIdleSessionTimeouts (WkTotIdleSessionTimeouts)	HTTP タスク経由で接続され、かつアイドル時間が長く続いたためタイムアウトになった接続数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Idle.SessionTimeouts
WkTotInputTimeouts (WkTotInputTimeouts)	HTTP タスク経由で入力要求を行ったが、タイムアウトになってしまった要求の回数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Input.Timeout
WkTotNotesReqs (WkTotNotesReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされた Notes プロトコルによる接続要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Notes.Requests
WkTotNotesReqTime (WkTotNotesReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされた Notes プロトコルによる接続要求にかかった時間が格納される。	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.Notes.RequestTime

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
WkTotOutputTimeouts (WkTotOutputTimeouts)	HTTP タスク経由で出力要求を行ったが、タイムアウトになってしまった要求の回数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.OutputTimeouts
WkTotQuickPlaceReqs (WkTotQuickPlaceReqs)	HTTP タスク経由でリクエストされた QuickPlace 機能要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.QuickPlace.Requests
WkTotQuickPlaceReqTime (WkTotQuickPlaceReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされた QuickPlace 機能要求にかかった時間が格納される。(単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.QuickPlace.RequestTime
WkTotReqsProcessed (WkTotReqsProcessed)	HTTP タスク経由でリクエストされ、かつ処理された全機能の要求数が格納される。	AVG	long	Yes	すべて	Http.Worker.Total.RequestsProcessed
WkTotReqTime (WkTotReqTime)	HTTP タスク経由でリクエストされ、かつ処理された全機能の要求にかかった時間が格納される。(単位：ミリ秒)	AVG	float	Yes	すべて	Http.Worker.Total.TotalRequestTime

IMAP Detail (PD_PDIM)

機能

IMAP Detail (PD_PDIM) レコードには、IMAP セッションの送受信状況、セッション使用状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：729 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session Accept Queue (SESSION_ACCEPT_QUEUE)	IMAP リスナーが処理する受信セッションのワークキュー。	COPY	Ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Accept.Queue
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな IMAP サーバタスクの数。	COPY	Ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Active
Session In BytesRcvd (SESSION_IN_BYTESRCVD)	IMAP サーバの受信バイト数の合計。	COPY	float	No	すべて	IMAP.Sessions.Inbound.BytesReceived
Session In BytesSent (SESSION_IN_BYTESSENT)	IMAP サーバの送信バイト数の合計。	COPY	float	No	すべて	IMAP.Sessions.Inbound.BytesSent

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session In Non-SSL (SESSION_IN_NON_SSL)	IMAP サーバの受信 TCP コネクション数 (非 SSL)。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Inbound.Non-SSL
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BADHNDSHK)	IMAP サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Inbound.SSL.Bad_Handshake
Session In SSL (SESSION_IN_SSL)	IMAP サーバの受信 SSL コネクション数。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Inbound.SSL
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	IMAP サーバの受信コネクションの合計 (SSL と非 SSL の合計)。	COPY	ulong	No	すべて	IMAP.Sessions.Inbound.Total
Session Peak (SESSION_PEAK)	サーバ起動後の IMAP サーバタスクの最大数。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP.Sessions.Peak
Session Threads Busy (SESSION_THREADS_BUSY)	実行中の IMAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	IMAP.Sessions.Threads.Busy
Session Threads Idle (SESSION_THREADS_IDLE)	アイドル中の IMAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	IMAP.Sessions.Threads.Idle
Session Tot (SESSION_TOT)	サーバ起動後の IMAP サーバタスク数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	IMAP.Sessions.Total

IMAP Overview (PI_PIIM)

機能

IMAP Overview (PI_PIIM) レコードには、IMAP セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量、セッション使用率などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：741 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな IMAP サーバタスクの数。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP. Sessions. Active
Session In KBytesRcvd (SESSION_IN_KBYTE SRCVD)	IMAP サーバの受信バ イト数の合計。キロバ イト単位。	AVG	float	Yes	すべて	IMAP. Sessions. Inbound. BytesReceived / 1024
Session In KBytesSent (SESSION_IN_KBYTE SSENT)	IMAP サーバの送信バ イト数の合計。キロバ イト単位。	AVG	float	Yes	すべて	IMAP. Sessions. Inbound. BytesSent / 1024

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BA DHNSHK)	IMAP サーバの SSL ハ ンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	IMAP. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	IMAP サーバの受信コ ネクションの合計 (SSL と非 SSL の合 計)。	AVG	float	Yes	すべて	IMAP. Sessions. Inbound. Total
Session Threads Usage (SESSION_THREADS_ USAGE)	実行中 IMAP サーバの タスク使用率。	COPY	float	No	すべて	(IMAP. Sessions. Threads. Busy / (IMAP. Sessions. Threads. Idle + IMAP. Sessions. Threads. Busy)) * 100

Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM)

機能

Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM) レコードには、クラスタシステムでのリダイレクト状況、セッション使用状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：765 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Redirects ClusterBusy (CMD_REDIRECTS_C LUSTERBUSY)	すべてのサーバがビ ジーのとき、ICM が受 信したクライアント要 求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. ClusterBusy
Cmd Redirects Failed (CMD_REDIRECTS_F AILED)	クライアントの URL 要求をクラスタクライ アントメンバーにリダ イレクトできなかった 回数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. Unsuccessful
Cmd Redirects Success (CMD_REDIRECTS_S UCCESS)	クライアントの URL 要求をクラスタクライ	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. Successful

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Redirects Success (CMD_REDIRECTS_SUCCESS)	アントメンバーにリダイレクトできた回数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. Successful
Cmd Tot (CMD_TOT)	ICM が受信した URL コマンドの合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Total
Cmd Unknown (CMD_UNKNOWN)	ICM が認識しなかった URL コマンドの合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Unknown
Rcv Error (RCV_ERROR)	クライアントと ICM 間の通信障害が原因で ICM がクライアント要求を処理できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Receive. Error
Reqs Per1Hour Tot (REQS_PER1HOUR_TOT)	直前の 1 時間に ICM が受信した HTTP 要求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Requests. Per1Hour. Total
Reqs Per1Minute Tot (REQS_PER1MINUTE_TOT)	直前の 1 分間に ICM が受信した HTTP 要求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Requests. Per1Minute. Total
Reqs Per5Minutes Tot (REQS_PER5MINUTE_S_TOT)	直前の 5 分間に ICM が受信した HTTP 要求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Requests. Per5Minutes. Total
Session Accept Queue (SESSION_ACCEPT_QUEUE)	ICM リスナーが処理する受信セッションのワークキュー。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Accept. Queue
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな ICM サーバタスクの数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Active
Session In BytesRcvd (SESSION_IN_BYTESRCVD)	ICM サーバの受信バイト数の合計。	COPY	float	No	すべて	ICM. Sessions. Inbound. BytesReceived
Session In BytesSent (SESSION_IN_BYTESSENT)	ICM サーバの送信バイト数の合計。	COPY	float	No	すべて	ICM. Sessions. Inbound. BytesSent
Session In Non-SSL (SESSION_IN_NON_SSL)	ICM サーバの受信 TCP コネクション数 (非 SSL)。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Inbound. Non-SSL
Session In SSL Bad_Hndshk	ICM サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(SESSION_IN_SSL_BA DHNDSHK)	ICM サーバの SSL ハ ンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake
Session In SSL (SESSION_IN_SSL)	ICM サーバの受信 SSL コネクション数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Inbound. SSL
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	ICM サーバの受信コネ クションの合計 (SSL と非 SSL の合計)。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Sessions. Inbound. Total
Session Peak (SESSION_PEAK)	サーバ起動後の ICM サーバタスクの最大数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Peak
Session Threads Busy (SESSION_THREADS_ BUSY)	実行中の ICM サーバ タスク数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Sessions. Threads. Busy
Session Threads Idle (SESSION_THREADS_ IDLE)	アイドル中の ICM サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Sessions. Threads. Idle
Session Tot (SESSION_TOT)	サーバ起動後に実行し た ICM サービスの 合計。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Total

Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM)

機能

Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM) レコードには、クラスタシステムでの単位時間ごとのリダイレクト数、セッション使用率などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：789 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Redirects ClusterBusy (CMD_REDIR_CLUSTERBUSY)	すべてのサーバがビジーのとき、ICM が受信したクライアント要求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. ClusterBusy
Cmd Redirects Failed (CMD_REDIR_FAILED)	クライアントの URL 要求をクラスタクライアントメンバーにリダイレクトできなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Command. Redirects. Unsuccessful
Cmd Redirects Success (CMD_REDIR_SUCCESS)	クライアントの URL 要求をクラスタクライアント	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Command. Redirects. Successful

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cmd Redirects Success (CMD_REDIR_SUCCESS)	アントメンバーにリダイレクトできた回数。	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Command. Redirects. Successful
Cmd Tot (CMD_TOT)	ICM が受信した URL コマンドの合計数。	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Command. Total
Rcv Error (RCV_ERROR)	クライアントと ICM 間の通信障害が原因で ICM がクライアント要求を処理できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Receive. Error
Reqs Per1Minute Tot (REQS_PER1MINUTE_TOT)	直前の 1 分間に ICM が受信した HTTP 要求の合計数。	COPY	ulong	No	すべて	ICM. Requests. Per1Minute. Total
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな ICM サーバタスクの数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Active
Session In KBytesRcvd (SESSION_IN_KBYTE_SRCVD)	ICM サーバの受信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Sessions. Inbound. BytesReceived / 1024
Session In KBytesSent (SESSION_IN_KBYTE_SSENT)	ICM サーバの送信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Sessions. Inbound. BytesSent / 1024
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BA DHNSHK)	ICM サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	ICM. Sessions. Inbound.SSL. Bad_Handshake
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	ICM サーバの受信コネクションの合計 (SSL と非 SSL の合計)。	AVG	float	Yes	すべて	ICM. Sessions. Inbound. Total
Session Threads Usage (SESSION_THREADS_USAGE)	ICM サーバタスクの使用率。	COPY	float	No	すべて	(ICM. Sessions. Threads. Busy / (ICM. Sessions. Threads. Busy + ICM. Sessions. Threads. Idle)) * 100

LDAP Detail (PD_PDLP)

機能

LDAP Detail (PD_PDLP) レコードには、LDAP セッションの送受信状況、セッション使用状況、検索要求の実行情報などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：925 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Anonymous LDAP Conns (ANONYMOUS_LDAP _CONNS)	Anonymous 接続 の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Anonymous LDAP Connections
Avg LDAP Search time (AVG_LDAP_SEARCH _TIME)	すべての成功した検索 時間の平均。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Average LDAP Search time
Failed LDAP Conns (FAILED_LDAP_CON NS)	失敗したコネクショ ン数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Failed LDAP Connections

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Longest LDAP Search request (LONGEST_LDAP_SEARCH_REQUEST)	最長検索時間時の要求。	COPY	string(128)	No	すべて	LDAP.Longest LDAP Search request
Longest LDAP Search time (LONGEST_LDAP_SEARCH_TIME)	最長検索時間。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Longest LDAP Search time
Session Accept Queue (SESSION_ACCEPT_QUEUE)	LDAP リスナーが処理する受信セッションのワークキュー。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Accept.Queue
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな LDAP サーバタスクの数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Active
Session In BytesRcvd (SESSION_IN_BYTESRCVD)	LDAP サーバの受信バイト数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Inbound.BytesReceived
Session In BytesSent (SESSION_IN_BYTESSENT)	LDAP サーバの送信バイト数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Inbound.BytesSent
Session In Non-SSL (SESSION_IN_NON_SSL)	LDAP サーバの受信 TCP コネクション数 (非 SSL)。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Inbound.Non-SSL
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BADHANDSHK)	LDAP サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Inbound.SSL.Bad_Handshake
Session In SSL (SESSION_IN_SSL)	LDAP サーバの受信 SSL コネクション数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Inbound.SSL
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	LDAP サーバの受信コネクションの合計 (SSL と非 SSL の合計)。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Inbound.Total
Session Peak (SESSION_PEAK)	サーバ起動後の LDAP サーバタスクの最大数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP.Sessions.Peak
Session Threads Busy (SESSION_THREADS_BUSY)	実行中の LDAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Threads.Busy
Session Threads Idle	アイドル中の LDAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Threads.Idle

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(SESSION_THREADS_IDLE)	アイドル中の LDAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Threads.Idle
Session Tot (SESSION_TOT)	サーバ起動後の LDAP サーバタスク数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Sessions.Total
Simple LDAP Conns (SIMPLE_LDAP_CONNS)	シンプル認証接続数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Simple LDAP Connections
Strong Auth Conns (STRONG_AUTH_CONNS)	ストロング認証接続数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Strong Authentication Connections
Tot LDAP Abandons (TOT_LDAP_ABANDONS)	棄却された処理数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Abandons
Tot LDAP Adds (TOT_LDAP_ADDS)	追加処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Adds
Tot LDAP Compares (TOT_LDAP_COMPARES)	比較処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Compares
Tot LDAP Conns (TOT_LDAP_CONNS)	全コネクションの合計。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Connections
Tot LDAP Deletes (TOT_LDAP_DELETES)	削除処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Deletes
Tot LDAP Extended Ops (TOT_LDAP_EXTENDED_OPS)	拡張処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Extended Operations
Tot LDAP Modifies (TOT_LDAP_MODIFIES)	修正処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Modifies
Tot LDAP ModifyDNs (TOT_LDAP_MODIFYDNS)	DNS 修正処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP ModifyDNs
Tot LDAP Search for Root DSE (TOT_LDAP_SEARCH_FOR_ROOT_DSE)	ルート DSE に関する検索要求数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Searches for Root DSE

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Tot LDAP Search for Subschema (TOT_LDAP_SEARCH _FOR_SUBSCHEMA)	サブスキーマエント リに関する検索要 求数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Searches for Subschema
Tot LDAP Search (TOT_LDAP_SEARCH)	検索実行処理の数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP.Total LDAP Searches

LDAP Overview (PI_PILP)

機能

LDAP Overview (PI_PILP) レコードには、LDAP セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量、検索要求実行回数、セッション使用率などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：861 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Avg LDAP Search time (AVG_LDAP_SEARCH_TIME)	すべての成功した検索時間の平均。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP. Average LDAP Search time
Failed LDAP Conns (FAILED_LDAP_CONNS)	失敗した接続数。	COPY	ulong	No	すべて	LDAP. Failed LDAP Connections
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな LDAP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP. Sessions. Active
Session In KbytesRcvd (SESSION_IN_KBYTE_SRCVD)	LDAP サーバの受信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Sessions. Inbound.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session In KbytesRcvd (SESSION_IN_KBYTE SRCVD)	LDAP サーバの受信バ イト数の合計。キロバ イト単位。	AVG	float	Yes	すべて	BytesReceived / 1024
Session In KBytesSent (SESSION_IN_BYTESS ENT)	LDAP サーバの送信バ イト数の合計。キロバ イト単位。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Sessions. Inbound. BytesSent / 1024
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BA DHNSHK)	LDAP サーバの SSL ハンドシェイク失敗 回数。	COPY	ulong	No	対象外	LDAP. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	LDAP サーバの受信コ ネクションの合計 (SSL と非 SSL の合 計)。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Sessions. Inbound. Total
Session Threads Usage (SESSION_THREADS_ USAGE)	LDAP サーバタスクの 使用率。	COPY	float	No	すべて	(LDAP. Sessions. Threads. Busy / (LDAP. Sessions. Threads. Idle + LDAP. Sessions. Threads. Busy) * 100
Tot LDAP Abandons (TOT_LDAP_ABAND ONS)	棄却された処理数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Abandons
Tot LDAP Adds (TOT_LDAP_ADDS)	追加処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Adds
Tot LDAP Compares (TOT_LDAP_COMPA RES)	比較処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Compares
Tot LDAP Conns (TOT_LDAP_CONNS)	全コネクションの合計。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Connections
Tot LDAP Deletes (TOT_LDAP_DELETE S)	削除処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Deletes
Tot LDAP Modifies (TOT_LDAP_MODIFI ES)	修正処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Modifies
Tot LDAP Search	検索実行処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Searches

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(TOT_LDAP_SEARCH)	検索実行処理の数。	AVG	float	Yes	すべて	LDAP. Total LDAP Searches

Logical Disk Overview (PI_PILG)

機能

Logical Disk Overview (PI_PILG) レコードには、各論理ディスクの使用率情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PILG_DISK_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：76 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Disk Free Kbytes (DISK_FREE_KBYTES)	ディスク空きサイズ。	COPY	float	No	すべて	Disk._.Free / 1024
Disk Name (DISK_NAME)	ドライブ名。	COPY	string(64)	No	すべて	Disk.<DiskName >
Disk Size Kbytes (DISK_SIZE_KBYTES)	ディスクサイズ。	COPY	float	No	すべて	Disk._.Size / 1024
Disk Usage (DISK_USAGE)	ディスク空き容量率。	COPY	float	No	すべて	Disk._.Free / Disk._.Size * 100

Mail Detail (PD_PDML)

機能

Mail Detail (PD_PDML) レコードには、ノーツメールの発生状況、デッドメールの発生状況、転送レート、および負荷情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：813 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
AvgDeliverTime (AVGDELIVERTIME)	メール送信の平均時間。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageDeliverTime
AvgServerHops (AVGSERVERHOPS)	送信メールの平均サーバ中継数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageServerHops
AvgSizeDelivered (AVGSIZEDELIVERED)	送信メールの平均サイズ。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageSizeDelivered
Dead (DEAD)	MAIL.BOX 内の送信無効（配信不可能）メール数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Dead

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Delivered (DELIVERED)	ルーターによって MAIL.BOX に格納さ れたメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Delivered
Deliveries (DELIVERIES)	送信された実際のメー ルアイテム数 (送信さ れた個々のメッセージ 数とは異なることが ある)。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Deliveries
Domain (DOMAIN)	メールドメイン名。	COPY	string(32)	No	すべて	Mail.Domain
Hold (HOLD)	保留メッセージキュー にあるメールメッセー ジ数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Hold
MaxDeliverTime (MAXDELIVERTIME)	メール送信の最長時間。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MaximumDel iverTime
MaxServerHops (MAXSERVERHOPS)	送信メールの最大サー バ中継数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MaximumSer verHops
MaxSizeDelivered (MAXSIZEDELIVERE D)	送信メールの最大サ イズ。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MaximumSiz eDelivered
MinDeliverTime (MINDELIVERTIME)	メール送信の最短時間。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MinimumDeli verTime
MinServerHops (MINSERVERHOPS)	送信メールの最小サー バ中継数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MinimumSer verHops
MinSizeDelivered (MINSIZEDELIVERED)	送信メールの最小サ イズ。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.MinimumSize Delivered
TotFailures (TOTFAILURES)	失敗メールの合計数。	COPY	ulong	No	すべて	MAIL.TotalFailure s
TotKBDelivered (TOTKBDELIVERED)	ルーターによって格納 されたメールの合計キ ロバイト数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalKBDeliv ered
TotKBXferd (TOTKBXFERD)	転送メールの合計キロ バイト数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalKBTran sferred
TotPending (TOTPENDING)	送信待ちメール数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalPending

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
TotRouted SMTP (TOTROUTED_SMTP)	メールボックスからSMTP 経由で転送されたメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalRouted.SMTPT
TotRouted (TOTROUTED)	メールボックスからほかのサーバに転送されたメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalRouted
TotRouter NRPC (TOTROUTER_NRPC)	メールボックスからNRPC 経由で転送されたメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TotalRouter.NRPC
Waiting (WAITING)	MAIL.BOX にある送信待ちメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Waiting
WaitingforDNS (WAITINGFORDNS)	MAIL.BOX にあるDNS 解決待ちメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.WaitingforDNS
WaitingRecipients (WAITINGRECIPIENTS)	ユーザーのメールファイルに送信されるのを待っている、MAIL.BOX の中の送信待ちメール数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.WaitingRecipients
Xferd (XFERD)	ルーターが転送したメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Transferred
XferFailures (XFERFAILURES)	ルーターが転送できなかったメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TransferFailures

Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)

機能

Mail Knowledge Overview (PI_PIMK) レコードには、デッドメールの発生状況、期間超過メールの発生状況、各メールデータベースの使用率などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	3600	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIMK_FILENAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：148 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Database Filename (DB_FILENAME)	メールデータベースの ファイル名。	COPY	string(64)	No	すべて	NSFSearch()
Database Free Kbytes (DB_FREE_KBYTES)	メールデータベース内 の未使用サイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsag eScaled()
Database Size Kbytes (DB_SIZE_KBYTES)	メールデータベースの 確保サイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsag eScaled()
Database Title (DB_TITLE)	メールデータベースの タイトル。	COPY	string(64)	No	すべて	NSFDbInfoGet()

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Database Usage (DB_USAGE)	メールデータベース使用率。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Used Kbytes (DB_USED_KBYTES)	メールデータベース内で実際に使用されている領域のサイズ。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Expired Mails (EXPIRED)	有効期間を超過したメール数。	COPY	ulong	No	すべて	Agent Collector

Mail Overview (PI_PIML)

機能

Mail Overview (PI_PIML) レコードには、ノーツメールでの時間単位ごとのメール送信数、送信バイト数、デッドメールの発生数などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：785 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
AvgDeliverTime (AVGDELIVERTIME)	メール送信の平均時間。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageDeliverTime
AvgServerHops (AVGSERVERHOPS)	送信メールの平均サーバ中継数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageServerHops
AvgSizeDelivered (AVGSIZEDELIVERED)	送信メールの平均サイズ。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.AverageSizeDelivered
Dead (DEAD)	MAIL.BOX 内の送信無効（配信不可能）メール数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.Dead

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Delivered (DELIVERED)	ルーターによって MAIL.BOX に格納さ れたメールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail.Delivered
TotFailures (TOTFAILURES)	失敗メールの合計数。	COPY	ulong	No	すべて	MAIL.TotalFailure s
TotKBDelivered (TOTKBDELIVERED)	ルーターによって格納 されたメールの合計キ ロバイト数。	AVG	float	No	すべて	Mail.TotalKBDeliv ered
TotKBXferd (TOTKBXFERD)	転送メールの合計キロ バイト数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail.TotalKBTran sferred
TotRouted (TOTROUTED)	メールボックスからほ かのサーバに転送され たメールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail.TotalRouted
Xferd (XFERD)	ルーターが転送した メールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail.Transferred
XferFailures (XFERFAILURES)	ルーターが転送できな かったメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail.TransferFailu res

Memory Detail (PD_PDMM)

機能

Memory Detail (PD_PDMM) レコードには、サーバによるメモリー使用情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：733 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Alloc Process (ALLOC_PROCESS)	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリーの合計。	COPY	ulong	No	すべて	Mem.Allocated.Process
Alloc Shared (ALLOC_SHARED)	共有メモリーとして割り当てられたサーバのメモリーの合計。	COPY	ulong	No	すべて	Mem.Allocated.Shared
Alloc (ALLOC)	サーバによって割り当てられたメモリーの合計。	COPY	ulong	No	すべて	Mem.Allocated
Availability (AVAILABILITY)	使用できるサーバメモリー。	COPY	string(32)	No	すべて	Mem.Availability

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Free (FREE)	サーバの使用可能メモ リーの合計。	COPY	float	No	すべて	Mem.Free
PhysicalRam (PHYSICALRAM)	サーバの物理メモリー の合計値。	COPY	ulong	No	すべて	Mem.PhysicalRam

Memory Overview (PI_PIMM)

機能

Memory Overview (PI_PIMM) レコードには、時間単位ごとのサーバメモリー確保量、解放量、確保したメモリーの内訳などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：729 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Alloc Kbytes (ALLOC_KBYTES)	サーバによって割り当てられたメモリーの合計。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	Mem.Allocated / 1024
Alloc Process Kbytes (ALLOC_PROCESS_KBYTES)	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリーの合計。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	Mem.Allocated.Process / 1024
Alloc Shared Kbytes (ALLOC_SHARED_KBYTES)	共有メモリーとして割り当てられたサーバのメモリーの合計。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	Mem.Allocated.Shared / 1024

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Availability (AVAILABILITY)	使用できるサーバメモリー。	COPY	string(32)	No	すべて	Mem.Availability
Free Kbytes (FREE_KBYTES)	サーバの使用可能メモリーの合計。キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	Mem.Free / 1024

Message Transfer Agent Detail (PD_PDMT)

機能

Message Transfer Agent Detail (PD_PDMT) レコードには、各プロトコルのメール転送エージェントでのメールの送受信情報、デッドメールの発生状況、ワークキューで送信待ち状態になっているメール数などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PD_PDMT_PROTOCOL_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：60 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Dead (DEAD)	MTA の受信・送信 ワークキューにある送 信無効メール。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _Dead
Protocol Name (PROTOCOL_NAME)	プロトコル名。	COPY	string(32)	No	対象外	MTA.<ProtocolN ame>
TotKBXferd (TOTKBXFERD)	合計キロバイト数 (送 信と受信)。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _.TotalKBTransfer red

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
TotRouted (TOTROUTED)	配信された MTA メール の受信者合計数 (受信と送信)。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _TotalRouted
Waiting (WAITING)	MTA のワークキュー にある送信待ちメッ セージの合計数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _Waiting
WaitingRecipients (WAITINGRECIPIENTS)	受信と送信ワーク キューに止まっている 送信待ちメールに指定 されている受信者の数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _WaitingRecipients
Xferd (XFERD)	転送された MTA メール の合計数 (受信と送信)。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _Transferred
XferFailures (XFERFAILURES)	MTA で NDR または UMN への変換に失敗 して送信できなかった メールの合計数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _TransferFailures

Message Transfer Agent Overview (PI_PIMT)

機能

Message Transfer Agent Overview (PI_PIMT) レコードには、各プロトコルのメール転送エージェントでのメール転送数、転送量、デッドメールの発生数などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIMT_PROTOCOL_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：96 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Dead (DEAD)	MTA の受信・送信 ワークキューにある送 信無効メール。	COPY	ulong	No	対象外	MTA._Dead
Protocol Name (PROTOCOL_NAME)	プロトコル名。	COPY	string(32)	No	対象外	MTA.<ProtocolN ame>
TotKBXferd (TOTKBXFERD)	合計キロバイト数 (送 信と受信)。	AVG	float	Yes	対象外	MTA. _.TotalKBTransfer red

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
TotRouted (TOTROUTED)	配信された MTA メール の受信者合計数（受 信と送信）。	AVG	float	Yes	対象外	MTA. _TotalRouted
Waiting (WAITING)	MTA のワークキュー にある送信待ちメッ セージの合計数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _Waiting
WaitingRecipients (WAITINGRECIPIEN TS)	受信と送信ワーク キューに止まっている 送信待ちメールに指定 されている受信者の数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _WaitingRecipien ts
Xferd (XFERD)	転送された MTA メール の合計数（受信と 送信）。	AVG	float	Yes	対象外	MTA. _Transferred
XferFailures (XFERFAILURES)	MTA で NDR または UMN への変換に失敗 して送信できなかった メールの合計数。	COPY	ulong	No	対象外	MTA. _TransferFailures

Network Detail (PD_PDNE)

機能

Network Detail (PD_PDNE) レコードには、各ポートでのデータ送受信情報、セッション確立数などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PD_PDNE_PORT_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：72 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Bytes Rcvd (BYTES_RCVD)	受信したネットワーク バイト数。	COPY	float	No	すべて	NET. <PortName>. BytesReceived
Bytes Sent (BYTES_SENT)	送信したネットワーク バイト数。	COPY	float	No	すべて	NET. <PortName>. BytesSent
Port Name (PORT_NAME)	ポート名。	COPY	string(32)	No	すべて	NET. <PortName>
Session Established Incoming	確立した受信セッショ ンの数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(SESSION_ESTABLISHED_INCOMING)	確立した受信セッションの数。	COPY	ulong	No	すべて	Established. Incoming
Session Established Outgoing (SESSION_ESTABLISHED_OUTGOING)	確立した送信セッションの数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Established. Outgoing
Session Limit (SESSION_LIMIT)	限界のセッション数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Limit
Session LimitMax (SESSION_LIMITMAX)	最大限のセッション数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. LimitMax
Session LimitMin (SESSION_LIMITMIN)	最小限のセッション数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. LimitMin
Session Peak (SESSION_PEAK)	セッションの最大数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Peak
Session Recycled (SESSION_RECYCLED)	再利用されたセッション数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Recycled
Session Recycling (SESSION_RECYCLING)	再利用中のセッション数。	COPY	ulong	No	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Recycling

Network Overview (PI_PINE)

機能

Network Overview (PI_PINE) レコードには、各ポートでの時間単位ごとのデータ送受信量、セッション確立数などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PINE_PORT_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：112 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
KBytesRcvd (KBYTESRCVD)	受信したネットワーク バイトの数。キロバイ ト単位。	AVG	float	Yes	すべて	NET. <PortName>. BytesReceived / 1024
KBytesSent (KBYTESENT)	送信したネットワーク バイトの数。キロバイ ト単位。	AVG	float	Yes	すべて	NET. <PortName>. BytesSent / 1024
Port Name (PORT_NAME)	ポート名。	COPY	string(32)	No	すべて	NET. <PortName>
Session Established In	確立した受信セッシ ョンの数。	AVG	float	Yes	すべて	NET. <PortName>.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(SESSION_ESTABLISHED_IN)	確立した受信セッションの数。	AVG	float	Yes	すべて	Sessions. Established. Incoming
Session Established Out (SESSION_ESTABLISHED_OUT)	確立した送信セッションの数。	AVG	float	Yes	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Established. Outgoing
Session Recycled (SESSION_RECYCLED)	再利用されたセッション数。	AVG	float	Yes	すべて	NET. <PortName>. Sessions. Recycled

NNTP Detail (PD_PDNN)

機能

NNTP Detail (PD_PDNN) レコードには、ニュースサーバ間のニュース記事送受信状況、送受信エラーの発生状況などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PD_PDNN_REMOTE_SERVER_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：104 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Articles Posted (ARTICLES_POSTED)	NNTP サーバに送信されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Articles. Posted
Bytes Rcvd (BYTES_RCVD)	NNTP サーバが受信するバイト数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Bytes. Received
Pull Articles Failed (PULL_ARTICLES_FAILED)	プル中に NNTP サーバが受取りに失敗したニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Pull.Articles. Failed

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Pull Articles Offered (PULL_ARTICLES_OFFERED)	プル中に NNTP サーバによって提供されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Pull.Articles.Offered
Pull Articles Reqed (PULL_ARTICLES_REQED)	プル中に NNTP サーバから要求されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Pull.Articles.Requested
Pull Articles Xfered (PULL_ARTICLES_XFERED)	プル中に NNTP サーバによって転送されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Pull.Articles.Transferred
Push Articles Failed (PUSH_ARTICLES_FAILED)	プッシュ中に NNTP サーバが送信に失敗したニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Push.Articles.Failed
Push Articles Offered (PUSH_ARTICLES_OFFERED)	プッシュ中に NNTP サーバによって提供されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Push.Articles.Offered
Push Articles Reqed (PUSH_ARTICLES_REQED)	プッシュ中に NNTP サーバから要求されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Push.Articles.Requested
Push Articles Xfered (PUSH_ARTICLES_XFERED)	プッシュ中に NNTP サーバから転送されたニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>. Push.Articles.Transferred
Remote Server Name (REMOTE_SERVER_NAME)	リモートサーバ名。	COPY	string(64)	No	対象外	NNTP. <RemoteServerName>

NNTP Overview (PI_PINN)

機能

NNTP Overview (PI_PINN) レコードには、ニュースサーバ間の単位時間ごとのニュース記事送受信量、送受信エラー数などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：937 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Articles Posted (ARTICLES_POSTED)	NNTP サーバに送信されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Articles. Posted
KBytes Rcvd (KBYTES_RCVD)	NNTP サーバが受信するバイト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Bytes. Received / 1024
Pull Articles Failed (PULL_ARTICLES_FAILED)	プル中に NNTP サーバが受取りに失敗したニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Pull.Articles. Failed
Pull Articles Offered (PULL_ARTICLES_OFFERED)	プル中に NNTP サーバによって提供されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Pull.Articles. Offered

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Pull Articles Reqed (PULL_ARTICLES_REQED)	プル中に NNTP サーバから要求されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Pull.Articles. Requested
Pull Articles Xfered (PULL_ARTICLES_XFERED)	プル中に NNTP サーバによって転送されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Pull.Articles. Transferred
Push Articles Failed (PUSH_ARTICLES_FAILED)	プッシュ中に NNTP サーバが送信に失敗したニュース記事の数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Push. Articles. Failed
Push Articles Offered (PUSH_ARTICLES_OFFERED)	プッシュ中に NNTP サーバによって提供されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Push. Articles. Offered
Push Articles Reqed (PUSH_ARTICLES_REQED)	プッシュ中に NNTP サーバから要求されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Push. Articles. Requested
Push Articles Xfered (PUSH_ARTICLES_XFERED)	プッシュ中に NNTP サーバから転送されたニュース記事の数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Push. Articles. Transferred
Session Accept Queue (SESSION_ACCEPT_QUEUE)	NNTP リスナーが処理する受信セッションのワークキュー。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Sessions. Accept. Queue
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな NNTP サーバタスクの数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Sessions. Active
Session In KBytesRcvd (SESSION_IN_KBYTESRCVD)	NNTP サーバの受信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. BytesReceived / 1024
Session In KBytesSent (SESSION_IN_BYTESSENT)	NNTP サーバの送信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. BytesSent / 1024
Session In Non-SSL (SESSION_IN_NON_SSL)	NNTP サーバの受信 TCP コネクション数 (非 SSL)。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. Non-SSL
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BADHANDSHK)	NNTP サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake
Session In SSL (SESSION_IN_SSL)	NNTP サーバの受信 SSL コネクション数。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. SSL

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	NNTP サーバの受信コ ネクションの合計 (SSL と非 SSL の合 計)。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Inbound. Total
Session Threads Busy (SESSION_THREADS_ BUSY)	実行中の NNTP サー バタスク数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Sessions. Threads. Busy
Session Threads Idle (SESSION_THREADS_ IDLE)	アイドル中の NNTP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	対象外	NNTP. Sessions. Threads. Idle
Session Threads Usage (SESSION_THREADS_ USAGE)	NNTP サーバタスクの 使用率。	COPY	float	No	対象外	(NNTP. Sessions. Threads. Busy / (NNTP. Sessions. Threads. Idle + NNTP. Sessions. Threads. Busy)) * 100
Session Tot (SESSION_TOT)	サーバ起動後の NNTP サーバタスク数の合計。	AVG	float	Yes	対象外	NNTP. Sessions. Total

Notes Log Check Overview (PL_PLNL)

機能

Notes Log Check Overview (PL_PLNL) レコードには、指定したフィルター条件に一致した Notes Log のメッセージが格納されます。フィルター条件の指定は、PFM - Agent for Domino の Notes Log Check Options プロパティで指定します。詳細については、「5. Notes Log 情報の収集」または「付録 F PFM - Agent for Domino のプロパティ」を参照してください。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	Y	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：512 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Message Text (MESSAGE_TEXT)	Notes Log Check Options プロパティに指定した条件と一致した Notes Log のメッセージが次の形式で格納される。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"><p><識別子>:<Notes Log View名>: ログテキスト</p></div>	COPY	string(512)	No	すべて	Agent Collector

POP3 Detail (PD_PDPP)

機能

POP3 Detail (PD_PDPP) レコードには、POP3 コマンドの実行状況を示す情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：717 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Command AUTH (COMMAND_AUTH)	POP3 AUTH コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.AUTH
Command DELE (COMMAND_DELE)	POP3 DELE コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.DELE
Command LIST (COMMAND_LIST)	POP3 LIST コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.LIST
Command PASS (COMMAND_PASS)	POP3 PASS コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.PASS
Command QUIT (COMMAND_QUIT)	POP3 QUIT コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.QUIT

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Command RETR (COMMAND_RETR)	POP3 RETR コマンド が実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command. RETR
Command STAT (COMMAND_STAT)	POP3 STAT コマンド が実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command.S TAT
Command UIDL (COMMAND_UIDL)	POP3 UIDL コマンド が実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command. UIDL
Command USER (COMMAND_USER)	POP3 USER コマンド が実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	POP3.Command. USER

Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM)

機能

Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM) レコードには、各調査対象サーバでのノーツメール配信に掛かる時間などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIQM_SERVERNAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：68 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
ResponseTime (RESPONSETIME)	調査対象サーバに対して、テストメールを配信するのに掛かった時間。	COPY	long	No	すべて	QOS.Mail.ISpy._.ResponseTime
ServerName (SERVERNAME)	調査対象のサーバ名。	COPY	string(64)	No	すべて	QOS.Mail.ISpy.<ServerName>

Quality of Service Overview (PI_PIQS)

機能

Quality of Service Overview (PI_PIQS) レコードには、各調査対象サーバでの各 TCP サービスポート (LDAP, IMAP, POP3, NNTP など) の応答時間情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

- PI_PIQS_TCP_SERVICE_TYPE
- PI_PIQS_SERVERNAME
- PI_PIQS_MONITOR_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：196 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Monitor ID (MONITOR_ID)	調査単位に割り振られるモニター ID。	COPY	string(64)	No	すべて	QOS.<TCPServiceType>.<Monitor ID>
ResponseTime (RESPONSETIME)	調査対象サーバのサービスポートに対して、ダミー通信するのに掛かった時間。	COPY	long	No	すべて	QOS._._._.ResponseTime

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
ServerName (SERVERNAME)	調査対象のサーバ名。	COPY	string(64)	No	すべて	QOS.<TCPServiceType>.<MonitorID>.<ServerName>
TCP Service Type (TCP_SERVICE_TYPE)	TCP サービスタイプ (HTTP, IMAP, NNTP, POP3 など)。	COPY	string(64)	No	すべて	QOS.<TCPServiceType>

Replica Detail (PD_PDRP)

機能

Replica Detail (PD_PDRP) レコードには、レプリケータによる複製実行状況、エラー状況、および複製処理のキューイング情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：773 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster Docs Added (CLUSTER_DOCS_ADDED)	クラスタレプリケータによって追加された文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Docs. Added
Cluster Docs Deleted (CLUSTER_DOCS_DELETED)	クラスタレプリケータによって削除された文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Docs. Deleted
Cluster Docs Updated (CLUSTER_DOCS_UPDATED)	クラスタレプリケータによって更新された文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Docs. Updated
Cluster Failed (CLUSTER_FAILED)	サーバ起動後に失敗した複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Failed

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster Files Local (CLUSTER_FILES_LOCAL)	サーバ上のクラスタレプリカの数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Files. Local
Cluster Files Remote (CLUSTER_FILES_REMOTE)	クラスタ内のほかのサーバ上のクラスタレプリカの数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Files. Remote
Cluster Retry Skipped (CLUSTER_RETRY_SKIPPED)	クラスタレプリケータが、サーバに到達できなかったかデータベースにアクセスできなかったために複製されなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Retry. Skipped
Cluster Retry Waiting (CLUSTER_RETRY_WAITING)	再試行待ちの複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Retry. Waiting
Cluster SecondsOnQueue Avg (CLUSTER_SECONDS_ONQUEUE_AVG)	クラスタレプリケータがキュー上にあった平均秒数。	COPY	float	No	すべて	Replica. Cluster. SecondsOnQueue . Avg
Cluster SecondsOnQueue Max (CLUSTER_SECONDS_ONQUEUE_MAX)	クラスタレプリケータがキュー上にあった最長秒数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. SecondsOnQueue . Max
Cluster SecondsOnQueue (CLUSTER_SECONDS_ONQUEUE)	クラスタレプリケータがキュー上にあった秒数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. SecondsOnQueue
Cluster Servers (CLUSTER_SERVERS)	サーバから複製を受け取ったクラスタ上のほかのサーバの数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Servers
Cluster SessionBytes In (CLUSTER_SESSIONBYTES_IN)	クラスタレプリケータが受信したバイト数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. SessionBytes. In
Cluster SessionBytes Out (CLUSTER_SESSIONBYTES_OUT)	クラスタレプリケータから送信されたバイト数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. SessionBytes. Out
Cluster Success (CLUSTER_SUCCESS)	サーバ起動後に成功した複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Successful

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster WorkQueueDepth Avg (CLUSTER_WORKQUE UEDEPTH_AVG)	クラスタレプリケータ によってほかのサーバ に複製されるキューを 待っている変更された データベースの平均数。	COPY	float	No	すべて	Replica. Cluster. WorkQueueDepth . Avg
Cluster WorkQueueDepth Max (CLUSTER_WORKQUE UEDEPTH_MAX)	クラスタレプリケータ によってほかのサーバ に複製されるキューを 待っている変更された データベースの最大数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. WorkQueueDepth . Max
Cluster WorkQueueDepth (CLUSTER_WORKQUE UEDEPTH)	クラスタレプリケータ によってほかのサーバ に複製されるキューを 待っている変更された データベースの数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. WorkQueueDepth
Docs Added (DOCS_ADDED)	複製によってサーバ上 のデータベースに追加 された文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Docs. Added
Docs Deleted (DOCS_DELETED)	複製によってサーバ上 のデータベースから削 除された文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Docs. Deleted
Docs Updated (DOCS_UPDATED)	複製によって更新され たサーバ上のデータ ベースの文書数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Docs. Updated
Failed (FAILED)	何らかのエラーが返さ れた複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Failed
Success (SUCCESS)	成功した複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Successful

Replica Overview (PI_PIRP)

機能

Replica Overview (PI_PIRP) レコードには、レプリケータによる単位時間ごとの複製実行回数、エラー回数、複製処理のキューイング平均値などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：857 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster Docs Added (CLUSTER_DOCS_ADDED)	クラスタレプリケータによって追加された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. Docs. Added
Cluster Docs Deleted (CLUSTER_DOCS_DELETED)	クラスタレプリケータによって削除された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. Docs. Deleted
Cluster Docs Updated (CLUSTER_DOCS_UPDATED)	クラスタレプリケータによって更新された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. Docs. Updated
Cluster Failed (CLUSTER_FAILED)	サーバ起動後に失敗した複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Failed

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster KBytes In (CLUSTER_KBYTES_I N)	クラスタレプリケータ が受信したバイト数。 キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. SessionBytes. In / 1024
Cluster KBytes Out (CLUSTER_KBYTES_ OUT)	クラスタレプリケータ から送信されたバイ ト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. SessionBytes. Out / 1024
Cluster SecondsOnQueue Avg (CLUSTER_SECONDS ONQUEUE_AVG)	クラスタレプリケータ がキュー上にあった平 均秒数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. SecondsOnQueue . Avg
Cluster Success (CLUSTER_SUCCESS)	サーバ起動後に成功し た複製の数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Cluster. Successful
Cluster WorkQueueDepth Avg (CLUSTER_WORKQU EUEDEPTH_AVG)	クラスタレプリケータ によってほかのサーバ に複製されるキューを 待っている変更された データベースの平均数。	COPY	float	No	すべて	Replica. Cluster. WorkQueueDepth . Avg
Docs Added (DOCS_ADDED)	複製によってサーバ上 のデータベースに追加 された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Added
Docs Deleted (DOCS_DELETED)	複製によってサーバ上 のデータベースから削 除された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Deleted
Docs Updated (DOCS_UPDATED)	複製によって更新され たサーバ上のデータ ベースの文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Updated
Failed (FAILED)	何らかのエラーが返さ れた複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Failed
Success (SUCCESS)	成功した複製の数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Successful

Serial Port Detail (PD_PDXP)

機能

Serial Port Detail (PD_PDXP) レコードには、各シリアルポートでのデータの送受信量、エラーの発生状況などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PD_PDXP_PORT_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：136 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Errors CRC (ERRORS_CRC)	シリアルポートの CRC エラー数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Errors. CRC
Errors Port (ERRORS_PORT)	シリアルポートのポー トエラー数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Errors. Port
Errors ReXmitdtdPkts (ERRORS_REXMITDT EDPKTS)	シリアルポートで再送 信されたパケットの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Errors. RetransmittedPac kets

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Port Name (PORT_NAME)	ポート名。	COPY	string(32)	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>
Session Active (SESSION_ACTIVE)	シリアルポートで活動 しているセッション の数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Sessions. Active
Speed Carrier (SPEED_CARRIER)	シリアルポートのキャ リア速度。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Speed. Carrier
Speed Port (SPEED_PORT)	シリアルポートのポー ト速度。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Speed. Port
Status (STATUS)	シリアルポートのス テータス。	COPY	string(64)	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. Status
UserBytes Rcvd (USERBYTES_RCVD)	シリアルポートでユー ザーが受信したバイ ト数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. UserBytes. Received
UserBytes Sent (USERBYTES_SENT)	シリアルポートでユー ザーが送信したバイ ト数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. UserBytes. Sent
UserMsgs Rcvd (USERMSGs_RCVD)	シリアルポートで受信 したユーザーメッセ ージの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. UserMsgs. Received
UserMsgs Sent (USERMSGs_SENT)	シリアルポートで送信 したユーザーメッセ ージの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC. <PortName>. UserMsgs. Sent

Serial Port Overview (PI_PIXP)

機能

Serial Port Overview (PI_PIXP) レコードには、各シリアルポートでの単位時間ごとのデータの送受信量、エラーの発生状況などの情報が格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIXP_PORT_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：172 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Errors CRC (ERRORS_CRC)	シリアルポートの CRC エラー数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .Errors.CRC
Errors Port (ERRORS_PORT)	シリアルポートのポー トエラー数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .Errors.Port
Port Name (PORT_NAME)	ポート名。	COPY	string(32)	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName>

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session Active (SESSION_ACTIVE)	シリアルポートで活動しているセッションの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .Sessions.Active
Status (STATUS)	シリアルポートのステータス。	COPY	string(64)	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .Status
UserKBytes Rcvd (USERKBYTES_RCVD)	シリアルポートでユーザーが受信したバイト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .UserBytes.Received / 1024
UserKBytes Sent (USERKBYTES_SENT)	シリアルポートでユーザーが送信したバイト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .UserBytes.Sent / 1024
UserMsgs Rcvd (USERMSGs_RCVD)	シリアルポートで受信したユーザーメッセージの数。	AVG	float	Yes	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .UserMsgs.Received
UserMsgs Sent (USERMSGs_SENT)	シリアルポートで送信したユーザーメッセージの数。	AVG	float	Yes	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	XPC.<PortName> .UserMsgs.Sent

Server Detail (PD_PDSV)

機能

Server Detail (PD_PDSV) レコードには、ドミノサーバの稼働状況、トランザクション情報、ユーザーのログイン状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：2,145 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Administrators (ADMINISTRATOR)	管理者の名前（公開アドレス帳のサーバ文書に記録された管理者）。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Administrators
AvailabilityIndex (AVAILABILITYINDEX)	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は0から100である。0は使用できるリソースがまったくないことを示す。値が100のときは100%利用可能である。	COPY	ulong	No	すべて	Server. AvailabilityIndex

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
AvailabilityThreshold (AVAILABILITYTHRESHOLD)	サーバの可用性しきい値の現在の設定。サーバの可用性インデックスが可用性しきい値より低くなったとき、サーバはビジー状態である。	COPY	ulong	No	すべて	Server. AvailabilityThreshold
BootID (BOOTID)	ブートセッションを見分けるための固有な番号。	COPY	ulong	No	すべて	Server. BootID
BusyTimeQuery RcvdCount (BUSYTIMEQUERY_RCVDCOUNT)	スケジュールのビジータイムクエリー数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. BusyTimeQuery. ReceivedCount
Cluster AvailabilityIndex (CLUSTER_AVAILABILITYINDEX)	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は 0 から 100 である。0 は使用できるリソースがまったくないことを示す。値が 100 のときは 100%利用可能である。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. AvailabilityIndex
Cluster AvailabilityThreshold (CLUSTER_AVAILABILITYTHRESHOLD)	サーバの可用性しきい値の現在の設定。サーバの可用性インデックスが可用性しきい値より低くなったとき、サーバはビジー状態である。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. AvailabilityThreshold
Cluster Name (CLUSTER_NAME)	サーバが属するクラスタの名前。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Cluster. Name
CPU Count (CPU_COUNT)	システム内のプロセッサの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. CPU. Count
CPU Type (CPU_TYPE)	システムプロセッサのタイプ（例:386 486 Pentium）。	COPY	string(32)	No	すべて	Server. CPU. Type
ElapsedTime (ELAPSEDTIME)	サーバ再起動後の経過時間。	COPY	string(32)	No	すべて	Server. ElapsedTime
Failover Failed (FAILOVER_FAILED)	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないと	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Failover Failed (FAILOVER_FAILED)	きに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Failover. Unsuccessful
Failover Success (FAILOVER_SUCCESS)	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. Failover. Successful
FailoverBP Failed (FAILOVERBP_FAILED)	クライアントがパス名によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. FailoverByPath. Unsuccessful
FailoverBP Success (FAILOVERBP_SUCCESS)	クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. FailoverByPath. Successful
LoadBalance Failed (LOADBALANCE_FAILED)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalance. Unsuccessful
LoadBalance Success (LOADBALANCE_SUCCESS)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalance. Successful
LoadBalanceBP Failed (LOADBALANCEBP_FAILED)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライ	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalanceByPath. Unsuccessful

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
LoadBalanceBP Failed (LOADBALANCEBP_FAILED)	アントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalanceByPath. Unsuccessful
LoadBalanceBP Success (LOADBALANCEBP_SUCCESS)	サーバがビジジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalanceByPath. Successful
Name (NAME)	サーバ名。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Name
OpenReq ClusterBusy (OPENREQ_CLUSTERBUSY)	サーバがビジジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. ClusterBusy
OpenReq DatabaseOutOfService (OPENREQ_DBOUTOFERVICE)	クライアントがサーバのサービスの範囲外として指定されたデータベースを開こうとした回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. DatabaseOutOfService
OpenReq LoadBalanced (OPENREQ_LOADBALANCED)	サーバがビジジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. LoadBalanced
OpenReq Maxusers (OPENREQ_MAXUSERS)	最大ユーザーに到達したオープン要求。	COPY	ulong	No	すべて	Server. OpenRequest. Maxusers
OpenReq PreV4Clients (OPENREQ_PREV4CLIENTS)	pre-R4 クライアントからのオープン要求。	COPY	ulong	No	すべて	Server. OpenRequest. PreV4Clients
OpenReq Restricted (OPENREQ_RESTRICTED)	制限されたクライアントからのオープン要求。	COPY	ulong	No	すべて	Server. OpenRequest. Restricted
OpenReq V4Clients (OPENREQ_V4CLIENTS)	R4 クライアントからのオープン要求。	COPY	ulong	No	すべて	Server. OpenRequest. V4Clients

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Path Data (PATH_DATA)	サーバのデフォルトのデータドライブとディレクトリ。	COPY	string(256)	No	すべて	Server. Path. Data
Portname (PORTNAME)	クラスタ間の通信に使用されるデフォルトポートの名前。デフォルトポートがない場合や幾つも有効な活動ポートがある場合はアスタリスクが表示される。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Cluster. Portname
Ports (PORTS)	サーバポート。	COPY	string(256)	No	すべて	Server. Ports
PoweredBy (POWEREDBY)	サーバの説明(例:Notes)。	COPY	string(256)	No	すべて	Server. PoweredBy
ProbeCount (PROBECOUNT)	サーバがほかのクラスタメンバーへ調査要求を完了した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. ProbeCount
ProbeError (PROBEERROR)	サーバがほかのサーバの調査のときエラーを受信した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. ProbeError
ProbeTimeout_mins (PROBETIMEOUT_MINS)	クラスタ間の調査要求またはクラスタメンバーの同期の間隔。分単位。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. ProbeTimeout(mins)
Session Dropped (SESSION_DROPPED)	処理中に異常終了したセッションの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Sessions. Dropped
Start (START)	サーバモニター開始時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Monitor. Start
Tasks (TASKS)	サーバで実行中のタスクの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Tasks
Time Start (TIME_START)	サーバ開始時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Time. Start
Title (TITLE)	サーバタイトル。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Title
Trans IntervalAvgTime (TRANS_INTERVAL_AVGTIME)	クラスタトランザクションの時間間隔の平均値。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. Trans. IntervalAvgTime

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Trans IntervalInSeconds (TRANS_INTERVALI NSECONDS)	クラスタトランザク ション間の間隔。秒 単位。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. Trans. IntervalInSeconds
Trans IntervalsUseInAvg (TRANS_INTERVALS USEINAVG)	ワークロードのバラン ス計算に使用されるト ランザクションデータ を取得する間隔値の現 在の設定。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. Trans. IntervalsUseInAvg
Trans LastIntervalAvgTime (TRANS_LASTINTER VALAVGTIME)	クラスタトランザク ションの時間間隔の最 終平均値。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. Trans. LastIntervalAvgTi me
Trans NormalizeValue (TRANS_NORMALIZE VALUE)	サーバでミリ秒単位で 受け入れる平均トラン ザクション時間の現在 の設定。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. Trans. NormalizeValue
Trans PerMinute Peak Time (TRANS_PERMINUTE _PEAK_TIME)	1 分ごとにトランザク ションの発生した時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Trans. PerMinute. Peak.Time
Trans PerMinute Peak (TRANS_PERMINUTE _PEAK)	1 分間隔で発生するト ランザクションの最 高数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Trans. PerMinute. Peak
Trans PerMinute (TRANS_PERMINUTE)	最近 1 分間のサーバト ランザクション数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Trans. PerMinute
Trans Tot (TRANS_TOT)	サーバが開始してから のトランザクションプ ロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Trans. Total
Users 1MinPeak (USERS_1MINPEAK)	1 分間のユーザー最 大数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Users. 1MinPeak
Users 1MinPeakTime (USERS_1MINPEAKTI ME)	1 分間にユーザー最大 に到達した時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Users. 1MinPeakTime
Users 5MinPeak (USERS_5MINPEAK)	5 分間のユーザー最 大数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Users. 5MinPeak
Users 5MinPeakTime (USERS_5MINPEAKTI ME)	5 分間にユーザー最大 に到達した時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Users. 5MinPeakTime

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Users Peak Time (USERS_PEAK_TIME)	過去のユーザー最大 時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server. Users. Peak.Time
Users Peak (USERS_PEAK)	サーバを起動してから の同時ユーザー最大数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Users. Peak
Users (USERS)	サーバでセッションを 開いているユーザー の数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Users
Version Notes (VERSION_NOTES)	サーバで実行中の Notes のバージョン。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Version. Notes
Version OS (VERSION_OS)	サーバで実行中の OS のバージョン。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Version. OS
WorkThreads (WORKTHREADS)	同時に生成されるトラ ンザクションの最大数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. WorkThreads

Server Overview (PI_PISV)

機能

Server Overview (PI_PISV) レコードには、ドミノサーバでの単位時間ごとの稼働状況、トランザクション情報、ユーザーのログイン状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：953 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
AvailabilityIndex (AVAILABILITYINDEX)	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は 0 から 100 である。0 は使用できるリソースがまったくないことを示す。値が 100 のときは 100% 利用可能である。	COPY	ulong	No	すべて	Server. AvailabilityIndex
Cluster AvailabilityIndex (CLUSTER_AVAILABILITYINDEX)	現在のサーバの利用可能状況（可用性）を表す指標。値の範囲は 0 から 100 である。0 は	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. AvailabilityIndex

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Cluster AvailabilityIndex (CLUSTER_AVAILABILITYINDEX)	使用できるリソースがまったくないことを示す。値が 100 のときは 100%利用可能である。	COPY	ulong	No	対象外	Server. Cluster. AvailabilityIndex
Cluster Name (CLUSTER_NAME)	サーバが属するクラスタの名前。	COPY	string(64)	No	すべて	Server. Cluster. Name
Failover Failed (FAILOVER_FAILED)	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server.Cluster. OpenRedirects. Failover. Unsuccessful
Failover Success (FAILOVER_SUCCESS)	クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. Failover. Successful
FailoverBP Failed (FAILOVERBP_FAILED)	クライアントがパス名によってデータベースを開けないときに、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. FailoverByPath. Unsuccessful
FailoverBP Success (FAILOVERBP_SUCCESS)	クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	AVG	float	Yes	すべて	Server.Cluster. OpenRedirects. FailoverByPath. Successful
LoadBalance Failed (LOADBALANCE_FAILED)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがレプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalance. Unsuccessful
LoadBalance Success	サーバがビジー状態の場合、クライアントが	AVG	float	Yes	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(LOADBALANCE_SU CCESS)	レプリカ ID によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	AVG	float	Yes	すべて	LoadBalance. Successful
LoadBalanceBP Failed (LOADBALANCEBP_F AILED)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続できなかった回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalanceByPa th. Unsuccessful
LoadBalanceBP Success (LOADBALANCEBP_S UCCESS)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがパス名によってデータベースを開けないために、サーバがクライアントをほかのクラスタメンバーに再接続した回数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Cluster. OpenRedirects. LoadBalanceByPa th. Successful
OpenReq ClusterBusy (OPENREQ_CLUSTER BUSY)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. ClusterBusy
OpenReq DatabaseOutOfService (OPENREQ_DBOUTO FSERVICE)	クライアントがサーバのサービスの範囲外として指定されたデータベースを開こうとした回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. DatabaseOutOfSe rvice
OpenReq LoadBalanced (OPENREQ_LOADBA LANCED)	サーバがビジー状態の場合、クライアントがサーバ上のデータベースを開こうとした回数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Cluster. OpenRequest. LoadBalanced
OpenReq PreV4Clients (OPENREQ_PREV4CL IENTS)	pre-R4 クライアントからのオープン要求。	AVG	float	Yes	すべて	Server. OpenRequest. PreV4Clients
OpenReq Restricted (OPENREQ_RESTRIC TED)	制限されたクライアントからのオープン要求。	AVG	float	Yes	すべて	Server. OpenRequest. Restricted

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
OpenReq V4Clients (OPENREQ_V4CLIENTS)	R4 クライアントからのオープン要求。	AVG	float	Yes	すべて	Server. OpenRequest. V4Clients
ProbeCount (PROBECOUNT)	サーバがほかのクラスタメンバーへ調査要求を完了した回数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Cluster. ProbeCount
ProbeError (PROBEERROR)	サーバがほかのサーバの調査のときエラーを受信した回数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Cluster. ProbeError
Session Dropped (SESSION_DROPPED)	処理中に異常終了したセッションの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Sessions. Dropped
Tasks (TASKS)	サーバで実行中のタスクの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Tasks
Trans Tot (TRANS_TOT)	サーバが開始してからのトランザクションプロセス数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Trans. Total
Users (USERS)	サーバでセッションを開いているユーザーの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Users

Shared Mail Object Detail (PD_PDSO)

機能

Shared Mail Object Detail (PD_PDSO) レコードには、複数ユーザーによって共有されているオブジェクト数情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：829 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Filename (FILENAME)	シングルオブジェクト メールファイルの数。	COPY	string(64)	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Filename
Mailobj NSF SharedBy 01 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_01)	1人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.01
Mailobj NSF SharedBy 02 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_02)	2人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.02

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Mailobj NSF SharedBy 03 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_03)	3人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.03
Mailobj NSF SharedBy 04 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_04)	4人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.04
Mailobj NSF SharedBy 05 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_05)	5人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.05
Mailobj NSF SharedBy 06 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_06)	6人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.06
Mailobj NSF SharedBy 07 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_07)	7人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.07
Mailobj NSF SharedBy 08 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_08)	8人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.08
Mailobj NSF SharedBy 09 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_09)	9人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.09
Mailobj NSF SharedBy 10 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_10)	10人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.10
Mailobj NSF SharedBy 11 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_11)	11人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.11
Mailobj NSF SharedBy 12 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_12)	12人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.12

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Mailobj NSF SharedBy 13 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_13)	13人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.13
Mailobj NSF SharedBy 14 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_14)	14人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.14
Mailobj NSF SharedBy 15 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_15)	15人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.15
Mailobj NSF SharedBy 16 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_16)	16人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.16
Mailobj NSF SharedBy 17 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_17)	17人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.17
Mailobj NSF SharedBy 18 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_18)	18人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.18
Mailobj NSF SharedBy 19 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_19)	19人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.19
Mailobj NSF SharedBy 20 (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_20)	20人のユーザーによっ て共有されたオブジェ クトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.20
Mailobj NSF SharedBy Greater (MAILOBJ_NSF_SHAR EDBY_GREATER)	20人以上のユーザーに よって共有されたオブ ジェクトの数。	COPY	ulong	No	6.5.x, 7.0.x, 8.0.x	Object. Mailobj. NSF. SharedBy.Greater

SMTP Detail (PD_PDSM)

機能

SMTP Detail (PD_PDSM) レコードには、UNIX メール送信セッションでの送受信状況、セッション使用状況などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：753 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Command DATA (COMMAND_DATA)	SMTP DATA コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Command. DATA
Command HELO (COMMAND_HELO)	SMTP HELO コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Command. HELO
Command MAIL (COMMAND_MAIL)	SMTP MAIL コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Command. MAIL
Command QUIT (COMMAND_QUIT)	SMTP QUIT コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Command. QUIT
Command RCPT (COMMAND_RCPT)	SMTP RCPT コマンドが実行された回数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Command. RCPT

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
MsgsProcessed (MSGSPROCESSED)	処理された SMTP メッセージの数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.MessagesProcessed
Session Accept Queue (SESSION_ACCEPT_QUEUE)	SMTP リスナーが処理する受信セッションのワークキュー。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Accept.Queue
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな SMTP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Active
Session In BytesRcvd (SESSION_IN_BYTESRCVD)	SMTP サーバの受信バイト数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Sessions.Inbound.BytesReceived
Session In BytesSent (SESSION_IN_BYTESSENT)	SMTP サーバの送信バイト数の合計。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Sessions.Inbound.BytesSent
Session In Non-SSL (SESSION_IN_NON_SSL)	SMTP サーバの受信側 TCP コネクション数 (非 SSL)。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Inbound.Non-SSL
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BADHANDSHK)	SMTP サーバの SSL ハンドシェイク失敗回数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Inbound.SSL.Bad_Handshake
Session In SSL (SESSION_IN_SSL)	SMTP サーバの受信側 SSL コネクション数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Inbound.SSL
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	SMTP サーバの受信コネクション数の合計 (SSL と非 SSL の合計)。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Sessions.Inbound.Total
Session Peak (SESSION_PEAK)	サーバ起動後の SMTP サーバタスクの最大数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Peak
Session Threads Busy (SESSION_THREADS_BUSY)	実行中の SMTP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Sessions.Threads.Busy
Session Threads Idle (SESSION_THREADS_IDLE)	アイドル中の SMTP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	すべて	SMTP.Sessions.Threads.Idle
Session Tot (SESSION_TOT)	サーバ起動後の SMTP サーバタスク数の合計。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP.Sessions.Total

SMTP Overview (PI_PISM)

機能

SMTP Overview (PI_PISM) レコードには、UNIX メール送信セッションでの単位時間ごとのデータ送受信量、セッション使用率などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：757 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
MsgsProcessed (MSGSPROCESSED)	処理された SMTP メッセージの数。	AVG	float	Yes	すべて	SMTP. MessagesProcesse d
Session Active (SESSION_ACTIVE)	アクティブな SMTP サーバタスク数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP. Sessions. Active
Session In KbytesRcvd (SESSION_IN_KBYTE SRCVD)	SMTP サーバの受信バイト数の合計。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	SMTP. Sessions. Inbound. BytesReceived / 1024

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Session In KbytesSent (SESSION_IN_KBYTE SSENT)	SMTP サーバの送信バ イト数の合計。キロバ イト単位。	AVG	float	Yes	すべて	SMTP. Sessions. Inbound. BytesSent / 1024
Session In SSL Bad_Hndshk (SESSION_IN_SSL_BA DHNDSHK)	SMTP サーバの SSL ハンドシェイク失敗 回数。	COPY	ulong	No	対象外	SMTP. Sessions. Inbound. SSL. Bad_Handshake
Session In Tot (SESSION_IN_TOT)	SMTP サーバの受信コ ネクション数の合計 (SSL と非 SSL の合 計)。	AVG	float	Yes	すべて	SMTP. Sessions. Inbound. Total
Session Threads Usage (SESSION_THREADS_ USAGE)	実行中の SMTP サーバ タスク数。	COPY	ulong	No	すべて	(SMTP. Sessions. Threads. Busy / (SMTP. Sessions. Threads. Idle + SMTP. Sessions. Threads. Busy)) * 100

System Detail (PD_PD)

機能

System Detail (PD_PD) レコードには、ドミノサーバのシステム情報およびハードウェア情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：1,405 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Administrators (ADMINISTRATORS)	管理者の名前（公開アドレス帳のサーバ文書に記録された管理者）。	COPY	string(64)	No	すべて	Server.Administrators
BootID (BOOTID)	ブートセッションを見分けるための固有な番号。	COPY	ulong	No	すべて	Server.BootID
BuildName (BUILDNAME)	ドミノサーバのビルド名。	COPY	string(64)	No	対象外	Domino.BuildName
BuildNumber (BUILDNUMBER)	ドミノサーバのビルド数。	COPY	string(64)	No	対象外	Domino.BuildNumber

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
BuildPlatform (BUILDPLATFORM)	ドミノサーバの OS プラットフォーム。	COPY	string(64)	No	対象外	Domino.BuildPlatform
BuildVersion (BUILDVERSION)	ドミノサーバのビルドバージョン。	COPY	string(64)	No	対象外	Domino.BuildVersion
CPU Count (CPU_COUNT)	システム内のプロセッサの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server.CPU.Count
CPU Type (CPU_TYPE)	システムプロセッサのタイプ (例:386 486 Pentium)。	COPY	string(64)	No	すべて	Server.CPU.Type
Fixed (FIXED)	サーバの固定ディスクの数 (ネットワーク接続を含む)。	COPY	ulong	No	すべて	Disk.Fixed
Path Data (PATH_DATA)	サーバのデフォルトのデータドライブとディレクトリ。	COPY	string(256)	No	すべて	Server.Path.Data
Remote (REMOTE)	サーバのネットワーク接続ディスクの数。	COPY	ulong	No	すべて	Disk.Remote
Time Start (TIME_START)	サーバ開始時間。	COPY	time_t	No	すべて	Server.Time.Start
Version Notes (VERSION_NOTES)	サーバで実行中の Notes のバージョン。	COPY	string(32)	No	すべて	Server.Version.Notes
Version OS (VERSION_OS)	サーバで実行中の OS のバージョン。	COPY	string(32)	No	すべて	Server.Version.OS

System Overview (PI_PI)

機能

System Overview (PI_PI) レコードには、ドミノに対するリクエスト状況、デッドメールの発生状況、データベースの複製状況、サーバのトランザクション情報、ユーザーのログイン状況など、総合的なシステム監視情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	Y	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：1,205 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Agent Daily UnsuccessRuns (AGENT_DAILY_FAIL EDRUNS)	1 日ごとのドミノエー ジェント実行に失敗し た数。	HI	ulong	No	すべて	Agent. Daily. UnsuccessfulRuns
Agent Hourly UnsuccessRuns (AGENT_HOURLY_FA ILED RUNS)	1 時間ごとのドミノ エージェント実行に失 敗した数。	HI	ulong	No	すべて	Agent. Hourly. UnsuccessfulRuns
AvailabilityIndex	現在のサーバの利用可 能状況 (可用性) を表 す指標。値の範囲は 0	AVG	float	No	すべて	Server. AvailabilityIndex

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(AVAILABILITYINDEX)	から 100 である。0 は使用できるリソースがまったくないことを示す。値が 100 のときは 100% 利用可能である。	AVG	float	No	すべて	Server. AvailabilityIndex
Cmd Login (CMD_LOGIN)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「ログイン」した URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino. Command. Login
Cmd OpenDatabase (CMD_OPENDB)	サーバが最後に起動してからサーバに届いた「データベースを開いた」URL の数。	AVG	float	Yes	すべて	Domino. Command. OpenDatabase
Database Names Access (DB_NAMES_ACCESS)	Names.nsf データベースへのアクセス数。	AVG	float	Yes	すべて	NSFDbGetUserActivity()
Database Names ACL Changed (DB_NAMES_ACL_CHANGED)	Names.nsf データベースのアクセス制御リストのインターバル内の更新の有無。 0：更新なし 1：更新あり	AVG	float	Yes	すべて	NSFDbGetModifiedNoteTable()
Database Names Free Kbytes (DB_NAMES_FREE_KBYTES)	Names.nsf データベースの未使用サイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Names Note Counts (DB_NAMES_NOTE_COUNTS)	Names.nsf データベースに格納されている文書数。	COPY	ulong	No	すべて	NSFDbGetModifiedNoteTable()
Database Names Size Kbytes (DB_NAMES_SIZE_KBYTES)	Names.nsf データベースのサイズ。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Names Usage (DB_NAMES_USAGE)	Names.nsf データベースの使用率。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()
Database Names Used Kbytes	Names.nsf データベース内で実際に使用され	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsageScaled()

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(DB_NAMES_USED_K BYTES)	ている領域のサイズ。 キロバイト単位。	COPY	float	No	すべて	NSFDbSpaceUsag eScaled()
DbCache Entries Usage (DBCACHE_ENTRIES _USAGE)	データベースキャッ シュの使用率。	AVG	float	No	すべて	(DataBase. DbCache. CurrentEntries / DataBase. DbCache. MaxEntries) * 100
DbCache OvercrowdRejects (DBCACHE_OVERCR OWDREJECTS)	データベースキャッ シュがいっぱいのとき の拒否回数。	COPY	ulong	No	すべて	DataBase. DbCache. OvercrowdingRej ections
Disk Datadir Drive Free Kbytes (DISK_DATADIRDRIV E_FREE_KBYTES)	ドミノデータディレク トリのあるドライブの 未使用サイズ。キロバ イト単位。	COPY	float	No	すべて	Disk._Free / 1024
Disk Datadir Drive Size Kbytes (DISK_DATADIRDRIV E_SIZE_KBYTES)	ドミノデータディレク トリのあるドライブの サイズ。キロバイト 単位。	COPY	float	No	すべて	Disk._Size / 1024
Disk Datadir Drive Usage (DISK_DATADIRDRIV E_USAGE)	ドミノデータディレク トリのあるドライブの 使用率。	COPY	float	No	すべて	((Disk._Size - Disk._Free) / Disk._Size) * 100
Mail Dead UserCustom (MAIL_DEAD_USERC USTOM)	デッドメールの状態に なってから、ユーザー が指定した一定時間 を経過したデッドメ ール数。 インスタンス情報の設 定で、Use summary to mail count に「N」 を指定した場合、 MAIL.BOX 内の検索 対象メールが 1,000 件 を超えると、負荷軽減 のため収集がスキップ され、収集値は 0 (固 定) になる。	AVG	float	No	すべて	Agent Collector
Mail Dead (MAIL_DEAD)	MAIL.BOX 内の送信 無効 (配信不可能) メール数。	AVG	float	No	すべて	Mail. Dead

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Mail TotRouted (MAIL_TOTROUTED)	メールボックスからほかのサーバに転送されたメールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail. TotalRouted
Mail Waiting UserCustom (MAIL_WAITING_US ERCUSTOM)	ユーザーが指定した時間以上、メールボックス内に滞留しているメール数。 インスタンス情報の設定で、Use summary to mail count に「N」を指定した場合、MAIL.BOX 内の検索対象メールが 1,000 件を超えると、負荷軽減のため収集がスキップされ、収集値は 0 (固定) になる。	AVG	float	No	すべて	Agent Collector
Mail Waiting (MAIL_WAITING)	MAIL.BOX にある送信待ちメールの数。	AVG	float	No	すべて	Mail. Waiting
Mail Xferd (MAIL_XFERD)	ルーターが転送したメールの数。	AVG	float	Yes	すべて	Mail. Transferred
Mail XferFailures (MAIL_XFERFAILURE S)	ルーターが転送できなかったメールの数。	COPY	ulong	No	すべて	Mail. TransferFailures
Mail_WaitingRecipient s (MAIL_WAITINGRECI PIENTS)	ユーザーのメールファイルに送信されるのを待っている、MAIL.BOX の中の送信待ちメール数。	AVG	ulong	No	すべて	Mail. WaitingRecipients
Mem Alloc Kbytes (MEM_ALLOC_KBYTE S)	サーバによって割り当てられたメモリーの合計。キロバイト単位。	AVG	float	No	すべて	Mem. Allocated / 1024
Mem Alloc Process Kbytes (MEM_ALLOC_PRO CESS_KBYTES)	現時点で動作しているプロセスによって割り当てられた共有でないメモリーの合計。キロバイト単位。	AVG	float	No	すべて	Mem. Allocated. Process / 1024
Mem Alloc Shared Kbytes (MEM_ALLOC_SHARE D_KBYTES)	共有メモリーとして割り当てられたサーバのメモリーの合計。キロバイト単位。	AVG	float	No	すべて	Mem. Allocated. Shared / 1024

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Mem Free Kbytes (MEM_FREE_KBYTES)	サーバの使用可能メモリの合計。キロバイト単位。	AVG	float	No	すべて	Mem. Free / 1024
Repl Cluster Failed (REPL_CLUSTER_FAILED)	サーバ起動後に失敗した複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Cluster. Failed
Repl Docs Added (REPL_DOCS_ADDED)	複製によってサーバ上のデータベースに追加された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Added
Repl Docs Deleted (REPL_DOCS_DELETED)	複製によってサーバ上のデータベースから削除された文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Deleted
Repl Docs Updated (REPL_DOCS_UPDATED)	複製によって更新されたサーバ上のデータベースの文書数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Docs. Updated
Repl Failed (REPL_FAILED)	何らかのエラーが返された複製の数。	COPY	ulong	No	すべて	Replica. Failed
Repl Success (REPL_SUCCESS)	成功した複製の数。	AVG	float	Yes	すべて	Replica. Successful
Reqs Tot (REQS_TOT)	要求の合計。	AVG	float	Yes	すべて	Domino. Requests. Total
Session Dropped (SESSION_DROPPED)	処理中に異常終了したセッションの数。	COPY	ulong	No	すべて	Server. Sessions. Dropped
Tasks (TASKS)	サーバで実行中のタスクの数。	AVG	float	No	すべて	Server. Tasks
TCPIP Kbytes Rcvd (TCPIP_KBYTESRCVD)	TCPIP ポートでのインターバル時間内の受信キロバイト数。	AVG	float	Yes	すべて	NET. TCPIP. BytesReceived / 1024
TCPIP Kbytes Sent (TCPIP_KBYTESSENT)	TCPIP ポートでのインターバル時間内の送信キロバイト数。	AVG	float	Yes	すべて	NET. TCPIP. BytesSent / 1024
TCPIP Session Estab In (TCPIP_SESSION_ESTAB_IN)	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッション確立数 (受信側)。	AVG	float	Yes	すべて	NET. TCPIP. Sessions. Established. Incoming
TCPIP Session Estab Out	TCPIP ポートでのインターバル時間内のセッ	AVG	float	Yes	すべて	NET. TCPIP. Sessions.

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
(TCPIP_SESSION_EST AB_OUT)	セッション確立数 (送信側)。	AVG	float	Yes	すべて	Established. Outgoing
Trans Tot (TRANS_TOT)	サーバが開始してからのトランザクションプロセス数。	AVG	float	Yes	すべて	Server. Trans. Total
Users (USERS)	サーバでセッションを開いているユーザーの数。	AVG	float	No	すべて	Server. Users

User Defined Stat Overview (PI_PIST)

機能

User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコードには、統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) で指定した、ドミノサーバの任意の統計情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_PIST_SIGN

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定値：681 バイト
- 可変部：48 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Sign (sign)	統計情報定義ファイルに指定した識別子が格納される。	COPY	string(32)	No	すべて	なし
Value (value)	統計情報定義ファイルに指定した識別子に該当する統計値情報が格納される。	AVG	float	No	すべて	任意の統計値情報

Web Retriever Detail (PD_PDWR)

機能

Web Retriever Detail (PD_PDWR) レコードには、Web ナビゲータに対するアクセス状況、使用状況、データの送受信量などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：981 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Access FTP (ACCESS_FTP)	FTP アクセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Ac cess.FTP
Access Gopher (ACCESS_GOPHER)	Gopher ナビゲータの アクセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Ac cess.Gopher
Access HTTP (ACCESS_HTTP)	HTTP ナビゲータのア クセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Ac cess.HTTP
Bytes Rcvd (BYTES_RCVD)	ナビゲータの受信バイ ト数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Byt es.Received
Bytes Sent (BYTES_SENT)	ナビゲータの送信バイ ト数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Byt es.Sent

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
ImageCache Hits (IMAGECACHE_HITS)	ナビゲータイメージ キャッシュのアクセス に成功した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Im ageCache.Hits
ImageCache Misses (IMAGECACHE_MISSES)	ナビゲータイメージ キャッシュのアクセス に失敗した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Im ageCache.Misses
LogLevel (LOGLEVEL)	Web ナビゲータのロ グレベル。	COPY	string(32)	No	すべて	Web.Retriever.Lo gLevel
Process Num Active (PROCESS_NUM_ACT IVE)	アクティブなナビゲ ータプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Pro cess.Num.Active
Process Num Busy (PROCESS_NUM_BUS Y)	ビジュー状態のナビゲ ータプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Pro cess.Num.Busy
Process Num Idle (PROCESS_NUM_IDL E)	アイドル状態のナビ ゲータプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Pro cess.Num.Idle
Process Num Max (PROCESS_NUM_MA X)	ナビゲータプロセスの 最大数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.Pro cess.Num.Maximu m
Process State (PROCESS_STATE)	ナビゲータプロセスの 状態。	COPY	string(64)	No	すべて	Web.Retriever.Pro cess.State
Time Current (TIME_CURRENT)	現在の時間。	COPY	string(32)	No	すべて	Web.Retriever.Ti me.Current
Time Duration (TIME_DURATION)	ナビゲータを開始して からの経過時間。	COPY	string(32)	No	すべて	Web.Retriever.Ti me.Duration
Time Start (TIME_START)	サーバ開始時間。	COPY	string(32)	No	すべて	Web.Retriever.Ti me.Start
URLs Failed (URLS_FAILED)	失敗した URL 検索 の数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.UR Ls.Failed
URLs Reqed (URLS_REQED)	URL の要求を取り出し た数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.UR Ls.Requested
URLs Succeeded (URLS_SUCCEEDED)	URL を正常にアクセス した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.UR Ls.Succeeded
Version (VERSION)	Web ブラウザのバー ジョン。	COPY	string(32)	No	すべて	Web.Retriever.Ve rsion

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
VPOOL Max Buf (VPOOL_MAX_BUF)	バッファ VPOOL の最大サイズの到達した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.VPOOL.Max.Buf
VPOOL Max Element (VPOOL_MAX_ELEMENT)	エレメント VPOOL の最大サイズの到達した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.VPOOL.Max.Element
VPOOL Max Marker (VPOOL_MAX_MARKER)	マーカー VPOOL の最大サイズの到達した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.VPOOL.Max.Marker
VPOOL Max Text (VPOOL_MAX_TEXT)	テキスト VPOOL の最大サイズの到達した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.VPOOL.Max.Text
VPOOL Max URL (VPOOL_MAX_URL)	URL VPOOL の最大サイズの到達した数。	COPY	ulong	No	すべて	Web.Retriever.VPOOL.Max.URL

Web Retriever Overview (PI_PIWR)

機能

Web Retriever Overview (PI_PIWR) レコードには、Web ナビゲータに対する単位時間ごとのアクセス状況、使用状況、データの送受信量などの情報が格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	N	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：813 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
Access FTP (ACCESS_FTP)	FTP アクセス数。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. Access. FTP
Access Gopher (ACCESS_GOPHER)	Gopher ナビゲータの アクセス数。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. Access. Gopher
Access HTTP (ACCESS_HTTP)	HTTP ナビゲータのア クセス数。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. Access. HTTP
ImageCache Hits Percent (IMAGECACHE_HITS _PCT)	ナビゲータイメージ キャッシュのアクセス 成功率。	COPY	float	No	すべて	(Web. Retriever. ImageCache. Hits / (Web. Retriever. ImageCache. Hits

PFM - View 名 (PFM - Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	サポート VR	データソース
ImageCache Hits Percent (IMAGECACHE_HITS _PCT)	ナビゲータイメージ キャッシュのアクセス 成功率。	COPY	float	No	すべて	+ Web. Retriever. ImageCache. Misses)) * 100
KBytes Rcvd (KBYTES_RCVD)	ナビゲータの受信バイ ト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. Bytes. Received / 1024
KBytes Sent (KBYTES_SENT)	ナビゲータの送信バイ ト数。キロバイト単位。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. Bytes. Sent / 1024
Process Num Active (PROCESS_NUM_ACT IVE)	アクティブなナビゲー タプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web. Retriever. Process. Num. Active
Process Num Busy (PROCESS_NUM_BUS Y)	ビジー状態のナビゲー タプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web. Retriever. Process. Num. Busy
Process Num Idle (PROCESS_NUM_IDL E)	アイドル状態のナビ ゲータプロセス数。	COPY	ulong	No	すべて	Web. Retriever. Process. Num. Idle
URLs Failed (URLS_FAILED)	失敗した URL 検索 の数。	COPY	ulong	No	すべて	Web. Retriever. URLs. Failed
URLs Reqed (URLS_REQED)	URL の要求を取り出し た数。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. URLs. Requested
URLs Succeeded (URLS_SUCCEEDED)	URL を正常にアクセス した数。	AVG	float	Yes	すべて	Web. Retriever. URLs. Succeeded

9

アラームアクション用コマンド

PFM - Agent for Domino では、アラーム発生時にドミノサーバに対するアクションを実行できるように、アラームアクション用ドミノ操作コマンド（アラームアクション用コマンド）を提供しています。

この章では、アラームアクション用コマンドの機能および操作方法について説明します。

9.1 アラームアクション用コマンドの概要

PFM - Agent for Domino が提供するアラームアクション用コマンドは、アラーム発生時にドミノサーバに対するアクションを実行するコマンドです。

アラームアクション用コマンドには、次の2つのコマンドがあります。

- notesrestart (ドミノサーバ再起動コマンド)
ドミノサーバを停止または強制終了後、再起動します。
- notesconsole (ドミノサーバコンソール入力コマンド)
ドミノサーバコンソールに対して任意のサーバコマンドを実行します。

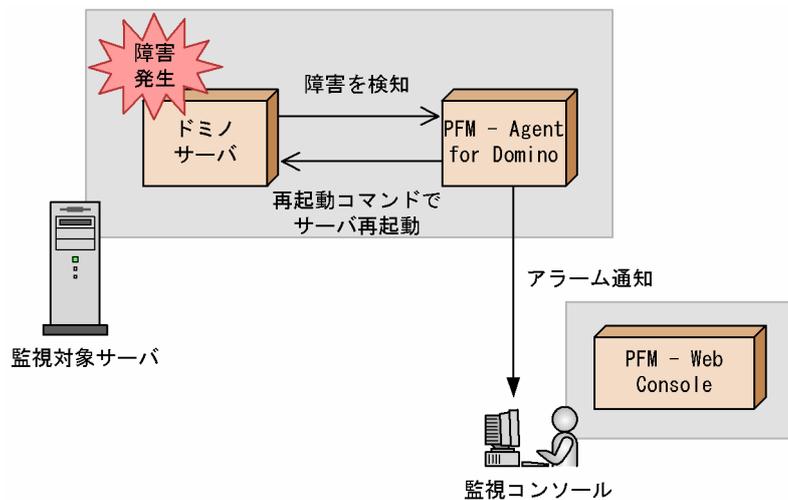
各コマンドの機能概要を次に説明します。

9.1.1 notesrestart コマンドによるドミノサーバ再起動機能

Performance Management アラーム定義のアクションコマンドに指定することで、監視対象のドミノサーバ障害発生時に、自動的にドミノサーバを再起動できます。

ドミノサーバ再起動機能の流れを次の図に示します。

図 9-1 ドミノサーバ再起動機能の流れ

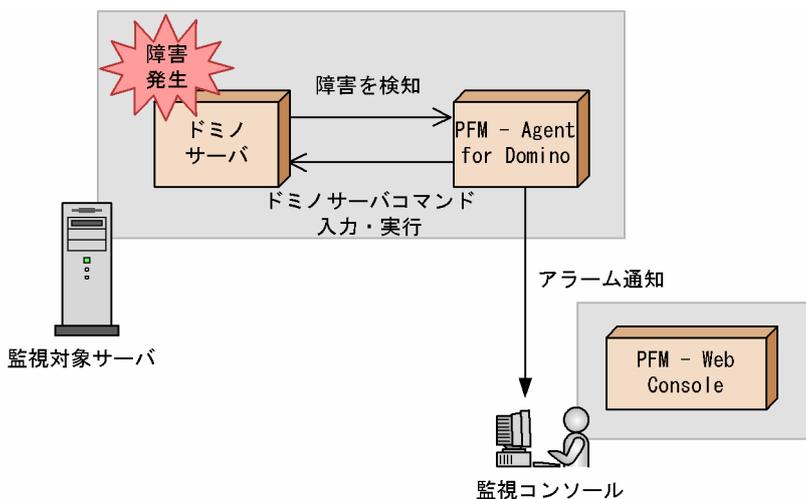


9.1.2 notesconsole コマンドによるドミノサーバコンソール入力コマンド機能

Performance Management アラーム定義のアクションコマンドに指定することで、監視対象のドミノサーバ障害発生時に、任意のドミノサーバコマンドを実行できます。

ドミノサーバコンソール入力コマンド機能の流れを次の図に示します。

図 9-2 ドミノサーバコンソール入力コマンド機能の流れ



9.2 コマンドの形式

PFM - Agent for Domino が提供するアラームアクション用コマンドの詳細説明を、アルファベット順に記載します。

9.2.1 notesconsole (ドミノサーバコンソール入力コマンド)

(1) 形式

```
notesconsole ドミノサーバ名  
コンソールコマンド  
[ドミノ定義ファイル名]
```

(2) 機能

notesconsole コマンドは、ドミノサーバコンソールに対して、任意のサーバコマンドを入力するコマンドです。

入力の結果サーバが出力したメッセージを、標準出力に出力します。

(3) 格納先フォルダ

Windows の場合

```
Performance Managementインストール先フォルダ\%agtl%\agent\notesconsole
```

UNIX の場合

```
/opt/jp1pc/agtl/agent/notesconsole
```

(4) 引数

ドミノサーバ名

コンソールコマンド入力先のドミノサーバ名を指定します。

(例) domino01 または domino01/Organization

コンソールコマンド

ドミノサーバに入力するコンソールコマンドを指定します。空白を含む場合、ダブルクォーテーションで囲む必要があります。

(例) "load updall -R names.nsf"

ドミノ定義ファイル名

先頭に「=」記号を付けた、完全なパスを含むドミノ定義ファイルの名前を指定します。この項目は、省略できます。

(例)

Windows の場合：=C:\Lotus\Domino\notes.ini

UNIX の場合：=/users/notesuser1/data/notes.ini

(5) 戻り値

0	コンソールコマンドが正常終了した。
1※1	コンソールコマンドの入力に失敗した。
2※2	コマンド実行環境エラーが発生した。

注※1

1 が返された場合、次の原因が考えられます。

- ドミノサーバが起動していない。
- ドミノサーバにリモートコマンドを入力する権限がない。
- 引数で指定したドミノサーバ名に誤りがある。

注※2

2 が返された場合、次の原因が考えられます。

- notes.ini へのパスに誤りがある。
- 入力コマンドが短い (4 文字未満である)。

9.2.2 notesrestart (ドミノサーバ再起動コマンド)

(1) 形式

```
notesrestart ドミノサーバ起動ユーザー名  
notes.ini格納ディレクトリ  
停止タイムアウト時間(秒)  
起動タイムアウト時間(秒)
```

(2) 機能

notesrestart コマンドは、ドミノサーバを停止し、再起動するコマンドです。

ドミノサーバを停止する場合、指定した停止タイムアウト時間内に停止できなかったときは、ドミノサーバを強制終了します。ドミノサーバを起動する場合、指定した起動タイムアウト時間内に起動できなかったときは、エラーを出力します。

(3) 格納先フォルダ

Windows の場合

```
Performance Managementインストール先フォルダ\agtl\agent\notesrestart.exe
```

UNIX の場合

```
/opt/jp1pc/agtl/agent/notesrestart
```

(4) 引数

ドミノサーバ起動ユーザー名

ドミノサーバを起動するユーザー名を指定します。

Windows の場合、この項目は空文字列""を指定してください。

(例) notesuser1

notes.ini 格納ディレクトリ

ドミノ定義ファイル notes.ini が格納されているディレクトリを指定します。

(例)

Windows の場合：C:\Lotus\Domino

UNIX の場合：/users/notesuser1/notesdata

停止タイムアウト時間(秒)

停止処理の実行タイムアウト時間を秒単位で指定します。

(例) 300

起動タイムアウト時間(秒)

起動処理の実行タイムアウト時間を秒単位で指定します。

(例) 600

(5) 戻り値

0	ドミノサーバの再起動に成功した。
1	ドミノサーバの再起動に失敗した。
2	コマンド実行環境エラーが発生した。

9.3 アラームアクション用コマンドの使用法および使用例

PFM - Agent for Domino が提供するアラームアクション用コマンドの使用法および使用例を、アルファベット順に記載します。

9.3.1 notesconsole (ドミノサーバコンソール入力コマンド) の使用法および使用例

(1) 環境設定

対応 OS に応じて、次の環境設定を行ってください。

(a) Windows の場合

ドミノプログラムフォルダのパスをシステム環境変数 (path) に設定してください。

(b) AIX の場合

1. root ユーザーで、ドミノライブラリのディレクトリを環境変数 (LIBPATH) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
LIBPATH=/opt/lotus/notes/latest/ibmpow
export LIBPATH
```

2. 実行ユーザーに /opt/lotus/notes/latest/ibmpow/res/C へのパスを設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
PATH=${PATH}:/opt/lotus/notes/latest/ibmpow/res/C
export PATH
```

3. root ユーザーで、ドミノプログラムディレクトリを環境変数 (Notes_ExecDirectory) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/ibmpow
export Notes_ExecDirectory
```

(c) Solaris の場合

1. root ユーザーで、ドミノライブラリのディレクトリを環境変数 (LD_LIBRARY_PATH) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/lotus/notes/latest/sunspa
export LD_LIBRARY_PATH
```

2. 実行ユーザーに /opt/lotus/notes/latest/sunspa/res/C へのパスを設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
PATH=${PATH}:/opt/lotus/notes/latest/sunspa/res/C
export PATH
```

3.root ユーザーで、ドミノプログラムディレクトリを環境変数 (Notes_ExecDirectory) に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/sunspa
export Notes_ExecDirectory
```

(2) 使用方法

ドミノサーバコンソール入力コマンドは、PFM - Agent for Domino とともに、次のディレクトリにインストールされます。

- Windows の場合

```
Performance Managementインストール先フォルダ\agent\notesconsole
```

- UNIX の場合

```
/opt/jp1pc/agtl/agent/notesconsole
```

Performance Management のアラーム定義で使用する場合、実行するアクション種別にコマンドを設定し、実行するコマンド名として、notesconsole コマンドを設定してください。

アラーム定義については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

(3) 使用例

ドミノサーバコンソール入力コマンドの使用例を次に示します。

(a) 前提条件

前提条件は、次のとおりです。

- 使用 OS : Windows
- ドミノサーバ名 : yokohama/SOFT
- ドミノ定義ファイル名 : C:\Lotus\Domino\notes.ini

(b) アラーム発生シナリオ

ドミノサーバの HTTP タスクの応答がなかった (Response Time =-1) 場合、異常アラームを通知してドミノサーバコンソールに指定したサーバコマンドを入力し、HTTP を起動します。

この使用例の場合、HTTP タスクが停止していたため、HTTP タスクの応答がなかったと想定して、HTTP タスクの再起動を試みています。実際の使用環境によっては、複数の要因が混在してレスポンスが返らない場合もあるため、この使用例だけでは HTTP のレスポンスが回復しないときもあります。

(c) アラームの定義例

アラームの定義例は、次のとおりです。

タブ名	項目	設定値	
基本情報	発生頻度	発生頻度を満たした時にアラーム通知する 1 回しきい値超過/1 インターバル中	
アラーム条件式	レコード	Health Check Overview (PI_PIHC)	
	フィールド	Response Time Check Name	
	異常条件	Response Time = "-1" AND Check Name = "HTTP"*1	
	警告条件	Response Time = "-1" AND Check Name = "HTTP"*1*2	
アクション	実行するアクション	異常時	コマンド
		警告時	コマンド
アクション定義	コマンドの定義	コマンド名	notesconsole*3
		コマンド実行アクションハンドラ	Local
		メッセージテキスト	yokohama/SOFT△"load http"△=C:¥Lotus¥Domino¥notes.ini (△は半角スペースを示す)

注※1

大文字・小文字を区別します。

注※2

異常/警告の条件に同じ条件式を指定すると、異常アラームが発生します。

注※3

ドミノサーバコンソール入力コマンドを実行パスが設定されている場所に置いている場合、コマンド名だけを指定してください。実行パスにない場合は、絶対パスで指定してください。

9.3.2 notesrestart（ドミノサーバ再起動コマンド）の使用法および使用例

(1) 環境設定

(a) Windows の場合

- R5 シリーズ以前をご使用の場合
 1. ドミノプログラムディレクトリにある qnc.exe を実行する。
 2. 「Options」の「Visual Notification」をオフに設定する。
- R6 シリーズ以降をご使用の場合
環境設定は特に必要ありません。

(b) UNIX(AIX,Solaris)の場合

1. root ユーザーで、ドミノディレクトリを環境変数（NOTESDIR）に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

```
NOTESDIR=/opt/lotus
export NOTESDIR
```

2. root ユーザーで、ドミノプログラムディレクトリを環境変数（Notes_ExecDirectory）に設定する。

B シェルを使用する場合の設定例を次に示します。

- AIX の場合

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/ibmpow
export Notes_ExecDirectory
```

- Solaris の場合

```
Notes_ExecDirectory=/opt/lotus/notes/latest/sunspa
export Notes_ExecDirectory
```

(2) 使用方法

ドミノサーバ再起動コマンドは、PFM - Agent for Domino とともに、次のディレクトリにインストールされます。

- Windows の場合

```
Performance Managementインストール先フォルダ\agent\notesrestart.exe
```

- UNIX の場合

```
/opt/jp1pc/agt1/agent/notesrestart
```

Performance Management のアラーム定義で使用する場合、実行するアクション種別にコマンドを設定し、実行するコマンド名として、notesrestart コマンドを設定してください。

アラーム定義については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

(3) 使用例

ドミノサーバ再起動コマンドの使用例を次に示します。

(a) 前提条件

前提条件は次のとおりです。

- 使用 OS : Windows
- notes.ini の格納場所 : C:\Lotus\Domino

(b) アラーム発生シナリオ

ドミノサーバ全体の使用メモリの合計が、3回連続で一定の値を超えた場合、異常アラームを通知してドミノサーバを再起動します。警告アラーム発生時には E メールを送信します。

(c) アラームの定義例

アラームの定義例は、次のとおりです。

タブ名	項目		設定値
基本情報	発生頻度		発生頻度を満たした時にアラーム通知する 3回しきい値超過/3インターバル中
アラーム条件式	レコード		System Overview (PI_PI)
	フィールド		Mem Alloc Kbytes
	異常条件		Mem Alloc Kbytes > 300,000 キロバイト※1
	警告条件		Mem Alloc Kbytes > 240,000 キロバイト※1
アクション	実行するアクション	異常時	コマンド
		警告時	Eメール
アクション定義	コマンドの定義	コマンド名	notesrestart※2
		コマンド実行アクションハンドラ	Local
		メッセージテキスト	""△C:\Lotus\Domino△300△600 (△は半角スペースを示す)

注※1

異常/警告のしきい値は、使用環境によって異なります。

注※2

ドミノサーバ再起動コマンドを実行パスが設定されている場所に置いている場合、コマンド名だけを指定してください。実行パスにない場合は、絶対パスで指定してください。

9.4 アラームアクション用コマンドの運用上の注意

ここでは、PFM - Agent for Domino が提供するアラームアクション用コマンドを運用する際の注意について説明します。

アラーム定義については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

- アラーム定義時に設定するコマンド実行アクションハンドラには、必ず「LOCAL」を指定するか、PFM - Agent for Domino と同じホスト上のアクションハンドラを指定してください。
- アラーム定義時に設定するコマンドは、環境変数 PATH に設定されているディレクトリ下か、または Performance Management インストール先フォルダ¥bin¥action のディレクトリ下に格納してください。そのほかのディレクトリに格納する場合は、コマンド名を絶対パスで指定してください。
- ドミノサーバコンソール入力コマンドを使用する場合、対象となるドミノサーバの管理者に、そのドミノサーバ名が登録されている必要があります。登録されていない場合には、管理クライアントを使用して監視対象とするドミノサーバ文書の管理者に、そのドミノサーバ名を追加してください。
- コマンドの実行結果を確認する場合は、シェルスクリプトを作成してテンポラリファイルに実行結果を出力してください。その際、アラーム発生時に実行するアクションには、そのシェルスクリプトを指定してください。

シェルスクリプトの例を次に示します。

- 前提条件

使用 OS : Windows

ドミノサーバ名 : tokyo/SOFT

ドミノ定義ファイル名 : C:¥Lotus¥Domino¥notes.ini

コマンド実行結果出力先 : C:¥temp¥log.txt

- notesconsole コマンドのスクリプト例

notesconsole コマンドのスクリプト例を次に示します。

```
echo "アラームが発生しました。" > C:¥temp¥log.txt           ...[1]
notesconsole tokyo/SOFT "show tasks" =C:¥Lotus¥Domino¥notes.ini >> C:¥temp¥log.txt ...[2]
echo "notesconsole return = " %errorlevel% >> C:¥temp¥log.txt ...[3]
```

[1]

スクリプトの開始メッセージをテンポラリファイルに出力します。

[2]

"show tasks"コマンドの出力結果をテンポラリファイルに出力します。

[3]

notesconsole コマンドの実行結果（戻り値）をテンポラリファイルに出力します。

10

メッセージ

この章では、Performance Management が出力するメッセージの記載先を示します。また、PFM - Agent for Domino のメッセージ形式、出力先一覧、syslog と Windows イベントログの一覧、およびメッセージ一覧について説明します。

10.1 メッセージの形式

PFM - Agent for Domino が出力するメッセージの形式と、マニュアルでの記載形式を示します。

10.1.1 メッセージの出力形式

PFM - Agent for Domino が出力するメッセージの形式を説明します。メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

```
KAVFnnnnn-Yメッセージテキスト
```

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

AVF

PFM - Agent のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。PFM - Agent for Domino のメッセージ番号は、「13xxx」です。

Y

メッセージの種類を示します。

- E：エラー
処理は中断されます。
- W：警告
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I：情報
ユーザーに情報を知らせます。
- Q：応答
ユーザーに応答を促します。

メッセージの種類と syslog の priority レベルとの対応を次に示します。

-E

- レベル：LOG_ERR
- 意味：エラーメッセージ。

-W

- レベル：LOG_WARNING

- 意味：警告メッセージ。

-I

- レベル：LOG_INFO
- 意味：付加情報メッセージ。

-Q

(該当なし)

メッセージの種類と Windows イベントログの種類との対応を次に示します。

-E

- レベル：エラー
- 意味：エラーメッセージ。

-W

- レベル：警告
- 意味：警告メッセージ。

-I

- レベル：情報
- 意味：付加情報メッセージ。

-Q

(該当なし)

10.1.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで太字になっている部分は、メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが表示されたときに、オペレーターがとる処置を示します。

参考

システム管理者がオペレーターから連絡を受けた場合は、「11. [トラブルへの対処方法](#)」を参照してログ情報を採取し、初期調査をしてください。

トラブル要因の初期調査をする場合は、OSのログ情報（WindowsではWindows イベントログ、UNIXではsyslog）や、PFM - Agent for Dominoが出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報のトラブル発生時間帯の内容を参照して、トラブルを回避したり、トラブルに対処したりしてください。また、トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に、できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

10.2 メッセージの出力先一覧

ここでは、PFM - Agent for Domino が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

(凡例)

- ：出力する
- －：出力しない

表 10-1 PFM - Agent for Domino のメッセージの出力先一覧

メッセージID	出力先						
	syslog	Windows イベント ログ	共通メッ セージログ	標準出力	標準エラー 出力	JP1 システ ムイベント ※1	エージェン トイベント ※2
KAVF13001	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13002	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13003	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13004	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13100	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13101	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13102	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13104	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13107	○	○	○	－	－	－	－
KAVF13108	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13201	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13202	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13203	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13204	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13205	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13206	○	○	○	－	－	○	○
KAVF13207	○	○	○	－	－	○	○

注※1

JP1 システムイベントは、エージェントの状態の変化を JP1/IM に通知するイベントです。JP1 システムイベントの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、統合管理製品 (JP1/IM) と連携した稼働監視について説明している章を参照してください。

JP1 システムイベントを発行するための前提プログラムを次の表に示します。

表 10-2 JP1 システムイベントを発行するための前提プログラム

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視マネージャー	PFM - Manager	09-00 以降
監視コンソールサーバ	PFM - Web Console	08-00 以降
監視エージェント	PFM - Agent for Domino	08-00 以降 (PFM - Agent が出力するイベントを発行するには、09-00 以降が必要です)
	PFM - Manager または PFM - Base	09-00 以降
	JP1/Base	08-50 以降

注※2

エージェントイベントは、エージェントの状態の変化を PFM - Manager に通知するイベントです。エージェントイベントの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、イベントの表示について説明している章を参照してください。

エージェントイベントを発行するための前提プログラムを次の表に示します。

表 10-3 エージェントイベントを発行するための前提プログラム

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視マネージャー	PFM - Manager	09-00 以降
監視コンソールサーバ	PFM - Web Console	08-00 以降
監視エージェント	PFM - Agent for Domino	09-00 以降
	PFM - Manager または PFM - Base	09-00 以降

10.3 syslog と Windows イベントログの一覧

ここでは、PFM - Agent for Domino が syslog と Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を示します。

syslog は、syslog ファイルに出力されます。syslog ファイルの格納場所については、syslog デーモンコンフィギュレーションファイル（デフォルトは /etc/syslogd.conf）を参照してください。

Windows イベントログは、Windows の [イベントビューア] ウィンドウで表示されます。PFM - Agent for Domino が発行するイベントは、[イベントビューア] ウィンドウのアプリケーションログとして表示されます。

参考

[イベントビューア] ウィンドウは、Windows の [スタート] メニューから表示される [管理ツール] - [イベントビューア] を選択することで表示できます。

PFM - Agent for Domino が syslog と Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 10-4 syslog と Windows イベントログ出力メッセージ情報一覧

メッセージID	syslog		Windows イベントログ	
	ファシリティ	レベル	イベント ID	種類
KAVF13001	LOG_DAEMON	LOG_INFO	13001	情報
KAVF13002	LOG_DAEMON	LOG_INFO	13002	情報
KAVF13003	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13003	エラー
KAVF13004	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13004	エラー
KAVF13100	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13100	エラー
KAVF13101	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13101	エラー
KAVF13102	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13102	エラー
KAVF13104	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13104	エラー
KAVF13107	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13107	エラー
KAVF13108	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13108	エラー
KAVF13201	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13201	警告
KAVF13202	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13202	情報
KAVF13203	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13203	エラー
KAVF13204	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13204	情報

メッセージ ID	syslog		Windows イベントログ	
	ファシリティ	レベル	イベント ID	種類
KAVF13205	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13205	情報
KAVF13206	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13206	情報
KAVF13207	LOG_DAEMON	LOG_ERR	13207	情報

10.4 メッセージ一覧

PFM - Agent for Domino が出力するメッセージと対処方法について説明します。PFM - Agent for Domino のメッセージ一覧を次に示します。

KAVF13001-I

```
Agent Collector has started. (host=ホスト名, service=ホスト名<Domino>)  
Agent Collector が起動しました (host=ホスト名, service=ホスト名<Domino>)
```

Agent Collector を起動しました。

(S)

Agent Collector の処理を開始します。

(O)

なし。

KAVF13002-I

```
Agent Collector has stopped. (host=ホスト名, service=ホスト名<Domino>)  
Agent Collector が停止しました (host=ホスト名, service=ホスト名<Domino>)
```

Agent Collector を停止しました。

(S)

Agent Collector の処理を終了します。

(O)

なし。

KAVF13003-E

```
Agent Collector has failed to start. (rc=保守コード)  
Agent Collector の起動に失敗しました (rc=保守コード)
```

Agent Collector の起動処理に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

KAVF13004-E

A signal interrupted processing. (signal=シグナル番号)
シグナルによって処理が中断されました (signal=シグナル番号)

シグナル番号の要因によって処理が中断されました。

(S)

処理を中断します。

(O)

オペレーティングシステムのシグナル番号の要因を調査してください。

KAVF13100-E

An error occurred in an OS API(API名). (en=OS 詳細コード)
OS の API (API名) でエラーが発生しました (en=OS 詳細コード)

OS の API でエラーが発生しました。en に表示されるコードは、システムコールの errno、または Win32API の詳細コードです。

(S)

処理を中断します。

(O)

OS 詳細コードを確認してください。要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

KAVF13101-E

An error occurred in a function(関数名). (rc=戻り値)
関数 (関数名) でエラーが発生しました (rc=戻り値)

内部制御間の関数でエラーが発生しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

KAVF13102-E

Memory are insufficient.
メモリが不足しています

メモリが不足しているため、メモリの確保に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

使用していないアプリケーションの停止、またはメモリの拡張を行ってください。

KAVF13104-E

An attempt to access a file or directory (ファイルまたはディレクトリ名) failed.

ファイルまたはディレクトリ (ファイルまたはディレクトリ名) へのアクセスに失敗しました

ファイルまたはディレクトリのアクセスに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

ファイルまたはディレクトリが存在するか確認してください。

KAVF13107-E

An attempt to start a Windows service failed. (rc=保守コード)

Windows サービスの起動に失敗しました (rc=保守コード)

サービス起動に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

KAVF13108-E

The inaccurate entry was detected by the setting file. (file=ファイル名, entry=エン트리名)

設定ファイルに不正なエントリが検出されました (file=ファイル名, entry=エン트리名)

設定ファイルのエントリの設定内容が不正か、または設定がありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

設定ファイルのエントリ名で示される内容を確認してください。

KAVF13201-W

Target domino is NOT detected.

監視対象の Domino を認識できませんでした

監視対象 Domino のプロセスを認識できませんでした。

(S)

縮小運転で処理を続行します。その後、収集時間ごとに監視対象 Domino の検出を試みます。

(O)

意図的に Domino を停止している場合、特に対応の必要はありません。

再起動中などビジー状態の場合は、数分待ち、回復メッセージの KAVF13202-I が出力されるかを確認してください。

Domino が起動していてもこのメッセージが出力される場合は、プロセス情報との不一致が起きている可能性があります。Domino を再起動してください。

KAVF13202-I

Target domino is detected.

監視対象の Domino を認識しました

監視対象の Domino を認識しました。

このメッセージは KAVF13201-W のメッセージが出たあと、監視対象の Domino を認識した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

(O)

なし。

KAVF13203-E

PFM Collector can NOT loaded.

監視タスク (pfmcl) の起動に失敗しました

Domino 上で動作する監視タスク (pfmcl) の起動に失敗しました。

統計情報の取得が行えない状態になっています。

(S)

縮小運転で処理を続行します。その後、収集時間ごとに監視タスク (pfmcl) の起動を試みます。

(O)

再起動中などビジー状態の場合は、数分待ち、回復メッセージのKAVF13204-I が出力されるか確認してください。

数分待っても解消されない場合、Domino のログを確認してください。[load pfmcl xxxx], [PFM Collector: Termination complete.] を繰り返している場合は、ディスク負荷などが高くなっている可能性があります。Domino の状態を確認してください。それでも現状が改善されない場合は、Domino を再起動してください。

KAVF13204-I

PFM Collector loaded successful.

監視タスク (pfmcl) の起動に成功しました

監視タスク (pfmcl) の起動に成功しました。

このメッセージはKAVF13203-E のメッセージが出たあと、監視タスク (pfmcl) の起動に成功した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

(O)

なし。

KAVF13205-I

Memory insufficient is recovered.

メモリ不足が解消しました

メモリ不足になっていた状態が解消しました。

このメッセージはKAVF13102-E のメッセージが出たあと、メモリ不足が解消した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

(O)

なし。

KAVF13206-I

File or directory(ファイルまたはディレクトリ名) access successfully.

ファイルまたはディレクトリ (ファイルまたはディレクトリ名) へのアクセスに成功しました

ファイルまたはディレクトリへのアクセスに成功しました。

このメッセージはKAVF13104-E のメッセージが出たあと、設定変更によって正しくアクセスできた場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

(O)

なし。

KAVF13207-I

Entry was detected successfully by the setting file. (file=ファイル名, entry=エントリ名)
設定ファイルのエントリが正しく認識されました (file=ファイル名, entry=エントリ名)

設定ファイルのエントリが正しく認識されました。

このメッセージはKAVF13108-E のメッセージが出たあと、設定変更によって正しく認識された場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

(O)

なし。

11

トラブルへの対処方法

この章では、Performance Management の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて説明します。ここでは、主に PFM - Agent でトラブルが発生した場合の対処方法について記載しています。Performance Management システム全体のトラブルへの対処方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

11.1 対処の手順

Performance Management でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

現象の確認

次の内容を確認してください。

- トラブルが発生したときの現象
- メッセージの内容（メッセージが出力されている場合）
- 共通メッセージログなどのログ情報

各メッセージの要因と対処方法については、「10. メッセージ」を参照してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、「11.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報」を参照してください。

資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「11.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料」および「11.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法」を参照して、必要な資料を採取してください。

問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

11.2 トラブルシューティング

ここでは、Performance Management 使用時のトラブルシューティングについて記述します。Performance Management を使用しているときにトラブルが発生した場合、まず、この節で説明している現象が発生していないか確認してください。

Performance Management に発生する主なトラブルの内容を次の表に示します。

表 11-1 トラブルの内容

分類	トラブルの内容	記述箇所
セットアップやサービスの起動について	<ul style="list-style-type: none">Performance Management のプログラムのサービスが起動しないサービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かるPerformance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、別のプログラムがサービスを開始したとき、通信が正しく実行されない「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止するPFM - Agent の Agent Collector サービスが起動しない	11.2.1
コマンドの実行について	<ul style="list-style-type: none">jpctool service list (jpcctrl list)コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力されるjpctool db dump (jpcctrl dump)コマンドを実行すると、指定した Store データと異なるデータが出力される	11.2.2
レポートの定義について	<ul style="list-style-type: none">履歴レポートに表示されない時間帯がある	11.2.3
アラームの定義について	<ul style="list-style-type: none">アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しないアラームイベントが表示されないアラームしきい値を超えているのに、エージェント階層の [アラームの状態の表示] 画面に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない	11.2.4
パフォーマンスデータの収集と管理について	<ul style="list-style-type: none">データの保存期間を短く設定しても、PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力されるPFM - Agent を起動してもパフォーマンスデータが収集されない	11.2.5

11.2.1 セットアップやサービスの起動に関するトラブルシューティング

セットアップやサービスの起動に関するトラブルの対処方法を次に示します。

(1) Performance Management のプログラムのサービスが起動しない

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager が停止している

PFM - Manager と PFM - Agent が同じホストにある場合、PFM - Manager が停止していると、PFM - Agent サービスは起動できません。PFM - Manager サービスが起動されているか確認してください。PFM - Manager サービスが起動されていない場合は、起動してください。サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

- PFM - Agent で設定する、接続先 PFM - Manager の設定に誤りがある

PFM - Agent のセットアップで、接続先 PFM - Manager の設定に誤りがあると、Performance Management シリーズプログラムのサービスは起動できません。jpcconf mgrhost define (jpcnshostname) コマンドを実行して接続先 PFM - Manager を確認し、誤りがあれば設定し直してください。

- Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している

Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合、Performance Management のプログラムのサービスは起動できません。デフォルトでは、ポート番号は自動的に割り当てられるため、ポート番号が重複することはありません。Performance Management のセットアップ時に Performance Management のプログラムのサービスに対して固定のポート番号を設定している場合は、ポート番号の設定を確認してください。Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合は、異なるポート番号を設定し直してください。ポート番号の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

- Store データベースの格納ディレクトリの設定に誤りがある

次のディレクトリを、アクセスできないディレクトリまたは存在しないディレクトリに設定していると、Agent Store サービスは起動できません。ディレクトリ名や属性の設定を見直し、誤りがあれば修正してください。

- Store データベースの格納先ディレクトリ
- Store データベースのバックアップディレクトリ
- Store データベースの部分バックアップディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
- Store データベースのエクスポート先ディレクトリ
- Store データベースのインポート先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)

また、これらのディレクトリを複数の Agent Store サービスに対して設定していると、Agent Store サービスは起動できません。ディレクトリ設定を見直し、誤りがあれば修正してください。

- 指定された方法以外の方法でマシンのホスト名を変更した

マシンのホスト名の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。指定された方法以外の方法でホスト名を変更した場合、Performance Management のプログラムのサービスが起動しないことがあります。

- Lotus Notes/Domino がインストールされていない

Lotus Notes/Domino がインストールされていない場合、Agent Collector サービスは起動できません。PFM - Agent ホストに Lotus Notes/Domino をインストールしてください。

- Lotus Notes/Domino が起動されていない

Lotus Notes/Domino が起動されていない場合、Agent Collector サービスは起動できません。Lotus Notes/Domino を起動したあと、Agent Collector サービスを起動してください。

- インスタンス環境のセットアップ時の設定に誤りがある

インスタンス環境のセットアップ時に設定した次の項目に誤りがあると、Agent Collector サービスは起動できません。

- notes.ini

`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを実行して、各項目の正しい値を設定し直してください。`jpccconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

- サービスコントロールマネージャでエラーが発生した

Windows で `jpccspm start (jpcstart)` コマンドを実行した場合、「Windows のサービスコントロールマネージャでエラーが発生しました」というエラーメッセージが出力され、サービスの起動に失敗することがあります。この現象が発生した場合、`jpccspm start (jpcstart)` コマンドを再実行してください。頻繁に同じ現象が発生する場合は、`jpccspm start (jpcstart)` コマンド実行時にサービス起動処理がリトライされる間隔および回数を、`jpcccomm.ini` ファイルを編集して変更してください。リトライ間隔およびリトライ回数を変更する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

(2) サービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かる

`jpccspm start (jpcstart)` コマンドを実行してから、または [サービス] アイコンでサービスを開始してから、実際にサービスが起動するまで時間が掛かることがあります。次の要因で時間が掛かっている場合、2 回目の起動時からはサービスの起動までに掛かる時間が短縮されます。

- スタンドアロンモードで起動する場合、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- システム停止時にサービスを自動で停止させる設定をしないで、システムを再起動してサービスを起動すると、Store データベースのインデックスが再構築される場合があります。この場合、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- エージェントを新規に追加したあとサービスを起動すると、初回起動時だけ Store データベースのインデックスが作成されます。そのため、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。

- 電源切断などによって Store サービスが正常な終了処理を行えなかったときは、再起動時に Store データベースのインデックスが再構築されるため、Store サービスの起動に時間が掛かることがあります。

(3) Performance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、別のプログラムがサービスを開始したとき、通信が正しく実行されない

Performance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、このサービスが使用していたポート番号で、ほかのプログラムがサービスを開始した場合、通信が正しく実行されないことがあります。この現象を回避するために、次の設定をしてください。

- Performance Management のプログラムのサービスに割り当てるポート番号を固定する
Performance Management のプログラムの各サービスに対して、固定のポート番号を割り当てて運用してください。ポート番号の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

Performance Management のプログラムのサービスのポート番号を固定しても通信が正しく実行されないときは、次の設定をするとよい場合があります。ただし、システム全体に影響を与えるおそれがあるため、十分注意して設定してください。

- TCP_TIMEWAIT 値の設定をする
OS ごとに、TCP_TIMEWAIT 値で接続待ち時間を設定してください。
AIX の場合、次のように指定して、接続待ち時間を 75 秒以上にしてください。
 - AIX の場合：75 秒
`tcp_timewait:5`

Windows, Solaris の場合、接続待ち時間をデフォルトの設定としてください。デフォルト値は、次のとおりです。

- Windows 2000, Solaris の場合：4 分
- Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合：2 分

これらの対処を実施したあとも通信が正しく実行されない場合は、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

(4) 「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止する

Store データベースが使用しているディスクに十分な空き容量がない場合、Store データベースへのデータの格納が中断されます。この場合、「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと、Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止します。

このメッセージが表示された場合、次のどちらかの方法で対処してください。

- 十分なディスク容量を確保する

Store データベースのディスク占有量を見積もり、Store データベースの格納先を十分な容量があるディスクに変更してください。Store データベースのディスク占有量を見積もる方法については、「付録 A システム見積もり」を参照してください。Store データベースの格納先を変更する方法については、「2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」(Windows の場合) または 「3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」(UNIX の場合) を参照してください。

- Store データベースの保存条件を変更する

Store データベースの保存条件を変更し、Store データベースのデータ量の上限値を調整してください。Store データベースの保存条件を変更する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

これらの対処を実施したあとも Master Store サービスまたは Agent Store サービスが起動されない場合、Store データベースに回復できない論理矛盾が発生しています。この場合、バックアップデータから Store データベースをリストアしたあと、Master Store サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。利用できるバックアップデータが存在しない場合は、Store データベースを初期化したあと、Master Store サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。Store データベースを初期化するには、Store データベースの格納先ディレクトリにある次のファイルをすべて削除してください。

- 拡張子が .DB であるファイル
- 拡張子が .IDX であるファイル

Store データベースの格納先ディレクトリについては、「2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」(Windows の場合) または 「3.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」(UNIX の場合) を参照してください。

(5) PFM - Agent の Agent Collector サービスが起動しない

PFM - Agent ホストが Windows の場合、PFM - Agent の起動時に Agent Collector サービスの起動に失敗して、Windows の再起動時、Windows のイベントログに次のどちらかのメッセージが出力されることがあります。

- 「サービス名サービスは起動時に停止しました。」
- 「サービス名サービスは開始時にハングしました。」

この現象は、Windows のサービスコントロールマネージャのタイムアウトによって発生するため、PFM - Manager への通信負荷が高く、PFM - Manager からの応答に時間が掛かるときに発生しやすくなります。次の条件にすべて該当する場合に発生します。

- JP1/PFM - Manager への通信負荷が高い

例えば、多数の PFM - Agent の起動処理が同時に実行されている場合などが該当します。

- PFM - Agent の各サービスについて、Windows の [サービス] アプレットでスタートアップ種別が「自動」に設定されている
- OS を再起動する

この現象を回避するためには、次のどちらかの設定をして運用してください。

- OS の再起動と同時にサービスを起動する場合、Windows のサービスコントロールマネージャから起動するのではなく、jpcspm start コマンドを実行して起動する
- PFM - Agent ホストで次の設定を行って、PFM - Agent の起動時間を短縮する
この設定で、PFM - Agent のサービスの起動時に、PFM - Manager に接続できない場合の再接続処理が短縮されます。この場合、PFM - Agent のサービスがスタンドアロンモードで起動する確率が高くなります。

PFM - Agent の起動時間を短縮するには、起動情報ファイル (jpccomm.ini) の [Agent Collector x Section] ※および [Agent Store x Section] ※の「NS Init Retry Count」ラベルを、「NS Init Retry Count =2」から「NS Init Retry Count =1」に変更します。

注※

[x] には、PFM - Agent のプロダクト ID が入ります。プロダクト ID については、「付録 C 識別子一覧」を参照してください。同一ホスト上に PFM - Agent が複数インストールされている場合は、それぞれのプロダクト ID ごとに「NS Init Retry Count」ラベルの値を設定してください。

起動情報ファイル (jpccomm.ini) の格納先は、次のとおりです。

PFM - Agent ホストが物理ホストの場合
インストール先フォルダ¥jpccomm.ini

PFM - Agent ホストが論理ホストの場合
環境ディレクトリ¥jp1pc¥jpccomm.ini

注※

論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリを示します。

11.2.2 コマンドの実行に関するトラブルシューティング

Performance Management のコマンドの実行に関するトラブルの対処方法を次に示します。

(1) jpctool service list (jpcctrl list)コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力される

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないで Performance Management のプログラムをアンインストールした

Performance Management のプログラムをアンインストールしても Performance Management のプログラムのサービス情報はデータベースに残っています。jpctool service delete (jpcctrl delete) コマンドを実行して、Performance Management のプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

- **Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した**

Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した場合、以前のホスト名が付加されているサービス ID のサービス情報が、Master Manager サービスが管理しているデータベースに残っています。jpctool service delete (jpcctrl delete) コマンドを実行して、Performance Management のプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法およびホスト名の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(2) jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行すると、指定した Store データベースと異なるデータが出力される

同じ Master Store サービスまたは Agent Store サービスに対して、同じエクスポートファイル名を指定して、複数回 jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行すると、先に実行した出力結果があとから実行された実行結果に上書きされます。同じ Master Store サービスまたは Agent Store サービスに対して、複数回 jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行する場合は、異なる名称のエクスポートファイルを指定してください。Store データベースのエクスポート方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

11.2.3 レポートの定義に関するトラブルシューティング

Performance Management のレポートの定義に関するトラブルの要因を次に示します。

(1) 履歴レポートに表示されない時間帯がある

PFM - Agent がインストールされたマシンの現在時刻を、現在時刻よりも未来の時刻に変更した場合、変更前の時刻から変更後の時刻までの履歴情報は保存されません。

11.2.4 アラームの定義に関するトラブルシューティング

Performance Management のアラームの定義に関するトラブルの対処方法を次に示します。

(1) アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが起動されていない
PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが停止していると、アクションが実行されません。アクションを実行する場合は、PFM - Manager およびアクション実行先ホストの Action Handler サービスを起動しておいてください。

(2) アラームイベントが表示されない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager が起動されていない
PFM - Manager を停止すると、PFM - Agent からのアラームイベントを正しく発行できません。アラームイベントを監視する場合は、PFM - Manager を起動しておいてください。

(3) アラームしきい値を超えているのに、エージェント階層の [アラームの状態の表示] 画面に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数が日本語にそろっていない環境で、日本語を使用したアラームテーブルをバインドしている
このような場合、日本語を使用したアラームは正常に評価されません。PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数を、日本語にそろえて運用してください。LANG 環境変数の設定は共通メッセージログを確認し、最新のサービス起動メッセージが日本語と英語のどちらで出力されているかで確認してください。

なお、PFM - Manager ホストが英語環境の場合、現在の設定のまま日本語環境に変更すると、既存のアラーム定義が文字化けして削除できなくなります。このため、次の作業を実施してください。

1. アラーム定義内に日本語を使用したアラームテーブルが必要な場合は、PFM - Web Console からすべてエクスポートする。
エクスポートする際に、`jpctool alarm export (jpcalarm export)` コマンドは使用できません。
2. アラーム定義内に日本語を使用したアラームテーブルをすべて削除する。
3. PFM - Manager を停止する。
4. PFM - Manager ホストの LANG 環境変数を日本語に変更する。
5. PFM - Manager を起動する。

6. 手順 1 でアラームテーブルをエクスポートした場合は、PFM - Web Console または `jpctool alarm import (jpcalarm import)` コマンドを使用して、アラームテーブルをインポートする。

また、日本語および英語の混在環境での、その他の注意事項については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、日本語版と英語版の混在環境での注意事項について記載している章を参照してください。

11.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルシューティング

Performance Management のパフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルの対処方法を次に示します。

(1) データの保存期間を短く設定しても、PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない

Store バージョン 1.0 で Store データベースのファイル容量がすでに限界に達している場合、データの保存期間を短く設定してもファイルサイズは小さくなりません。この場合、保存期間を短く設定したあと、いったん Store データベースをバックアップし、リストアし直してください。

データの保存期間の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。また、Store データベースのバックアップとリストアの方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、バックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

(2) 共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力される

予期しないサービスの停止またはマシンのシャットダウンによって、Store データベースに不整合なデータが発生したおそれがあります。次の方法で対処してください。

- Store データベースをバックアップしてある場合は、Store データベースをリストアしてください。
- Store データベースをバックアップしていない場合は、Agent Store サービスを停止したあと、対応するデータベースファイル (*.DB ファイルおよび*.IDX ファイル) を削除し、サービスを再起動してください。

(3) PFM - Agent を起動してもパフォーマンスデータが収集されない

次の方法で対処をしてください。

- Lotus Notes/Domino の起動状態を確認し、停止している場合は起動してください。
- インスタンス環境をセットアップしたときの設定を見直してください。

インスタンス環境のセットアップ時に設定した次の項目に誤りがあると、Agent Collector サービスは起動できません。

- notes.ini

jpccconf inst setup (jpcinssetup)コマンドを実行して、各項目の正しい値を設定し直してください。jpccconf inst setup (jpcinssetup)コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

11.2.6 その他のトラブルに関するトラブルシューティング

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、「11.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報」を参照してください。

「11.2.1 セットアップやサービスの起動に関するトラブルシューティング」～「11.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルシューティング」に示した対処をしても、トラブルが解決できなかった場合、または、これら以外のトラブルが発生した場合、トラブルの要因を調査するための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

採取が必要な資料および採取方法については、「11.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料」および「11.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法」を参照してください。

11.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報

Performance Management でトラブルが発生した場合、ログ情報を確認して対処方法を検討します。Performance Management を運用しているときに出力されるログ情報には、次の4種類があります。

- システムログ
- 共通メッセージログ
- 稼働状況ログ
- トレースログ

ここでは、4種類のログ情報および各ログ情報に設定できるログオプションについて説明します。

11.3.1 トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類

(1) システムログ

システムログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。このログ情報は次のログファイルに出力されます。

- Windows の場合
イベントログファイル
- UNIX の場合
syslog ファイル

出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

- クラスタ運用の場合の注意事項

Performance Management のシステムログのほかに、クラスタソフトによる Performance Management の制御などを確認するためにクラスタソフトのログが必要です。

(2) 共通メッセージログ

共通メッセージログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。システムログよりも詳しいログ情報が出力されます。共通メッセージログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、「11.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

クラスタ運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合、共通メッセージログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは、フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので、メッセージは同じログファイルに記録されます。

(3) 稼働状況ログ

稼働状況ログとは、PFM - Web Console が出力するログ情報のことです。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

(4) トレースログ

トレースログとは、トラブルが発生した場合に、トラブル発生の経緯を調査したり、各処理の処理時間を測定したりするために採取するログ情報のことです。

トレースログは、Performance Management のプログラムの各サービスが持つログファイルに出力されます。

クラスタ運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合、トレースログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは、フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので、メッセージは同じログファイルに記録されます。

11.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧

ここでは、Performance Management から出力されるログ情報について説明します。

Performance Management が出力するログ情報は次のとおりです。

- 共通メッセージログ
- トレースログ

稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

(1) 共通メッセージログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、共通メッセージログについて、ログの出力元であるサービス名または制御名、ログファイル名、およびディスク使用量を、OS ごとに表に示します。

表 11-2 共通メッセージログのファイル名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量*1 (キロバイト)
共通メッセージログ	Performance Management	インストール先フォルダ¥Log¥jpclog{01 02}*2	2,048 (*2)
		インストール先フォルダ¥Log¥jpclogw{01 02}*2	2,048 (*2)
共通メッセージログ (論理ホスト運用の場合)	論理ホスト運用の Performance Management	環境ディレクトリ*3 ¥jp1pc¥Log¥jpclog{01 02}*2	2,048 (*2)
		環境ディレクトリ*3 ¥jp1pc¥Log¥jpclogw{01 02}*2	2,048 (*2)

注※1

() 内の数字は、1つのサービスに対して作成されるログファイルの数を示します。例えば、「2,048(*2)」の場合、ディスク使用量が2,048キロバイトのログファイルが最大で2つ作成されることを示します。この場合、ディスク使用量は合計で4,096キロバイトとなります。

注※2

共通メッセージログのログファイル名には、末尾に「01」または「02」が付加されます。

シーケンシャルファイル (jpclog) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ログファイル名の末尾が「01」から「02」に変更され、ファイル名の末尾が「01」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「01」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、上書きされます。最新のログは常にファイル名の末尾が「01」のログファイルに出力されます。

ラップアラウンドファイル (jpclogw) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ファイル名の末尾が「02」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「02」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、末尾が「02」のログファイルのデータをすべて削除し、先頭行からログが出力されます。そのあとログの出力ファイルが交互に入れ替わります。

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※3

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

表 11-3 共通メッセージログのファイル名 (UNIX の場合)

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量*1 (キロバイト)
共通メッセージログ	Performance Management	/opt/jp1pc/log/jpclog{01 02}*2	2,048 (*2)
		/opt/jp1pc/log/jpclogw{01 02}*2	2,048 (*2)
共通メッセージログ (論理ホスト運用の場合)	論理ホスト運用の Performance Management	環境ディレクトリ*3 /jp1pc/log/jpclog{01 02}*2	2,048 (*2)
		環境ディレクトリ*3 /jp1pc/log/jpclogw{01 02}*2	2,048 (*2)

注※1

() 内の数字は、1つのサービスに対して作成されるログファイルの数を示します。例えば、「2,048(*2)」の場合、ディスク使用量が2,048キロバイトのログファイルが最大で2つ作成されることを示します。この場合、ディスク使用量は合計で4,096キロバイトとなります。

注※2

共通メッセージログのログファイル名には、末尾に「01」または「02」が付加されます。

シーケンシャルファイル (jpclog) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ログファイル名の末尾が「01」から「02」に変更され、ファイル名の末尾が「01」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「01」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、上書きされます。最新のログは常にファイル名の末尾が「01」のログファイルに出力されます。

ラップアラウンドファイル (jpclogw) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ファイル名の末尾が「02」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「02」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、末尾が「02」のログファイルのデータをすべて削除し、先頭行からログが出力されます。そのあとログの出力ファイルが交互に入れ替わります。

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※3

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

(2) トレースログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、PFM - Agent のトレースログの出力元であるサービス名または制御名および格納先ディレクトリ名を、OS ごとに表に示します。

表 11-4 トレースログの格納先フォルダ名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	フォルダ名
トレースログ	Action Handler サービス	インストール先フォルダ ^{※1} \bin\action\log\
	Performance Management コマンド	インストール先フォルダ ^{※1} \tools\log\
	Agent Collector サービス	インストール先フォルダ\agtl\agent\インスタンス名\log\
	Agent Store サービス	インストール先フォルダ\agtl\store\インスタンス名\log\
	Status Server サービス	インストール先フォルダ\bin\statsvr\log\
トレースログ (論理ホスト運用の場合)	Action Handler サービス	環境ディレクトリ [※] \jp1pc\bin\action\log\
	Performance Management コマンド	環境ディレクトリ [※] \jp1pc\tools\log\
	Agent Collector サービス	環境ディレクトリ [※] \jp1pc\agtl\agent\インスタンス名\log\
	Agent Store サービス	環境ディレクトリ [※] \jp1pc\agtl\store\インスタンス名\log\

注※

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

表 11-5 トレースログの格納先ディレクトリ名 (UNIX の場合)

ログ情報の種類	出力元	ディレクトリ名
トレースログ	Action Handler サービス	/opt/jp1pc/bin/action/log/
	Performance Management コマンド	/opt/jp1pc/tools/log/
	Agent Collector サービス	/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/log/
	Agent Store サービス	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/log/
	Status Server サービス	/opt/jp1pc/bin/statsvr/log/
トレースログ (論理ホスト運用の場合)	Action Handler サービス	環境ディレクトリ [※] /jp1pc/bin/action/log/
	Performance Management コマンド	環境ディレクトリ [※] /jp1pc/tools/log/
	Agent Collector サービス	環境ディレクトリ [※] /jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/log/

ログ情報の種類	出力元	ディレクトリ名
トレースログ（論理ホスト運用の場合）	Agent Store サービス	環境ディレクトリ [※] /jp1pc/agtL/store/インスタンス名/log/

注※

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

11.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料

「11.2 トラブルシューティング」に示した対処をしてもトラブルを解決できなかった場合、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡する必要があります。この節では、トラブル発生時に採取が必要な資料について説明します。

Performance Management では、採取が必要な資料を一括採取するためのコマンドを用意しています。PFM - Agent の資料を採取するには、jpcras コマンドを使用します。jpcras コマンドを使用して採取できる資料については、表中に記号で示しています。

注意

jpcras コマンドで採取できる資料は、コマンド実行時に指定するオプションによって異なります。コマンドに指定するオプションと採取できる資料については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用する場合の Performance Management のログは、共有ディスクに格納されます。なお、共有ディスクがオンラインになっている場合（Windows）、またはマウントされている場合（UNIX）は、jpcras コマンドで共有ディスク上のログも一括して採取することができます。

また、フェールオーバー時の問題を調査するには、フェールオーバーの前後の資料が必要です。このため、実行系と待機系の両方の資料が必要になります。

なお、論理ホスト運用の Performance Management の調査には、クラスタソフトの資料が必要です。論理ホスト運用の Performance Management は、クラスタソフトから起動や停止を制御されているので、クラスタソフトの動きと Performance Management の動きを対比して調査するためです。

11.4.1 Windows の場合

(1) トラブルシューティング時に採取する OS のログ情報

OS のログ情報で、採取が必要な情報を次の表に示します。

表 11-6 採取が必要なログ情報（Windows の場合）

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムログ	Windows イベントログ	—	○
プロセス情報	プロセスの一覧	—	○
システムファイル	hosts ファイル	システムフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	○
	services ファイル	システムフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥services	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
OS 情報	システム情報	—	○
	ネットワークステータス	—	○
	ホスト名	—	○
	Windows ファイアウォールの情報	—	○
ダンプ情報 (Windows Server 2003 の場合)	ワトソン博士のログファイル	システムドライブ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data ¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log [※] システムドライブ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data ¥Microsoft¥Dr Watson¥user.dump [※]	○
ダンプ情報 (Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合)	問題のレポートと解決策のログファイル	ダンプ情報の取得方法によって異なります。詳細は、OS 付属のドキュメントを参照してください。	○

(凡例)

- ：採取できる
- ：該当しない

注※

別のフォルダにログファイルが出力されるように設定している場合は、該当するフォルダから資料を採取してください。

(2) トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報

Performance Management に関する次の情報の採取が必要です。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

Performance Management の情報を次の表に示します。

表 11-7 採取が必要な Performance Management の情報 (Windows の場合)

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ (シーケンシャルファイル方式)	インストール先フォルダ¥log¥jpc log{01 02} ^{※1}	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpccras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ (ラップアラウンドファイル方式)	インストール先フォルダ¥log¥jpc logw{01 02}※1	○
構成情報	各構成情報ファイル	—	○
	jpctool service list (jpcctrl list)コマンドの出力結果	—	○
バージョン情報	製品バージョン	—	○
	履歴情報	—	○
データベース情報	Agent Store サービス	<ul style="list-style-type: none"> Store バージョン 1.0 の場合 インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥*.DB インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥*.IDX Store バージョン 2.0 の場合 インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPD インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPI フォルダ ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPL フォルダ下の次に示すファイル *.DB *.IDX 	○
トレースログ	Performance Management のプログラムの各サービスのトレース情報	—※2	○
インストールログ※3	インストール時のメッセージログ (Windows Server 2003 の場合)	%TEMP%¥pfm_inst.log	×
	インストール時のメッセージログ (Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合)	システムフォルダ¥TEMP¥HCDINST フォルダ下の次に示すファイル。 <ul style="list-style-type: none"> HCDMAIN.LOG およびHCDMAINn.LOG※4 HCDINST.LOG およびHCDINSTn.LOG※4 製品形名.LOG 	×

(凡例)

○：採取できる

×：採取できない

－：該当しない

注※1

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※2

トレースログの格納先フォルダについては、「[11.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧](#)」を参照してください。

注※3

インストールに失敗した場合に採取してください。

注※4

n は数字を示します。

(3) トラブルシューティング時に採取するオペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について、次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、PFM - Manager と PFM - Agent の構成など）
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

(4) トラブルシューティング時に採取する画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー（詳細ボタンがある場合はその内容を含む）
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、[コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピー

(5) トラブルシューティング時に採取するユーザーダンプ（Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合）

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は、ユーザーダンプを採取してください。

(6) トラブルシューティング時に採取する問題レポート (Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合)

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は、問題レポートを採取してください。

(7) トラブルシューティング時に採取するその他の情報

その他の必要な情報を次に示します。

- Windows の [イベントビューア] ウィンドウの, [システム] および [アプリケーション] の内容
- [アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報] の内容

11.4.2 UNIX の場合

(1) トラブルシューティング時に採取する OS のログ情報

OS のログ情報で、採取が必要な情報を次の表に示します。

表 11-8 採取が必要なログ情報 (UNIX の場合)

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムログ	syslog	<ul style="list-style-type: none">• Solaris の場合 /var/adm/messages*• AIX の場合 /var/adm/syslog*	○*1
プロセス情報	プロセスの一覧	—	○
システムファイル	hosts ファイル	/etc/hosts	○
		/etc/inet/ipnodes* ²	○*3
	services ファイル	/etc/services	○
OS 情報	パッチ情報	—	○
	カーネル情報	—	○
	バージョン情報	—	○
	ネットワークステータス	—	○
	環境変数	—	○
	ホスト名	—	○
ダンプ情報	core ファイル	—	○

(凡例)

○：採取できる

－：該当しない

注※1

デフォルトのパスおよびファイル名以外に出力されるように設定されているシステムでは、収集できません。手動で収集してください。

注※2

/etc/inet/ipnodes ファイルは Solaris だけに存在するファイルです。/etc/hosts ファイルと一緒に収集してください。

注※3

PFM - Manager 08-50 以降または PFM - Base 08-50 以降の jpcras コマンドだけで収集できます。

(2) トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報

Performance Management に関する情報で、採取が必要な情報を次の表に示します。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

表 11-9 採取が必要な Performance Management の情報 (UNIX の場合)

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ (シーケンシャルファイル方式)	/opt/jp1pc/log/jpclog{01 02}* ^{※1}	○
	Performance Management から出力されるメッセージログ (ラップアラウンドファイル方式)	/opt/jp1pc/log/jpclogw{01 02}* ^{※1}	○
構成情報	各構成情報ファイル	－	○
	jpctool service list (jpcctrl list) コマンドの出力結果	－	○
バージョン情報	製品バージョン	－	○
	履歴情報	－	○
データベース情報	Agent Store サービス	• Store バージョン 1.0 の場合 /opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/*.DB	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
データベース情報	Agent Store サービス	/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/*.IDX • Store バージョン 2.0 の場合 /opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/STPD /opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/STPI /opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/STPL ディレクトリ下の次に示すファイル。 *.DB *.IDX	○
トレースログ	Performance Management のプログラムの各サービスのトレース情報	—※2	○
インストールログ ※3	Hitachi PP Installer の標準ログ	/etc/.hitachi/.hitachi.log /etc/.hitachi/.hitachi.log{01 02 03 04 05} /etc/.hitachi/.install.log /etc/.hitachi/.install.log{01 02 03 04 05}	×

(凡例)

- ：採取できる
- ×：採取できない
- ：該当しない

注※1

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※2

トレースログの格納先ディレクトリについては、「11.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。

注※3

インストールに失敗した場合に採取してください。

(3) トラブルシューティング時に採取するオペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について、次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、PFM - Manager と PFM - Agent の構成など）
- 再現性の有無

- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名

(4) トラブルシューティング時に採取するエラー情報

次に示すエラー情報を採取してください。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コンソールに出力されたメッセージ

(5) トラブルシューティング時に採取するその他の情報

その他の必要な情報を次に示します。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

11.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

11.5.1 Windows の場合

(1) トラブルシューティング時のダンプ情報(Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合)の採取方法

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境での、ダンプ情報の採取手順を次に示します。

1. タスクマネージャーを開く。
2. プロセスのタブを選択する。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプファイルの作成] を選択する。
次のフォルダに、ダンプファイルが格納される。

```
システムドライブ¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local¥Temp
```

4. 手順 3 のフォルダからダンプファイルを採取する。
手順 3 と異なるフォルダにダンプファイルが出力されるように環境変数の設定を変更している場合は、変更先のフォルダからダンプファイルを採取してください。

(2) 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして Administrator 権限を持つユーザーが実行してください。

1. 資料採取するサービスがインストールされているホストにログオンする。
2. コマンドプロンプトで次に示すコマンドを実行して、コマンドインタプリタの「コマンド拡張機能」を有効にする。

```
cmd /E:ON
```

3. 採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して、jpcras コマンドを実行する。
jpcras コマンドで、採取できるすべての情報を c:¥tmp¥jpc¥agt フォルダに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpcras c:¥tmp¥jpc¥agt all all
```

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境で実行する場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックして資料採取を続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、資料採取が中止されます。

(3) 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 (論理ホスト運用の場合)

論理ホスト運用の Performance Management の資料は共有ディスクにあり、資料は実行系と待機系の両方で採取する必要があります。

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして Administrator 権限を持つユーザーが実行してください。

論理ホスト運用の場合の資料採取コマンドの実行について、手順を説明します。

1. 共有ディスクをオンラインにする。

論理ホストの資料は共有ディスクに格納されています。実行系ノードでは、共有ディスクがオンラインになっていることを確認して資料を採取してください。

2. 実行系と待機系の両方で、採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して、jpcras コマンドを実行する。

jpcras コマンドで、採取できるすべての情報を c:%tmp%jpc%agt フォルダに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpcras c:%tmp%jpc%agt all all
```

jpcras コマンドを lhost の引数を指定しないで実行すると、そのノードの物理ホストと論理ホストの Performance Management の資料が一とおり採取されます。論理ホスト環境の Performance Management がある場合は、共有ディスク上のログファイルが取得されます。

なお、共有ディスクがオフラインになっているノードでjpcras コマンドを実行すると、共有ディスク上のファイルを取得できませんが、エラーは発生しないで正常終了します。

注意

実行系ノードと待機系ノードの両方で、資料採取コマンドを実行して資料採取をしてください。フェールオーバーの前後の調査をするには、実行系と待機系の両方の資料が必要です。

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

3. クラスタソフトの資料を採取する。

この資料は、クラスタソフトと Performance Management のどちらでトラブルが発生しているのかを調査するために必要になります。クラスタソフトから Performance Management への起動停止などの制御要求と結果を調査できる資料を採取してください。

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の環境で実行する場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックして資料採取を続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、資料採取が中止されます。

(4) トラブルシューティング時の Windows イベントログ資料の採取方法

Windows の [イベントビューア] ウィンドウの、[システム] および [アプリケーション] の内容を採取してください。

(5) トラブルシューティング時に確認するオペレーション内容の採取方法

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成 (各 OS のバージョン、ホスト名、PFM - Manager と PFM - Agent の構成など)
- 再現性の有無

- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

(6) トラブルシューティング時の画面上のエラー情報の採取方法

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー
詳細情報がある場合はその内容をコピーしてください。
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、[コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピー
[コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピーを採取する際は、["コマンドプロンプト"のプロパティ] ウィンドウについて次のように設定しておいてください。
 - [オプション] タブの [編集オプション]
[簡易編集モード] がチェックされた状態にする。
 - [レイアウト] タブ
[画面バッファのサイズ] の [高さ] に「500」を設定する。

(7) トラブルシューティング時に採取するその他の資料の採取方法

[アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報] によって、資料を採取できます。

11.5.2 UNIX の場合

(1) 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして root ユーザー権限を持つユーザーが実行してください。

1. 資料採取するサービスがインストールされているホストにログインする。

2. 採取する資料および資料の格納先ディレクトリを指定して、jpcras コマンドを実行する。

jpcras コマンドで、採取できるすべての情報を/tmp/jpc/agt ディレクトリに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpcras /tmp/jpc/agt all all
```

資料採取コマンドで収集された資料は、tar コマンドおよびcompress コマンドで圧縮された形式で、指定されたディレクトリに格納されます。ファイル名を次に示します。

```
jpcrasYYMMDD.tar.Z
```

YYMMDD には年月日が付加されます。

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

(2) 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 (論理ホスト運用の場合)

論理ホスト運用の Performance Management の資料は共有ディスクにあり、資料は実行系と待機系の両方で採取する必要があります。

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして root ユーザー権限を持つユーザーが実行してください。

論理ホスト運用の場合の、資料採取コマンドの実行について、手順を説明します。

1. 共有ディスクをマウントする。

論理ホストの資料は共有ディスクに格納されています。実行系ノードでは、共有ディスクがマウントされていることを確認して資料を採取してください。

2. 実行系と待機系の両方で、採取する資料および資料の格納先ディレクトリを指定して、jpcras コマンドを実行する。

jpcras コマンドで、採取できるすべての情報を/tmp/jpc/agt ディレクトリに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpcras /tmp/jpc/agt all all
```

資料採取コマンドで収集された資料は、tar コマンドおよびcompress コマンドで圧縮された形式で、指定されたディレクトリに格納されます。ファイル名を次に示します。

```
jpcrasYYMMDD.tar.Z
```

YYMMDD には年月日が付加されます。

jpcras コマンドを lhost の引数を指定しないで実行すると、そのノードの物理ホストと論理ホストの Performance Management の資料が一とおり採取されます。論理ホスト環境の Performance Management がある場合は、共有ディスク上のログファイルが取得されます。

なお、共有ディスクがマウントされていないノードで jpcras コマンドを実行すると、共有ディスク上のファイルを取得できませんが、エラーは発生しないで正常終了します。

注意

実行系ノードと待機系ノードの両方で、資料採取コマンドを実行して資料採取をしてください。フェールオーバーの前後の調査をするには、実行系と待機系の両方の資料が必要です。

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host * (jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

3. クラスタソフトの資料を採取する。

この資料は、クラスタソフトと Performance Management のどちらでトラブルが発生しているのかを調査するために必要になります。クラスタソフトから Performance Management への起動停止などの制御要求と結果を調査できる資料を採取してください。

(3) トラブルシューティング時に確認するオペレーション内容の採取方法

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、PFM - Manager と PFM - Agent の構成など）
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名

(4) トラブルシューティング時のエラー情報の採取方法

次に示すエラー情報を採取してください。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コンソールに出力されたメッセージ

(5) トラブルシューティング時に採取するその他の資料の採取方法

(1) ~ (4) で説明した情報以外に必要な情報を採取してください。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

11.6 Performance Management の障害検知

Performance Management では、ヘルスチェック機能を利用することで Performance Management 自身の障害を検知できます。ヘルスチェック機能では、監視エージェントや監視エージェントが稼働するホストの稼働状態を監視し、監視結果を監視エージェントの稼働状態の変化として PFM - Web Console 上に表示します。

また、PFM サービス自動再起動機能を利用することで、PFM サービスが何らかの原因で異常停止した場合に自動的に PFM サービスを再起動したり、定期的に PFM サービスを再起動したりできます。

ヘルスチェック機能によって監視エージェントの稼働状態を監視したり、PFM サービス自動再起動機能によって PFM サービスを自動再起動したりするには、Performance Management のサービスの詳細な状態を確認するステータス管理機能を使用します。このため、対象となる監視エージェントがステータス管理機能に対応したバージョンであり、ステータス管理機能が有効になっている必要があります。ホストの稼働状態を監視する場合は前提となる条件はありません。

また、Performance Management のログファイルをシステム統合監視製品である JP1/Base で監視することによっても、Performance Management 自身の障害を検知できます。これによって、システム管理者は、トラブルが発生したときに障害を検知し、要因を特定して復旧の対処をします。

Performance Management 自身の障害検知の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

11.7 Performance Management システムの障害回復

Performance Management のサーバで障害が発生したときは、バックアップファイルを基にして、障害が発生する前の正常な状態に回復する必要があります。

障害が発生する前の状態に回復する手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

付録

付録 A システム見積もり

PFM - Agent for Domino を使ったシステムを構築する前に、使用するマシンの性能が、PFM - Agent for Domino を運用するのに十分であるか、見積もっておくことをお勧めします。

付録 A.1 メモリー所要量

メモリー所要量は、PFM - Agent for Domino の設定状況や使用状況によって変化します。メモリー所要量の見積もり式については、リリースノートを参照してください。

付録 A.2 ディスク占有量

ディスク占有量は、パフォーマンスデータを収集するレコード数によって変化します。ディスク占有量の見積もりには、システム全体のディスク占有量、Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量、または Store データベース (Store バージョン 2.0) の見積もりが必要になります。これらの見積もり式については、リリースノートを参照してください。

付録 A.3 クラスタ運用時のディスク占有量

クラスタ運用時のディスク占有量の見積もりは、クラスタシステムで運用しない場合のディスク占有量の見積もりと同じです。ディスク占有量については、リリースノートを参照してください。

付録 B カーネルパラメーター

PFM - Agent for Domino では、カーネルパラメーターの調整は不要です。

なお、UNIX 環境で PFM - Manager および PFM - Web Console を使用する場合は、カーネルパラメーターの調整については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されているカーネルパラメーター一覧を参照してください。

付録 C 識別子一覧

PFM - Agent for Domino を操作したり、PFM - Agent for Domino の Store データベースからパフォーマンスデータを抽出したりする際、PFM - Agent for Domino であることを示す識別子が必要な場合があります。PFM - Agent for Domino の識別子を次の表に示します。

表 C-1 PFM Agent for Domino の識別子一覧

用途	名称	識別子	説明
コマンドなど	プロダクト ID	L	プロダクト ID とは、サービス ID の一部。サービス ID は、コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合や、パフォーマンスデータをバックアップする場合などに必要である。サービス ID については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録に記載されている命名規則を参照のこと。
	サービスキー	agtl または Domino	コマンドを使用して PFM - Agent for Domino を起動する場合や、終了する場合などに必要である。サービスキーについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録に記載されている命名規則を参照のこと。
ODBC	製品タイプ識別子	Domino	SQL 文を使用してデータを抽出する場合に必要な。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、ODBC に準拠のアプリケーションプログラムと連携した稼働分析について説明している章を参照のこと。
ヘルプ	ヘルプ ID	pcal	PFM - Agent for Domino のヘルプであることを表す。

付録 D プロセス一覧

ここでは、PFM - Agent for Domino のプロセス一覧を記載します。

PFM - Manager , PFM - Web Console, および PFM - Base のプロセスについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

PFM - Agent for Domino のプロセス一覧を次の表に示します。なお、プロセス名の後ろに記載されている値は、同時に起動できるプロセス数です。n の場合は、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとにプロセスが 1 つ起動することを表します。

注意

論理ホストの PFM - Agent でも、動作するプロセスおよびプロセス数は同じです。

表 D-1 PFM Agent for Domino のプロセス一覧 (Windows 版)

プロセス名 (プロセス数)	機能
jpcagtl.exe(n)	Domino Agent Collector サービスプロセス。ドミノのパフォーマンスデータを収集する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。
jpcsto.exe(n)	Agent Store サービスプロセス。Agent Collector が収集したデータを記録する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。
npfmcl.exe(n)*	Agent Collector 用サーバタスクプロセス。 PFM - Agent for Domino 上でサーバタスクとして動作し、データを Agent Collector に送信する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。

注※

プロセスの起動と停止は監視対象の PFM - Agent for Domino と同期します。

表 D-2 PFM Agent for Domino のプロセス一覧 (UNIX 版)

プロセス名 (プロセス数)	機能
jpcagtl(n)	Domino Agent Collector サービスプロセス。ドミノのパフォーマンスデータを収集する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。
jpcsto(n)	Agent Store サービスプロセス。Agent Collector が収集したデータを記録する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。
pfmcl(n)*	Agent Collector 用サーバタスクプロセス。 PFM - Agent for Domino 上でサーバタスクとして動作し、データを Agent Collector に送信する。このプロセスは、PFM - Agent for Domino のインスタンスごとに 1 つ起動する。

注※

プロセスの起動と停止は監視対象の PFM - Agent for Domino と同期します。

付録 E ポート番号一覧

ここでは、Performance Management のポート番号とファイアウォールの通過方向を記載します。

PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Base のポート番号およびファイアウォールの通過方向については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

注意

Performance Management は、1 対 1 のアドレス変換をする静的 NAT(Basic NAT)に対応していません。

動的 NAT や、ポート変換機能を含む NATP (IP Masquerade, NAT+) には対応していません。

付録 E.1 PFM - Agent for Domino のポート番号

PFM - Agent for Domino 使用するポート番号を次の表に示します。

表 E-1 PFM Agent for Domino で使用するポート番号

ポート番号	サービス名	パラメーター	用途
—※1	Agent Store サービス	jp1pcstol[nnn]※2	パフォーマンスデータを記録したり、履歴レポートを取得したりするときに使用する。
—※1	Agent Collector サービス	jp1pcagtl[nnn]※2	アラームをバインドしたり、リアルタイムレポートを取得したりするときに使用する。

注※1

サービスが再起動されるたびに、システムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。

注※2

複数インスタンスを作成している場合、2 番目以降に作成したインスタンスに通番 (nnn) が付加されます。最初に作成したインスタンスには、通番は付加されません。

ポート番号は、ユーザー環境に合わせて任意の番号に変更することもできます。

ポート番号の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお、使用するプロトコルは TCP/IP です。

付録 E.2 ファイアウォールの通過方向

(1) ファイアウォールの通過方向の設定

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for Domino を配置する場合は、PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号を固定値で設定してください。また、各ポート番号を次の表に示す方向で設定し、すべてのサービスについてファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 E-2 ファイアウォールの通過方向 (PFM Manager と PFM - Agent 間)

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス	jp1pcstol[nnn]*	Agent←Manager
Agent Collector サービス	jp1pcagt1[nnn]*	Agent←Manager

(凡例)

Manager : PFM - Manager ホスト

Agent : PFM - Agent ホスト

← : 右項から左項への通信 (コネクション) を開始する方向

注※

複数インスタンスを作成している場合、2 番目以降に作成したインスタンスに通番 (nnn) が付加されません。最初に作成したインスタンスには、通番は付加されません。

通信 (コネクション) を開始するときは、接続を受ける側 (矢印が向いている側) が、PFM - Agent for Domino で使用するポート番号を受信ポートとして使用します。PFM - Agent for Domino で使用するポート番号については、「表 E-1」を参照してください。

接続する側は、OS によって割り当てられる空きポート番号を送信ポートとして使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は、OS によって異なります。

Manager で一時的に使用される送信ポートが Agent の受信ポートを通過できるようにファイアウォールを設定してください。

注意

PFM - Agent のホストで `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドを実行したい場合、次のどちらかの方法でコマンドを実行してください。

- `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドの proxy オプションで、PFM - Manager を経由して通信するように指定してください。 `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドの proxy オプションについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

- 各 PFM - Agent ホスト間で次の表に示す方向でポート番号を設定し、ファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 E-3 ファイアウォールの通過方向 (各 PFM - Agent ホスト間)

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス	jp1pcstol[nnn]*	Agent←→Agent
Agent Collector サービス	jp1pcagtl[nnn]*	Agent←→Agent

(凡例)

Agent : PFM - Agent ホスト

←→ : 左項から右項, および右項から左項への通信 (コネクション) を開始する方向

注※

複数インスタンスを作成している場合, 2 番目以降に作成したインスタンスに通番 (nnn) が付加されません。最初に作成したインスタンスには, 通番は付加されません。

(2) ファイアウォールの通過方向の設定 (論理ホスト運用の場合)

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for Domino を配置する場合は, PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号を固定値で設定してください。また, 各ポート番号を次の表に示す方向で設定し, すべてのサービスについてファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 E-4 ファイアウォールの通過方向 (PFM - Manager と PFM - Agent 間 (論理ホスト運用の場合))

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス (論理ホスト)	jp1pcstol[nnn]*	Agent (論理ホスト) ← Manager
Agent Collector サービス (論理ホスト)	jp1pcagtl[nnn]*	Agent (論理ホスト) ← Manager

(凡例)

Manager : PFM - Manager ホスト

Agent (論理ホスト) : PFM - Agent ホスト

← : 右項から左項への通信 (コネクション) を開始する方向

注※

複数インスタンスを作成している場合, 2 番目以降に作成したインスタンスに通番 (nnn) が付加されません。最初に作成したインスタンスには, 通番は付加されません。

通信（コネクション）を開始する時は、接続を受ける側（矢印が向いている側）が、表 E-1 のポート番号を受信ポートとして使用します。接続する側は、OS によって割り当てられる空きポート番号を送信ポートとして使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は、OS によって異なります。

Manager で一時的に使用される送信ポートが Agent の論理ホストの受信ポートを通過できるようにファイアウォールを設定してください。

付録 F PFM - Agent for Domino のプロパティ

ここでは、PFM - Web Console で表示される PFM - Agent for Domino の Agent Store サービスのプロパティ一覧、および Agent Collector サービスのプロパティ一覧を記載します。

付録 F.1 Agent Store サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Domino の Agent Store サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 F-1 AgentStore サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
-	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
General	-	ホスト名やディレクトリなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントディレクトリ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	IPv6 通信機能が無効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	Physical Address(IPv4)	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレス (IPv4) が表示される。
	Physical Address(IPv6)	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレス (IPv6) が表示される。
	Port Number	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System	-	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	CPU Type	CPU の種類が表示される。
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
System		OS Type	OS の種類が表示される。
		OS Name	OS 名が表示される。
		OS Version	OS のバージョンが表示される。
Network Services		—	Performance Management 通信共通ライブラリーについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Store サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納ディレクトリ名が表示される。
Network Services	Service	—	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Master Manager サービスのサービス ID が表示される。
		EP Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Correlator サービスのサービス ID が表示される。
Retention		—	Store バージョンが 1.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
		Product Interval - Minute Drawer	分ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Minute • Hour • Day • 2Days • 3Days • 4Days • 5Days • 6Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Hour Drawer	時間ごとの PI レコードタイプの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Hour • Day • 2Days

フォルダ名		プロパティ名	説明
Retention		Product Interval - Hour Drawer	<ul style="list-style-type: none"> • 3Days • 4Days • 5Days • 6Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Day Drawer	<p>日ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Day • 2Days • 3Days • 4Days • 5Days • 6Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Week Drawer	<p>週ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Week • Month • Year
		Product Interval - Month Drawer	<p>月ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Month • Year
		Product Interval - Year Drawer	<p>年ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間。Year で固定。</p>
		Product Detail - PD レコードタイプのレコード ID	<p>各 PD レコードタイプのレコードの保存レコード数を設定する。0~2,147,483,647 の整数が指定できる。</p> <p>注意</p> <p>範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定した場合、エラーメッセージが表示される。</p>
RetentionEx		—	Store バージョンが 2.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
RetentionEx	Product Interval - PI レ	—	PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。
		Period - Minute Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、分単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
RetentionEx	コードタイプのレコード ID	Period - Minute Drawer (Day)	保存期間（日数）を 0～366 の整数で指定できる。
		Period - Hour Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、時間単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（日数）を 0～366 の整数で指定できる。
		Period - Day Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、日単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（週の数）を 0～522 の整数で指定できる。
		Period - Week Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、週単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（週の数）を 0～522 の整数で指定できる。
		Period - Month Drawer (Month)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、月単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（月の数）を 0～120 の整数で指定できる。
		Period - Year Drawer (Year)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、年単位のパフォーマンスデータの保存期間が表示される。
	Product Log - PL レコードタイプのレコード ID	Period (Day)	PL レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（日数）を 0～366 の整数で指定できる。
Disk Usage	—	—	各データベースで使用されているディスク容量が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティには、プロパティを表示した時点でのディスク使用量が表示される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Product Interval	—	PI レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
	Product Detail	—	PD レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
	Product Alarm	—	PA レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量である。PFM - Agent for Domino では使用しない。
	Product Log	—	PL レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量である。PFM - Agent for Domino では使用しない。
	Total Disk Usage	—	データベース全体で使用されるディスク容量が表示される。
Configuration	—	—	Agent Store サービスのプロパティが表示される。
	Store Version	—	Store データベースのバージョンが表示される。 <ul style="list-style-type: none"> • Store バージョン 1.0 の場合 「1.0」 • Store バージョン 2.0 の場合

フォルダ名	プロパティ名	説明
Configuration	Store Version	[2.0]

(凡例)

－：該当しない

付録 F.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Domino の Agent Collector サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 F-2 AgentCollector サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
－	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
	Data Model Version	データモデルのバージョンが表示される。
General	－	ホスト名やディレクトリなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントディレクトリ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	IPv6 通信機能が無効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	Physical Address(IPv4)	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレス (IPv4) が表示される。
	Physical Address(IPv6)	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するホストの IP アドレス (IPv6) が表示される。
	Port Number	IPv6 通信機能が有効の場合、サービスが動作するポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。	

フォルダ名	プロパティ名	説明	
System	—	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。	
	CPU Type	CPU の種類が表示される。	
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。	
	OS Type	OS の種類が表示される。	
	OS Name	OS 名が表示される。	
	OS Version	OS のバージョンが表示される。	
Network Services	—	Performance Management 通信共通ライブラリーについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。	
	Build Date	Agent Collector サービスの作成日が表示される。	
	INI File	jpcns.ini ファイルの格納ディレクトリ名が表示される。	
Network Services	Service	—	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	Agent Collector サービスが接続する Agent Store サービスのサービス ID が表示される。
		EP Service Name	接続先 PFM - Manager ホストにある Correlator サービスのサービス ID が表示される。
		AH Service Name	同一ホストにある Action Handler サービスのサービス ID が表示される。
JP1 Event Configurations	—	JP1 イベントの発行条件を設定する。	
	各サービス	Agent Collector サービス、Agent Store サービス、Action Handler サービス、および Status Server サービスのリスト項目から「Yes」または「No」を選択し、サービスごとに JP1 システムイベントを発行するかどうかを指定する。	
	JP1 Event Send Host	JP1/Base の接続先イベントサーバ名を指定する。ただし、Action Handler サービスと同一マシンの論理ホストまたは物理ホストで動作し	

フォルダ名		プロパティ名	説明
JP1 Event Configurations		JP1 Event Send Host	ているイベントサーバだけ指定できる。指定できる値は 0~255 バイトの半角英数字, 「.」 および 「-」 である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, Action Handler サービスが動作するホストをイベント発行元ホストとして使用される。「localhost」を指定した場合は, 物理ホストを指定したものと仮定される。
		Monitoring Console Host	JP1/IM - Manager のモニター起動で PFM - Web Console のブラウザを起動する場合, 起動する PFM - Web Console ホストを指定する。指定できる値は 0~255 バイトの半角英数字, 「.」 および 「-」 である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, 接続先の PFM - Manager ホストが仮定される。
		Monitoring Console Port	起動する PFM - Web Console のポート番号 (http リクエストポート番号) を指定する。指定できる値は 1~65535 である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, 20358 が設定される。
JP1 Event Configurations	Alarm	JP1 Event Mode	アラームの状態が変化した場合に, 次のどちらのイベントを発行するか設定する。 <ul style="list-style-type: none"> JP1 User Event : JP1 ユーザーイベントを発行する JP1 System Event : JP1 システムイベントを発行する
Detail Records		—	PD レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は, 太字で表示される。
Detail Records	レコード ID※1	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し, レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。 この値が「Yes」でかつ, Collection Interval が 0 より大きい値であれば, データベースに記録される。指定がない場合は「No」となる。
		Log(ITSLM)	JP1/ITSLM - Manager と連携する場合に, JP1/ITSLM - Manager からレコードを PFM - Agent for Domino の Store データベースに記録するかどうかについての設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は

フォルダ名		プロパティ名	説明
Detail Records	レコード ID※1	Log(ITSLM)	「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Monitoring(ITSLM)	JP1/ITSLM - Manager と連携する場合に、レコードを JP1/ITSLM - Manager に送信するかどうかについて、JP1/ITSLM - Manager での設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0~2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0~32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。 PFM - Web Console の [サービス階層] タブで表示されるサービスのプロパティ画面の、下部フレームの [LOGIF] をクリックすると表示される [ログ収集条件設定] ウィンドウで作成した条件式 (文字列) が表示される。
Interval Records		—	PI レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は、太字で表示される。
Interval Records	レコード ID※1	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。 この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。指定がない場合は「No」となる。
		Log(ITSLM)	JP1/ITSLM - Manager と連携する場合に、JP1/ITSLM - Manager からレコードを PFM - Agent for Domino の Store データベースに記録するかどうかについての設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Interval Records	レコード ID※1	Monitoring(ITSLM)	JP1/ITSLM - Manager と連携する場合に、レコードを JP1/ITSLM - Manager に送信するかどうかについて、JP1/ITSLM - Manager での設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0~2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、指定がない場合、または 0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0~32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。 PFM - Web Console の [サービス階層] タブで表示されるサービスのプロパティ画面の、下部フレームの [LOGIF] をクリックすると表示される [ログ収集条件設定] ウィンドウで作成した条件式 (文字列) が表示される。
Log Records		—	PL レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は、太字で表示される。
Log Records	レコード ID※1	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードタイプの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。 この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。指定がない場合は「No」となる。
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0~2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、指定がない場合、または 0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。
	Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0~32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。	

フォルダ名		プロパティ名	説明
Log Records	レコード ID※1	LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。 PFM - Web Console の [サービス階層] タブで表示されるサービスのプロパティ画面の、下部フレームの [LOGIF] をクリックすると表示される [ログ収集条件設定] ウィンドウで作成した条件式 (文字列) が表示される。
Restart Configurations		—	PFM サービス自動再起動の条件を設定する。PFM - Manager または PFM - Base が 08-50 以降の場合に設定できる。PFM サービス自動再起動機能については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。
		Restart when Abnormal Status	Status Server サービスが Action Handler サービス、Agent Collector サービス、および Agent Store サービスの状態を正常に取得できない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。
		Restart when Single Service Running	Agent Store サービスと Agent Collector サービスのどちらかしか起動していない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。
Restart Configurations	Action Handler	Auto Restart	Action Handler サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は 1~1,440 分で、1 分単位で設定できる。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を 1~10 の整数で指定する。
		Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Action Handler サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを指定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を 1~1,000 の整数で指定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971~2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1~12 の整数で指定できる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Restart Configurations	Action Handler	Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1~31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間 (時) を 0~23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間 (分) を 0~59 の整数で指定できる。
	Agent Collector	Auto Restart	Agent Collector サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は 1~1,440 分で、1 分単位で設定できる。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を 1~10 の整数で指定する。
		Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Agent Collector サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを指定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を 1~1,000 の整数で指定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971~2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1~12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1~31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間 (時) を 0~23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間 (分) を 0~59 の整数で指定できる。
		Agent Store	Auto Restart
	Auto Restart - Interval (Minute)		自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は 1~1,440 分で、1 分単位で設定できる。
	Auto Restart - Repeat Limit		自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を 1~10 の整数で指定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Restart Configurations	Agent Store	Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Agent Store サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を1～1,000の整数で設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を1971～2035の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を1～12の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を1～31の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を0～23の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を0～59の整数で指定できる。
ITSLM Connection Configuration		—	連携するJP1/ITSLM - Managerに関する情報が表示される。
ITSLM Connection Configuration	ITSLM Connection	—	接続先JP1/ITSLM - Managerに関する情報が表示される。
		ITSLM Host	接続しているJP1/ITSLM - Managerのホスト名が表示される。JP1/ITSLM - Managerと接続していない場合、本プロパティは表示されない。
		ITSLM Port	接続しているJP1/ITSLM - Managerのポート番号が表示される。JP1/ITSLM - Managerと接続していない場合、本プロパティは表示されない。
	MANAGE ITSLM CONNECTION	—	JP1/ITSLM - Managerとの接続を停止するかどうかを設定する。
		DISCONNECT ITSLM CONNECTION	接続を停止するJP1/ITSLM - Managerのホスト名をリスト項目から指定する。リスト項目から「(空文字)」を指定した場合は何も示さない。JP1/ITSLM - Managerと接続していない場合、リスト項目には「(空文字)」だけが表示される。
Agent Configuration		—	エージェントの設定用プロパティ。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Agent Configuration		Domino Program Directory	監視対象のドミノサーバのプログラムディレクトリを絶対パスで指定する。(UNIX 版だけ有効, Windows 版は設定不要)
		notes.ini	監視対象のドミノサーバインスタンスが使用する notes.ini ファイルの絶対パスを指定する。省略不可。この指定はエージェントの再起動後に有効になる。
		User's mail template	追加用の個人ユーザーメールデータベースのテンプレート名を, 128 バイト以内で指定する。PFM - Agent for Domino は, ここで指定されたテンプレート名を持つデータベースを, 個人ユーザーメールデータベースとして扱う。
		Days for period-excess mail	個人ユーザーメールデータベースで, 期間超過メールであると判断する日数を 0~65,535 の整数で指定する。
		Minutes for remaining mail	あるメールが滞留メールであると判断する時間(分単位)を, 0~2,147,483,647 の整数で指定する。
		Minutes for dead mail	あるメールがデッドメールであると判断する時間(分単位)を, 0~2,147,483,647 の整数で指定する。
Health Check Options	HTTP Port Check	—	HTTP ポートアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して, HTTP ポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。「Yes」を指定すると HTTP ポートアクセスチェックを実行し, 「No」を指定すると HTTP ポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	HTTP ポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。*2
		Port	HTTP ポートアクセスチェックをする HTTP ポート番号を指定する。
		Timeout	HTTP ポートアクセスチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。*3*4
Health Check Options	SMTP Port Check	—	SMTP ポートアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して, SMTP ポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Health Check Options	SMTP Port Check	Check	「Yes」を指定するとSMTPポートアクセスチェックを実行し、「No」を指定するとSMTPポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	SMTPポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。※2
		Port	SMTPポートアクセスチェックをするSMTPポート番号を指定する。
		Timeout	SMTPポートアクセスチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。※3※4
Health Check Options	POP3 Port Check	—	POP3ポートアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHCレコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、POP3ポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定するとPOP3ポートアクセスチェックを実行し、「No」を指定するとPOP3ポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	POP3ポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。※2
		Port	POP3ポートアクセスチェックをするPOP3ポート番号を指定する。
		Timeout	POP3ポートアクセスチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。※3※4
Health Check Options	IMAP Port Check	—	IMAPポートアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHCレコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、IMAPポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定するとIMAPポートアクセスチェックを実行し、「No」を指定するとIMAPポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	IMAPポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。※2
		Port	IMAPポートアクセスチェックをするSMTPポート番号を指定する。
		Timeout	IMAPポートチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。※3※4
Health Check Options	LDAP Port Check	—	LDAPポートアクセスチェックの設定用プロパティ。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Health Check Options	LDAP Port Check	Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、LDAP ポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定すると LDAP ポートアクセスチェックを実行し、「No」を指定すると LDAP ポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	LDAP ポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。※2
		Port	LDAP ポートアクセスチェックをする SMTP ポート番号を指定する。
		Timeout	LDAP ポートアクセスチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。※3※4
Health Check Options	NNTP Port Check		NNTP ポートアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、NNTP ポートアクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定すると NNTP ポートアクセスチェックを実行し、「No」を指定すると NNTP ポートアクセスチェックを実行しない。
		Host	NNTP ポートアクセスチェックをするホスト名を指定する。※2
		Port	NNTP ポートアクセスチェックをする SMTP ポート番号を指定する。
	Timeout	NNTP ポートアクセスチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。※3※4	
Health Check Options	Domino Port Check	—	ドミノポート (NRPC) アクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、ドミノポート (NRPC) アクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定するとドミノポート (NRPC) アクセスチェックを実行し、「No」を指定するとドミノポート (NRPC) アクセスチェックを実行しない。
		DominoName※5	ドミノポート (NRPC) アクセスチェックをするドミノサーバ名を指定する。省略名でも指定できる。
Health Check Options	Notes Mail Check	—	ノーツメール送信チェックの設定用プロパティ。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Health Check Options	Notes Mail Check	Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、ノーツメール送信チェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定するとノーツメール送信チェックを実行し、「No」を指定するとノーツメール送信チェックを実行しない。
		DominoName ^{※5}	ノーツメール送信チェックをするドミノサーバ名を指定する。省略名でも指定できる。
		Recipient	送信するノーツメールの受信者ユーザー名を指定する。
		Timeout	ノーツメール送信チェックのタイムアウト時間を秒単位で指定する。 ※3※4
Health Check Options	DataBase Check	—	データベースアクセスチェックの設定用プロパティ。
		Check	PI_PIHC レコード収集時に「Yes」または「No」を選択して、データベースアクセスチェックをするかどうかを指定する。 「Yes」を指定するとデータベースアクセスチェックを実行し、「No」を指定するとデータベースアクセスチェックを実行しない。
		DominoName ^{※5}	データベースアクセスチェックをするドミノサーバ名を指定する。省略名でも指定できる。
		DBFileName	データベースアクセスチェックをするデータベースのファイル名を指定する。
Notes Log Check Options		—	Notes ログ監視機能の設定用プロパティ。
		ViewName	検索対象にする Notes ログの View 名を指定する。 複数指定する場合は、半角コンマ区切りで指定する。 <ul style="list-style-type: none"> 最大指定数：3 指定可能な Notes ログの View 名：Miscellaneous Events, Mail Routing Events, Replication Events
		Include	Notes ログから収集したいメッセージに含まれる文字列を記述したファイルの絶対パスを 128 バイト以内で指定する。
		SearchDays	Notes Log 情報をさかのぼって収集する日数を、0～366 の整数で指定する。 詳細については、「 5.2.1 Notes Log Check Options プロパティの設定 」を参照する。
User Defined Stat Options		—	任意の統計情報収集機能の設定用プロパティ。

フォルダ名	プロパティ名	説明
User Defined Stat Options	StatDefine.ini	統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) の絶対パスを 255 バイト以内で指定する。

(凡例)

－：該当しない

注※1

フォルダ名には、データベース ID を除いたレコード ID が表示されます。各レコードのレコード ID については、「[8. レコード](#)」を参照してください。

注※2

HA クラスタシステムなどで、論理ホスト環境を使用する場合には、論理ホスト名を指定してください。

注※3

Timeout に設定した時間内にチェック応答がない場合は、PI_PiHC レコードの ResponseTime フィールドに (-1) が返されます。

注※4

PI_PiHC レコードの収集間隔 (デフォルト 60 秒) 以下の値を設定してください。

注※5

「DominoServer1/DominoDomain1」という定義の場合、Domino サーバとエージェントが起動しているサーバマシン上から、ホスト名「DominoServer1」に対して Ping が通る環境を構築してください。

付録 G ファイルおよびディレクトリー一覧

ここでは、PFM - Agent for Domino のファイルおよびディレクトリー一覧を OS ごとに記載します。

PFM - Agent for Domino のインストール先ディレクトリーを OS ごとに示します。

Windows の場合

Performance Management のインストール先フォルダは、任意です。デフォルトのインストール先フォルダは次のとおりです。

- Windows Server 2003 (x64), 64 ビット版の Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合
システムドライブ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pc
- 上記以外の場合
システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc

UNIX の場合

Performance Management のインストール先ディレクトリーは、[/opt/jp1pc/] です。

付録 G.1 PFM - Agent for Domino のファイルおよびディレクトリー一覧

(1) Windows の場合

Windows 版 PFM - Agent for Domino のファイルおよびフォルダ一覧を次の表に示します。

表 G-1 PFM Agent for Domino のファイルおよびフォルダ一覧 (Windows 版)

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ¥agtl¥	—	PFM - Agent for Domino のルートフォルダ
	insrules.dat	インスタンス起動環境定義ファイル
	PATCHLOG.TXT	パッチ情報ファイル
	patch_history	パッチ履歴ファイル
	readme.txt	README.TXT (日本語)
	VERSION.TXT	バージョン情報
インストール先フォルダ¥agtl¥agent¥	—	Agent Collector サービスのルートフォルダ
	agtlst.ini	インスタンスリストファイル
	include.txt	Notes Log 監視用 Include ファイルのモデルファイル

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ¥agtl¥agent¥	inssetup. instmpl	インスタンス環境作成用後処理テンプレートファイル
	jpcagt. ini. instmpl	Agent Collector サービス起動情報ファイルのテンプレート
	jpcagtl. exe	Agent Collector サービス実行プログラム
	notesconsole. exe	ドミノサーバコンソール入力コマンド
	notesrestart. exe	ドミノサーバ再起動コマンド
	npfmc1. exe	Agent Collector 用サーバタスクモジュール
	npfmc164. exe	Agent Collector 用サーバタスクモジュール (IBM Lotus Domino 64bit 版用)
	notesconsole64. exe	ドミノサーバコンソール入力コマンド (IBM Lotus Domino 64bit 版用)
インストール先フォルダ¥agtl¥agent¥インスタンス名¥	—	Agent Collector サービスインスタンスフォルダ
	include. txt	Notes Log 監視用 Include ファイル
	jpcagt. ini	Agent Collector サービス起動情報ファイル
	jpcagt. ini. model	Agent Collector サービス起動情報ファイルのモデルファイル
インストール先フォルダ¥agtl¥agent¥インスタンス名¥log¥	—	Agent Collector サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtl¥lib¥	—	メッセージカタログ格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥	—	Agent Store サービスのルートフォルダ
	jpcsto. ini. instmpl	Agent Store サービス起動情報ファイルのテンプレートファイル
	stolist. ini	インスタンスリストファイル
	*. DAT	データモデル定義ファイル
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥	—	Agent Store インスタンスフォルダ
	jpcsto. ini	Agent Store サービス起動情報ファイル
	jpcsto. ini. model	Agent Store サービス起動情報ファイルのモデル
	*. DAT	データモデル定義ファイル
	*. DB	パフォーマンスデータベースファイル
	*. IDX	パフォーマンスデータベースファイルのインデックスファイル

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥	*.LCK	パフォーマンスデータベースファイルのロックファイル
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥backup¥	—	標準のデータベースバックアップ先フォルダ
	datadir.lck	標準のバックアップ先フォルダのロックファイル
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥dump¥	—	標準のデータベースエクスポート先フォルダ
	datadir.lck	標準のエクスポート先フォルダのロックファイル
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥import¥	—	標準のインポート先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
	datadir.lck	標準のインポート先フォルダのロックファイル (Store バージョン 2.0 の場合)
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥log¥	—	Agent Store サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥partial¥	—	標準の部分バックアップ先フォルダ (Store バージョン 2.0 の場合)
	datadir.lck	標準の部分バックアップ先フォルダのロックファイル (Store バージョン 2.0 の場合)
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPD¥	—	Store バージョン 2.0 の PD レコードタイプのレコード格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPI¥	—	Store バージョン 2.0 の PI レコードタイプのレコード格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtl¥store¥インスタンス名¥STPL¥	—	Store バージョン 2.0 の PL レコードタイプのレコード格納フォルダ
インストール先フォルダ¥auditlog¥	—	動作ログファイルの標準の出力フォルダ
	jpcauditn.log*	動作ログファイル
インストール先フォルダ¥setup¥	—	セットアップファイル格納フォルダ
	jpcagtlu.Z	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (UNIX 用)
	jpcagtlw.EXE	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (Windows 用)
インストール先フォルダ¥setup¥alarm¥	—	アラーム定義ファイル格納フォルダ
	LALARM*	アラームテーブル修正用ファイル
インストール先フォルダ¥setup¥extract¥	—	セットアップファイル展開フォルダ
インストール先フォルダ¥setup¥update¥	—	ini ファイル Vup 制御ファイル格納フォルダ

(凡例)

－：該当しない

注※

n は数値です。ログファイル数は、jpccomm.ini ファイルで変更できます。

(2) UNIX の場合

UNIX 版 PFM - Agent for Domino のファイルおよびディレクトリ一覧を次の表に示します。

表 G-2 PFM Agent for Domino のファイルおよびディレクトリ一覧 (UNIX 版)

ディレクトリ名	ファイル名	説明
/opt/jp1pc/agtl/	－	PFM - Agent for Domino のルートディレクトリ
	insrules.dat	インスタンス起動環境定義ファイル
	patch_history	パッチ履歴ファイル
	PATCHLOG.TXT	パッチ履歴ファイル
	readme.txt	README.TXT (日本語)
/opt/jp1pc/agtl/agent/	－	Agent Collector サービスのルートディレクトリ
	agtlist.ini	インスタンスリストファイル
	include.txt	Notes Log 監視用 Include ファイルのモデルファイル
	inssetup.instmpl	インスタンス環境作成後処理テンプレートファイル
	jpcagt.ini.instmpl	Agent Collector サービス起動情報ファイルのテンプレート
	jpcagtl	Agent Collector サービス実行プログラム
	notesconsole	ドミノサーバコンソール入力コマンド
	notesrestart	ドミノサーバ再起動コマンド
	pfmcl	Agent Collector 用サーバタスクモジュール
	pfmcl64	Agent Collector 用サーバタスクモジュール (IBM Lotus Domino 64bit 版用)
	notesconsole64	ドミノサーバコンソール入力コマンド (IBM Lotus Domino 64bit 版用)
	srvchk	IBM Lotus Domino 起動確認用シェルスクリプト

ディレクトリ名	ファイル名	説明
/opt/jp1pc/agtl/agent/	bitchk	IBM Lotus Domino bit 判定用シェルスクリプト
/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/	—	Agent Collector サービスインスタンスディレクトリ
	include.txt	Notes Log 監視用 Include ファイル
	jpgagt.ini	Agent Collector サービス起動情報ファイル
	jpgagt.ini.model	Agent Collector サービス起動情報ファイルのモデルファイル
/opt/jp1pc/agtl/agent/インスタンス名/log/	—	Agent Collector サービス内部ログファイル格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/agtl/nls/	—	メッセージカタログ格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/agtl/store/	—	Agent Store サービスのルートディレクトリ
	jpgasto.ini.instmpl	Agent Store サービス起動情報ファイルのテンプレートファイル
	stolist.ini	インスタンスリストファイル
	*.DAT	データモデル定義ファイル
/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/	—	Agent Store インスタンスディレクトリ
	jpgasto.ini	Agent Store サービス起動情報ファイル
	jpgasto.ini.model	Agent Store サービス起動情報ファイルのモデル
	*.DAT	データモデル定義ファイル
	*.DB	パフォーマンスデータベースファイル
	*.IDX	パフォーマンスデータベースファイルのインデックスファイル
	*.LCK	パフォーマンスデータベースファイルのロックファイル
/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/backup/	—	標準のデータベースバックアップ先ディレクトリ
	datadir.lck	標準のバックアップ先ディレクトリのロックファイル
/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/dump/	—	標準のデータベースエクスポート先ディレクトリ
	datadir.lck	標準のエクスポート先ディレクトリのロックファイル
/opt/jp1pc/agtl/store/インスタンス名/import/	—	標準のデータベースインポート先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)

ディレクトリ名	ファイル名	説明
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/import/	datadir.lck	標準のインポート先ディレクトリのロックファイル (Store バージョン 2.0 の場合)
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/log/	—	Agent Store サービス内部ログファイル格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/partial/	—	標準のデータベース部分バックアップ先ディレクトリ (Store バージョン 2.0 の場合)
	datadir.lck	標準の部分バックアップ先ディレクトリのロックファイル (Store バージョン 2.0 の場合)
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/STPD/	—	Store バージョン 2.0 の PD レコードタイプのレコード格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/STPI/	—	Store バージョン 2.0 の PI レコードタイプのレコード格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/agt1/store/インスタンス名/STPL/	—	Store バージョン 2.0 の PL レコードタイプのレコード格納ディレクトリ
/opt/jp1pc/auditlog/	—	動作ログファイルの標準の出力ディレクトリ
	jpcauditn.log*	動作ログファイル
/opt/jp1pc/setup/	—	セットアップファイル格納ディレクトリ
	jpgagtl.z	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (UNIX 用)
	jpgagtlw.EXE	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (Windows 用)
/opt/jp1pc/setup/alarm/	—	アラーム定義ファイル格納ディレクトリ
	LALARM*	アラームテーブル修正用ファイル
/opt/jp1pc/setup/extract/	—	セットアップファイル展開ディレクトリ
/opt/jp1pc/setup/update/	—	ini ファイル Vup 制御ファイル格納ディレクトリ

(凡例)

— : 該当しない

注※

n は数値です。ログファイル数は、jpccomm.ini ファイルで変更できます。

付録 H 移行手順と移行時の注意事項

PFM - Agent for Domino をバージョンアップするには、PFM - Agent for Domino を上書きインストールします。インストールの操作の詳細については、「2. インストールとセットアップ (Windows の場合)」「3. インストールとセットアップ (UNIX の場合)」「4. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

また、旧バージョンの Performance Management からの移行 (07-50 以前から 08-00 へのバージョンアップ) についての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録を参照してください。

注意

- バージョンアップするには、古いバージョンの PFM - Agent for Domino をアンインストールしないでください。アンインストールすると、古いバージョンで作成したパフォーマンスデータなども一緒に削除されてしまうため、新しいバージョンで使用できなくなります。
- PFM - Agent for Domino を上書きインストールすると、次の項目が自動的に更新されます。
 - Agent Store サービスの Store データベースファイル
 - ini ファイル
- バージョン 08-00 以降の Performance Management プログラムでは、Store 実行プログラム (Windows の場合 `jpcsto.exe`, UNIX の場合 `jpcsto`) の配置先が変更されています。PFM - Manager および PFM - Agent を 08-00 以降にバージョンアップする際に、旧配置先の Store 実行プログラムは削除されます。
- 以下の条件を満たす場合、インストールに失敗する場合があります。
 - 前バージョン(06-70~, 07-00~)からの上書きインストールである。
 - 前バージョン(06-70~, 07-00~)ですでにインスタンスを生成している。
 - Lotus Domino を「/opt/lotus(デフォルト)」以外にインストールしている。この場合、以下の手順でインストールしてください。

1. 一時的に以下のファイルを作成する。ファイルとして存在していれば中身はなんでもよい。

OS の種類	ファイルへのパス
Solaris	/opt/lotus/notes/latest/sunspa/server
AIX	/opt/lotus/notes/latest/ibmpow/server

2. PFM - Agent for Domino をインストールする。

3. `jpcconf inst setup (jpcinssetup)` コマンドを使用して、各インスタンスの更新処理を行い、「Domino Program Directory」を、Lotus Domino をインストールしているパスに変更する。

4. 1 で作成したファイルを削除する。

付録I バージョン互換

PFM - Agent には、製品のバージョンのほかに、データモデルのバージョンと監視テンプレートのアラームテーブルのバージョンがあります。

PFM - Agent をバージョンアップしたときに、データモデルもバージョンアップされます。データモデルは、上位互換を保っているため、古いバージョンで定義したレポートの定義やアラームの定義は、新しいバージョンのデータモデルでも使用できます。

PFM - Agent for Domino のバージョンの対応を次の表に示します。

表 I-1 PFM Agent for Domino のバージョン対応表

PFM - Agent for Domino のバージョン	データモデルのバージョン	監視テンプレートのアラームテーブルのバージョン
06-70	3.0	6.70
07-00	4.0	7.00
07-50	5.0	7.00
08-00	5.0	7.00
08-50	5.0	7.00
09-00	6.0	09.00
10-00	6.0	09.00

バージョン互換については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されているバージョン互換を参照してください。

付録 J 動作ログの出力

Performance Management の動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

例えば、PFM サービスの起動・停止時や、PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログに出力されます。

動作ログは、PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降の場合に出力できます。

動作ログは、CSV 形式で出力されるテキストファイルです。定期的に保存して表計算ソフトで加工することで、分析資料として利用できます。

動作ログは、jpccomm.ini の設定によって出力されるようになります。ここでは、PFM - Agent および PFM - Base が出力する動作ログの出力内容と、動作ログを出力するための設定方法について説明します。

付録 J.1 動作ログに出力される事象の種別

動作ログに出力される事象の種別および PFM - Agent および PFM - Base が動作ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは、動作ログに出力される事象を分類するための、動作ログ内での識別子です。

表 J-1 動作ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	PFM - Agent および PFM - Base が出力する契機
StartStop	ソフトウェアの起動と終了を示す事象。	<ul style="list-style-type: none">PFM サービスの起動・停止スタンドアロンモードの開始・終了
ExternalService	JP1 製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 異常な通信の発生を示す事象。	PFM - Manager との接続状態の変更
ManagementAction	プログラムの重要なアクションの実行を示す事象。 ほかの監査カテゴリーを契機にアクションが実行されたことを示す事象。	自動アクションの実行

付録 J.2 動作ログの保存形式

ここでは、動作ログのファイル保存形式について説明します。

動作ログは規定のファイル（カレント出力ファイル）に出力され、満杯になった動作ログは別のファイル（シフトファイル）として保存されます。動作ログのファイル切り替えの流れは次のとおりです。

1. 動作ログは、カレント出力ファイル「jpcaudit.log」に順次出力されます。

2. カレント出力ファイルが満杯になると、その動作ログはシフトファイルとして保存されます。

シフトファイル名は、カレント出力ファイル名の末尾に数値を付加した名称です。シフトファイル名は、カレント出力ファイルが満杯になるたびにそれぞれ「ファイル名末尾の数値+1」へ変更されます。つまり、ファイル末尾の数値が大きいほど、古いログファイルとなります。

例

カレント出力ファイル「jpcaudit.log」が満杯になると、その内容はシフトファイル「jpcaudit1.log」へ保管されます。

カレント出力ファイルが再び満杯になると、そのログは「jpcaudit1.log」へ移され、既存のシフトファイル「jpcaudit1.log」は「jpcaudit2.log」へリネームされます。

なお、ログファイル数が保存面数（jpccomm.ini ファイルで指定）を超えると、いちばん古いログファイルが削除されます。

3. カレント出力ファイルが初期化され、新たな動作ログが書き込まれます。

動作ログの出力可否、出力先および保存面数は、jpccomm.ini ファイルで設定します。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 J.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

付録 J.3 動作ログの出力形式

Performance Management の動作ログには、監査事象に関する情報が出力されます。動作ログは、ホスト（物理ホスト・論理ホスト）ごとに 1 ファイル出力されます。動作ログの出力先ホストは次のようになります。

- サービスを実行した場合：実行元サービスが動作するホストに出力
- コマンドを実行した場合：コマンドを実行したホストに出力

動作ログの出力形式、出力先、出力項目について次に説明します。

(1) 出力形式

```
CALFHM x.x, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, ..., 出力項目n=値n
```

(2) 出力先

物理ホストの場合

- Windows の場合
インストール先フォルダ¥auditlog¥
- UNIX の場合
/opt/jp1pc/auditlog/

論理ホストの場合

- Windows の場合
環境フォルダ¥jp1pc¥auditlog¥
- UNIX の場合
環境ディレクトリ/jp1pc/auditlog/

動作ログの出力先は、jpccomm.ini ファイルで変更できます。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 J.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

(3) 出力項目

出力項目には 2 つの分類があります。

- 共通出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が共通して出力する項目です。
- 固有出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が任意に出力する項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含みます。

表 J-2 動作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	—	CALFHM	動作ログフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	—	x.x	動作ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	通し番号	動作ログレコードの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KAVExxxxx-x	製品のメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD※	動作ログの出力日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	JP1PFM	事象が発生したプログラムのプログラム名
7	発生コンポーネント名	compid	サービス ID	事象が発生したコンポーネント名

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
8	発生プロセス ID	pid	プロセス ID	事象が発生したプロセスのプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス 	事象が発生した場所
10	事象の種別	ctgry	<ul style="list-style-type: none"> • StartStop • Authentication • ConfigurationAccess • ExternalService • AnomalyEvent • ManagementAction 	動作ログに出力される事象を分類するためのカテゴリ名
11	事象の結果	result	<ul style="list-style-type: none"> • Success (成功) • Failure (失敗) • Occurrence (発生) 	事象の結果
12	サブジェクト識別情報	subj:pid	プロセス ID	次のどれかの情報 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー操作によって動作するプロセス ID • 事象を発生させたプロセス ID
		subj:uid	アカウント識別子 (PFM ユーザー/JP1 ユーザー)	<ul style="list-style-type: none"> • 事象を発生させたユーザー名
		subj:euid	実効ユーザー ID (OS ユーザー)	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーに 1:1 で対応づけられた識別情報

(凡例)

– : なし。

注※

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm : UTC から hh:mm だけ進んでいることを示します。

-hh:mm : UTC から hh:mm だけ遅れていることを示します。

Z : UTC と同じであることを示します。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含まれます。

表 J-3 動作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	オブジェクト情報	obj	<ul style="list-style-type: none"> PFM - Agent のサービス ID 追加, 削除, 更新されたユーザー名 (PFM ユーザー) 	操作の対象
		obj:table	アラームテーブル名	
		obj:alarm	アラーム名	
2	動作情報	op	<ul style="list-style-type: none"> Start (起動) Stop (停止) Add (追加) Update (更新) Delete (削除) Change Password (パスワード変更) Activate (有効化) Inactivate (無効化) Bind (バインド) Unbind (アンバインド) 	事象を発生させた動作情報
3	権限情報	auth	<ul style="list-style-type: none"> 管理者ユーザー Management 一般ユーザー Ordinary Windows Administrator UNIX SuperUser 	操作したユーザーの権限情報
		auth:mode	<ul style="list-style-type: none"> PFM 認証モード pfm JP1 認証モード jp1 OS ユーザー os 	操作したユーザーの認証モード
4	出力元の場所	outp:host	PFM - Manager のホスト名	動作ログの出力元のホスト
5	指示元の場所	subjp:host	<ul style="list-style-type: none"> ログイン元ホスト名 実行ホスト名 (jpctool alarm (jpcalarm)コマンド実行時だけ) 	操作の指示元のホスト

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
6	自由記述	msg	メッセージ	アラーム発生時、および自動アクションの実行時に出力されるメッセージ

固有出力項目は、出力契機ごとに出力項目の有無や内容が異なります。出力契機ごとに、メッセージ ID と固有出力項目の内容を次に説明します。

■ PFM サービスの起動・停止 (StartStop)

- 出力ホスト：該当するサービスが動作しているホスト
- 出力コンポーネント：起動・停止を実行する各サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	起動：KAVE03000-I 停止：KAVE03001-I
動作情報	op	起動：Start 停止：Stop

■ スタンドアロンモードの開始・終了 (StartStop)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス、Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	スタンドアロンモードを開始：KAVE03002-I スタンドアロンモードを終了：KAVE03003-I

注 1 固有出力項目は出力されません。

注 2 PFM - Agent の各サービスは、起動時に PFM - Manager ホストに接続し、ノード情報の登録、最新のアラーム定義情報の取得などを行います。PFM - Manager ホストに接続できない場合、稼働情報の収集など一部の機能だけが有効な状態（スタンドアロンモード）で起動します。その際、スタンドアロンモードで起動することを示すため、KAVE03002-I が出力されます。その後、一定期間ごとに PFM - Manager への再接続を試み、ノード情報の登録、定義情報の取得などに成功すると、スタンドアロンモードから回復し、KAVE03003-I が出力されます。この動作ログによって、KAVE03002-I と KAVE03003-I が出力されている間は、PFM - Agent が不完全な状態で起動していることを知ることができます。

■ PFM - Manager との接続状態の変更 (ExternalService)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス、Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	PFM - Manager へのイベントの送信に失敗（キューイングを開始）： KAVE03300-I PFM - Manager へのイベントの再送が完了：KAVE03301-I

注1 固有出力項目は出力されません。

注2 Agent Store サービスは、PFM - Manager へのイベント送信に失敗すると、イベントのキューイングを開始し、以降はイベントごとに最大3件がキューにためられます。KAVE03300-I は、イベント送信に失敗し、キューイングを開始した時点で出力されます。PFM - Manager との接続が回復したあと、キューイングされたイベントの送信が完了した時点で、KAVE03301-I が出力されます。この動作ログによって、KAVE03300-I と KAVE03301-I が出力されている間は、PFM - Manager へのイベント送信がリアルタイムでできていなかった期間と知ることができます。

注3 Agent Collector サービスは、通常、Agent Store サービスを経由して PFM - Manager にイベントを送信します。何らかの理由で Agent Store サービスが停止している場合だけ、直接 PFM - Manager にイベントを送信しますが、失敗した場合に KAVE03300-I が出力されます。この場合、キューイングを開始しないため、KAVE03301-I は出力されません。この動作ログによって、PFM - Manager に送信されなかったイベントがあることを知ることができます。

■ 自動アクションの実行 (ManagementAction)

- 出力ホスト：アクションを実行したホスト
- 出力コンポーネント：Action Handler サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	コマンド実行プロセス生成に成功：KAVE03500-I コマンド実行プロセス生成に失敗：KAVE03501-W E-mail 送信に成功：KAVE03502-I E-mail 送信に失敗：KAVE03503-W
自由記述	msg	コマンド実行：cmd=実行したコマンドライン E-mail 送信：mailto=送信先 E メールアドレス

注 コマンド実行プロセスの生成に成功した時点で KAVE03500-I が出力されます。その後、コマンドが実行できたかどうかのログ、および実行結果のログは、動作ログには出力されません。

(4) 出力例

動作ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KAVE03000-I, date=2007-01-18T22:46:49.682+09:00,  
progid=JP1PFM, compid=LA1host01, pid=2076,  
ocp:host=host01, ctgry=StartStop, result=0ccurrence,  
subj:pid=2076,op=Start
```

付録 J.4 動作ログを出力するための設定

動作ログを出力するための設定は、jpccomm.ini ファイルで定義します。設定しない場合、動作ログは出力されません。動作ログを出力するための設定内容とその手順について次に示します。

(1) 設定手順

動作ログを出力するための設定手順を次に示します。

1. ホスト上の全 PFM サービスを停止させる。

2. テキストエディターなどで、jpccomm.ini ファイルを編集する。

3. jpccomm.ini ファイルを保存して閉じる。

(2) jpccomm.ini ファイルの詳細

jpccomm.ini ファイルの詳細について説明します。

(a) 格納先ディレクトリ

Windows の場合

インストール先フォルダ

UNIX の場合

/opt/jp1pc/

(b) 形式

jpccomm.ini ファイルには、次の内容を定義します。

- 動作ログの出力の有無
- 動作ログの出力先
- 動作ログの保存面数
- 動作ログのファイルサイズ

指定形式は次のとおりです。

"項目名"=値

設定項目を次の表に示します。

表 J-4 jpccomm.ini ファイルで設定する項目および初期値

項番	項目	説明
1	[Action Log Section]	セクション名です。変更はできません。
2	Action Log Mode	動作ログを出力するかどうかを指定します。この項目の設定は省略できません。 <ul style="list-style-type: none">• 初期値 0 (出力しない)• 指定できる値 0 (出力しない), 1 (出力する) これ以外の値を指定すると、エラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。
3	Action Log Dir [※]	動作ログの出力先を指定します。

項番	項目	説明
3	Action Log Dir [※]	<p>論理ホスト環境の場合は共有ディスク上のディレクトリを指定します。共有ディスク上にないディレクトリを指定した場合、論理ホストを構成する各物理ホストへ動作ログが出力されます。</p> <p>なお、制限長を超えるパスを設定した場合や、ディレクトリへのアクセスが失敗した場合は、共通ログにエラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 物理ホストの場合 Windows：インストール先フォルダ¥auditlog¥ UNIX：/opt/jp1pc/auditlog/ 論理ホストの場合 Windows：環境フォルダ¥jp1pc¥auditlog¥ UNIX：環境ディレクトリ/jp1pc/auditlog/ 指定できる値 1～185 バイトの文字列
4	Action Log Num	<p>ログファイルの総数の上限（保存面数）を指定します。カレント出力ファイルとシフトファイルの合計を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 5 指定できる値 2～10 の整数 <p>数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 5 が設定されます。</p> <p>範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージを出力し、指定値に最も近い 2～10 の整数値が設定されます。</p>
5	Action Log Size	<p>ログファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 2048 指定できる値 512～2096128 の整数 <p>数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 2048 が設定されます。</p> <p>範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージが出力され、指定値に最も近い 512～2096128 の整数値が設定されます。</p>

注※

物理ホストで設定したあと、jpcconf ha (jpchasetup)コマンドで論理ホストを設定すると、物理ホストの設定が論理ホストにも反映されます。論理ホストと物理ホストを同時に使用する場合には、動作ログの出力先ディレクトリが同一にならないようにしてください。

付録 K JP1/ITSLM との連携

PFM - Agent for Domino は、JP1/ITSLM と連携することで、稼働状況の監視を強化できます。

PFM - Agent for Domino は、JP1/ITSLM 上での監視を実現するために、JP1/ITSLM 用のデフォルト監視項目を PFM - Manager に提供します。

PFM - Agent for Domino から PFM - Manager に提供するデフォルト監視項目は次のとおりです。

複数インスタンスレコードの場合、キーに指定した値と一致したレコードを収集します。収集対象とするキーについては、各レコードの収集結果を確認してください。

表 K-1 PFM - Agent for Domino が PFM - Manager に提供するデフォルト監視項目

JP1/ITSLM での表示名 (日本語名称 (英語名称))	説明	レコード (レコード ID)	キー (PFM-Manager 名)	フィールド名
Domino サーバ可用性 (Availability Index)	ドミノサーバの利用可能状況 (可用性) を表す指標 (%) です。値の範囲は 0 から 100 です。0 は使用できるリソースがまったくないことを示します。値が 100 のときは 100% 利用できることを示します。	Server Overview (PI)	—	AVAILABILITYINDEX
データディレクトリ使用率 (DataDirectory Usage)	ドミノデータディレクトリのあるドライブの使用率 (%) です。	System Overview (PI)	—	DISK_DATADIRDRIVE_USAGE

(凡例)

— : なし

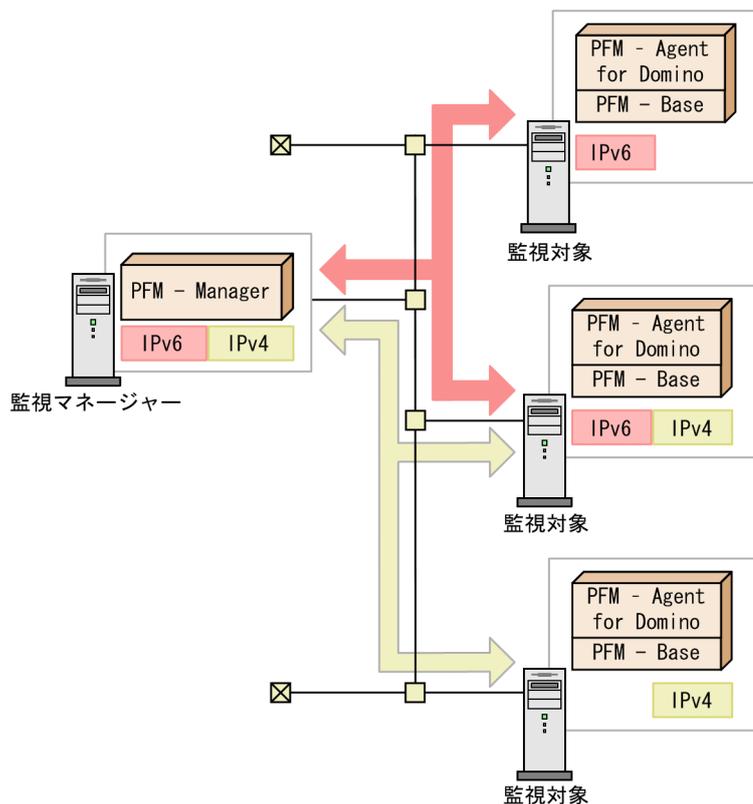
デフォルト監視項目を PFM - Manager に提供するためには、セットアップファイルをコピーして、セットアップコマンドを実行する必要があります。詳細については、「[2.1.4 PFM - Agent for Domino のセットアップ手順](#)」を参照してください。

付録 L IPv4 環境と IPv6 環境での通信について

Performance Management では、ネットワーク構成が IPv4 環境だけでなく IPv6 環境にも対応しています。そのため、IPv4 環境と IPv6 環境が混在するネットワーク構成でも、Performance Management を運用できます。

ただし、PFM - Agent for Domino および PFM - Manager が導入されているホストの OS が Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Linux の場合に限りです。

図 L-1 IPv4 環境と IPv6 環境での通信の適用範囲



(凡例)

 : Performance Managementが提供するプログラム

 : IPv4環境

 : IPv6環境

 : IPv4通信

 : IPv6通信

IPv6 環境で通信を有効にするには、`jpcconf ipv6 enable` コマンドを実行する必要があります。`jpcconf ipv6 enable` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。また、`jpcconf ipv6 enable` コマンドを実行する条件やタイミングについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の IPv6 環境が含まれる場合のネットワーク構成例について説明している章を参照してください。

付録 M 各バージョンの変更内容

付録 M.1 10-00 の変更内容

- Solaris および AIX 環境に本製品をインストールすると作成される、ファイルおよびディレクトリの権限を強化しました。
- デッドメール数および滞留メール数の収集に、メールボックスの一覧情報（サマリ情報）を使用するか、メール文書の情報を使用するかを指定できるようにしました。
- IPv6 の環境でもパフォーマンスデータを収集できるようにしました。
- 次のデフォルト監視項目を PFM - Manager に提供することで、JP1/IT Service Level Management と連携できるようにしました。
 - AVAILABILITYINDEX
 - DISK_DATADIRDRIVE_USAGE
- IBM Lotus Domino 64bit 版の監視に対応しました。
- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン 9 (IBM Domino 9 Social Edition) をサポートしました。
- PFM - Agent for Domino の適用 OS から次の OS を削除しました。
 - Solaris 9
- PFM - Agent for Domino の適用 OS に次の OS を追加しました。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012
 - AIX 7.1

付録 M.2 09-00 の変更内容

- 「ソリューションセット」の名称を「監視テンプレート」に変更しました。
- 08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されたことに伴い、コマンドを次のように表記しました。
09-00 以降のコマンド (08-51 以前のコマンド)
- PFM - Agent for Domino の適用 OS から次の OS を削除しました。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000
 - AIX 5L V5.2
- PFM - Agent for Domino の適用 OS に次の OS を追加しました。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008
 - AIX V6.1

- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン 8.5 をサポートしました。
- 監視対象となる Lotus Domino からバージョン 5 およびバージョン 6 を対象外としました。
- アラームの監視テンプレートのバージョンを 7.00 から 09.00 に変更しました。変更内容を次に示します。

追加 (アラーム)

- Availability (PFM Domino Template Alarms 09.00)
- Availability (PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00)
- DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms 09.00)
- DataDirectory Usage (PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00)
- DB Response
- Dead Mail
- HTTP Down
- IMAP Down
- LDAP Down
- Log Detect
- NNTP Down
- POP3 Down
- Router Down
- Server Down
- SMTP Down
- Waiting Mail

追加 (レポート)

- Notes Log Status Summary (4.0)
- Router Status Summary (4.0)
- Server Status Summary (4.0)
- Task Status Summary (4.0)

追加 (フィールド)

レポート名	フィールド名
Dead Mail Status Summary	Mail Dead
Waiting Mail Status Summary	Mail Waiting

削除 (アラーム)

- DbCacheEntries Usage

- Login Users
- Mail Dead Custom
- Mail Waiting Custom
- Mem Alloc Kbytes
- Repl Cluster Failed
- データモデルのバージョンを 5.0 から 6.0 に変更しました。
- 次のレコードを追加しました。
 - User Defined Stat Overview (PI_PIST)
- 次のレコードのフィールドで、サポートバージョンに「8.5.x」を追加しました。
 - Agent Detail (PD_PDAG)
 - Calendar Detail (PD_PDCL)
 - Database Detail (PD_PDDB)
 - Database Knowledge Overview (PI_PIDK)
 - Database Overview (PI_PIDB)
 - Domino Detail (PD_PDDM)
 - Domino Overview (PI_PIDM)
 - Health Check Overview (PI_PIHC)
 - HTTP Information Overview (PI_PIHT)
 - IMAP Detail (PD_PDIM)
 - IMAP Overview (PI_PIIM)
 - Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM)
 - Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM)
 - LDAP Detail (PD_PDLP)
 - LDAP Overview (PI_PILP)
 - Logical Disk Overview (PI_PILG)
 - Mail Detail (PD_PDML)
 - Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)
 - Mail Overview (PI_PIML)
 - Memory Detail (PD_PDMM)
 - Memory Overview (PI_PIMM)
 - Network Detail (PD_PDNE)
 - Network Overview (PI_PINE)

- Notes Log Check Overview (PL_PLNL)
- POP3 Detail (PD_PDPP)
- Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM)
- Quality of Service Overview (PI_PIQS)
- Replica Detail (PD_PDRP)
- Replica Overview (PI_PIRP)
- Serial Port Detail (PD_PDXP)
- Serial Port Overview (PI_PIXP)
- Server Detail (PD_PDSV)
- Server Overview (PI_PISV)
- Shared Mail Object Detail (PD_PDSO)
- SMTP Detail (PD_PD SM)
- SMTP Overview (PI_PISM)
- System Detail (PD_PD)
- System Overview (PI_PI)
- Web Retriever Detail (PD_PDWR)
- Web Retriever Overview (PI_PIWR)

付録 M.3 08-50 の変更内容

- PFM - Agent for Domino を使ったパフォーマンス監視の例を追加しました。
- セットアップを簡易化しました。
- Store バージョン 2.0 をサポートしました。
- 動作ログを取得できるようにしました。
- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン 8 をサポートしました。
- 次のレコードのフィールドで、サポートバージョンに「8.0.x」を追加しました。
 - Agent Detail (PD_PDAG)
 - Calendar Detail (PD_PDCL)
 - Database Detail (PD_PDDB)
 - Database Knowledge Overview (PI_PIDK)
 - Database Overview (PI_PIDB)
 - Domino Detail (PD_PDDM)

- Domino Overview (PI_PIDM)
- Health Check Overview (PI_PIHC)
- HTTP Information Overview (PI_PIHT)
- IMAP Detail (PD_PDIM)
- IMAP Overview (PI_PIIM)
- Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM)
- Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM)
- LDAP Detail (PD_PDLP)
- LDAP Overview (PI_PILP)
- Logical Disk Overview (PI_PILG)
- Mail Detail (PD_PDML)
- Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)
- Mail Overview (PI_PIML)
- Memory Detail (PD_PDMM)
- Memory Overview (PI_PIMM)
- Network Detail (PD_PDNE)
- Network Overview (PI_PINE)
- Notes Log Check Overview (PL_PLNL)
- POP3 Detail (PD_PDPP)
- Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM)
- Quality of Service Overview (PI_PIQS)
- Replica Detail (PD_PDRP)
- Replica Overview (PI_PIRP)
- Serial Port Detail (PD_PDXP)
- Serial Port Overview (PI_PIXP)
- Server Detail (PD_PDSV)
- Server Overview (PI_PISV)
- Shared Mail Object Detail (PD_PDSO)
- SMTP Detail (PD_PDSM)
- SMTP Overview (PI_PISM)
- System Detail (PD_PD)
- System Overview (PI_PI)

- Web Retriever Detail (PD_PDWR)
- Web Retriever Overview (PI_PIWR)
- ディスク占有量の見積もり例を追加しました。

付録 M.4 08-00 の変更内容

- 製品名を JP1/Performance Management - Agent Option for Domino に変更しました。
- 対象製品に PFM - Web Console および PFM - Base を追加しました。
- 対象製品から PFM - View を削除しました。
- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン 7 をサポートしました。
- PFM - Agent for Domino の適用 OS から次の OS を削除しました。
 - AIX 5L 5.1
 - Solaris 8
- PFM - Agent for Domino の適用 OS に次の OS を追加しました。
 - Solaris 10

付録 M.5 07-50 の変更内容

- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン 6.5.3 をサポートしました。
- データモデルのバージョンを 4.0 から 5.0 に変更しました。変更内容を次に示します。
 - 追加

レコード名	フィールド名
HTTP Information Overview (PI_PIHT)	「8. レコード」を参照。

- 次のプロパティを追加しました。

サービス名	プロパティ
Agent Collector	Domino Program Directory

付録 M.6 07-00 の変更内容

- PFM - Agent for Domino の適用 OS を次のように変更しました。

プログラム名	変更内容
PFM - Agent for Domino	Windows NT(R)を削除した。

- 監視対象となる Lotus Domino のバージョン R5.0.12 とバージョン 6.0.1 をサポートしました。
- 複数 LAN 接続機能をサポートしました。
- HA クラスタシステムに対応しました。
- アラームの監視テンプレートバージョンを 6.70 から 7.00 に変更しました。
- データモデルのバージョンを 3.0 から 4.0 に変更しました。変更内容を次に示します。
- 追加

レコード名	フィールド名
Health Check Overview (PI_PIHC)	–
Notes Log Check Overview (PL_PLNL)	–
Database Knowledge Overview (PI_PIDK)	Database Used Kbytes (db_used_kbytes)
Mail Knowledge Overview (PI_PIMK)	Database Used Kbytes (db_used_kbytes)
System Overview (PI_PI)	Database Names Used Kbytes (db_NAMES_used_kbytes)
Mail Detail (PD_PDML)	TotKBDelivered (TotKBDelivered)
Mail Overview (PI_PIML)	TotKBDelivered (TotKBDelivered)

- 変更

レコード名	フィールド名	変更内容
System Overview (PI_PI)	DbCache Entries Usage (dbcache_entries_usage) Cmd Login (cmd_login) Cmd OpenDatabase (cmd_opendb) Mail Dead (mail_dead) Mail TotRouted (mail_totrouted) Mail Waiting (mail_waiting) Mail WaitingRecipients (mail_waitingrecipients) Mail Xferd (mail_xferd) Mail Dead UserCustom (mail_dead_usercustom) Mail Waiting UserCustom (mail_waiting_usercustom) Repl Docs Added (repl_docs_added) Repl Docs Deleted (repl_docs_deleted) Repl Docs Updated (repl_docs_updated)	形式

レコード名	フィールド名	変更内容
System Overview (PI_PI)	Repl Success (repl_success) AvailabilityIndex (availabilityindex) Tasks (Tasks) Trans Tot (trans_tot) Users (Users) Database Names Access (db_names_access) Database Names ACL Changed (db_names_acl_changed) TCPIP Session Estab In (tcPIP_session_estab_in) TCPIP Session Estab Out (tcPIP_session_estab_out)	形式
Database Overview (PI_PIDB)	BufferPool Reads (bufferpool_reads) BufferPool Writes (bufferpool_writes) DbCache InitialDbOpens (dbcache_initialdbopens)	形式
Database Knowledge Overview (PI_PIDK)	Database Access (db_access)	形式
Domino Overview (PI_PIDM)	Cmd Login (cmd_login) Cmd OpenDatabase (cmd_opendb) Cmd OpenDocument (cmd_opendocument) Cmd OpenView (cmd_openview) Cmd OpenNavigator (cmd_opennavigator) Cmd Tot (cmd_tot)	形式
Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM)	Cmd Redirects Success (cmd_redir_success) Cmd Tot (cmd_tot) Session In Tot (session_in_tot)	形式
IMAP Overview (PI_PIIM)	Session In Tot (session_in_tot)	形式
LDAP Overview (PI_PILP)	Session In Tot (session_in_tot) Tot LDAP Abandons (tot_ldap_abandons) Tot LDAP Adds (tot_ldap_adds) Tot LDAP Compares (tot_ldap_compares) Tot LDAP Conns (tot_ldap_conns) Tot LDAP Deletes (tot_ldap_deletes) Tot LDAP Modifies (tot_ldap_modifies) Tot LDAP Search (tot_ldap_search)	形式
Mail Overview (PI_PIML)	Delivered (Delivered) TotKBXferd (totkbxferd) TotRouted (totrouted) Xferd (xferd)	形式

レコード名	フィールド名	変更内容
Message Transfer Overview (PI_PIMT)	TotKBXferd (totkbxferd) TotRouted (totrouted) Xferd (xferd)	形式
Network Overview (PI_PINE)	Session Established In (session_established_in) Session Established Out (session_established_out) Session Recycled (session_recycled)	形式
NNTP Overview (PI_PINN)	Articles Posted (articles_posted) Pull Articles Offered (pull_articles_offered) Pull Articles Reqed (pull_articles_reqed) Pull Articles Xfered (pull_articles_xfered) Push Articles Offered (push_articles_offered) Push Articles Reqed (push_articles_reqed) Push Articles Xfered (push_articles_xfered) Session In Non-SSL (session_in_non_ssl) Session In SSL (session_in_ssl) Session In Tot PerMinute (session_in_tot) Session Tot (session_tot)	形式
Replica Overview (PI_PIRP)	Cluster Docs Added (cluster_docs_added) Cluster Docs Deleted (cluster_docs_deleted) Cluster Docs Updated (cluster_docs_updated) Cluster Success (cluster_success) Docs Added (docs_added) Docs Deleted (docs_deleted) Docs Updated (docs_updated) Success (Success)	形式
Server Overview (PI_PISV)	FailoverBP Success (failoverbp_success) Failover Success (failover_success) LoadBalanceBP Success (loadbalancebp_success) LoadBalance Success (loadbalance_success) OpenReq LoadBalanced (openreq_loadbalanced) ProbeCount (probecount) OpenReq PreV4Clients (openreq_prev4clients) OpenReq Restricted (openreq_restricted) OpenReq V4Clients (openreq_v4clients) Trans Tot (trans_tot)	形式
SMTP Overview (PI_PISM)	MsgsProcessed (msgsprocessed) Session In Tot (session_in_tot)	形式

レコード名	フィールド名	変更内容
Web Retriever Overview (PI_PIWR)	Access FTP (access_ftp) Access Gopher (access_gopher) Access HTTP (access_http) URLs Reqed (urls_reqed) URLs Succeeded (urls_succeeded)	形式
Serial Port Overview (PI_PIXP)	UserMsgs Rcvd (usermsgs_rcvd) UserMsgs Sent (usermsgs_sent)	形式

- スタンドアロンモードで PFM - Agent を起動する機能をサポートしました。
- インストール時の障害を出力するインストールログファイルを追加しました。
- 次のプロパティを追加しました。

サービス名	プロパティ
Agent Collector	Data Model Version
	Log Records 以下すべて
	Health Check Options 以下すべて
	Notes Log Check Options 以下すべて

- 次のプロパティを削除しました。

サービス名	プロパティ
Agent Store	Copyright 以下すべて Network Services 下の Version
Agent Collector	Network Services 下の Version

付録 N このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 N.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/Performance Management 関連

- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3021-3-041)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 運用ガイド (3021-3-042)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management リファレンス (3021-3-043)

JP1 関連

- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド (3020-3-L01)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用) (3020-3-S81)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM SubManager (UNIX(R)用) (3020-3-L42)
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Client (UNIX(R)用) (3020-3-S85)
- JP1 Version 6 JP1/NETM/DM Manager (3000-3-841)

付録 N.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
AIX		AIX V6.1
		AIX V7.1
HP-UX	HP-UX 11i	HP-UX 11i V3 (IPF)
IPF		Itanium(R) Processor Family
JP1/IM	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
JP1/ITSLM	JP1/ITSLM - Manager	JP1/IT Service Level Management

表記			製品名
JP1/ITSMLM	JP1/ITSMLM - UR		JP1/IT Service Level Management - User Response
JP1/NETM/DM			JP1/NETM/DM Client
			JP1/NETM/DM Manager
			JP1/NETM/DM SubManager
Linux	Linux (x64)	Linux 6 (x64)	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6 (64-bit x86_64)
	Linux (x86)	Linux 6 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6 (32-bit x86)
NNM	HP NNM		HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
			HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
	JP1/Cm2/NNM		JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
Performance Management			JP1/Performance Management
PFM - Agent	PFM - Agent for Cosminexus		JP1/Performance Management - Agent Option for uCosminexus Application Server
	PFM - Agent for DB2		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM DB2
	PFM - Agent for Domino		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino
	PFM - Agent for Enterprise Applications		JP1/Performance Management - Agent

表記		製品名	
PFM - Agent	PFM - Agent for Enterprise Applications	Option for Enterprise Applications	
	PFM - Agent for Exchange Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Exchange Server	
	PFM - Agent for HiRDB	JP1/Performance Management - Agent Option for HiRDB	
	PFM - Agent for IIS	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server	
	PFM - Agent for JP1/AJS	PFM - Agent for JP1/AJS2	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS2
		PFM - Agent for JP1/AJS3	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS3
	PFM - Agent for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) SQL Server	
	PFM - Agent for OpenTP1	JP1/Performance Management - Agent Option for OpenTP1	
	PFM - Agent for Oracle	JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle	
	PFM - Agent for Platform	PFM - Agent for Platform(UNIX)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform(UNIX 用)
		PFM - Agent for Platform(Windows)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform(Windows 用)
	PFM - Agent for Service Response	JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response	
	PFM - Agent for WebLogic Server	JP1/Performance Management - Agent	

表記		製品名	
PFM - Agent	PFM - Agent for WebLogic Server	Option for Oracle(R) WebLogic Server	
		JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle(R) WebLogic Server	
	PFM - Agent for WebSphere Application Server	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere Application Server	
	PFM - Agent for WebSphere MQ	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere MQ	
PFM - Base		JP1/Performance Management - Base	
PFM - Manager		JP1/Performance Management - Manager	
PFM - RM	PFM - RM for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Microsoft(R) SQL Server	
	PFM - RM for Oracle	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Oracle	
	PFM - RM for Platform	PFM - RM for Platform(UNIX)	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Platform(UNIX 用)
		PFM - RM for Platform(Windows)	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Platform(Windows 用)
	PFM - RM for Virtual Machine	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Virtual Machine	
PFM - Web Console		JP1/Performance Management - Web Console	
Solaris	Solaris 10	Solaris 10 (SPARC)	

- PFM - Manager, PFM - Agent, PFM - Base, PFM - Web Console, および PFM - RM を総称して、Performance Management と表記することがあります。

- HP-UX, Solaris, AIX, および Linux を総称して, UNIX と表記することがあります。

付録 N.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Programming Interface
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Values
DDL	Data Define Language
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DML	Data Manipulation Language
FQDN	Fully Qualified Domain Name
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	HyperText Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol Version 4
IPv6	Internet Protocol Version 6
LAN	Local Area Network
NAPT	Network Address Port Translation
NAT	Network Address Translation
ODBC	Open Database Connectivity
OS	Operating System
SNMP	Simple Network Management Protocol
TCP	Transmission Control Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
UAC	User Account Control
URL	Uniform Resource Locator
Web	World Wide Web
WOW64	Windows On Windows 64

付録 N.4 このマニュアルでのプロダクト名, サービス ID, およびサービスキーの表記

Performance Management 09-00 以降では, プロダクト名表示機能を有効にすることで, サービス ID およびサービスキーをプロダクト名で表示できます。

識別子	プロダクト名表示機能	
	無効	有効
サービス ID	LS1 ホスト名	ホスト名<Domino>(Store)
	LA1 ホスト名	ホスト名<Domino>
サービスキー	agtl	Domino

このマニュアルでは, プロダクト名表示機能を有効としたときの形式で表記しています。

なお, プロダクト名表示機能を有効にできるのは, 次の条件を同時に満たす場合です。

- PFM - Agent の同一装置内の前提プログラム (PFM - Manager または PFM - Base) のバージョンが 09-00 以降
- PFM - Web Console および接続先の PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降

付録 N.5 Performance Management のインストール先ディレクトリの表記

このマニュアルでは, Windows 版 Performance Management のインストール先フォルダをインストール先フォルダ, UNIX 版 Performance Management のインストール先ディレクトリをインストール先ディレクトリと表記しています。

Windows 版 Performance Management のデフォルトのインストール先フォルダは, 次のとおりです。

PFM - Base のインストール先フォルダ

- Windows Server 2003 (x64), 64 ビット版の Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合
システムドライブ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jp1pc
- 上記以外の場合
システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc

このマニュアルでは, PFM - Base のインストール先フォルダを, インストール先フォルダと表記しています。

PFM - Manager のインストール先フォルダ

- Windows Server 2003 (x64), 64 ビット版の Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合
システムドライブ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jp1pc
- 上記以外の場合
システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc

PFM - Web Console のインストール先フォルダ

- Windows Server 2003 (x64), 64 ビット版の Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合
システムドライブ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jp1pcWebCon
- 上記以外の場合
システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pcWebCon

UNIX 版 Performance Management のデフォルトのインストール先ディレクトリは、次のとおりです。

PFM - Base のインストール先フォルダ

/opt/jp1pc

PFM - Manager のインストール先ディレクトリ

/opt/jp1pc

PFM - Web Console のインストール先ディレクトリ

/opt/jp1pcwebcon

付録 N.6 Performance Management で対応する NNM 製品について

Performance Management では、次の製品との連携をサポートしています。

- HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
- HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前

このマニュアルでは、これらの製品を「NNM」、これらの製品と連携するための機能を「NNM 連携」と表記します。

なお、Performance Management では、次の製品との連携はサポートしていません。ご注意ください。

- HP Network Node Manager i Software v8.10

- JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

付録 N.7 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

(英字)

Action Handler

PFM - Manager または PFM - Agent のサービスの 1 つです。アクションを実行するサービスのことです。

Agent Collector

PFM - Agent のサービスの 1 つです。パフォーマンスデータを収集したり、アラームに設定されたしきい値で、パフォーマンスデータを評価したりするサービスのことです。

Agent Store

PFM - Agent のサービスの 1 つです。パフォーマンスデータを格納するサービスのことです。Agent Store サービスは、パフォーマンスデータの記録のためにデータベースを使用します。各 PFM - Agent に対応して、各 Agent Store サービスがあります。

Correlator

PFM - Manager のサービスの 1 つです。サービス間のイベント配信を制御するサービスのことです。アラームの状態を評価して、しきい値を超過するとアラームイベントおよびエージェントイベントを、Trap Generator サービスおよび PFM - Web Console に送信します。

JP1/ITSLM

業務システムをサービス利用者が体感している性能などの視点で監視し、サービスレベルの維持を支援する製品です。

JP1/ITSLM と連携することで、稼働状況の監視を強化できます。

Master Manager

PFM - Manager のサービスの 1 つです。PFM - Manager のメインサービスのことです。

Master Store

PFM - Manager のサービスの 1 つです。各 PFM - Agent から発行されたアラームイベントを管理するサービスのことです。Master Store サービスはイベントデータの保持のためにデータベースを使用します。

Name Server

PFM - Manager のサービスの 1 つです。システム内のサービス構成情報を管理するサービスのことです。

ODBC キーフィールド

PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには、全レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。

PD レコードタイプ

→ 「Product Detail レコードタイプ」を参照してください。

Performance Management

システムのパフォーマンスに関する問題を監視および分析するために必要なソフトウェア群の総称です。Performance Management は、次の 5 つのプログラムプロダクトで構成されます。

- PFM - Manager
- PFM - Web Console
- PFM - Base
- PFM - Agent
- PFM - RM

PFM - Agent

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。PFM - Agent は、システム監視機能に相当し、監視対象となるアプリケーション、データベース、OS によって、各種の PFM - Agent があります。PFM - Agent には、次の機能があります。

- 監視対象のパフォーマンスの監視
- 監視対象のデータの収集および記録

PFM - Base

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。Performance Management の稼働監視を行うための基盤機能を提供します。PFM - Agent を動作させるための前提製品です。PFM - Base には、次の機能があります。

- 各種コマンドなどの管理ツール
- Performance Management と他システムとの連携に必要となる共通機能

PFM - Manager

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。PFM - Manager は、マネージャ機能に相当し、次の機能があります。

- Performance Management のプログラムプロダクトの管理
- イベントの管理

PFM - Manager 名

Store データベースに格納されているフィールドを識別するための名称です。コマンドでフィールドを指定する場合などに使用します。

PFM - View 名

PFM - Manager 名の別名です。PFM - Manager 名に比べ、より直感的な名称になっています。例えば、PFM - Manager 名の「INPUT_RECORD_TYPE」は、PFM - View 名で「Record Type」です。PFM - Web Console の GUI 上でフィールドを指定する場合などに使用します。

PFM - Web Console

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。Web ブラウザで Performance Management システムを一元的に監視するため Web アプリケーションサーバの機能を提供します。PFM - Web Console には、次の機能があります。

- GUI の表示
- 統合監視および管理機能
- レポートの定義およびアラームの定義

PI レコードタイプ

→ 「Product Interval レコードタイプ」を参照してください。

PL レコードタイプ

→ 「Product Log レコードタイプ」を参照してください。

Product Detail レコードタイプ

現在起動しているプロセスの詳細情報など、ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PD レコードタイプは、次のような、ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。

- システムの稼働状況
- 現在使用しているファイルシステム容量

Product Interval レコードタイプ

1 分ごとのプロセス数など、ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PI レコードタイプは、次のような、時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。

- 一定時間内に発生したシステムコール数の推移
- 使用しているファイルシステム容量の推移

Product Log レコードタイプ

UNIX 上で実行されているアプリケーションまたはデータベースのログ情報が格納されるレコードタイプのことです。

Store データベース

Agent Collector サービスが収集したパフォーマンスデータが格納されるデータベースのことです。

Trap Generator

PFM - Manager のサービスの 1 つです。SNMP トラップを発行するサービスのことです。

(ア行)

アクション

監視するデータがしきい値に達した場合に、Performance Management によって自動的に実行される動作のことです。次の動作があります。

- E メール送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- JP1 イベントの発行

アラーム

監視するデータがしきい値に達した場合のアクションやイベントメッセージを定義した情報のことです。

アラームテーブル

次の情報を定義した 1 つ以上のアラームをまとめたテーブルです。

- 監視するオブジェクト (Process, TCP, Webservice など)
- 監視する情報 (CPU 使用率, 1 秒ごとの受信バイト数など)
- 監視する条件 (しきい値)

インスタンス

このマニュアルでは、インスタンスという用語を次のように使用しています。

- レコードの記録形式を示す場合
1 行で記録されるレコードを「単数インスタンスレコード」、複数行で記録されるレコードを「複数インスタンスレコード」、レコード中の各行を「インスタンス」と呼びます。
- PFM - Agent の起動方式を示す場合

同一ホスト上の監視対象を1つのエージェントで監視する方式のエージェントを「シングルインスタンスエージェント」、同一ホスト上の監視対象を複数のエージェントで監視する方式のエージェントを「マルチインスタンスエージェント」、マルチインスタンスエージェントの各エージェントサービスを「インスタンス」と呼びます。

エージェント

パフォーマンスデータを収集する PFM - Agent のサービスのことです。

(カ行)

監視テンプレート

PFM - Agent に用意されている、定義済みのアラームとレポートのことです。監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても PFM - Agent の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

管理ツール

サービスの状態の確認やパフォーマンスデータを操作するために使用する各種のコマンドまたは GUI 上の機能のことです。次のことができます。

- サービスの構成および状態の表示
- パフォーマンスデータの退避および回復
- パフォーマンスデータのテキストファイルへのエクスポート
- パフォーマンスデータの消去

クラスタシステム

クラスタシステムとは、複数のサーバシステムを連携して1つのシステムとして運用するシステムで、障害が発生しても業務を継続できるようにすることを目的としています。業務を実行中のサーバ（実行系）で障害が発生すると、待機していた別のサーバ（待機系）が業務の処理を引き継ぎます。実行「系」から待機「系」へ業務を切り替えるので、「系切り替えシステム」とも呼びます。

なお、クラスタシステムという用語には、並列処理による負荷分散機能という意味もありますが、このマニュアルでは、系を切り替えて業務の中断を防ぐ機能のことだけを指します。

(サ行)

サービス ID

Performance Management プログラムのサービスに付加された、一意の ID のことです。コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合、または個々の

エージェントのパフォーマンスデータをバックアップする場合などは、Performance Management プログラムのサービス ID を指定してコマンドを実行します。

サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能の設定によって異なります。サービス ID の形式については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

スタンドアロンモード

PFM - Agent 単独で起動している状態のことです。PFM - Manager の Master Manager サービスおよび Name Server サービスが、障害などのため起動できない状態でも、PFM - Agent だけを起動して、パフォーマンスデータを収集できます。

ステータス管理機能

PFM - Manager および PFM - Agent 上で動作するすべてのサービスの状態を管理する機能です。ステータス管理機能を用いると、システム管理者は各ホストでのサービスの起動や停止などの状態を正しく把握できるため、障害復旧のための適切な対処を迅速に行うことができます。

(タ行)

単数インスタンスレコード

1 行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持ちません。

→「インスタンス」を参照してください。

データベース ID

PFM - Agent の各レコードに付けられた、レコードが格納されるデータベースを示す ID です。データベース ID は、そのデータベースに格納されるレコードの種類を示しています。データベース ID を次に示します。

- PI：PI レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。
- PD：PD レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。

データモデル

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称のことです。データモデルは、バージョンで管理されています。

ドリルダウンレポート

レポートまたはレポートのフィールドに関連づけられたレポートです。あるレポートの詳細情報や関連情報を表示したい場合に使用します。

(ハ行)

バインド

アラームをエージェントと関連づけることです。バインドすると、エージェントによって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

パフォーマンスデータ

監視対象システムから収集したリソースの稼働状況データのことで。

非対話形式 (コマンド)

コマンドの実行中に必要な入力作業について、オプションの指定や定義ファイルの読み込みで代替するコマンドの実行形式です。

非対話形式でコマンドを実行することで、稼働監視システムの構築を省力化でき、ユーザーの負担を軽減できます。

フィールド

レコードを構成するパフォーマンスデータの集まりのことです。

複数インスタンスレコード

複数行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

→ 「インスタンス」を参照してください。

物理ホスト

クラスタシステムを構成する各サーバに固有な環境のことです。物理ホストの環境は、フェールオーバー時にもほかのサーバに引き継がれません。

(ラ行)

ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間のことです。

リアルタイムレポート

監視対象の現在の状況を示すレポートです。

履歴レポート

監視対象の過去から現在までの状況を示すレポートです。

レコード

収集したパフォーマンスデータを格納する形式のことです。レコードの種類は、Store データベースの各データベースによって異なります。

レポート

PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータをグラフィカルに表示する際の情報を定義したものです。主に、次の情報を定義します。

- レポートに表示させるレコード
- パフォーマンスデータの表示項目
- パフォーマンスデータの表示形式（表、グラフなど）

論理ホスト

クラスタシステムでの運用時にドミノサーバの実行環境となる論理上のサーバのことです。障害の発生時には、論理ホスト単位で系が切り替わります。

論理ホストは専用の IP アドレスを持ち、系切り替え時にはその IP アドレスを引き継いで動作します。そのため、障害で物理的なサーバが切り替わった場合も、クライアントからは同じ IP アドレスでアクセスでき、1つのサーバが常に動作しているように見えます。

索引

A

- Action Handler 549
- Agent Collector 549
- Agent Collector サービスのプロパティ一覧 499
- Agent Collector のプロパティ一覧 499
- Agent Detail (PD_PDAG) レコード 312
- Agent Store 549
- Agent Store サービスのプロパティ一覧 495
- Agent Store のプロパティ一覧 495
- Availability アラーム [PFM Domino Template Alarms [SRV] 09.00] 206
- Availability アラーム [PFM Domino Template Alarms 09.00] 204

C

- Calendar Detail (PD_PDCL) レコード 314
- Cluster Manager Detail 244
- Cluster Replication Detail 245
- Correlator 549

D

- Database Access Status - Top 10 Databases 247
- Database Cache Detail 248
- Database Detail (PD_PDDDB) レコード 316
- Database Detail (PI_PIDB) レコード 321
- Database Knowledge Overview (PI_PIDK) レコード 319
- Database Note Count Status - Top 10 Databases 249
- Database Size Status - Top 10 Databases 250
- DataDirectory Drive Usage Trend (Multi-Agent) 251
- DataDirectory Usage アラーム [PFM Domino Template Alarms [DB] 09.00] 210
- DataDirectory Usage アラーム [PFM Domino Template Alarms 09.00] 208
- Days for period-excess mail [UNIX の場合] 108

- Days for period-excess mail [Windows の場合] 64
- DbCache Usage Status 252
- DbCache Usage Status Summary 253
- DB Response アラーム 212
- Dead Mail Status (Multi-Agent) 255
- Dead Mail Status Summary 254
- Dead Mail アラーム 214
- Domino Agent Failed Status Summary 256
- Domino Detail (PD_PDDM) レコード 323
- Domino Memory Status 257
- Domino Memory Status Summary 258
- Domino Memory Status Trend (Multi-Agent) 259
- Domino Overview (PI_PIDM) レコード 328
- Domino Program Directory [UNIX の場合] 108
- Domino Program Directory [Windows の場合] 63

E

- Expired Mail Status - Top 10 Databases 260

H

- HA クラスタシステム 135
- Health Check Overview (PI_PIHC) レコード 330
- Health Check Status (4.0) 261
- HTTP Commands Status 262
- HTTP Commands Status Trend (Multi-Agent) 263
- HTTP Down アラーム 216
- HTTP Information Overview (PI_PIHT) レコード 332

I

- IMAP Detail (PD_PDIM) レコード 336
- IMAP Down アラーム 218
- IMAP Overview (PI_PIIM) レコード 338
- Include ファイルの書式 190

Internet Cluster Manager Detail (PD_PDCM) レコード 340

Internet Cluster Manager Overview (PI_PICM) レコード 343

IPv4 環境と IPv6 環境での通信について 530

IP アドレスの設定 [UNIX の場合] 93

IP アドレスの設定 [Windows の場合] 50

J

JP1/ITS LM 549

JP1/ITS LM との連携 529

jpccconf inst list (jpcinslist) コマンド 71, 115

jpccconf inst setup (jpcinssetup) コマンド 65, 109

jpccconf inst unsetup (jpcinsunsetup) コマンド 71, 115, 116

jpccconf mgrhost define (jpcnshostname) コマンド 68

jpchosts ファイル 150, 163

jpccras コマンド 477

jpccsto.ini ファイルの設定項目 [UNIX の場合] 121

jpccsto.ini ファイルの設定項目 [Windows の場合] 77

jpccsto.ini ファイルの編集手順 [UNIX の場合] 123

jpccsto.ini ファイルの編集手順 [Windows の場合] 79

jpccool service list (jpcctrl list) コマンド 70

L

LANG 環境変数の設定 104

LDAP Detail (PD_PDLP) レコード 345

LDAP Down アラーム 220

LDAP Overview (PI_PILP) レコード 349

Log Detect アラーム 222

Logical Disk Overview (PI_PILG) レコード 352

Login Users Status 264

Login Users Status (Multi-Agent) 267

Login Users Status Summary 265

Login Users Status Trend (Multi-Agent) 266

Log Records プロパティの設定 191

Lotus Domino が動作しているマシンのメモリー空き容量を監視したい 30

Lotus Domino のメモリー使用量を監視したい 30

M

Mail Database Size Status - Top 10 Databases 268

Mail Deliveries Detail 269

Mail Delivery Status 270

Mail Delivery Status Trend (Multi-Agent) 271

Mail Detail (PD_PDML) レコード 353

Mail Knowledge Overview (PI_PIMK) レコード 356

Mail Overview (PI_PIML) レコード 358

Mail Service Quality Status 272

Master Manager 549

Master Store 549

Memory Detail (PD_PDMM) レコード 360

Memory Overview (PI_PIMM) レコード 362

Message Transfer Agent Detail (PD_PDMT) レコード 364

Message Transfer Agent Overview (PI_PIMT) レコード 366

Minutes for dead mail [UNIX の場合] 108

Minutes for dead mail [Windows の場合] 64

Minutes for remaining mail [UNIX の場合] 108

Minutes for remaining mail [Windows の場合] 64

N

Names Database Access Status 273

Names Database Size Status Trend (Multi-Agent) 274

Name Server 549

Network Detail (PD_PDNE) レコード 368

Network Overview (PI_PINE) レコード 370

NNTP Detail (PD_PDNN) レコード 372

NNTP Down アラーム 225

NNTP Overview (PI_PINN) レコード 374

notes.ini [UNIX の場合] 108

notes.ini [Windows の場合] 64
notesconsole 427
Notes Log Check Options プロパティの設定 189
Notes Log Check Overview (PL_PLNL) レコード
377
Notes Log Status Summary (4.0) 275
Notes Log 情報の収集の概要 187
notesrestart 428
Notes ログに特定のメッセージが出力されたことを監視したい 33

O

ODBC キーフィールド 550
ODBC キーフィールド一覧 297

P

PD_PD 410
PD_PDAG 312
PD_PDCL 314
PD_PDCM 340
PD_PDDB 316
PD_PDDM 323
PD_PDIM 336
PD_PDLP 345
PD_PDML 353
PD_PDMM 360
PD_PDMT 364
PD_PDNE 368
PD_PDNN 372
PD_PDPP 378
PD_PDRP 383
PD_PDSTM 406
PD_PDSO 403
PD_PDSV 392
PD_PDWR 419
PD_PDXP 388
PD レコードタイプ 22, 550
Performance Management 550
Performance Management システムの障害回復
485

Performance Management プログラム [UNIX の
場合] 97
Performance Management プログラム
[Windows の場合] 54
PFM - Agent 550
PFM - Agent for Domino のアンインストールとア
ンセットアップの流れ [UNIX の場合] 176
PFM - Agent for Domino のアンインストールとア
ンセットアップの流れ [Windows の場合] 169
PFM - Agent for Domino の運用方式の変更 183
PFM - Agent for Domino の運用方式の変更 [UNIX
の場合] 120
PFM - Agent for Domino の運用方式の変更
[Windows の場合] 76
PFM - Agent for Domino の概要 20
PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更
[UNIX の場合] 118
PFM - Agent for Domino のシステム構成の変更
[Windows の場合] 74
PFM - Agent for Domino の接続先 PFM - Manager
の設定 [UNIX の場合] 112
PFM - Agent for Domino の接続先 PFM - Manager
の設定 [Windows の場合] 68
PFM - Agent for Domino のセットアップ手順
[UNIX の場合] 104
PFM - Agent for Domino のセットアップ手順
[Windows の場合] 60
PFM - Agent for Domino のセットアップファイル
をコピーする [UNIX の場合] 106
PFM - Agent for Domino のセットアップファイル
をコピーする [Windows の場合] 62
PFM - Agent for Domino の登録 [UNIX の場合]
161
PFM - Agent for Domino の登録 [Windows の
場合] 60
PFM - Agent for Domino の特長 21
PFM - Agent for Domino のファイルおよびディレ
クトリー一覧 512
PFM - Agent for Domino のプロパティ 495
PFM - Agent の登録 [Windows の場合] 147
PFM - Agent の論理ホストのアンセットアップ
[UNIX の場合] 179

PFM - Agent の論理ホストのアンセットアップ
〔Windows の場合〕 171

PFM - Agent の論理ホストのセットアップ〔UNIX の
場合〕 161

PFM - Agent の論理ホストのセットアップ
〔Windows の場合〕 147

PFM - Base 550

PFM - Manager 550

PFM - Manager が停止した場合の影響 140

PFM - Manager での設定の削除〔UNIX の場合〕
181

PFM - Manager での設定の削除〔Windows の
場合〕 174

PFM - Manager 名 551

PFM - View 名 551

PFM - Web Console 551

PI_PI 412

PI_PICM 343

PI_PIDB 321

PI_PIDK 319

PI_PIDM 328

PI_PIHC 330

PI_PIHT 332

PI_PIIM 338

PI_PILG 352

PI_PILP 349

PI_PIMK 356

PI_PIML 358

PI_PIMM 362

PI_PIMT 366

PI_PINE 370

PI_PINN 374

PI_PIQM 380

PI_PIQS 381

PI_PIRP 386

PI_PISM 408

PI_PIST 418

PI_PISV 399

PI_PIVR 422

PI_PIXP 390

PI Records プロパティの設定 197

PI レコードタイプ 22, 551

PL_PLNL 377

PL レコードタイプ 551

POP3 Detail (PD_PDPP) レコード 378

POP3 Down アラーム 227

Product Detail レコードタイプ 551

Product Interval レコードタイプ 551

Product Log レコードタイプ 552

Q

Quality of Mail Service Overview (PI_PIQM) レ
コード 380

Quality of Service Overview (PI_PIQS) レコード
381

R

Replica Detail (PD_PDRP) レコード 383

Replica Overview (PI_PIRP) レコード 386

Replication Status 276

Replication Status Summary 277

Replication Status Trend (Multi-Agent) 278

Router Down アラーム 229

Router Status Summary (4.0) 279

S

Serial Port Detail (PD_PDXP) レコード 388

Serial Port Overview (PI_PIXP) レコード 390

Server Detail (PD_PDSV) レコード 392

Server Down アラーム 231

Server Overview (PI_PISV) レコード 399

Server Status Summary (4.0) 280

Server Transaction Status 281

Server Transaction Status Trend (Multi-Agent)
282

Shared Mail Object Detail (PD_PDSO) レコード
403

SMTP Detail (PD_PDSM) レコード 406

SMTP Down アラーム 233

SMTP Overview (PI_PISM) レコード 408

Store Version [UNIX の場合] 108
Store Version [Windows の場合] 64
Store データベース 22, 552
Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド 307
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド 305
syslog と Windows イベントログの一覧 443
System Detail (PD_PD) レコード 410
System Overview 283
System Overview (PI_PI) レコード 412
System Overview Trend (Multi-Agent) 284

T

Task Status Summary (4.0) 285
TCPIP Connection Status 287
TCPIP Connection Status Trend (Multi-Agent) 288
TCP Service Quality Status 286
Trap Generator 552

U

User's mail template [UNIX の場合] 108
User's mail template [Windows の場合] 64
User Defined Stat Options プロパティの設定 195
User Defined Stat Overview (PI_PIST) レコード 418
Use summary to mail count [UNIX の場合] 108
Use summary to mail count [Windows の場合] 64

W

Waiting Mail Status (Multi-Agent) 290
Waiting Mail Status Summary 289
Waiting Mail アラーム 235
Web Retriever Detail (PD_PDWR) レコード 419
Web Retriever Overview (PI_PIWR) レコード 422
Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 89

あ

アクション 23, 552
アラーム 23, 552
アラームアクション用コマンド 424
アラーム一覧 202
アラームテーブル 23, 552
アラームの記載形式 201
アラームの定義に関するトラブルシューティング 459
アンインストール手順 [UNIX の場合] 116, 182
アンインストール手順 [Windows の場合] 73, 175
アンインストールとアンセットアップ (UNIX の場合) 176
アンインストールとアンセットアップ (Windows の場合) 169
アンインストールとアンセットアップの前に [UNIX の場合] 114
アンインストールとアンセットアップの前に [Windows の場合] 70
アンインストールとアンセットアップ [UNIX の場合] 114
アンインストールとアンセットアップ [Windows の場合] 70
アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項 [UNIX の場合] 114
アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項 [Windows の場合] 70
アンセットアップ手順 [UNIX の場合] 115
アンセットアップ手順 [UNIX の場合] 177
アンセットアップ手順 [Windows の場合] 71, 170

い

移行手順と移行時の注意事項 518
インスタンス 552
インスタンス環境のアンセットアップ [UNIX の場合] 115
インスタンス環境のアンセットアップ [Windows の場合] 71
インスタンス環境の更新の設定 183
インスタンス環境の更新の設定 [UNIX の場合] 124
インスタンス環境の更新の設定 [Windows の場合] 80

インスタンス環境の設定 [UNIX の場合] 107, 162
インスタンス環境の設定 [Windows の場合] 63, 149
インスタンス環境のディレクトリ構成 110
インスタンス環境のフォルダ構成 66
インスタンス環境を削除する [UNIX の場合] 115
インスタンス環境を削除する [Windows の場合] 71
インスタンス情報を設定する [UNIX の場合] 107
インスタンス情報を設定する [Windows の場合] 63
インストール手順 [UNIX の場合] 101, 160
インストール手順 [Windows の場合] 59, 146
インストールとセットアップ (UNIX の場合) 91, 155
インストールとセットアップ (Windows の場合) 48, 141
インストールとセットアップの流れ [UNIX の場合] 92, 155
インストールとセットアップの流れ [Windows の場合] 49, 141
インストールとセットアップの前に [UNIX の場合] 93, 157
インストールとセットアップの前に [Windows の場合] 50, 143
インストールとセットアップ [UNIX の場合] 92
インストールとセットアップ [Windows の場合] 49
インストールに必要な OS ユーザー権限について [UNIX の場合] 96
インストールに必要な OS ユーザー権限について [Windows の場合] 53

え

エイリアス名 50, 93
エージェント 553

か

カーネルパラメーター 488
稼働状況ログ 464
環境変数に関する注意事項 56, 98
監視対象プログラム [UNIX の場合] 97
監視対象ホストに障害が発生した場合のフェールオーバー 139
監視テンプレート 23, 199, 200, 553

監視テンプレートの概要 200
管理ツール 553

き

共通フィールド 296
共通メッセージログ 463, 464
共有ディスクのアンマウント [UNIX の場合] 164, 180
共有ディスクのマウント [UNIX の場合] 161, 178
共有ディスクをオフラインにする [Windows の場合] 151, 173
共有ディスクをオンラインにする [Windows の場合] 147, 171

<

クラスタ運用時のディスク占有量 487
クラスタ間の複製エラーを監視したい 31
クラスタシステム 553
クラスタシステムでのインストールとセットアップについて [UNIX の場合] 98
クラスタシステムでのインストールとセットアップについて [Windows の場合] 56
クラスタシステムでの運用 134
クラスタシステムでの環境設定 [UNIX の場合] 167
クラスタシステムでの環境設定 [Windows の場合] 153
クラスタシステムの概要 135
クラスタソフトからの PFM - Agent の登録解除 [UNIX の場合] 181
クラスタソフトからの PFM - Agent の登録解除 [Windows の場合] 174
クラスタソフトからの起動・停止の確認 [UNIX の場合] 167
クラスタソフトからの起動・停止の確認 [Windows の場合] 153
クラスタソフトからの停止 [UNIX の場合] 178
クラスタソフトからの停止 [Windows の場合] 171
クラスタソフトへの PFM - Agent の登録 [UNIX の場合] 166
クラスタソフトへの PFM - Agent の登録 [Windows の場合] 152

こ

- コマンドの実行に関するトラブルシューティング 458
- コマンドプロンプトの起動方法 85
- 固有フィールド 298

さ

- サーバタスク稼働状況を監視したい 32
- サーバタスクダウンを自動復旧したい 32
- サービス ID 553
- サービスに関する注意事項 [UNIX の場合] 114
- サービスに関する注意事項 [Windows の場合] 70

し

- 識別子一覧 489
- システム見積み 487
- システムログ 463
- 実ホスト名 50, 93
- 障害検知 484
- 障害発生時の資料採取の準備 97

す

- スタンドアロンモード 554
- ステータス管理機能 484, 554

せ

- 接続先 PFM - Manager の設定 [UNIX の場合] 162
- 接続先 PFM - Manager の設定 [Windows の場合] 148
- セットアップコマンドを実行する [PFM - Manager ホスト : UNIX の場合] 106
- セットアップコマンドを実行する [PFM - Manager ホスト : Windows の場合] 62
- セットアップコマンドを実行する [PFM - Web Console ホスト : UNIX の場合] 107
- セットアップコマンドを実行する [PFM - Web Console ホスト : Windows の場合] 63
- セットアップ手順 [UNIX の場合] 160
- セットアップ手順 [Windows の場合] 147
- セットアップやサービスの起動に関するトラブルシューティング 453

- 前提 OS [UNIX の場合] 93
- 前提 OS [Windows の場合] 50
- 前提プログラム [UNIX の場合] 96
- 前提プログラム [Windows の場合] 53

そ

- その他の注意事項 [アンインストール・アンセットアップ : UNIX の場合] 115
- その他の注意事項 [アンインストール・アンセットアップ : Windows の場合] 71
- その他の注意事項 [インストール・セットアップ : UNIX の場合] 100
- その他の注意事項 [インストール・セットアップ : Windows の場合] 58
- その他のトラブルに関するトラブルシューティング 462

た

- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのアンセットアップ [UNIX の場合] 180
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのアンセットアップ [Windows の場合] 172
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ [UNIX の場合] 163
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ [Windows の場合] 149
- 滞留メールの発生を監視したい 29
- 単数インスタンスレコード 554

つ

- 追加フィールド 298

て

- 定義例 33
- ディスク占有量 487
- ディスク容量を不要に消費しているメールデータベースを特定したい 29
- データ型一覧 301
- データディレクトリの使用率を監視したい 28
- データベース ID 554
- データベースキャッシュの使用率を監視したい 28

データモデル 22, 292, 554

デッドメールの発生を監視したい 29

と

同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項 [UNIX の場合] 98

同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項 [Windows の場合] 56

統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) 195

統計情報定義ファイル (StatDefine.ini) の書式 196

動作ログ出力の設定 150

動作ログの出力 520

動作ログを出力するための設定 526

ドミノクラスタシステム 137

ドミノクラスタシステムでの PFM - Agent for Domino の構成 137

ドミノクラスタシステムでのドミノサーバの構成 137

ドミノサーバコンソール入力コマンド機能 425

ドミノサーバ再起動機能 425

トラブルシューティング 453

トラブルシューティング時に採取が必要な資料 469

トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法 477

トラブルシューティング時に採取するログ情報 463

トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類 463

トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダー一覧 464

トラブルへの対処方法 451

ドリルダウンレポート 554

ドリルダウンレポート (フィールドレベル) 237

ドリルダウンレポート (レポートレベル) 237

トレースログ 464, 466

に

任意の統計値情報収集 193

任意の統計値情報収集の概要 194

任意の統計値情報収集の設定手順 195

任意の統計値情報収集の注意事項 198

ね

ネットワークに関する注意事項 [UNIX の場合] 114

ネットワークに関する注意事項 [Windows の場合] 70

ネットワークの環境設定 [UNIX の場合] 93

ネットワークの環境設定 [Windows の場合] 50

ネットワークの設定 [UNIX の場合] 111, 163

ネットワークの設定 [Windows の場合] 67, 149

の

PFM - Agent for Domino の登録 [UNIX の場合] 105

は

バージョン互換 519

配信エラーとなったメール数を監視したい 30

バインド 23, 555

バックアップ 86, 129

パフォーマンス監視の運用例 26

パフォーマンス監視の概要 26

パフォーマンス監視のしかた 27

パフォーマンスデータ 555

パフォーマンスデータの格納先の変更 150, 164

パフォーマンスデータの格納先の変更 [UNIX の場合] 111, 120

パフォーマンスデータの格納先の変更 [Windows の場合] 67, 76

パフォーマンスデータの管理方法 25

パフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルシューティング 461

パフォーマンスデータの収集と管理の概要 25

パフォーマンスデータの収集方法 25

ひ

非対話形式 (コマンド) 555

ふ

ファイアウォールの通過方向 492

ファイルおよびディレクトリ一覧 512

フィールド 22, 237, 555
フィールドの値 302
フェールオーバー時の処理 139
複数インスタンスレコード 555
複製のエラーを監視したい 31
物理ホスト 555
プログラムに関する注意事項 [UNIX の場合] 114
プログラムに関する注意事項 [Windows の場合] 70
プログラムのインストール順序 [UNIX の場合] 101
プログラムのインストール順序 [Windows の場合] 59
プログラムのインストール方法 [UNIX の場合] 102
プログラムのインストール方法 [Windows の場合] 59
プロセス一覧 490

ほ

ポート番号一覧 491
ポート番号の設定の解除 [UNIX の場合] 178
ポート番号の設定の解除 [Windows の場合] 171
ポート番号の設定 [UNIX の場合] 95
ポート番号の設定 [Windows の場合] 52

ま

マニュアルの参照手順 [UNIX の場合] 133
マニュアルの参照手順 [Windows の場合] 90
マニュアルを参照するための設定 [UNIX の場合] 132
マニュアルを参照するための設定 [Windows の場合] 89

め

メッセージ 437
メッセージ一覧 445
メッセージの記載形式 439
メッセージの形式 438
メッセージの出力形式 438
メッセージの出力先一覧 441
メモリー所要量 487

よ

要約ルール 298

ら

ライフタイム 555

り

リアルタイムレポート 21, 555
リストア 87, 130
履歴レポート 22, 555

れ

レコード 22, 237, 291, 556
レコード一覧 308
レコードの記載形式 293
レポート 21, 556
レポート一覧 241
レポートの記載形式 237
レポートの定義に関するトラブルシューティング 459
レポートのフォルダ構成 239

ろ

ログインユーザー数を監視したい 28
ログ情報の収集 186
ログ情報の収集の設定手順 189
ログ情報の収集の注意事項 192
ログのファイルサイズ変更 150, 163
ログのファイルサイズ変更 [UNIX の場合] 111
ログのファイルサイズ変更 [Windows の場合] 67
論理ホスト 556
論理ホスト環境定義ファイルのインポート [UNIX の場合] 165, 181
論理ホスト環境定義ファイルのインポート [Windows の場合] 151, 173
論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート 184
論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート [UNIX の場合] 164, 180
論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート [Windows の場合] 150, 172

論理ホスト環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー [UNIX の場合] [164](#), [180](#)

論理ホスト環境定義ファイルの待機系ノードへのコピー [Windows の場合] [151](#), [173](#)